

1号(2001.4.1)

ふるさと切手『早稲田大学大隈講堂』10月19日発行
 「大隈講堂切手発行記念展」企画
 「早稲田大学野球部100周年記念展」
 稲門フィラテリーの発足を祝う 会長
 稲門フィラテリー発会
 稲門フィラテリー設立の経緯
 早大切手研究会の現状
 はじめはスケート切手
 とつくに会
 たかが地図切手、されど地図切手
 30年前40年前の思い出
 「大隈講堂」が東京のふるさと切手になるまで

2号

内田武吉先生を悼む
 内田武吉氏を偲ぶ
 内田先生と私
 内田先生ごめんなさい
 内田先生の会長時代を偲ぶ
 「大隈重信侯切手」請願書を再々提出
 「大隈講堂切手発行記念展」開催決定
 大隈講堂切手発行と関連企画
 PHILANIPPON'01見学会ご案内
 大隈祭を見る

3号

大隈講堂の切手発行される
 一ふるさと切手東京版として10月19日に一
 PHILANIPPON'01雑感
 フィラニッポン'01見学記
 PHILAニッポンの熱い日
 フィラニッポン'01稲門フィラテリー会員出品成績
 管理番号抜けのP-スタンプ

4号(2002.4.1)

第2回総会を終えて
 「早稲田大学野球部百周年記念行事」
 <アフガン紀行記(1)>
 『おれと切手の博物館』見学会
 「大隈講堂切手」発行記念展リスト

5号

切手収集をおもしろくしよう！
 2002.6.14 ベックカム狂騒曲
 <アフガン紀行記(2)>
 アンケート結果のまとめ
 分科会活動報告(切手教室)

6号

第3回総会開催される 47
 私のウェスタン・オーストラリア切手
 バイバイ後の独り言
 古代エジプト切手の魅力
 <アフガン紀行記(3)>

7号(2003.3.1)

切手戦線異常あり
 郵趣で遊ぶ
 杉原千畝・追悼・サクラ公園
 切手収集の基本はトピカル
 「前島記念館」と「史跡相馬御風宅」

8号

方 寸 一 途
 切手研究会創立10周年記念展カバー
 分科会活動報告(切手教室)
 外国切手の集め方
 長方形の魅力
 ラデイゲとモーリシャスPOSTOFFICE切手

9号

前島密と相馬御風「前島記念館」見学会
 分科会活動報告(切手教室)
 自分だけの世界
 続・戸塚スタンプ物語
 郵便局巡り

10号

稲門フィラテリー第4回総会報告
 これからの英語教育と辞書の役割
 野球とともに「切手の虫」健在
 ギリシャ神話の切手
 鳥切手とバードウオッチング(探鳥)
 サザエさん家系図

11号(2004.3.1)

お年玉付郵便はがき
 年賀状・年賀はがき【概略】
 海辺の生活と切手
 フィラテリーの原点と絵葉書
 早稲田が建立した杉原記念碑
 主要国郵便&切手情報

12号

「本庄早稲田駅開業記念カバー顛末記」
 横浜洋菓子事始め(日本経済新聞掲載)
 ケニア・タンザニアの旅
 切手のおかげ
 漁業、大空襲、そしてカーナビ(その1)
 かわうそ祭り

13号

『杉原千畝記念館』を訪ねて
 地下鉄の切手
 ケアの切手とカンボジア
 ケニア・タンザニアの旅2
 漁業、大空襲、そしてカーナビ(その2)

14号

第5回稲門フィラテリー総会報告
 早稲田と郵便(明治編)
 ケニア・タンザニアの旅3
 写真付切手
 漁業、大空襲、そしてカーナビ(その3)

15号(2005.3.1)

スワンリバースタンプショウ
 切手と共に50年
 何故か ようかい譚

16号

切手文化博物館一開館記念式典の風景一
 Pacific Explorer 2005 World Stamp Expo
 電気通信・テレフィラテリーの世界
 アイスランドについて
 漁業、大空襲、そしてカーナビと切手<その4>

17号

切手文化博物館開館に当たって
 受賞に寄せて
 切手研最初の最後のエラー?!
 文化大革命当時中国にて切手収集等の変った体験
 マダガスカル郵趣家協会
 電気通信・テレフィラテリーの世界<その2>

18号

第6回稲門フィラテリー総会報告
 稲フィラ研修旅行「切手文化博物館」
 老眼をパソコンでたのしむ
 六千人の命のビザ』『スタンプマガジン』12月号紹介
 井上武志氏 古い絵葉書を宮城学院に寄贈
 三井記念美術館展「美の伝統三井家伝世の名宝」

19号(2006.3.1)

水 杉 物 語
 中島健蔵先生と大谷博君の受賞
 ギリシア郵便局めぐり

20号

會 津 八 一 の 故 郷 へ 稲フィラ見学旅行
 切手雑感
 世界の切手発行をふりかえる
 切手屋アルバイト記
 マダガスカル郵趣家協会創立20周年記念切手

拡大して御覧ください

稲門フィラテリー

第 1 号

2001 年 4 月 1 日発行

ふるさと切手『早稲田大学大隈講堂』10 月 19 日発行！

稲門フィラテリー事務局

郵政省は昨年 11 月、平成 13 年のふるさと切手の発行計画を発表しました。東京版ふるさと切手として今年 10 月 19 日に「早稲田大学大隈講堂」が単独で発行されます。

私達早稲田大学の関係者にとってこんな

嬉しいビッグ・ニュースはないでしょう。また「稲門フィラテリー」創刊号の冒頭を飾るのに、これ以上ふさわしい話もないと思われます。これに関係する様々な最新情報をお届けいたします。

「大隈講堂切手発行記念展」企画

稲門フィラテリー幹事会では、早稲田大学の「大隈講堂」切手発行を記念して、「記念展」開催することに決定、大学の総務部庶務課、大学史資料センターとの合意を得、以下のような計画をすすめています。

開催日：平成 13 年 10 月初～末

場 所：大学資料センター

(会津八一記念博物館 1 階)

郵便局：臨時出張所開設

◎記念小型印使用

◎ゆうペン発行

(21 日のホームカミングデー

招待者へ贈られる予定)

展示品：資料センター所蔵品展示

(稲門フィラテリーからの出展)

その他：バス共通カード発行など。

「早稲田大学野球部 100 周年記念展」

野球部と稲フィラが共催か

早大切手研究会 50 年記念事業実行委員会に、予て野球部 OB で切手研在籍者だった市川氏から、野球部 100 周年記念事業に協力してもらえるだろうかという話がありました。

これを受けて、大学庶務課を通して、記念展などを開催するのであれば、実行委員会として切手研 OB のコレクション出展、ゆうペン発行、記念小型印使用などで「是非協力したい」と逆に依頼をしていました。

一度はその予定はないという回答でしたが、平成 13 年 2 月に片岡野球部長から、大学の南川広報課長経由で花本会長に「切手研 50 年記念事業実行委員会の合意があれば一緒に開催したい」との連絡がありました。

現在、稲門フィラテリー事務局案を提案中で、平成 13 年 11 月 24 日～26 日を中心に、野球部と一緒にイベントが実現できるよう交渉中です。



稲門フィラテリーの発足を祝う

会長 花本 金吾

まずもって本会発足のお祝いを申し述べたいと思う。本会は、去る 1999 年 11 月、早大切手研究会創立 50 周年記念総会の席でその発足が決議され、青木常男氏を中心とした発起人会によって準備され、何度かの会合を経て、昨年 11 月開催の創立総会によって誕生したものである。会則第 4 条にある通り、本会は、「早稲田大学切手研究会に在籍したもの、または在籍中のもの、若しくは、早稲田大学ならびに系列校の卒業生で、郵趣に関与しているものを会員とする」組織で、従来の切手研 OB 会の組織をさらに拡大・発展させたものである。

この改組により、同じ学園の卒業生でありながら、また、郵趣という共通の趣味を持ちながら、切手研に属さなかったという理由で従来の OB 会に入れなかった方々も自由に参加頂けるようになったわけで、本会

の今後の大いなる発展を心から祈念したい。私ははからずも本会の会長をお引き受けすることになった。この種の会では大学が認可している切手研の会長とは別に、OBの方が会長になるべきだと以前から考え、今もその考えは一方にあるが、乞われるままに引き受ける結果になった。一期つとめる中で不自然さを強く意識すれば、早い時期にどなたかに代わりたいと考えている。

しかしお引き受けしたからには、精一杯お役に立ちたいと考えている。今年の 10 月には「大隈講堂」の東京ふるさと切手発行が決定しているが、大学の創立 125 周年に向け大隈切手発行の運動を展開するという大目標も控えている。切手研の現役の増員を図ることは依然緊急の責務であり続けている。



稲門フィラテリー発会

2000年11月18日に50余名が出席して正式に発足

記：湯川 宗昭

早大切手研究会50周年記念の記念パーティー開催を機に設立の話が進められていた早稲田大学に関係する人達の郵趣会「稲門フィラテリー」が、2000年11月18日に早稲田大学校友会館で発会式を迎え、正式に発足した。

当日は、開会時間の午後1時半を前に、間もなく卒寿を迎えられる大杉先生、ご病状が懸念されたもののお元気に出席された内田先生・現在の切手研の会長である花本先生の3先生をはじめ、大阪からは早大切手研究会の創立者金井氏と橘氏も馳せ参じ、出席予定の連絡があった会員の大半が参集して開会を待ちかねる状態であった。

定刻には、諸田氏の総合司会で稲門フィラテリーの設立総会が開会され、設立準備委員会の世話人をされた青木(常)氏から準備委員会での検討結果が報告され、まず会則案が満場一致で承認された。続いて、早大切手研究会都長の花本先生を会長することをはじめとする、副会長、幹事、監査、顧問の役員及び運営協力の青木氏と吉沢氏が案どおり承認され、さらに運営方針、事業計画・予算も案のとおり異議無く承認された。

このあと、磯野氏からは、前年の50周年記念事業(会計)の最終報告、吉沢氏からは、50年記念誌を文献部門に出品した4月の全日本切手展(金銀賞)と11月のJAPEX(銀賞)の報告が行われた。なお、これらの出品に対する賞状、メダルなどは、入り口近くの机上に展示された。これらの事務的な事項が終了した後、花本初代会長の挨拶があり、副会長の小熊氏からは、会場に来る前に切手研の部室に寄っていたため開会に遅れそ

うになったことなどを含めた挨拶の後、新役員が紹介された。

続いて、部会(分科会)を担当する小林氏から運営方針の説明と、協力依頼が行われ、設立総会は終了し、懇親会に移行した。

懇親会は、青柳氏が司会し、顧問に就任された大杉先生、内田先生、金井先輩の紹介の後、大杉先生の乾杯の音頭で懇親の立食パーティーとなった。

パーティーの途中では、早大切手研のOB以外で、「稲門フィラテリー」に加入された西村寿一郎、高木実、岡田要、井上城の4氏の自己紹介(5~6ページに紹介)があり、また編集担当の甲斐氏から会報編集方針の説明なども織り込まれ、定刻の午後3時半まで、あっという間に楽しい一時が過ぎ、記念撮影をした後、学生時代は切手研を横目に4年間応援団活動をしていたと自己紹介された岡田氏の音頭で、校歌の1番を斉唱した後、散会した。

総会で承認された役員は次のとおりである。

会長 花本金吾先生

副会長 小熊忠三郎(部会担当兼任)

幹事

総務担当 古賀幸治、磯野昭彦
諸田志郎、青柳次男

会計担当 鳥谷越明子

編集担当 甲斐正三、湯川宗昭

部会担当 小林彰

無任所 早川弘司、大西章夫

池沢克就、木元淳一郎

鈴木伸哉



稲門フィラテリー設立の経緯

青木 常男

早大切手研究会の卒業生?の組織は、OB・Gの懇親会として年一回集まる性格で、この数年運営されて来た。

創立50年の記念事業の一環と位置づけて、OB・Gの新組織を創るという動きが公式の場であったのは、記念事業委員会の席上、大杉初代会長のご意向であったと記憶する。

その背景には、1. 現切手研会員数は極めて少なく、OB担当者を置いてまで活動をすすめる余地ほない。2. 逆に新組織により、早大切手研の現在・将来に互ってサポートが可能ではないか。3. 現役時代に切手研に所属していなくとも、現在ほ郵趣に十分な関心のあるOB・Gの糾合。4. 単にOB・Gの懇親に止まらず、定期的に会報発刊・研究グループの発足など新機軸の導入などがあった。

50年記念事業委の最終回(H12・3・15)、新組織設立発起人会が、記念事業委メンバー全員の就任という形で発足した。また検討委として、吉沢忠一氏を始め、21名のメンバーが、終始熱心な検討を繰り返し、設立の準備に取組んだ次第である。

この過程では前述した新組織の背景をこ

の会の根幹として、会則、そして何よりも発足後の実務・活動に生かしていくことが検討の主題となった。

検討委では、加えて設立初年度、平成13年度の事業計画・予算・平成12年度11月に予定されていた設立総会の準備も併行してテーマとなった。限られた期間での作業は、結論として妥当なラインに決着を見たものと言える。

もちろん新組織の前提となる50年の記念事業、特に一部の分野での最終報告の遅れなど、若干の問題がなかったわけではない、

また、メインとなる背景への回答にも不十分な点が見られる。具体的には、事業計画に提示された分科会テーマ、運営のノウハウの明示などである。この点は運営の実務の中で解決されて行くことであろう。

新しく選任された役員・事務局の運営メンバーにより、実務の中で検証され、必要あれば軌道修正を願いたいものである。

新組織設立の準備に関与した一員として一言申し上げよう。この会はお膳立てされたメニューを選択するだけではない。会への活動の全分野が、メンバー各位の意見と活動への参加を待っているのである。

早大切手研究会の現状

記：磯野 昭彦

1. 多くの先輩に親しまれてきた会室、学生会館19号室は、いよいよこの夏学生会館撤去に伴い閉鎖されることになりました。新しい会室は新学生会館E263号室で、移転は今年の7～8月になります。

2. しばらく休刊していた「早大切手研究会会報」を今年は発行すべくただ今準備中です。

3. 今年10月「大隈講堂切手」が発行されることになり、稲門フィラテリーがイベント

企画中と聞いていますが、切手研究会もこれに何らかの形で参加したいと思っています。先輩皆様のご指導をぜひお願いする次第です。

4. 現役で今、郵趣家と言えるのは内山幹事長を含めて数名です。この春の入学式で新入会員を積極的に勧誘し、5名の増員を目標に作戦を練っています。

(現役鈴木前幹事長へのインタビューから)



はじめはスケート切手

井上 城 (60 政経)

家の前で友達と遊んでいると、通りがかった郵便屋が一枚の切手を見せて買わないかと言う。それは日ごろ見なれた炭鉱夫の五円切手とは違って美しかった。なにも考えずに一枚分けてもらったこの第四回冬季国体スケート切手がコレクション一号となる。その後幾度となくこの時のことを思い出すが、配達作業中の郵便屋がなぜ子供に切手を売りつけたのかがよく分からないでいる。

文学部校舎脇に『早苗』という麻雀屋があって、ピースをくわえながら左手にカレーライスの皿を持ち、時間つぶしに打っていた。大隈講堂裏手の鶴巻あたりには、やはり『早苗』というコーヒー屋があって、心地よい音楽を聴きながら昼寝をしていた。

退屈になれば新宿に出て『渚』でモダンジャズを聞き、池袋なら『小山』で山之口漢を観察していた。そこから『人世座』に

腰を落ち着けることも多かった。自然に親しむような穏やかな心になかったがその音の響がよかったからと体育にワンダーフォーゲルを選択して、ひ弱な体を酷使したところ川崎隆章にほめられた。しかし、やはり、ふらふらと街を徘徊していることが好きで切手を整理する時間などなく、小遣いが無くなれば売りに走った。応挙の虎は十冊まとめて神保町の、今は柏水堂というケーキ屋に変わった吉田何とか商店という切手屋に処分した。店の人がちょっと驚いていたのを覚えている。

だから一度失ったものを、また手に入れようなどとは今もって思わない。日本切手のアルバムは昭和 60 年から始まっている。

こんな私が、稲門フィラテリーの会員に加えていただいた。うれしい。渡辺さん、甲斐さん、磯野さん、青柳さんありがとう。



とつくに会

西村 寿一郎 (61 商)

おおかたの収集家と違い、私の切手収集の始めは外国切手である。

なにが切っ掛けかと言われると思いつけないが、今日まで延々と続いているのを考えると、文通に起因しているのかもしれない。

「とつくに会」あまり聞きなれない会ではないかと思う。西の「外国切手研究会」とならんで、東の「とつくに会」ほ在京の人々を中心とした外国切手収集家のグループである。1975 年創立であるから、26 年の歴史をたどっている。1981 年フィラ東京を機に入会、これを機に収集の方策が一変した事を思うと、いかに良き先輩の指導が役だったか実感させられる。

現在は、先輩の根岸さんを会長に稲門の仲間も多数参加し、15～20 名で毎月例会を開き、各国のニュース・オークション誌の回覧・コレクションの批評・その充実のための援助など、何をとりも参考になる事である。こと展覧会出品となると、全員目の色を変えて意見を聞き、お互いに「切磋琢磨」している。

メンバーは、1ヶ国 1 名が原則で互いの競争はなく、それぞれがその国の第一人者である。

来るフィラニッポン '01 の国際展には、大半の方が出品し、展覧会成功のために協力を約束してくれている。稲門の皆さんにも、最大限の協力をお願いいたしたく、今から待ち遠しい限りである。



たかが地図切手、されど地図切手

高木 実 (64 政経)

一時代、いや、二時代前、切手は子供達に人気があり盛んに収集されたが、歳をとるとともに大半の者は切手から去り、切手に関心を持ち続ける少数の大人は、かく言う私もその一人であったが、世の中から(特に企業社会で)“変人”とみなされるのが常だった。

小学5年生の時にふとしたことから、切手の図案に各種の地図が描かれている「地図切手」と出会った。以降、大の大人になった今日までの50年以上にわたって変人扱いされながら、地図切手のみと付き合い続けている。小さな頃から地図に強い興味と関心を持っていたからこそその“ミニマップ”の地図切手への入れ込みの半世紀ではと思われる。

地図がベースにあつての切手への取り組み

みであることから、9,000種に及ぶ地図切手をコツコツ集めた上で、入手した地図切手に秘められている背景を調べたり政治地理学的視点からアレコレと考えつづけて来た。かかる収集・調査・考察から成る“地図切手を読む”ということの長年の積み重ねは、休日返上のチャレンジでもあったが、様々な原稿の執筆、異端な著書の刊行、不在だった子供向地図帳の日本初出版等と展開して行った。

地図切手の上に立っての諸チャレンジは、自分にとって未知の世界・人々との遭遇でもあり、我が人生に若干なりとも彩りを添えているのも確かだと考えている。その点からも、私にとって地図切手は“たかが地図切手、されど地図切手”と思われてならない。



30年前 40年前の思い出

岡田 要 (68 政経)

初めて郵便局で切手を買ったのは1957年9月、原子炉竣工記念でした。杉並区の高井戸小学校6年生で、郵便局は田園風景の広がる井の頭線高井戸駅のそばにありました。周りの友人みんなが切手を集めていました。宮前中学のころは、原宿のフクオへ良く行きました。親の希望する高校に入れたら、スコットカタログを買ってくれる約束が受験勉強の励みになりました。

61年高等学院に入学しましたが、親の希望と違ったのか、約束は反故にされました。切手研究会という部員数数名のクラブに入りました。二級上の木ノ内和夫さん等に、アルバムレイアウト、展示方法など様々な事を教えて頂きました。大郵連に倣って高

校郵趣連盟を作りました。開成、早稲田、慶応と四校だけだったと記憶しますが、何をしたかは覚えていません。切手研の顧問は本間武という英語の先生でした。63年の秋、オートバイ事故を起され、同乗の宇佐見徳得という歴史の先生が亡くなられました。

宇佐見先生が亡くなる直前の授業で「大学に入っても麻雀などで時間を無駄にするなよ」と言われた事が遺言のように思えて、麻雀をしなかった純粋な子供時代でした。

大学では応援部に入り、切手研とは離れましたが・早稲田祭の展示など切手研にはいつも注目していたつもりです。

「大隈講堂」が東京のふるさと切手になるまで

磯野 昭彦

(早大切手研 50 年記念事業実行委員会事務局)

今年平成 13 年 10 月 19 日に早稲田大学「大隈講堂」が東京のふるさと切手になる。

早大切手研 50 年記念事業の「大隈侯切手発行運動」がきっかけだと確信している。

郵政の内部でどのような経過で決定されたか公表されてないし、私も知ることができない。しかし、ここに早大切手研 50 年記念事業実行委員会が活動努力した事実などを紹介する。

実は、奥島総長は平成 10 年に新宿北郵便局の 1 日局長を務めたこともあり、新宿北郵便局と大学との関係は深かった。

たまたま私が酒場で隣席に座っていた新宿北郵便局員の一人町元さんに「切手研 50 年記念事業」の話をしたところ、翌日局の担当責任者氏家さんから「是非、事業を一緒にやらせてほしい」と電話をいただいた。

数日後、新宿北郵便局に事業内容を説明しているうちに「大隈侯切手」の話になり、切手発行決定に郵政省も昔とは相当に様子が変わってきている印象を受けた。

実行委員会では、当初、過去の運動実績からみて「政治家大隈侯切手発行運動すること自体に反対」とする者もいたが、一方ふるさと切手は地方郵政局権限で発行可能になってきたという情報を知っている仲間もいた。

そこで、平成 10 年 10 月、大隈侯生誕の佐賀のふるさと切手「大隈侯」発行運動を開始することにし、大学、校友会にも協力要請したところ、即快諾を得、切手研 OB で唯一佐賀出身の古賀氏に佐賀での推進運動を引き受けてもらった。

これがきっかけになり、平成 11 年 5 月大学としても 2007 年の大学創立 125 年に向けて「文化人大隈侯切手」、東京のふる

さと切手にふさわしい「大隈講堂」の採用推進運動をすることになり専任担当者(庶務課岡本氏)を決め、新宿北郵便局を通じて東京郵政局に打診したところ感触は概ねよかったようだった。

平成 11 年 6 月、奥島総長、中嶋校友会代表幹事他佐賀の有力者の署名を付して、大隈重信侯誕生地記念会(池田進理事長)名で九州郵政局長に「大隈侯切手請願書」を提出した。この事実は、毎日新聞佐賀県版雑記帳に九州郵趣政局のコメント付で掲載された。

平成 11 年秋の切手研 50 年記念事業は大成功を収め、朝日新聞、郵趣、早稲田学報、早稲田ウィークリー、郵政関係の業界紙などに紹介され、大隈侯、大隈講堂切手発行運動のことも多く伝えられた。

平成 12 年 1 月、「21 世紀に伝えたい東京の風物」としてふるさと切手 5 種が発行されたが、候補には「大隈講堂」も挙げられ人気投票が行われた。奥島総長も選考委員の一人だったが採用されなかった。

その後、郵政内の人事移動もあり、平成 12 年の九州のふるさと切手に「大隈侯」の採用はなかったが、さらにこの運動は継続することにし、平成 12 年 6 月に九州郵政局佐賀県本部長に「請願書」を再提出、9 月には同本部長に面会し趣旨説明を行った。

平成 12 年 8 月東京郵政局から新宿北郵便局経由で実行委員会に「大隈講堂切手発行請願書」を再度提出してほしいとの連絡があり、即日大学から提出をした。

平成 12 年 11 月 17 日、郵政省は平成 13 年 10 月 19 日に東京のふるさと切手「大隈講堂」発行を発表した。(佐賀ふるさと切手に「大隈侯」はなかった)

稲門フィラテリー分科会へのお誘い

分科会担当：小林 彰

活動内容

1. 定例会 : 3 ヶ月に一回程度
 - a. 郵便・郵趣講演
 - b. 収集品拝見 (アルバム回覧)
 - c. 郵便・郵趣情報交換
 - d. 切手交換会
 - e. その他懇談
- X. 例会後場所を改め有志懇親
2. 特別例会
 - ①郵便・郵趣旅行: 年に一度
(前島記念館、明治村など)
 - ②切手展見学会: 都度

(PHILANIPPON' 01、全日展、JAPEX)

第一回例会は、2001年5月を目処に、出来るだけ早く立ち上げたいと思っています。

例会が待ち遠しくなるような魅力ある分科会に育てていく所存ですので、分科会活動(講演内容など)に対するご希望・ご要求などを是非お寄せいただきたいと思います。詳細については、後日ご案内いたしますので、多くの会員の皆様のご参加を期待いたします。よろしくご協力のほどお願いいたします。

「大隈講堂切手発行記念展」「野球部 100 周年記念展」への出品協力依頼

1 ページで紹介した展示会開催にあたり、会員の皆様から、早稲田大学あるいは野球部関連のリーフ、マテリアルを出品いただきたく協力をお願い申し上げます。

リーフのコピーや、書簡、封筒、棄書、絵葉書、切符・入場券などの関係あるマテ

リアルのコピーとリストをお送りいただきたくお願い申し上げます。

送付先：副会長 小熊忠三郎

〒226-0015

横浜市緑区三保町 2179-2-346

Te1:045-932-8138

PHILANIPPON'01

に活躍する同窓の人達

いよいよ PHILANIPPON' 01 日本国際切手展が 10 年ぶりに、8 月 1 から 7 日まで、有明ビッグサイトで開かれます。

この切手展委員会 20 名余の中から早稲田出身の方々を紹介するとともに、諸氏の御活躍を期待いたします。

組織委員会 副会長：金井 宏之

副会長：立川 憲吉

実行委員会 作品部部长：西村 寿一郎

コミッショナー部部长：稲葉 良一

編集後記

「稲門フラテリー」の第一号をお届けします。いたらぬ点が多々あるとは思いますが、皆様からのアドバイスをいただきながら改善に務めたいと思います。お気づきのことを編集までお知らせ下さるようお願いいたします。

今年は「大隈講堂」切手発行と言うビッグ・ニュースがあり、次号も関連の行事の進展などを主にお知らせする予定です。今回は会員名簿と併せてお配りします。

発行人：小熊 忠三郎

稲門フィラテリー

第 2 号

2001年7月1日発行



内田武吉先生

1925年(大正14)東京都生まれ
1951年(昭和26)～97年(平成9)
早稲田大学在職、法学部長、大学院法学研究
科委員長、早稲田中学・高校校長
1997年(平成9)早稲田大学名誉教授
1981年(昭和56)～97年(平成9)
早大切手研会長
2001年(平成13)5月2日 逝去

内田武吉先生を悼む

花本 金吾

早大名誉教授で、切手研究会の前会長でもあられた内田武吉先生が、本年5月2日午前11時に逝去された。定年ご退職後4年目の享年74歳であった。告別式は5月6日、築地東本願寺で午前11時からしめやかに執り行われた。

数年前から入退院を繰り返されているとは聞いていたが、あまりにも早過ぎるご逝去に悲嘆に暮れるばかりである。ここにご生前のご遺徳とご功績を偲び、心からのご冥福をお祈りしたい。

先生に早大切手研究会の第三代会長のご就任をお願いしたのは、『早大切手研50年』によれば、1981年(昭和56)3月、東急銀座ホテルで行われた大杉徴第二代会長定年退職記念パーティの席であつた。爾来、1997年3月の定年によるご退職まで、16年の長きにわたって切手研発展のためにご尽力頂いた。

私は同じ法学部に属し、しかも先生が1978年(昭和53)9月から2期4年間にわたり法学部長の重責を担われたときの教

務担当副主任として苦楽を共にしたこともあり、特別に目をかけていただいた。いつもにこやかで、悠揚としてせまらず、都会育ちのセンスの良さを漂わせておられた先生に私はいつも人間的な魅力を強く感じていた。

先生についての思い出は幾つもあるが、特に1978年の「内田内閣」発足早々の11月、早慶野球戦の折り、徹夜で新宿歌舞伎町を見回ったときのことが特に強く印象に残っている。11月初めにしては厳しい寒さだったと記憶している。先生は格好良い革のジャンパーに身を包んでおられた。先生を合むわれわれ5人は一回りしては、先生行きつけのバーに戻り、そこで内部から体を温めては、また見回りに出るのであった。先生ご自身もこのときのことはその後よく語られていた。

ご定年後は切手の整理にゆっくりとした時の流れを楽しんでいる、というお便りも頂いていたが、一方では厳しい病魔との闘いがあったものと思う。今は先生のご冥福

内田武吉氏を偲ぶ

立花 卓

故内田武吉氏と私の交流は、切手研究会 OB 会員という一般的な関連もあることは当然だがそれよりも深い早稲田中学校 (旧制) の 2 年先輩というつき合いがある。私が大学卒業後母校の職員として学生部に入った昭和 30 年以降からの 20 年間ほどはご承知のように、活動家による学内外における学生運動のくり返して、その対応に追われる日々だった。故内田武吉氏は法学部長、大学院法学研究科委員長等重責にあり、折々私から全国的動向の概況を求めたりして、学部長としての学生指導に当っておられたことが回想される。従って切手研究会 OB としての内田先輩という概念は昭和 50 年すぎの学内が平静を取りもどすまでは全くなかった。(故人が OB 会や新歓などにあまり出席されなかった様に思われるが) 大杉徴氏が定年退職され

るという昭和 55 年 2 月ころ、現役会員から後任会長としてお願いしたいと申出られ、初めて OB 会員だったことを知った。定年退職までの 16 年間、母校早稲田中・高校の校長として更なる重責を荷ないながらも老若 OB に、そして数少なくなる現役会員との指導に当られた。私には会長、そして早稲田中・高校校長の先輩として親近感が更に深くなった一ときだった、昨秋大隈会館で開かれた稲門ファイラー創立総会でお目にかかったのが、いまにすれば最後の数分間の歓談になった。心なしか顔色が蒼白だったような印象が残っている。5 月初めに突如の訃報に接した。稀薄なつき合いだが 40 年ほどの間いろいろとご指導を賜わったことを深謝し、ご冥福を祈るものである。

内田先生と私

黒川 清知

私は昭和 30 年卒だから当然内田先生を会長と仰いだことはない。しかし先生とは何かご縁があった。現役会員の頃、やはり会員であつた先生のお名前は母校早稲田中学 (旧制) の先輩ということで存じ上げてはいた。しかし正直、内田会員は、会には余り顔を出されなかったのでお会いした記憶はない。30 年も会長を務められた大杉先生の後を継がれた内田先生にお目にかかったのは OB 会の席上であった。3 年先輩で戦争中の入学、昭和 17 年 4 月 8 日の東京初空襲で早中の校庭に多数の焼夷弾が落下、4 年生の小島さんがその直撃を受けて即死、内田先生は同級生であり、私は入学早々の 1 年生、そんな悲しい共通の話題を話し合った。

今から数年前だろうか、先生は肝癌を患われ手術を東京女子医大病院で受けられた。

私も 13 年前からの肝臓疾患で同病院で治療を受けていたために外来のおり先生の病室を訪ねた。「私の肝癌の直径は 4 cm ぐらい」と淡々と話されていた。その後お元気になられ OB 会にも出てこられた。しかし今度は肺にも癌が発生し入院されたこの癌が先生の命を奪った。

私も平成 10 年胃の摘出手術を受けた。執刀医は女子医大外科部長の高崎教授、奇しくも内田先生の肝臓摘出執刀と同じ教授、今年の 2 月 26 日、外来でバツタリお会いした。奥様とご一緒に次回診察の予約をされていた。杖を突いておられたが元気そうでした。ここにこと話しかけてくださった。「一寸失敬、喫煙室でたばこ吸ってくる」大柄の体に杖を突き突き、奥様の「ショウがないわね」の苦笑を背に喫煙室に入っていかれた。これが先生との最期のお別れとなった。

内田先生 ごめんなさい

小熊 忠三郎

「早大切手研 50 年」の編集委員の一人として歴代会長先生の玉稿と大杉先生編纂の切手研会報総目次のワープロ化を担当した。渡辺編集長より「スペースを揃えるため、先生方には字数を伝えてお願いしてある」とのことであったが、先生からいただいた「私の郵便切手収集遍歴」と題する原稿は予定字数を 550 字以上もオーバーしていた。困った私は何度も玉稿を読み返した。幸い、導入部分で横佩道彦氏の「切手の話」を引用するなど、切手収集に対する先生の想いが書かれており、この部分を削除するとピッタリおさまる！後段の方で定年退職後、先生が「郵趣雑誌の記事の中で切手研 OB の湯川氏が JPS スポーツ部会世話人と知ってスポーツ部会に入会した」とある、これぞ幸い、湯川氏にイヤな役目をお願いしてしまった。

1999 年 5 月 25 日付けの同氏からの手紙が手元にある。『お預かりしました内田先生の原稿の件、先生から始めの段落のカットの諒承と一部修正が参りました。先生は文頭に「私が」で始まるのがお好き

でないとのことで、”「切手集め」に…”から始めるように、また、「勢」と「粗探し」にはセイとアラサガとルビをふるようにとのご希望が、その他、テーマとゼネラルに関する修正もあります。……』

ご要望の修正事項はすぐ直し、編集長に手渡したものの、嬉しさのあまり「ルビ」をふるのをすっかり忘れてしまった。それと先生の原稿では「収集」とあるのが全部「収集」になってしまったのを、今「発見」した。論文を多数発表された先生に、たとえ趣味のこととはいえ、「序文」を削ってほしい、とのあつかましい依頼があったのは初めてのことでさぞ困惑されたことでしょう。また、辞句表現に厳密な法学者先生の意に副いえなかったことも残念でなりません。

ここに、故内田先生の原稿のカットした部分を再現し、厳しい学者であった先生を偲びたいとおもいます。

内田先生ごめんなさい。

現在まで地球上で幾種類の郵便切手が発行されたのか。また、世界中に今日現在、何枚の郵便切手が存在しているのか。馬鹿らしい詮議だと思われるが切手を集めている者なら一度はそんなことを考えた経験がある筈である。前者については「現在毎年世界で 1 万種以上の新切手が発行されている。だから現在、切手の種類は 40 万種を突破して 50 万種に迫っているものと思われる。」(横佩道彦「切手の話」1995 年版)といわれる。この点はコンピューター化が進めば、かなり正確な数字がでてくるかも知れない。しかし後者の疑問についての答えは、まず不可能であろう。そんな膨大な切手の数を知ってか知らずか多くの初

心者(私も)は、できるだけ沢山の切手を集めようとする。未使用・使用済みに関わらず、コンディションも余り気にせず、ひたすら集めることに一所懸命になる。こんな状態から抜け出して自分の収集目標を決め始めるのに、どの位の年月がかかるのだろうか。勿論、人によって異なるのはわかりきっているが、凡そどの位かが、私には大変関心がある。(趣味の問題にそんなことを考えるのは愚かである、といえそれ迄である。)何故ならば、私が収集の的を絞り始めたのが余りにも遅かったと思うからである。遅かったというよりも以下に述べるように遠い廻り道をしていて行く先を知らなかったといっってよい。

内田先生の会長時代を偲ぶ

大西 章夫

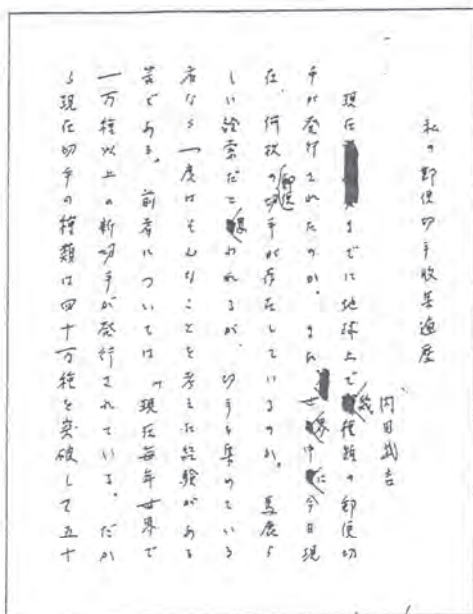
内田先生の訃報に接し、築地本願寺でのご葬儀にも参列致しましたが、改めてご冥福をお祈り致します。

内田先生は私が入学・切手研入会した昭和59年当時、大学院法学研究科委員長室で執務しておられました。先生は切手研OBでしたが、「在学中はほとんど切手研に顔を出していないので」と謙虚に話され、現役の活動に口をはさまれることは差し控えられつつ、我々現役会員がご助言を仰いだ時には的確な判断を下され、我々を英邁に導いて下さいました。特に私が発案しながらも会内で意見が分かれた「創立35周年記念事業」としての記念テレカの発行は、電電公杜銘として今なおOBの皆様にご喜ばれ珍重されておりますが、内田先生の激励があつてこそ会内世論もまとまり実現できました。私の幹事長就任後も、大学郵趣連盟の中にも路線分化が見られ、日本全体が浮

かれたバブルの時代にあつて、時局の節目ごとに内田先生から頂いた、厳正な中にも寛容さを湛えたアドバイスのお蔭で、当時の切手研をその本筋から逸脱させることなく後代に伝えることができました。

個人的にも、法研委員長室で事務所の方々にご紹介頂けたことから、大学院進学後に文学研究科在学ながら法学部の定期試験監督をやらせて頂く機会を与えられ、また私が在学中に非常勤講師として出校していた早稲田高等学校に、先生が校長として赴任されるという奇遇にも恵まれました。

日本全体が閉塞感に満ち、切手研自体は勿論、早稲田大学自体が厳しい道を歩みつづける今日、内田先生にはご定年後も永く我々を厳しく正しく導いて頂きたかったところ、かくも早く幽明異にされ、痛惜の極みです。今後はご冥福とともに、天上より我々と21世紀の切手研を見守って下さるよう、お祈り申し上げます。



「大隈重信侯切手」 請願書を再々提出

古賀 幸治

早大切手研究会では、永年の悲願である「大隈重信侯切手」の発行を目指して大隈侯の誕生地である佐賀県で運動を展開している。この運動は、「大隈重信侯誕生地記念会」(理事長:池田進サガ・テレビ会長、早大OB)を中心にして、早稲田大学、早大校友会本部、早大校友会佐賀県支部、サガ・テレビ、佐新聞社が後援し、早大切手研究会が事務局を務める形をとっており、金井宏之大先輩にも側面から支援いただいている。

一昨年(平成11年)に第1回の請願書を提出したがこのときは「世界バルーン大会」と決まり、第2回提出の昨年(平成12年)は佐賀県からの発行はなかった。そして今回、第3回目の請願書(九州郵政局局長高橋守和氏宛)を、去る6月19日(月)に九州郵政局佐賀県本部長岩村則次氏に面

会して提出した。このときは誕生地記念会常務理事山城正登氏(渡辺勝正君の同級生)にもご同道願って、私たちの熱恵を約1時間訴えた。

その席上での私の主な発言は次のとおり。「佐賀でのこの運動がきっかけとなって早稲田大学を動かし、その結果、今年10月19日に東京から大隈講堂切手が発行されるという望外の展開となった。今年は東京から大隈講堂切手が、そして来年はこれに呼応して佐賀から大隈生家(国の重要文化財)をメインテーマとする切手が発行されることになれば、見事なコンビネーションになる。私たちの悲願を是非とも叶えていただきたい。」

佐賀訪問のあと、面識のある九州郵政局郵務部長岡崎昭二氏にも手紙で直訴した。

「大隈講堂切手発行記念展」 開催決定

事務局:磯野 昭彦

稲門フィラテリーが年初に、大学史資料センターに働きかけていた『大隈講堂切手発行記念展』が下記の通り正式に決定、大学も正式に発表した。

主催は大学史資料センター、稲門フィラテリーは協賛。

記

○日時平成13年10月1日～21日

(21日はホームカミングデー)

10時～17時

○場所2号館(会津八一記念館)1階

大隈記念室前展示ケース

○新宿北郵便局臨時出張所開設予定

(10月19日～21日)

○展示内容等詳細は未定。

本記念展の案内は、早稲田学報、早稲田ウイークリーに大隈講堂切手発行のニュースと一緒に掲載予定であるが、すでに早稲田大学公式ホームページに掲載されており、また、ホームカミングデー招待者32000名への案内状に切手研50年のフクちゃんとともに掲載されることになっている。

★会員皆様へお願い:

記念展開催が決定しましたので、この記念展出展にご協力をお願いいたします。

特に早稲田大学マテリアルをお持ちの方は7月中に申し出いただきたくよろしく願いいたします。

連絡先:小熊忠三郎

大隈講堂切手発行と関連企画

大隈講堂切手発行と関連して「ゆうペーン」の発行、「記念小型印」の使用、記念展に「郵便局臨時出張所」の開設、「初日カバー」の発行などを予定しています。これらの企画を、大学および稲門フィラテリー、切手研究会が協力して実現するように現在、大学庶務課より新宿北郵便局および東京郵政局へ意向を問合せ中であり、その回答を待つ

ているところです。

稲門フィラテリーとしては、切手研50年事業の経験を生かして、これら企画の成功のために大学の後押しをしています。

なお、初日カバーの製作については、稲門フィラテリーが前向きに検討しています。詳細につきましては、総会案内と併せてあらためて案内をいたします。

「大隈講堂切手発行記念展」具体案

主催：大学史資料センター

協賛：稲門フィラテリー

記

○日時 平成13年10月1日～21日

○場所 会津八一記念館(旧図書館)

○新宿北郵便局 臨時出張所 開設予定
(10月19日～21日)

- ・記念小型押印サービス
- ・記念ゆうペーン発売
- ・記念カバー、FDC 発売

(稲門フィラテリー)

○記念展展示内容案

大学史資料センター所有の大隈講堂の歴史を示す資料

- ・建設企画資料
- ・大隈講堂設計コンペ資料
- ・建設写真・設計図
- ・世界要人の講演写真集(アインシュ)

タイン、ケネディ、アキノ、アデナウアー、カラヤンなど)

- ・知られていない大隈講堂の写真
- ・はがき原図

稲門フィラテリー提供

- ・前島密切手関係
- ・坪内逍遙切手関係
- ・相馬御鳳切手関係
- ・80周年記念シール
- ・著名漫画家絵はがき
- ・大隈講堂関係のコレクション
(トーキートーク等)

- ・早大切手研究会の歴史
- ・50周年記念郵趣品
- ・各国主要大学の切手

郵政提供

- ・大隈講堂切手原図

総会・懇親会のお知らせ

今年の早稲田大学ホームカミングデーに合わせ、次の要領で稲門フィラテリー総会および懇親会を行います。詳細はおって連絡致しますが、皆様のご出席をお待ちしております。

◎総会

日時：10月21日(日曜日)

10:00～13:30

場所：早稲田大学教室(決定次第連絡)

◎懇親会

日時：10月21日(日曜日)

15:00～17:00

場所：びあぐら(高田馬場駅至近)

当日、会津八一記念館(旧図書館)にて「大隈講堂切手発行記念展」を開催中で、臨時の郵便局出張所が開設の予定です、

PHILANIPPON'01 見学会ご案内

期間:2001年8月1日一同7日10時-18時(最終日は15時まで)

場所:東京国際展示場「東京ビッグサイト」(有明)

主催:郵政事業庁、郵便文化振興協会、日本郵趣連合、日本郵趣協会の共催

出展:約500名 約3000フレーム

稲門フィラテリー会員出品予定者(敬称略):

金井 宏之(コート・オブ・オーナー/招待出品)

井上 武夫(ステーショナリー) 《Japanese Postal Stationery 1873-1876》

渡辺 勝正(テーマティック)《The Ox and Human Society》

西村壽一郎(伝統郵趣) 《Sweden 1855-1873》

(ステーショナリー)《Regular Post Cards of Japan 1873-1874》

稲葉 良一(伝統郵趣) 《Japan.the Old Koban Issue 1876-1879》

和田 文明(郵便史) 《Official Mail of the U.S.Post Office 1778-1900》

(郵便史) 《U.S. Registered Business Mail 1857-》

立川 憲吉(郵便史) 《Okinawa Postal History 1874-1945》

会場で、わが国最初の《Pスタンプ》(シート余白に自分の写真が入れられる)が発売されます

見学会:

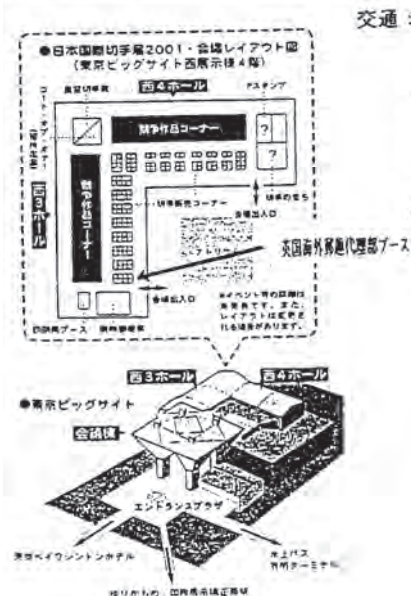
日時・2001年8月4日(土)および5日(日)午前10時から

集合場所・会場内『英国海外郵便代理部』(小西邦彦代表、稲門フィラテリー会員)ブース A1-8

作品説明・上記稲門フィラテリー会員の作品を中心に、出品者ご本人もしくは第三者に解説をお願いします。

その他・参加者多数の場合、10人程度のグループに分かれ見学いただけます。なお、上記見学会期日以外に来観される方も、実行委員会作品部部室にお立ち寄り下さい。稲門フィラテリー会員が在室している場合があります。作品部部室は、英国海外郵便ブースにてお尋ね願います。

10年に一度の郵趣界最大のイベントです。奮ってご参加ください。そして、Pスタンプ!



- 交通:
- 1° ゆりかもめ 新橋駅→国際展示場正門駅下車5分
 - 2° りんかい線 豊田有楽町駅またはJR京葉線新木場駅→国際展示場駅下車10分
 - 3° 都バス(海01系統) 豊田有楽町駅南口または豊田有楽町駅西口→東京ビッグサイト
 - 4° 都バス(海02系統) JR有明駅→国際展示場駅→東京ビッグサイト
 - 5° 都バス(東16系統) JR東横線八重洲口または豊田有楽町駅→東京ビッグサイト
 - 6° 都バス(東01系統) JR有明駅→東京ビッグサイト
 - 7° 都バス 日の出線→有明客船ターミナル

[分科会担当幹事: 小熊忠三郎、宮鍋益治、小林彰]



JAPAN
WORLD STAMP
EXHIBITION
2001

大隈祭を見る

甲斐 正三

昨年秋から、平成 13 年の春になったら柳川と熊本をまわろうと考えていた。

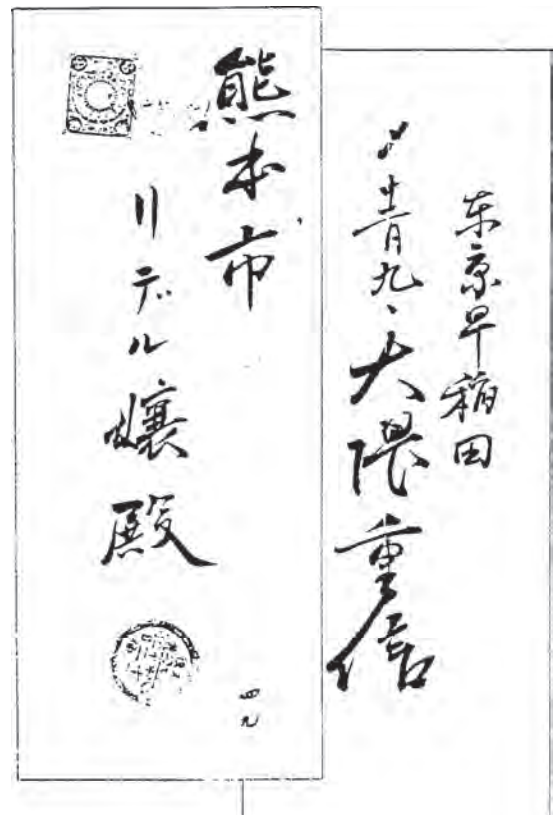
父は柳川に生まれ、五高（現熊本大学）に進んだが、父が残したもののの中から天明 7 年（1787）の甲斐の家の先祖を物語る和綴りの書類が数冊でてきたので、生家の柳川へ持参することが一つである。また五高寮歌の SP を 10 数年前に熊本大学に寄贈したが、熊本テレビの番組「五高寮歌」にそのレコード（現存 1 枚）がとりあげられ、録画したビデオを送ってもらったので五高記念館（大学構内）をたずねたい。それから大学から数分の所にある小峰墓地に詣でることである。昭和 48 年に建立された航空殉難記念碑の中に、昭和 20 年に殉職した父の名もある。卒業し 50 年の歳月を経て母校のすぐ隣に戻ってきたことになる。そして大隈講堂切手発行を記念する展示会の件で、1 月に小熊氏、磯野氏と大学史資料センターへ行き金子先生と打合せした時、4 月 8 日の「大隈祭」のことを聞き、偶然同じ時期でありあわせて訪れることにした。

五高記念館と小峰墓地の間で「リデル、ライト両女史記念館」の文字が目に入った。リデル、ライト？私の記憶にかすかにひっかかるものがある、なんだったろう…、とにかく行くことにする。

白い洋風の二階建ての記念館があり、リデル女史とライト女史という二人のイギリス女性が、この地に残した足跡が展示、紹介されている。リデル女史は明治 23 年（1890）宣教師として熊本に来て五高の教授や学生に伝道活動を始める。そして五高教授らと一緒に花見に行った時、初めてハンセン病の患者を見て強いショックを受け、以後昭和 7 年（1932）に亡くなるまで、一生をハンセン病患者の救済にささげたことを知った。リデル女

史の姪のライト女史は大正 12 年（1923）からリデル女史とともに奉仕活動を行なうが、戦争開始直前の昭和 16 年、官憲に追われてオーストラリアへ去る。その直前の日、皇太后から多年の労苦を謝す電報が届き、生涯肌身離さず持っていたという、そして昭和 23 年ようやく念願かなって熊本に戻り、昭和 25 年に 80 才で没するまで奉仕の日々を送ったという。この二人をかくまでつき動かしたものはいったい何だったのであろう。感動的な事実を知り、か弱いショックを受ける。

そう言えば父（大正 11 年卒業）の残した新聞の切抜きで『リデル、ライト』の名を見たのかもしれない…。五高で伝道活動を始めたというから多くの学生は知っていたであろう。そう考えると切抜きの謎が解けるように思う。もしかしたらリデル女史と父がすれちがい、言葉を交したことも



あったかもしれないなどと想像する。帰ったらさっそく切抜きを確かめてみたい。

人気の少ない建物を館長に案内してもらっていると、大隈侯の書簡が目に入った。おや、なぜ?と不思議に思う。菊3銭切手1枚が貼られた「熊本市・リデル嬢殿」とだけ墨書され、裏には「東京早稲田・12月9日・大隈重信」とある。明治38年(1905)、リデル女史は上京して渋沢栄一や清浦奎吾らに救済を訴える。これを受けて同年12月9日大隈邸で、ハンセン病予防法案の提出と県会から救護所への補助がきまる。手紙はその日に大隈侯からリデル女史に送ったものである。

館長に書簡のコピーをお願いしたところ、快く、しかもカラーのコピーをいただき感謝にたえない。今回の目的の一つが「大隈祭」へ行くことであり不思議な縁に驚く。

見学を終え電車の中で、記念館で求めた「愛と奉仕の日々」を読む、胸にこみあげるものがあり、目頭が熱くなるのをこらえることが出来ない。

柳川で一日を過ごし、翌4月8日朝、佐賀に向かう。柳川では作家長谷健氏の碑を訪れる。先輩の藤田弘道氏の父上と聞く。「大隈祭」は10時からであるが9時前に着いてしまう。一大隈侯を新紙幣の肖像に一の幟が掲げられていて驚く。まだ準備中であつたが、受付の人に親切に声をかけられ、ここへ来た理由を話す。今日は無料公開の記念館をゆっくり見学し、松の樹が美しい庭園で野点の接待を受けて有難くいただく。

西村館長とも話すことが出来、普段は立入り出来ない生家の中に上がることが出来たのは有難い。大隈講堂切手の発行はご存じなかったので、そのことを話し、帰ったらすぐ「稲門フィラテリ」の第1号を送ろうと考える。東京へ戻るとちょうど会報が出来上がっている筈である。また、この日講演される資料センターの



松本先生に会いしばらく懇談出来たのも嬉しい。1月に資料センターで「大隈祭」や松本先生が話されることを聞いたが、先生と話をするのは初めてである。

200人以上の人が集まった10時、女子校生による吹奏楽パレードを先頭に幕が上がり、パレードが戻ったところで祭典が始まる。まず誕生地記念会理事長が挨拶を行い、そのあと県知事(代読)、奥島総長(代読)、佐賀市長らが祝辞を述べる。佐賀市長は、収蔵庫の中を見直していたら新しい発見があり、資料センターと共同で今年中に収蔵庫展を開きたいと話しをされた。

この日は快晴、汗ばむくらいの暖かさで、桜は満開を少し過ぎて花吹雪の中で祭りが進んでいく。続いて松本先生が「21世紀に生かしたい大隈重信侯の政治理念」と題して、最近の千葉県の無党派知事の当選や政治の混迷をきっかけに、大隈侯が理想としてかかげた政党政治の理念について講話をされた。その中でレコードからの大隈侯の肉声を紹介されたのはとりわけ興味深い。最後に少年空手、太鼓が披露されて閉会となった。

長崎へ寄った後、博多から新幹線「のぞみ」で東京へ向かう。ライトアップされた掛川城が車窓を流れていく。横山兄が逝って1年後の夏、同期4人で墓参のうちに奥さんとお嬢さんに案内されて掛川城に上ったことが脳裏をよぎる。いつもの旅とは異なるが、不思議な縁を感じさせる旅であった。

新入会員紹介

次の5氏が稲門フィラテリーの会員に入会されましたので紹介いたします。

稲葉良一、岡田育延、小林義博
中山定則、松永邦仁(敬称略)

新幹事の紹介

今回から、次の各氏が展示、分科会の担当をされることになりましたので紹介します。

展示：渡辺 洋氏
分科会：宮鍋 益治氏

「野球部 100 周年記念展」開催

前号で早稲田大学野球部と稲門フィラテリーとの共催で展示会の開催をする可能性について案内をしましたが、現時点では野球部としての意向がきておりません。近々、その結論を出すことにしています。

編集後記

10年に一度の国際切手展フィラニッポン'01まで、あと一月になりました。日本で初めてのPスタンプの発行、国連からこの日に合わせて世界遺産「日本」6種と切手帳の発行などもあり楽しみです。稲門フィラテリーの人達の出品を解説つきで楽しめることも出来ますので大いに期待したいものです。

Pスタンプは、見返り美人、写楽、歌麿などの浮世絵10種の下に白抜きのタブをつけ、そこに思い思いの写真を入れるようです。

佐藤隆之氏に、内田先生の写真をお願いしたところ、写真と一緒に内田先生を偲ぶお便りをいただきましたので、紹介させていただきます。

原稿を募集しています！

会報「稲門フィラテリー」への投稿をお願いします。

会員の皆様からの積極的な投稿を歓迎します。切手収集の研究の成果、コレクションの紹介、切手収集にまつわる様々な思い、あるいは、今自分が関心を持っていることや、また熱中しているほかの趣味、などなど、自らを他の会員に紹介するつもりで、お気楽に編集まで原稿をお寄せ下さい。

待っています！

「名簿」、『稲門フィラテリー』の訂正

名簿	氏名	項目	新
	青木 常男	住所	2980-133
		e-mail	t.aoki.omiya@nifty.com
	大西 章夫	e-mail	fortune@letter.or.jp
	岡田 要	電話	・・・-5817
	鳥谷越明子	e-mail	toyakoshi@・・・
	宮鍋 益治	勤務先	葛飾区工場連盟
		勤務先電話	03-5671-1466
	湯川 宗昭	勤務先電話	03-3274-5529
会報	ページ	場所	正
	5	井上 城	(60文)

『内田武吉先生は、私が大学4年の時に切手研会長に就任されましたが、先生の写真を撮影する機会が少なかったことが残念でなりません。

平成9年の、先生の定年に際してのOB会では、カメラの調子が思わしくなく、先生を写した写真が撮れておりません。このOB会直後の平成9年5月4日に、切手の博物館に行くため、目白駅を出て、博物館への坂道にさしかかったところで、博物館のショールームで買い物を済まされてお帰りになられる内田先生にお会いしました。定年を迎え、これからじっくり収集を楽しもうという先生の明るい表情は、今でも私の心に残っています。』

稲門フィラテリー

第 3 号

2001年10月21日発行

大隈講堂の切手発行される

—ふるさと切手東京版として10月19日に—

かねてからご案内しておりましたが、東京郵政局版のふるさと切手として大隈講堂を描く切手が発行されました。

大隈講堂は、東京都景観条例に基づく東京都選定歴史的建造物に指定されています。

また、同時に、10枚綴りのペーンも発行されました。

名 称 早稲田大学大隈講堂
種 類 80円郵便切手
発 行 日 2001年10月19日
印面寸法 縦33.0mm X 横22.5mm
シート構成 縦5枚 X 横4枚の20枚構成
版式・刷色 オフセット・5色
原画作者 藪野健
初日指定局 東京・新宿北郵便局



大隈講堂切手

原画作者の藪野健氏は、早稲田大学芸術学校(芸術的感性と技術力を兼ね備えた職業人養成のための専門学校)の教授をされている洋画家です。

切手のデザインは、右に示すとおり、秋の青空の下、そそり建つ大隈講堂と時計台を描いたもので、油絵で描かれています。

この切手発行に関しては、10月21日のホームカミングデーの式典でも、披露されました。また、発行の10月19日から21日までは、大学構内に郵便局が出張して販売もされました。

東京中央郵便局で通信販売も

ふるさと切手の発売郵便局は限られていますので、本年12月19日まで、新切手と同様に、東京中央郵便局で通信販売が行われています。

記念切手展も開催

この大隈講堂切手発行を記念して、我々、稲門フィラテリーの協力の下、「大隈講堂切手」発行記念展が開催されました。

会期 10月1日～10月21日

会場 大学史資料センター(2号館)

1階大隈記念室前展示スペース

PHILANIPPON'01 雑感

稲門フィラテリー 顧問 金井 宏之

「日本国際切手展 2001」は多くの収集家の努力と協力で、第3回目を無事に終了することが出来、ご同慶の至りであります。なかんずく、稲門フィラテリーの小熊君を初め、多くの諸君が西村作品部長のもと、国内外から持ち込まれてきた膨大な量の高価なコレクションを、西村部長の手となり足となって、大過なく協力してくださったことに対し、心から敬意を表する次第であります。

国際展の裏舞台で、作品部が一番ややこしい仕事であり、また、間違えやすい作業であります。夏の最中に、もう決して若くもない諸兄に働いて戴き、只々申し訳ないと思っております。どうも有難うございました。この紙面を借りてお礼申し上げます。

そんな同窓諸兄の協力があって、国際切手展は大変成功裡に終わったのであるが何故、日本の夏に国際展を開催せねばならなかったか、それは、3年位前の計画の段階で、日時・場所について当時の郵政省切手室に尋ねたところ、場所は台場の国際展示場、日時は子供の夏休み、と言われ、この切手展が日本の子供達をターゲットにしている展覧会であることを認識した。

最近の日本の子供達の傾向は、コンピューター・ゲームに始まり、長ずるに及んで、携帯電話・Eメールとなり、続いて、インターネットとIT関連のものばかりで、それ以外に目を向けようとしません。私の疑問は、果たして夏休みにどれ位の少年少女が来てくれるのだろうかと言うことだった。

その陰で各国よりの審査員を初め、世界から切手展の仕事をするために来てくれた外国人達の犠牲があることを忘れてはならず、また、大した苦情も言わず、コツコツと自分に

課せられたことを、8日間熱心に協力してくれたればこそ、今回の切手展が成功したと言っても過言ではないと思う。

その我々の期待に対し、日本の子供達は果たしてどれくらい国際切手展を見に来てくれたであろうか。この子供達こそ、我々の二軍なのである。それに引きかえ、東南アジアの切手展で何故あんなに沢山の子供達が見に来るのか分析してみる必要があるだろう。

切手展が無事すんで、将来のことを漠然と考えているとき、世界がITで動いている今日、将来世界中で切手を発行する必要性が残ってくるのだろうか。私の人生は、切手と共にあった。これからの青少年はITと共にある。こんな私の考えが適中しないで欲しい。それには、後輩の諸兄が、責任を持って収集を支え、時代に受け継がせるよう努力をし、10年後はまた我々先輩がやった切手展より、もっと立派な第4回目のPHILANIPPON'11を、胸を張って開催することを願って止まない。



フィラニッポン' 01 見学記

小林 彰

会報第2号でご案内のとおり、有明の国際展示場ビッグサイトで開催されたフィラニッポン' 01 期間中、8月4日、5日の二日間見学会を行いました。フィラニッポンは、P-スタンプの希望者が多く、毎日700名分の整理券は、開催時刻にはすでになくなるほどの大人気で、盛況でした。

見学会の参加者は25名を数えました。両日ともご参加いただいた熱心な会員の方もおられました。

4日には、稲葉良一氏の『旧小判』と和田文明氏の『アメリカ郵政の公用便1778-1900』、5日は、渡辺勝正氏の『牛と人間社会』、西村壽一郎氏の『二つ折りはがき』と『スウェーデン1855-1873』それぞれの作品の解説をご本人にお願いいたしました。

国際展ならではの作品をわかりやすく解説いただき、見学者一同、作品のポイントがよく分かり、作品のすばらしさを再認識いたしました。通りがかりの一般の参観者も加わり

盛り上がった見学会でした。

また、4日、5日とも見学会の後、居酒屋に席を移し、参加者一同懇談いたしました。ご参加いただいた会員のみなさまと快く解説をお引き受けいただいた上記出品者の方々に改めてあつく御礼申し上げます。

なお、稲葉氏、西村氏(スウェーデン)が金、渡辺氏と西村氏(二つ折り)が大金銀、和田氏が金銀と解説者のみなさまは上位の賞を受賞されました。加えて会員の井上武夫氏も大銀賞を受賞されました。受賞者のみなさまには心よりお祝い申し上げます。

見学会参加者(順不同、敬称略)

8月4日: 小熊忠三郎、諸田志郎、青柳次男、山崎哲夫
市川鴻之佑、磯野昭彦、嶋村邦高、宮鍋益治
稲葉良一、和田文明、甲斐正三、小林彰

8月5日: 佐藤隆之、山崎哲夫、渡辺洋、林舞子
早川弘司、吉澤忠一、甲斐正三、市川鴻之佑
西村壽一郎、宮鍋益治、小熊忠三郎、小林彰



見学会にて(解説中の渡辺勝正氏と作品)

PHILA ニッポンの熱い日

吉沢 忠一

7月下旬から8月上旬にかけて、日本国際切手展2001の作品部に参加した。作品部は西村壽一郎部長以下、男ばかり40人くらい(内稲門フィラテリー会員は11人)。仕事は、作品の受付・点検と返却である。貴重な作品だから各国のコミッショナー(国際郵趣連盟の理事)が持ってくる場合が多い。小熊さんと組んで扱った作品は、10か国以上になり、国際色豊かだった。英語を話す人が多いが、フランス語やスペイン語という人もいて、小林彰さんらの助けを借りた。

インヴェントリー(リスト)に記入してある切手やレターの数を、作品の実物と照合するのだが、ペアを2と記入する人、1とする人などバラバラ。厳密にやればきりが無いが、明らかに違っている場合は、訂正してサインして貰う。ある作品では、切手がずれたのも多くて、直して貰うのに、手間が掛かった。たまたま、その作品が本人ではなく、友人のだったので、持ってきた人まで「一仕事だった」とブウブウ言う始末。受領証を渡して終了。

8月1日午前10時開場。まあまあの人出で、人気は写真付き切手。ところが、1時間も経たないうちに「今日は締め切り」とアナウンスがあり、買えなかった人達が、事務所に押し掛け、抗議の大声を上げる一幕もあった。作品部の面々も目立たないように並んで、写真を撮り、「思ったよりいい」とほくそ笑んだり、「こんなの見せない」と渋い顔をしたり。記念切手の方も売り切れて、急遽、東京中央局から取り寄せる始末。もし民間になったら、こういう事は無くなるのだろうか？さすがに、5日の日曜日は出足がよく、開場前に長い行列ができて、一時入場を制限したほどだった。

会場は広く、展示された作品は物凄い数だ。

2～3聞いてみると、「説明が不十分だ」という声が多かった。とにかく、タイトルを含め、日本語の説明は、ほとんど見つからず、英語がないものも多い。これでは、子供はもちろんのこと、普通の日本人は困ってしまう。シンガポールのHian氏の作品には、ちゃんと日本語の説明があったから、日本の出品者も見習ってほしいものだ。1ページ(タイトルページ)が、青色の番号(2フレーム目からは白)から始まることすら知らない人が多い。500円のカタログを買えば、かなり見当が付くが、チャンピオンクラス以下の作品には、日本語が全くない。次の機会にはせめて、タイトルだけでも日本語で表示するように改善したいものだ。

郵便局、各国の郵政ブースとディーラーなど、切手を売るコーナーは、かなりの人ばかりで行列もできたが、作品の方は、チャンピオンクラスとコートオブオナー(名誉出品)などに見学者がある程度で、その他はガラガラ。浴衣姿の日本人女性店員を置いているディーラーがあり、英語で対応しているのを見ると粋なものだ。聞いてみると、店主のアメリカ人の奥さんとその友人だという。一番奥の<切手のまちの学校>では、宮鍋講師が、よく通る声で、子供たちに話しかけていた。最も手持ち無沙汰に見えたのは、文献担当の女性2人。閲覧を申し出る人は、一日に30人くらいとのこと。ここで、私たちが受け付けた作品のうち、印象に残ったものをあげておこう。イスラエルのTiga1氏の日本の手彫り切手。外国人でよくここまで集めたと感心する。次は、二宮さんの日本切手。サザランド切手や板東収容所切手を、こんなに間近でよく見たのに初めて。以上チャンピオンクラス。シンガポールのHian氏の長崎出島からバタビア宛のカバー。これはコートオブオナー。この近く

に金井宏之さん(当展の副会長)の<日本のクラシック切手>もある。

稲門フィラテリー会員の出品は、6人7点。受賞作品のうち、西村さんのスウェーデンと稲葉さんの日本旧小判が金賞に輝いた。小林幹事が企画して、4・5日の両日、会員の見学会を開き、それぞれ10人以上が参加、夕方からは懇談会に流れて、切手展に花を添えた。これだけの名品が集まりながら、警備が手薄なのが気になった。見たところガードマンは4～5人。それも、どこを重点にしたらよい

のか知らないような配置だった。返却作業は順調で、事故がなかったからよいが、何か起こってから騒いでも手遅れだ。外?の人が行う展示(マウンティング)作業が雑だという話もあったし、出品した人は<わが子>が無事に戻った時、どんなにかホッとしたことであろう。航空クラスにあった Interrupted Airmail(事故にあった航空郵便)ではないが、出品者と作品が無事自宅に帰った時、切手展は本当に終わるのだ。



8月5日の見学会後の懇談会に参集された稲門フィラテリーメンバー

フィラニッポン'01 稲門フィラテリー会員出品成績

コートオブオナー	金井宏之	日本のクラシック切手(無審査)
金賞	稲葉良一	日本旧小判切手 1876-1879
	西村壽一郎	スウェーデン 1855-1873
大金銀賞	西村壽一郎	日本の普通はがき 1873-1874
	渡辺勝正	牛と人間の社会
金銀賞	和田文明	米国郵政の公用便 1778-1900
大銀賞	井上武夫	日本郵便ステーションナリー 1873-1876

その他切手研 OB の受賞者

銀賞	立川謙吉	沖縄郵便史 1875-1945
----	------	-----------------

管理番号抜けのP-スタンプ

日本国際切手展 2001<フィラニッポン'01>のさまざまな行事の一つであった写真付き切手(P-スタンプ)の作成は、郵趣家だけでなく一般の入場者にも大きな人気を博していました。このP-スタンプには、管理番号が入っていますが、何らかの理由で、この管理番号が抜け落ちているものが見つかっております。

この管理番号抜けの発見者である小林彰氏と、問題のP-スタンプの写真の当事者である橘喬一氏は、いずれも稲門フィラテリーの会員であります。橘氏から小林氏当てのお手紙の概要を下に示します。

この管理番号抜けの経緯を推理してみてください。

(編集担当)

私の写真付き切手P-Stampの"管理番号抜け"まったく気が付いておりませんでした。本当に有り難うございました。

P-Stampについては、発売総数について興味があり、毎日インターネットをのぞいていましたが、確かに管理番号のことを議論されていましたが、どこにその番号があるのか判らず(判らないはずです。私にはなかったのですから)、そのうち、写真抜けシートのごことでインターネット上が騒然となり、そっちに気を取られていました。

さて、初日(8/1)の8時45分頃に開場入り口に着きました。着いたとき既に、100人近くの人が4・5列で開場(10時)を待っていました。

9時半頃、看板を持ったキャノン・スタッフの人が7-8人来て、写真付き切手の方はこちらに並んでくれと誘導して2列に並べました。そして、私の前3人の所で切り、ここまでが70人で第1班、このままここに残っていただく。これから後の方には整理券を渡すので、その整理券記入の時間に会場内の写真付き切手の場所に来てくれ。とのことで、私に渡された整理券は、11時からの券で「06」と捺印されていました。すなわち、第2班の6番目、初日の76番目ということです。

私は、もとの開場待ちの列の後ろにつきました。10-20人目でした。

さて、11時に15分前頃に写真付き切手コーナーに行きました。そこにはもうほとんど70人全員の人が並んでいました。私は落ち着いたもので06ですからと、前の方に入ろうとしました。ところが、すぐ後ろの方から、「並んでいるんだぞ」との声、そばのキャノン・スタッフに「どうなっているの?」と聞きました所、「01から70までの番号は人数を正確に数えるための番号で、その時間帯の順番を示すものではないということになり、11時からには間違いないのですが、順番は並んだ順ということに、先程この責任者と並んでいる方との間で話し合いの結果決定したのです。」とのこと。さあ困った、これでは実通便のハトなし、黒活8-12の差し立てには間に合わない。そのおり、「あなたの場所はここよ」と前の方の中年奥さんが手を振ってくれました。入場前の8時半から、9時半まで約1時間待つ間いろいろ郵趣談に花を咲かせていた奥さんが気を利かせて呼んでくださったのです。間一髪11時の受付が開始されました。列が動き出してからの割り込みは難しかったです。こうして6番目ではありませんでしたが、割合早い番で手続きができました。

撮影室は7番でした。丁度この時、どこかのTV局が取材に来て入り口を入ったので、入室が中断しました。長く感じましたが2-3分だったのでしょう。'お引き渡し予

文化人切手坪内逍遙の大郵連版初日カバーについて

1999年の早大切手研50年誌の坪内逍遙切手の記事を読まれた、平野賢一氏(東工大OB)が、文化人切手シリーズの坪内逍遙の発行に際してFDCの図案作成の思い出話を学術誌「金属」に寄稿された記事を編集担当の甲斐氏が入手しました。

昨年7月に亡くなられた平野氏のご家族のご了解を得て、ここに再録させていただきます。

古い話 [11]

坪内逍遙文化人切手の初日カバー

平野 賢一

昨年11月に出版された「早稲田大学切手研究会創立50周年記念誌」をめくっていたら、坪内逍遙文化人切手の記事があり、その中に50年前に私が作成した初日カバーが掲げられているのを見て、当時を思い出した。

野口英世ほか20人が文化人として選ばれ、昭和24年11月3日から昭和27年11月3日までの3年間にわたって20種の切手が発行された。戦後間もない当時としてはかなり出来がいい凹版印刷の切手であった。さて、野口英世、福沢諭吉、夏目漱石に続いて、4番目に登場したのが昭和25年5月23日に発行された坪内逍遙切手であった。逍遙ゆかりの早稲田大学では第15回逍遙祭を開催して記念小型印を申請したが、この前年に創部した早大切手研究会が初日カバーを作成する

ためSPAN(学生郵便切手会)に協力を要請してきたのは発行日がかかなり近くなってからであった。当時、SPANの初日カバーの作成(カシエ原画作りと印刷の手配)を担当していた筆者は一夜づけで原画を画いて翌朝印刷屋に持ち込んで、何とか間に合わせることができた。ワープロもコピー機も無い時代であり、製図用からす口(今の若い人は何のことか判らないでしょう)を使って図案、文字のすべてを手書きするのはたいへんな苦労であったが、私の手元に保存されている原画を見ると、当時が懐かしく思い出される。逍遙祭の会場で売り出された初日カバーは、一般の人たちにも人気があり初版は直ぐに売り切れたため、あわてて増刷し、結局、SPAN会員用を含めて3000部を売り捌くことができ、SPAN初日カバーのベストセラーの一つとなった。

★早大切手研50年誌特別販売のお知らせ

1999年の早大切手研究会創立50年を記念した「早大切手研50年誌」は、切手研のOB・OGと関係者を中心に希望された方々に頒布することを予定して、予約数だけ作成致しました。ただ、このほかに、一般希望者への販売用にも作成し、切手商などで販売して貰いました。この記念誌の一部が、残部として残りました。この残部を、前回の販売時にお求めになれなかった方々に特別分譲致します。販売価格は、送料込みで1500円という

特価を設定いたしました。希望者は小熊副会長(住所:下記)までお申し込み下さい。

稲門フィラテリー 第3号
発行日 2001年10月21日
発行 稲門フィラテリー
発行人 小熊忠三郎
〒226-0015
横浜市緑区三保町 2179-2-346
郵便撥替口座 00110-0-560458
「稲門フィラテリー」
編集担当 甲斐正三・湯川宗昭

稲門フィラテリー

第 4 号

2001年4月1日発行

第2回総会を終えて

小熊 忠三郎

◎はじめに

忘れもしない2000年11月18日、早稲田大学校友会館に50余名の出席をえて新生「稲門フィラテリー」が、花本金吾会長先生のもと、正式に発足しました。以来、会員皆様のご協力をいただきながら1年半を経過、ここでは第2回総会を中心に報告をいたします。

◎第2回総会 2001年10月21日(日)

1～2pm 於大学7号館221会議室
出席51名

- (1) 花本会長挨拶
- (2) 小熊副会長活動報告(※)
- (3) 鳥谷越幹事会計報告
- (4) 新年度活動計画及び幹事紹介(※)
- (5) 新年度会計予算

などについて報告、承認されました。

※大隈講堂切手発行記念に関する行事

10月19日、我々念願・宿願の早大関係切手の第1号として大隈講堂が、ふるさと切手東京版とはいえ、発行されたことは早大切手研・稲門フィラテリーにとって喜びにたえない。

藪野健画伯が原画を描かれた切手も、メンバーの間で「日本の大学切手の中で一番いい」と大好評であった。発行が決まって以降、これを有意義なものとするべく全幹事が傾注、「大隈講堂切手」発行記念展の開催、郵便局臨時出張所の開設、稲門フィラテリーからFDCの発行などを決定した。これらの

実行にあたっては大学史資料センター、大学庶務課、新宿北局と大学周辺郵便局から絶大な協力をいただいた。

「大隈講堂切手」発行記念展は、10月1日から21日まで大学史資料センターにおいて開催した。展示にあたっては、早大関係の郵便史について多くの会員から提供をうけたのは、さすが旧友・収友の会であると嬉しいかぎりであった。また「世界の大学切手」をテーマに展示をすることとなり、短い期間内で100の大学を18リーフにまとめることが出来たが、これも来場者の関心を集めていた。国内では珍しい(初の?)テーマチック展示かとも思う。郵便局臨時出張所は、大学側が資料センター前にテントを設営、切手発行日の19日と20日は新宿北郵便局、21日は早稲田大学前郵便局が開設、切手やゆうペンの販売および記念小型印の押印サービスを行った。稲門フィラテリーは出張所の隣でFDCや「早大切手



研 50 年記念誌」を販売した。

切手発行の 19 日は素晴らしい快晴！初日印をもとめる収集家達が殺到、とくに午前中は郵便局員、記念小型印押印の方々、カバー等販売の稲門フィラテリーのメンバー、皆いずれも全く席を離れることが出来ず、てんてこ舞いの一日であった。1 日おいた日曜の 21 日は大学主催の「ホームカミングデー」とも重なり、多数の卒業生がテントを訪れ、当初かなり心配されていたカバーは、予想を大中に越える売行きを示し嬉しい悲鳴をあげた。

ホームカミングデー当日、式典の壇上でインタビューに答える藪野健画伯の話しも、たくさんの列席者の興味をそそった。

※新年度の活動計画 ほか

- (1) 新会員加入のための諸方策の考究
 - (2) 分科会活動を多岐にわたり充実
 - (3) 会員の会活動への協力要請
 - (4) 会報「稲門フィラテリー」の充実
- ・幹事の異動の報告

分科会担当の小林彰氏は外国勤務のため辞任（在日中は協力）後任は宮鍋益治氏と渡辺洋氏。

・次の 2 点もあわせて承認された。

- (1) 切手研 50 年記念事業会計の残金は稲門フィラテリーの通常会計に繰り入れる。
- (2) 会の名称の「フィラテリー」が一般の人



壇上の藪野画伯

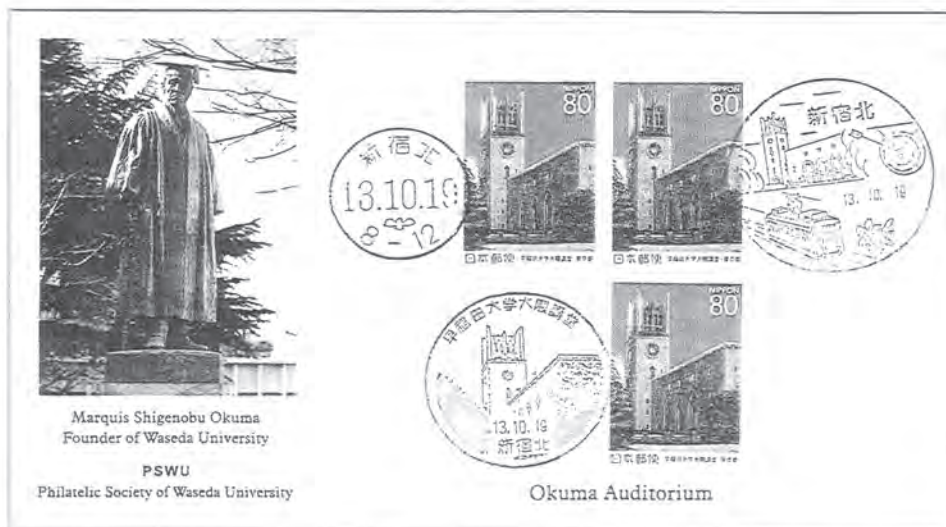
に通じにくいとの意見があり、次期総会までに必要あれば提案する。

◎総会以降の行事について

10 月 21 日の総会以降に行われた「早稲田大学野球部百周年記念行事」への参加協力、および「お札と切手の博物館」見学会については、別ページを設けますのでここでは省略させていただきます。

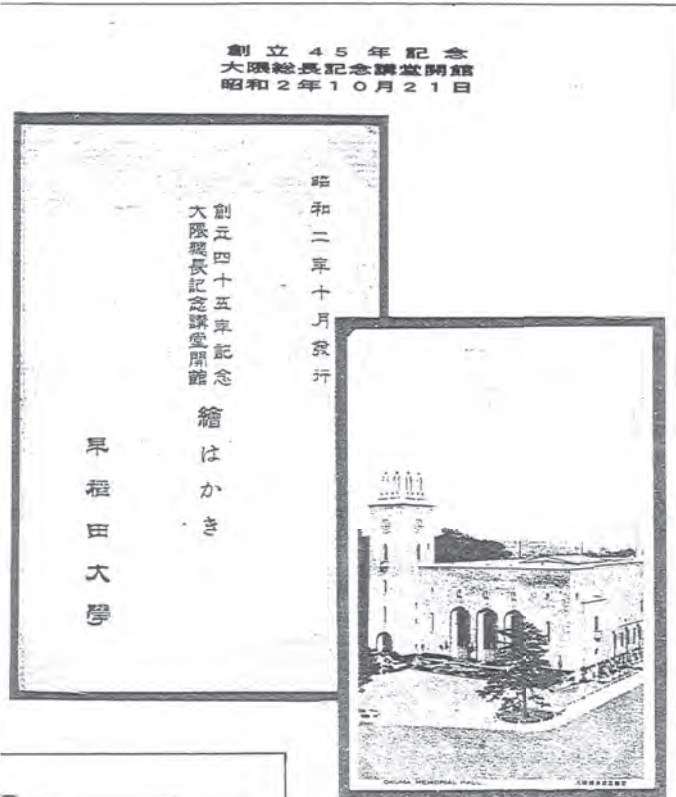
◎おわりに

「Ars longa, vita brevis」(芸術は長く、生命は短し)は私の大好きな言葉です。同じく好きな「都の西北」とあわせ、「集まり散じて人は代われど、仰ぐは同じきフィラテリーの光」と、稲門フィラテリーの永続を念じ花本会長先生を微力ながら補佐できればと思っております。



「大隈講堂切手」発行記念展より

創立 45 周年記念
大隈総長記念講堂開館絵はがき
(昭和 2 年 10 月 21 日)



「世界の大学切手」より
「イタリア、スペイン」
(最古の歴史を持つ大学が多い)



- 切手に登場した 500 年以上の大学
- ボローニャ大学 900 年 (イタリア)
 - サラマンカ大学 700 年 (スペイン)
 - リエイダ大学 700 年 (スペイン)
 - コインブラ大学 700 年 (ポルトガル)
 - ハイデルベルク大学 600 年 (ドイツ)
 - ケルン大学 600 年 (ドイツ)
 - ウィーン大学 600 年 (オーストリア)
 - ペーチ大学 600 年 (ハンガリー)
 - ウプサラ大学 500 年 (スウェーデン)
 - コペンハーゲン大学 500 年 (デンマーク)
 - バーゼル大学 500 年 (スイス)
 - フライブルグ大学 500 年 (ドイツ)
 - テュービンゲン大学 500 年 (ドイツ)
 - マインツ大学 500 年 (ドイツ)

「早稲田大学野球部百周年記念行事」

稲門フィラテリー事務局 磯野 昭彦

☆記念写真展「野球部百年の歩み」に稲フィラ会員コレクションを出品☆

☆記念フォーラム「21世紀の野球を目指して」で大隈講堂切手と記念カバー、記念官葉販売に稲フィラが大活躍☆

○実施に至る経緯

「稲門フィラテリー」創刊号に掲載した「野球部 100 周年記念展に稲フィラが協力か」が、急遽実現する運びになった。

平成 11 年、当会員であり稲門倶楽部（野球部 OB 会の正式名称）会員でもある市川氏の話に端を発したこの企画は、稲門倶楽部主催の「野球部百年展」に稲フィラ会員のコレクションを出展、記念小型印使用、ゆうペーン発行を計画しようとしたものであった。

稲門倶楽部の南川氏（切手研 50 年記念事業の大学広報に多大の協力をいただいた当時の大学広報課長）を窓口に、少しずつ準備が進められていた。そして、平成 13 年 2 月には、片岡野球部長から記念展共同開催の話が南川氏を通して花本会長に届いた。これを受けて、稲門フィラテリーとしての企画を提案した。しかし、記念展会場の確保ができなくなったことで、野球部百周年記念行事実行委員会（委員長、荒川宗一氏）として記念展を断念してしまったようで、稲フィラとの共同開催は一旦立ち消えになってしまった。

しかし、野球部百周年記念式典以外の行事企画も、二転三転していたのも事実で、最終決定がなされないまま「大隈講堂切手」発行の日を迎えた。

平成 13 年 10 月 19 日「大隈講堂切手発行」を記念しての「大隈講堂切手発行記念展」、「稲フィラの記念カバー、記念はかき発行」 「郵便局臨時出張所の大学構内開設」どの大

反響が稲門倶楽部の幹部、特に稲門倶楽部松尾氏（昭 23 卒、実は郵趣家）の目に刻み込まれたようだった。

10 月 25 日、市川氏の仲介で、突然野球部百周年記念行事実行委員会副委員長本村氏（昭 31 卒）から行事への協力要請があり、過去の経緯もありすぐに協力を約束した。

○要請内容・「記念写真展」（11 月 16 日～24 日、安部球場跡、図書館がある総合学術情報センター）は、大学 125 年事業の一環にもなっているので、ここに大学史に関するものを含めて出展してほしい。

・「記念フォーラム」（11 月 24 日、大隈講堂）を盛り上げるために大隈講堂前広場にテントを開設して大隈講堂切手を販売してほしい。

○稲門フィラテリーの準備

実施までわずか 2 週間で準備完了が迫られたのである。

当初企画の記念小型印の使用は、あまりにも時間がなく郵政から OK をもらえなかったが、数日の間に、早稲田大学前郵便局の臨時出張所開設に照沼局長の快諾を得、大学（庶務課岡本氏）からもテント設営などの全面協力を得、さらには大学史資料センターから資料提供を受ける話も決まり、当会員甲斐氏の努力もあって、計画をまとめあげることができた。

緊急開催の稲フィラ幹事会で満場一致で賛成、翌日、会員へ案内状を発送した。

○野球部百年行事の主なあらまし

- ・「記念写真展」（野球部の歴史写真集）
- ・「記念フォーラム」（基調講演とパネル

ディスカッション)

・「記念式典と祝宴」(赤坂プリンスホテルで1000名以上が出席)

・「記念部史」発行等

○稲フィラの「写真展」への出展内容

・会員コレクションの早稲田大学野球部の歴史、大学史を語る記念絵はがき、大隈講堂切手とそのゆうペーンなど約30点を出展

○稲フィラが「記念フォーラム」開催の大隈講堂前広場にテント開設

・早稲田大学前郵便局の臨時出張所開設大隈講堂切手、ゆうペーン、たとうの販売、大学前局風景印押印サービス

・稲門フィラテリーは、早大のピッチャーの姿を描く記念カバーと記念官葉、切手研50年記念誌を販売

・奥島総長はじめ、石井連蔵元監督、野村現監督、著名野球部OB、野球部関係者、報道関係者、近隣のファンなど大勢の来訪者が、切手を求めてテントに立ち寄られた。当日は絶好の秋晴れ、大隈講堂前のテントを囲み、野球都関係の人達は時を忘れて談笑していた。

○稲門倶楽部大道会長(昭12卒)、片岡野球部長からは稲門フィラテリーに丁寧な感謝の言葉をいただいた。

○来年は早慶戦100年早、慶野球部OBは、これを記念してイベント企画をはじめようとしているようだ。

「また稲門フィラテリーと」という話も始めている。稲門フィラテリーとしては、慶応郵研OBとなにかを出来ることを願っている。

○エピソード1

稲門フィラテリー製作のピッチャーを描いた記念カバーと記念官葉を購入した野球部OBのほとんどの人が最初に発した言葉は「このピッチャーのモデルは誰だろう」であった。稲門フィラテリーか選んだヒーローが誰であるかが興味の焦点であったようだ。

企画段階で、亡くなったあの6連戦の安藤投手がモデルなら誰も納得するのではないかなどいろいろな話があった。著作権、肖像権の問題をクリアしての好適なデザインを短期間で見つけるのには大変の苦労であった。

○エピソード2

早稲田大学前郵便局に臨時出張所を開設いただき、風景印押印サービスなどを行なわれたが、この日、牛込郵便局管内近隣の多くの特定郵便局(馬場下局等)の局長、局員が応援にきて下さった。

○エピソード3

当日、早稲田大学前郵便局が販売した「大隈講堂切手のゆうペーン」表紙は2種類、平成9年馬場下局長撮影製作の「大隈講堂」と平成13年東京郵政製作の「大隈講堂切手」。平成9年のものの人気も上々でした。

○エピソード4

「記念式典と祝宴」で慶応からの来賓が「今年早慶ラグビーで完敗、早慶野球では慶応完全優勝阻止された悔しさ…」と、すごい迫力ある挨拶でした。

以上



<アフガン紀行記(1)>

渡辺 洋



このところ、新聞紙上でアフガニスタンに関する新聞記事、ラジオ報道、TVニュースを見

ない日は、1日も無い。昨年9月11日のアメリカ、ニューヨークにおける同時多発テロは、アフガニスタンへの爆撃となり多くの被害者を出した。

3月25日、首都カーブルの北部を震源地とする、マグニチュード6.0の地震が発生。数千人の被災者が出た。自身命を助けられた者として無関心では到底いられない。すぐさま義援金を持ってNHKへ駆けつけた。このようにしたわけは何故なのだ、と他人は問うだろう。そのわけは、今から干支(えと)で2巡前の午歳、1978年の夏に参加した、6,500km.22日間のシルクロードの旅にある。西はイスタンブールから東はカラチまでの、トルコ、イラン、アフガニスタン、パキスタンの4カ国を歴訪するものだった。

その3番目の訪問国で事件は起こった。アフガニスタン。(アフガン)は、オリンピックの開催式の選手行進では、ギリシャ

に続いて2番目に入場する国である。64万K m²の面積(日本の約1.7倍)の国土を持ち、その人口は、1700万人+250~300万人の遊牧民(国を超えて移動する民)と当時は言われていた。

国土の平均高度は1,200m、首都カーブルは1,700m(日本では軽井沢の高さ)である。非常に乾燥した国で、シャワーを浴びてそのまま5分もすれば身体は乾いてしまった。が、ハクシオン大魔王に襲われたのは言うまでもない。

温度が高くとも空気がさらっとしているお蔭で非常に快適な旅を続けていたのであるが、カーブルから南西150kmの所にある、ガズニ朝の都ガズニへ見学した折食べたブドウに付いていた水で水あたりをしたのである(しかし、同行者たちはブドウの食べすぎだと言っていたが)。これは、ガブリチスという熱帯性下痢症で、外国人が特有に罹るもののものであった。“他国へ行っ



夏の飲み物を買っている店



宿泊したカブールホテルとアブドゥール・ラフマン廟

たら飲み水に気をつけよ”とは、昔からの言い伝えであろうか。入院騒ぎになり、点滴を5本受け、3日間国立ワジール・アクバル・ハン病院のお世話になった。部屋は6人部屋、無論全員男のみ。看護夫(?)さんが世話をしてくれ、医師は女医さんだった。看護夫というのは、イスラム教では、女性は男性の前ではやたらに顔を見せてはいけないこと(タブー)になっているので、男性が看護することになっているのである。女性の患者はというと、地階の6畳間くらいの暗い病室に30人程が体育座り、つまりベッドはなしの状態でぎっしり肌を寄せあっていた男尊女卑を目の当たりにしたわけである。トイレへ行った際に間違っ

てそちらへ行ってしまい。女性患者たちの視線の一斉射撃にあったのである。

2日後、5本の点滴と看護夫さんのお蔭で、退院許可証として手のひらに×印をつけられ、ようやく無事退院となった○でないのがちょっとおかしかった。ホテルへ帰る途中で、怪しい英語で中央郵便局の場所

を兵隊に尋ね、ストックブック1冊分の切手を入手できた。が、今自分の部屋のどこかに埋もれていて探し出せない、あるのは、自宅に出したはがきに貼った3枚だけ。この生命を助けてもらったいささかの恩返しのつもりが、前述の行為である。ソ連侵攻との戦闘に10年、撤退後の内戦10年の後、イスラム原理主義および、アルカイダによる支配3年半の傷跡は、底知れぬ深さをもってアフガニスタンの人々に残されている。今後も何かお役に立てればと考えている。特に子どもたちのことを考えていきたい。

(続く)



アブドゥール・ラフマン廟

『お札と切手の博物館』見学会

分科会担当幹事

2月2日(土) 14時から市ヶ谷の『お札と切手の博物館』(財務省印刷局記念館)の見学会を催しました。〈日本紙幣の凹版彫刻者たち〉特別展の最終日の前日でした。

同博物館顧問でもある元大蔵省印刷局の植村峻さんに渡辺勝正さんを通じて当日のご案内をお願いしたところ快諾いただきました。

当日13時45分に現地集合し、14時から見学会の始まりです。まず、会議室で甲斐さんから本見学会開催の背景、渡辺勝正さんから植村さんの紹介がありました。植村さんに特別展の概要を説明をいただいたあと、博物館紹介のビデオを上映いただきました。

さて概要を頭に入れ、いよいよ見学です。植村さんの案内でまず常設展示の一階を見学いたしました。凹版原版彫刻に使う道具類、チャップマン転写機、彩紋彫刻機など展示品の一つ一つを詳細に解説いただきました。

そして特別展示の二階に移動しました。1874年(明治7年)、41歳で大蔵省紙幣寮でお雇外国人彫刻師として雇用されたイタリア人キヨッソーネ。明治新政府が近代国家確立のため必要としたすべての紙幣、銀行券の肖像を手掛けた他、公債証書、印紙、切手など多くの証券類の凹版彫刻を担当したそうです。旧来の手彫切手に代わり、図案から製造まで近代技術を駆使して小判切手の発行に尽力されたことはご承知のとおりです。植村さんには、このキヨッソーネについても、市販の文献には記されていない技術の特徴なども解説いただきました。

キヨッソーネの下で凹版彫刻技術を学んだ大山助一。『ナポレオン像』『川路大警視像』など凹版彫刻で非凡な才能を発揮し、米国政府財務省・証券印刷局に研修留学を命じられました。米国では主任彫刻官の指導の下、アメリカ方式の技法を身につけました。帰国後印刷局に復帰しましたが、彼の技法は当時のキヨッソーネ方式とは相容れず、印刷局を辞職し、再度米国に渡りました。ニューヨー

クの有名なアメリカン・バンクノートに雇用され、次々と優れた彫刻作品を生み出しました。女性の肖像彫刻を得意としました。作品の一つ〈シンプリシティ〉はヴィヴァドゥ会社の株券などに使用されたそうです。この特別展に因み、参加者に〈シンプリシティ〉が贈呈されました。なお、日本の切手への凹版彫刻は少なく、僅かに、1908年(明治41年)に普通高額切手『神功皇后5円、10円』と1915年(大正4年)に『大札記念4銭、10銭』の〈紫宸殿南庭式場〉だけでした。

次は加藤倉吉です。1910年(明治43年)16歳のとき早稲田中学を中退して、印刷局彫刻課に奉職しています。早稲田ともわずかではありますが関係があり親しみを覚えます。印刷局では、大山助一彫刻課長の指導で彫刻を学びました。1926年(大正15年)には凹版彫刻した切手原版〈名古屋城〉を手掛けました。その後、乃木希典、東郷平八郎(昭和切手)、炭鋺夫(産業図案)などの凸版、大正池、藤原鎌足、少年航空兵(昭和)、野口英世(文化人)の凹版、盾と桜、旭日と飛燕機(昭和)のオフセットなど戦中戦後に大いに活躍されました。



大山助一凹版彫刻によるシンプリシティ

16時まで2時間、植村さんには一つ一つ懇切丁寧に、また種々エピソードを交えて解説いただき時間の経つのも忘れてしまいました。

16時から博物館内の喫茶店で植村さんと質疑応答を行いました。素人の質問にも的確かつ明確に回答いただきました。参加者全員記念写真撮影のあと散会いたしました。時計の針はすでに17時を回っております。皆さまへの見学会のご案内が間際であったに拘わらず20名の方にご参加いただき非常に盛会でした。印刷の第一人者植村峻さんの解説で見学会にはご満足いただけたことと思います。

ご多用に拘わらず案内と解説を快くお引き受けいただいた植村さんと参加いただいた会員の皆さまには衷心より厚く御礼申し上げます。



参加者(順不同敬称略):

小熊忠三郎、渡辺勝正、渡辺洋、小西邦彦、磯野昭彦
甲斐正三、宮鍋益治、鳥谷越明子、諸田志郎、湯川宗昭
府川宏昭、鎌倉達敏、林輝子、野島正顕、井上城
名城興一、根岸昭二、渡辺浩章、中川孝昭、小林彰

お知らせ

◎第2回総会において、小熊副会長より提案、了承された切手研50年記念事業会計の残金については、4月16日に657,753円を稲門フィラテリーの通常会計への繰り入れを終了いたしました。

◎現在の会計年度4月～3月を10月～9月に変更し、10月の総会の決議、会計報告等との整合性を高めた方が良いとの提案が幹事会で提案され、その方向で一致をみました。次回第3回総会に提案の予定です。

新入会員の紹介

上田克己

〒330-0036 大宮市植竹町1-7-19

白木朝康

〒250-0002 小田原市寿町1-7-40

鈴木伸哉

〒272-0034 市川市市川4-5-10-303

中川和樹

〒175-0082 板橋区高島平1-81-3-604

西村憲二

〒680-0404 鳥取県八頭郡船岡町見槻中172-4

藤原思夫

〒261-0004 千葉市美浜区高洲4-8-1-206

毎熊正美

〒370-0839 高崎市松物町1-5

シンフォニア高崎城址509

「大隈講堂切手」発行記念展リスト

1. 早稲田関連の郵便物(1)
絵葉書で見る明治時代の早稲田大学
大隈重信侯、高田早苗総長発信の書状
東京専門学校時代の書状、大学出版部からの書状等
2. 早稲田関連の郵便物(2)
付属工手学校25年、早大創立30,100周年の記念絵葉書、早大切手研50周年記念
早大周辺局の風景印、大隈講堂の入ったカードほか
3. 早稲田関連の切手
日本最初の切手、前島密
20世紀を拓いた早稲田人の切手
(坪内逍遙、相馬御風、杉原千畝、早川徳次、織田幹雄、古閑悠司、西条八十、永六輔、中村八大ほか)
4. 早稲田とスポーツ
対ワシントン大野球試合、大隈侯始球式の絵葉書
体育館で行われた国際競技大会、
アジア大会 : 卓球
東京オリンピック: フェンシング、近代五種競技
伝説の早慶6連戦(入場券、優勝記念の写真)
5. 世界の大学切手(1)
6. 世界の大学切手(2)
日本の大学切手、教育関係の切手
・世界50カ国、100校の大学切手(うち早大協定校:43)
7. 早稲田祭記念漫画絵はがき(早大切手研究会作成)
昭和32～43年、早稲田大学創立80周年記念シール
8. 「大隈講堂切手」FDC、記念印・風景印、絵葉書
9. 「大隈講堂切手」の拡大写真、LPレコード「早稲田の歌」

平成 13 年度決算書

自 平成 13 年 4 月 1 日 至 平成 14 年 3 月 31 日

収 入 の 部

科 目	金額 (円)	摘要
1. 前期繰越金	35,987	
2. 年会費収入	196,000	98 名 (2,000 円)
3. 総会懇親会費収入	276,000	46 名 (6,000 円)
4. 事業収入	656,000	大隈講堂切手・野球部 100 年関連記念品 および切手研 50 年誌売上
5. 寄付金・祝金収入	2000	『世界の大学切手』購入費寄附、総会祝金
合 計	1,183,987	

支 出 の 部

科 目	金額 (円)	摘要
1. 総会・懇親会費	238,956	総会・懇親会 (麦酒蔵)
2. 事業費	622,183	記念品作成費用、記念展費用 会報発行費および分科会活動費
3. 通信費	1,110	連絡通信費
4. 会議費	29,932	幹事会開催費 (会場費)
5. 慶弔費	15,750	生花代
6. 支払手数料	4,212	振込手数料、印字サービス料
7. 雑費	17,987	記念誌送料ほか
8. 後期繰越金	253,857	
合 計	1,183,987	

平成 14 年 4 月 5 日

稲 門 フ ィ ラ テ リ ー

副会長 小熊 忠三郎
会計 鳥谷越 明子
監査 住吉 忠男

編集後記

今年は例年になく桜の開花の早い年でした。地球の温暖化により毎年少しずつ気温が上昇しているようで、夏の暑さが思いやられます。

稲門フィラテリー発足後、PHILANIP-PON、大隈講堂切手発行など、大きなイベントが続き、会報は特集号のような形になってしまいました。これからは、分科会活動の報告や、皆様からの記事が主体になっていきます。是非とも皆様の投稿をお待ちしております。

稲門フィラテリー第 4 号
発行日 2002 年 4 月 20 日
発行 稲門フィラテリー
発行人 小熊忠三郎
〒 226-0015
横浜市緑区三保町 2179-2-346
郵便掬替口座 00110-0-560458
稲門フィラテリー
編集担当 甲斐正三・湯川宗昭

稲門フィラテリー

第 5 号

2002 年 9 月 1 日発行

切手収集をおもしろくしよう！

大谷 博

■なぜ、切手収集がはやらないのか？

ゴルフをやる人は、誰の前でも自分の腕前の自慢をする。「先週行ったコースじゃバーディーの連発でさ」なんて聞くほうにとってはどうでもいいようなことを得意げに話す。あまつさえ、ゴルフにはあんまり興味のない人にまで、執拗にゴルフを勧める。釣りの趣味もそう。「これが相模湾で釣れたカレイの魚拓だ」。聞かされるほうはカレイの煮付けでも味わわせてもらったほうがいい。それに比べて、切手収集のほうはどうだろうか。仲間うちでこそ、オークションでの掘り出しものや現行切手の財務省銘版の話などをするけれど、どちらかというともっぱらヒソヒソ話である。切手を集めていない人の前で、ゴルフや釣りのように、積極的に自分の趣味を勧めるような収集家はほとんどないといってもいいだろう。これが、切手収集がはやらない大きな理由のひとつだ。「切手収集はおもしろい」というクチコミが大いに不足しているのである。

ところで、切手収集のことを「郵趣」という。この造語が作られたのは戦争中のこと。それまで、切手収集は趣味雑誌の名を見ても「切手趣味」とか「郵楽」などといわれていた。1寸四方の紙を集めるということから「寸葉趣味」などと呼ばれていたいい方もあった。いまではこの「郵趣」という言葉は官庁でもオフィシャルに使うようになってきている。切手収集家の団体も「日本郵趣協会」「日本郵趣連合」「〇〇郵趣会」だ。かつての「大学郵趣連

盟」もそのひとつである。しかし、この“ユウシュ”という言葉ができてから60年も経っているのに、いっこうに一般の間で認知されていないのである。あなたの趣味は？と問われて「ユウシュです」と答えても、まずはストレートに通じない。「融資ですか」なんていわれたりする。私がNHKの庶務部長をやっていたとき、伝言のメモが机の上に置いてあった。「日本勇士協会からお電話がありました」。電話を受けてくれた若い女性から「部長、戦争に行ってたんですか？」と尋ねられた。戦争体験などない平和的フィラテリストも、歴戦の軍曹なみに扱われたのである。だからといって、“フィラテリ”だといってもほとんど理解されない。外国人と話をするときにはもっぱら“スタンプコレクティング”ということにしている。いま、日本郵趣協会の改革プロジェクトの座長をしているが、日本郵趣協会の名称変更の提案もした。機関誌の『郵趣』の誌名も変えたらどうかと議論もした。この情報化時代に、一般の人に与えるインパクトに乏しいからだ。理屈はわかっても、さすがに大胆な改革案は通らなかったが、誌名の『YUSHU』というローマ字書きは改めた。『郵趣』と誌名を記した上に大きく“切手を楽しむ雑誌”と入れることにしたのである。60年経っても一般的にならなかった「郵趣」という言葉がポピュラーになるのはこれからも難しいだろう。中国語の「集郵」のほうが、「集」が入っているだけ「郵趣」

よりはマシかもしれない。とにかく、「郵趣」という言葉への一般的な理解不足も切手収集の普及を妨げている大きな理由のひとつなのである。

■切手収集を難しくし過ぎたことへの反省

半世紀前、関西に「親郵会」という切手収集家の団体があった。阪神在住の有力な切手収集家が入会していた。いわゆるゼネラル・コレクションが盛んだった時代だから、この会では、年に二度ほど、自分の集めた切手の数を申告することになっていた。もちろん種類である。単純な数の競争に思えるけれど、会員の間で切手の種類を増やすことに夢中になつていく様子が記念誌などでうかがえてほほえましい。つまり、切手や関連マテリアルをあれこれ“研究”し、切手展に出品して優劣を競うということではない。単純なカタログ・コレクションがベ－スだった。さる日、この会の会員であった市田左右一さんと雑談をしていたとき、私が第1次大戦時期にフランス切手に使われたGCペーパーの話をした質の悪い“粗紙”である。日本のクラシック切手のオーソリティーであった市田さんもかつてはゼネラル・コレクターであったから、無論このGCペーパーのことは知っていた。この話がヒントになって、市田さんは小判切手の紙質の本格的な解明に乗り出す。つまり、昔の切手収集家はゼネラル・コレクションで収集の基礎を固めたのである。

ところが、いまはどうだろう。“研究”、“研究”と称して、特定の国の、特定の範囲のマテリアルに初めから深くはまり込む。ほかのジャンルは見向きもしない傾向が顕著になってきた。中には、顕微鏡まで持ち出してスクリーンの線数や角度の分類までする。断わっておくけれど、ご本人がこういうスタイルで収集を楽しんでいるのだから、それはそれで十分尊重すべきことだ。ただ、こうした“研

究”傾向をコンペティションや専門誌を通じて、他の収集家に“フィラテリーはかくあるべきだ”と強調することが問題なのである。これによって、切手収集を難しくし過ぎたことは否めない。現に、JAPEX や全日本切手展などへの出品数が減少してきている。これは国際切手展をパトロネージするFIP(国際郵趣連盟)の作成した切手展への出品要綱や審査基準が大いに影響していると見てよい。日本も含めて、多くのFIP加盟国はこの厳格だが独善性の強い出品規則や審査基準を国内展にも採用しているからだ。「宛名のないカバーを入れることは好ましくない」「収集家向けに発売された切手を使うと減点の対象になる」などといわれると、出品もためらいたくなる。そのくせ〈フィラニッポン〉でも見られたが、“プルーフ”や“エッセイ”、“デラックス・シート”などは使用を推奨されているのである。“目打洩れ”のエラーといった郵便局の窓口から出たものでない、印刷所からの横流的なマテリアルも希少性の上では得点になる。出品物の減少に対処することと、切手展を魅力あるものにするために、“オープン・クラス”や“ワンフレーム・クラス”が新たに設けられたが、出品規則や審査基準の考え方を抜本的に改めないと出品者の減少は避けられないだろう。ひいては切手展を見に来る人も増加しない。もっと、アトラクティブでポピュラリティーのあるエキジビションにしなければ、いかに貴重なマテリアルが並んでいようと、一般の人にはいっこうに興味の湧かない展覧会に終わってしまうのだ。展示品の前に人が少なく、Pスタンプの申込みやブースにだけ人が大勢集まるといふ現象はまさに本末転倒である。切手展では、難解な“研究”の成果や希少性よりも、多くの人に切手収集のおもしろさを認識してもらふ“大衆性”を第一目標とすべきなのである。

2002.6.14 ベッカム狂騒曲

高橋 仁

「ベッカム見たよ。」

「え〜っ、うっそー!わたしも見た〜い!」

先輩社員のひとことに、“ベッカム命”の女子社員がその場にへたりこんでしまった。昼食を食べに出かけた先輩が、偶然彼らの乗ったバスに出会ったのだ。

サッカー・ワールドカップ決勝トーナメント一回戦が6月15日、にいがたスタジアムで行われる。

ベッカム主将率いるイングランドが、デンマークとの試合のために新潟へやってきた。お昼ごろ、宿泊先のホテルに到着したのである。そのホテルは我々の職場から100メートルほどの至近距離にある。サポーターは、朝から到着を待ちかまえていた。

すぐ近くに“彼”がいるのに会えないもどかしさ。どうすれば“ベッカム様”に会えるのか。彼女の頭の中はそのことでいっぱいである。仕事どころではない。

「午後5時35分に出るそうだ。」

にいがたスタジアムでの公式練習へ行くのに、チームのバスがその時刻にホテルを出発すること。職場にいる元警察官が、県警から情報を入手してくれた。

バスは、職場の前を通ることになっている。それを聞いて、サッカーとは無縁と思われていた元ギャルの女子社員まで、

そわそわし始めた。5時を過ぎると、職場の道路に続々とサポーターが集り、人垣が出来てきた。彼らは、チームのスケジュールをどこから聞いてくるのだろうか。警備体制も半端ではな

い。警視庁や奈良県警など、普段見たことのないパトカーが待機していた。

5時30分、ホテルの方から「ワーツ」とも「キャーツ」ともつかない歓声が上がった。

選手がバスに乗り込んだのであろう。もうすぐ目の前を“ベッカム様”が通る。“ベッカム様”は、バスに乗るといつも右側の真ん中あたりに座る。指定席があるらしい。したがって道路の右側に人が集まる。道路を斜めに横切る人や交差点の真ん中を走る人もいる、いい場所を見つけようと、みんな必死である。

そんな中、彼女は一段高くなっている特等席を見つけて、陣取った。

「ベッカム!!」

あらんかぎりの大声で叫んだ。必死になって手を振った。目があったような気がした。足ががたがた震えた。

放心状態で戻ってきた彼女に聞いた。

「ベッカムは見たのか?」

「……………」

声もでない。うつろな眼差しで、ただうなづくだけであった。



<アフガン紀行記(2)>

渡辺 洋

バーミヤン行:

8月9日、快晴。カーブルホテルの26歳の優秀なサブマネージャー、ナジーブ氏にサポートされているため、彼が私のためにわざわざ休暇を取ってくれて、バーミヤン行きに同行してくれた。カーブル空港からセスナ機で飛び立った。12人乗りだったと思う。他の同行者たちがバスで行っている所である。後で聞いたら、バスは8時間かかったそうである。こちらは45分の飛行時間だった。上空から見た道路は、カタツムリが這ってつけた筋のように見えていた、飽くまで乾燥しきった大地で茶褐色だった。バーミヤンの谷に入ると緑が濃くなって、畑も木々の緑も鮮やかだった。飛行場から見ると、右手の東から西へ2kmの崖が続いている。その中に、東側には高さ38m、西側には55mの大仏が山肌に彫られてあった。有名なバーミヤンの二つの大仏である。しかし、この世界遺産とも言うべき仏教遺跡が、タリバンによって昨年3月爆破されてしまって今はもう無い。まことに痛恨のきわみである。私はナジーブ氏と二人行なので乗り物が無かった。ところが天は恵みを与えてくださった。カーブルホテルでひとり退院祝いをしていた時、ワインの量が一人には多かったので、たまたまスペインから来て同宿していたグループの人びとに、プレゼントした。そのグループにバーミヤンでこれまた偶然出会ったのである、グループのリーダーだった新婚の社長氏が「一緒に行こう」と言ってくれ、バスに同乗させてくれた



のである。小さな好意が大きな恵みとして返って来た訳である。

両大仏の見学は、大仏の足元から見上げたり、脇の階段を登って頭の後ろ側の所までいった。頭の後ろから村を見下ろして写真を撮ったが、半円形の構図はなかなかの出来栄えだった。

西側の55mの大仏は菩薩形といわれ、従のものとされるが、55mの高さは相当のものだった。しかし、顔の部分が垂直に削り取られていた。東側の38mの大仏は、いわゆる如来形で、バーミヤンにおける諸仏の中心とされていた。イスラームにおいては偶像崇拜がタブーであるため、ともに顔が削り取られたのである。

大仏見学の後は、バーミヤンからヒンドウクシュ山脈の、3cm mを超える高度にある、6つの湖、バンディアミール(バンダミール)湖に行く。そこへ行く荒野では、バスの道は到るところで本道と側道に分か



れ、いつの間にか一本に合わさっていた。峠とおぼしきところで数人の子どもたちがみやげ物を売っていたが、それは正にオカリナそのものだった。

さらに 6km ほど行った時、息を呑むほど美しいコバルトブルーの水を湛えた湖、バンディアミール(王の湖の意)に着いた。その水の色は、アフガニスタンが産出する貴石ラピスラズリの色そっくりの瑠璃色であった湖水の性質は、よくはわからなかったが、水中に入った感じでは強アルカリ性のようだった。舐めた感じは苦かった。

湖のほとりに神殿らしきものがあった。ガイドによると、それは奉代目のカリフ、アリーの廟とのことだった。シーア派イスラーム教徒が尊崇するカリフである。子ども連れの母親がいたが、敬度な祈りをささげていた。それとなく写真を撮らせてもらった。山肌は茶褐色、水は瑠璃色。強烈なコントラストが実に印象的だった。広漠としたところに、突然、大きな湖が6つも出現したら、誰だってさぞかし、ビックリ仰天することと思った。

ホテルのバーミヤン・ユルツは、モンゴルのゲル、中国のパオの形をしていて、高台に20棟くらい建っていた。北面に両大仏の崖があった。24年の歳月が流れて、ホテルは影も形もないと思う。私に



5千m級の山並み続く
ヒンズクシュ山脈



ンの人々は実に、親日的であつた。

この稿を終えようとした時に、7月13日毎日新聞朝刊の1面と29面に「バーミヤン壁画残る」の記事が出ていることを聞いた。早速東横線代官山駅の売店にとんでいって購入した。記事には、戦乱越え、2~3割の壁画が残ったとのこと。どうなったかと心配していたので、本当に良かったと思う。

シルクロードの旅に出て、命を落としたかも知れなかったアフガニスタン。そして救われたアフガニスタン。出発前には、平山郁夫先生ご夫妻に、カーブルでは樋口隆康先生(元京都大学イラン・アフガニスタン・パキスタン学術調査隊長、京都大学名誉教授、現檀原考古学研究所所長)にお世話になった。

また、私はカーブルの樋口先生の、京大学術調査隊のテペ(遺跡の丘のこと)ではお会いできなかつた方に佐原真先生(佐倉にある国立歴史民俗博物館前館長)かいらした。そのときはちょうど、バーミヤン遺跡の壁画の調査で現地に行っておられたのである。最近、先生の訃報に接し、いろいろとご教示頂きたかったのに本当に残念でならない。先生のご冥福をお祈りするばかりである。

(次回:「カーブル博物館」について)

アンケート結果のまとめ

まとめ： 諸田志郎、青柳次男

○稲門フィラテリーが発足して1年半、会報発行、切手教室、見学会の実施、そして大隈講堂切手の発行と記念展の開催、順調なスタートと言ってよいのではないかな。

しかし、会員数100名を越える会の活動としては充分なのだろうか、会員の満足度はどうなのだろうかよの不安も一方では感じられた。そんな理由で今後の活動の資料とするため、アンケート方式で会員の意向を聴取することとした。結果がまとまったので報告する。

1. 回答状況

会員107名のうち、67名から回答が得られた。64%の回収率である。協力に感謝したい。

2. 切手収集の現状

新規発行分のみ、収集品の整理等との回答者を含めて56名が現在も収集を続けている。回答者の81%になる。コメントから推測すると、その内容程度について個人差が大きいと思われる。

3. 収集分野 (複数回答)

○日本切手 (総数 67名)

日本切手全般との回答者31名(回答者の46%)、約半数を占めるのは当然と思われるが、戦前4名、戦後5名、記念特殊8名、普通6名と特定分野に限定あるいは重点をおいている人も多い。

○外国切手

外国切手を収集しているとの回答者は27名、これが実態なのだろうか。そのうち全般10名、特定国13名、その他4名である。特定国は約半数の48%で、対象国は中国4名、カナダ、ドイツ、オーストリア、アメリカ各3名、フランス、イギリス、英領、スウェーデン各2名、スイス、ボスニア、香港、タイ、ブラジル各1名となっている。

○テーマティック (総数 24名)

この分野は多岐にわたっている。音楽、美術、スポーツ、動物関係が多いが、地下鉄、メータースタンプ、秋田といったものもあ

る。その他に地図、甲虫、天文、早稲田関係、ギター、ギリシャ神話等々。

4. その他の趣味

回答総数は155名(複数回答)あり、多岐にわたっている。多い順に旅行35名、スポーツ19名、音楽19名、読書15名、博物館巡り15名、映画、美術、語学、写真等となっている。

5. 会報・分科会 (総数 62名)

アンケートと順序が異なるが、会報と分科会に対する興味の度合について先に報告する。双方興味あり39名(63%)、会報に興味20名(32%)とこの二つが圧倒的に多い。分科会に興味1名、その他2名となっている。

6. 会報内容

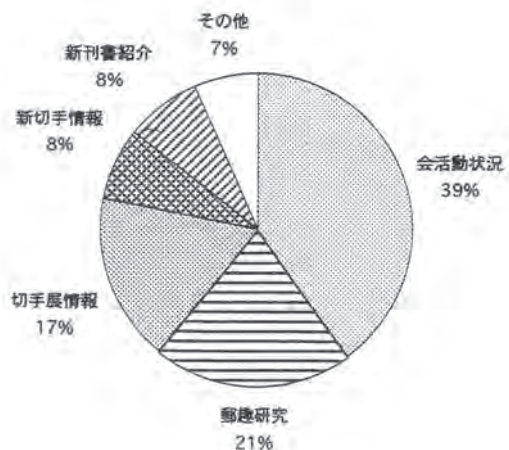
郵趣関係(総数105名)が多いが、会非郵趣(総数33名)では紀行記、早大スポーツ、文化一般他となっている。非郵趣は不要との意見もあった。郵趣、非郵趣を合せて『会員リレー随筆(近況)』の希望が多い。

7. 分科会

○定例会 (総数 70名)

郵趣講演21名、懇談16名、アルバム拝見11名、切手教室8名、交換会8名、の順である。郵趣講演と懇談が突出している。

(下図参照)



○定例参加 (総数 61 名)

「時々」30名(49%)、「毎回」12名(20%)、「不参加」19名(31%)となっている。不参加の理由として遠方、多忙としたのが多い。

○国内見学先 (総数 34 名)

鎌倉 11 名、前島記念館 8 名、明治村 6 名、妻籠 4 名、その他 5 名となっている。

○国内見学会郵趣比率 (総数 53 名)

『50%』30名(57%)、「50%以上」19名(36%)、「50%未満」4名(7%)となっている。

○国内見学会参加 (総数 61 名)

見学先次第 36 名(60%)、毎回参加 7 名(11%)、不参加 18 名(29%)となっている。

○非郵趣国内旅行先 (総数 52 名)

名所旧跡 16 名、古都 13 名、温泉 10 名、以下、離島、山村、海岸その他となっている。

○非郵趣国内旅行参加 (総数 63 名)

行先・予算次第 41 名(65%)、参加 1 名、不参加 21 名(33%)となっている。

○海外見学会先：英国ギボンズ社他

(総数 53 名)

時期予算次第

27 名(51%)、興味あり 10 名(19%)、興味なし 13 名(25%)、その他 3 名となっている。

○海外見学会郵趣比率 (総数 44 名)

「50%」23 名(52%)、「50%以上」10 名(23%)、「50%未満」11 名(25%)となっている。

○海外見学会参加 (総数 64 名)

行先時期予算次第 29 名(45%)、参加 4 名(6%)、不参加 31 名(49%)となっている。

○海外見学会不参加理由 (総数 31 名)

時間なし 13 名(42%)、興味なし 7 名(23%)、資金 6 名(19%)、その他 5 名(16%)となっている。

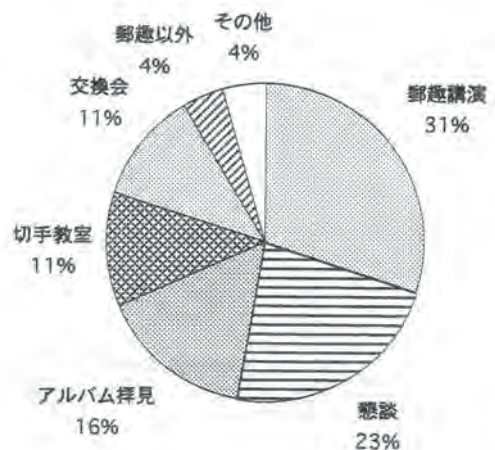
○会主催切手展出展意向 (総数 64 名)

展示テーマ・時期次第 26 名(40%)、出品する 1 名(2%)、出品しない 37 名(58%)となっている。テーマ・時期次第と出品するを合わせると 42% に達する。前向きに考えているととらえたい。

8. 稲門フィラテリーに望むこと

多くの意見、希望が寄せられたが、一つ一つ記載することは紙面の制約があるので省略する。稲門フィラテリーは郵趣会ではあるが、稲門の会であることから、交流をはかること参加することに重点があるのも見落とせないと思う。参加しやすい企画を望んでいる意見が多い。

活動状況 42 名、郵趣研究 22 名、切手展情報 18 名、新刊紹介 8 名の順に多い。郵趣研究が二番目となったことは注目したい。(下図参照)



分科会活動報告(切手教室)

記：小林彰、磯野昭彦

◎「開催に至るまで」

当会分科会は、平成14年度活動の一環として郵趣普及活動もそのひとつと位置付けて、新宿北郵便局で「切手教室」開催を企画、局と郵政事業庁の賛同をうけ、4月から毎月第1土曜日(原則)に実施する運びとなった。

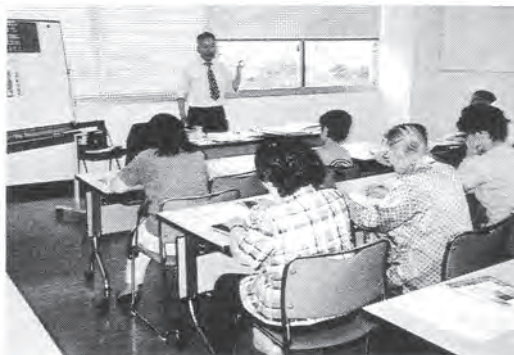
企画は、葛飾局、足立局等で実績のある当会会員宮鍋益治氏を中心に行ない、当会会員が講師となり、地域の人たちや小中学生を対象に開催、当会員も参加して切手知識の向上に励もうというものである。

「新宿北郵便局だより」(毎月発行)に掲載、局の入口にポスターを掲示するなどの方法でPRすることになった。なお、7月20日発行の「切手」誌には開催案内が掲載されている。

◎『第1回切手教室』(4月14日)

第1回の切手教室は、新宿北局主催・稲門フィラテリー協力のもと、同局会議室において開催された。稲門フィラテリー会員、一般参加者合わせて約20名である。

最初は宮鍋講師の基礎講座「切手の保存と整理」。切手教室の経験豊富な宮鍋講師の説明に、一同熱心に耳を傾けた。各種の資料が配布され、多数のリーフが回覧された。速達便の発光実験もあり、興味津々だった。



次に甲斐講師の応用講座「私流切手の楽しみ方」に移った。配布資料にフランス普通切手「リュケのマリアンヌ」(別名：パリ祭りのマリアンヌ)の実物が添付されており参加者一同大喜び。主題のリーフは、目白の〈切手の博物館〉で展示中のため、当教室では9リーフにまとめた「ブリアのマリアンヌ」シリーズを見ることができ、シリーズ全体で統一されていることがよく分かった。切手教室の後、稲フィラ会員は目白に移動、主題の展示を見学した。

第1回切手教室開催にあたり、郵便文化振興協会と日本郵趣協会から寄贈された「切手」誌と「スタンプマガジン」誌が参加者に進呈された。

◎「第2回切手教室」(6月1日)

・地元の方にも力をかしていただき、ちらし600枚を近隣の小中学校に配布され、また第1回切手教室参加者には案内が新宿北郵便局から発送された。その影響もあって、小学生とその親23名、一般参加5名、稲フィラ会員15名が参加した。小学生が12名も参加した切手教室は、近年では東京地区新記録とのこと(宮鍋氏)である。

・切手教室「切手収集の仕方」について宮鍋講師から1時間の手ほどきを受けた。次に「郵便業務の自動化とその自動機械見学」の見学にあたり、磯野講師が別紙に基づき郵便自動化の機械の種類や機能を説明。見学は新宿北郵便局湯浅氏の案内で2時間近くにもわたった。

○自動化の歴史

昭和43年(1968年)3桁郵便番号使用開始

平成10年(1968年)7桁郵便番号に変更

○自動機械の構成

1. 「自動取揃押印機」: 定型と定型外郵便物の選別と消印の押印を行う

2. 「郵便物あて名自動読取区分機」: 郵便番号読取と区分を行う。

差し出された郵便物を宛先別に区分することと、各局から到着した郵便物を配達道順に並べる。

3. 「情報入力装置」: 読取できなかった郵便物に郵便番号を手入力修正する。

・機械の見学

見学は湯浅氏の案内で始まったが、機械の中を郵便物が猛烈なスピードで動き回るのにびっくり。説明を聞くよりもただ見るだけの10分間があつという間に。

小学生、一般参加者はもちろん、稲フィラ会員も熱心に見学、質問をしていた。

・局側も小学生へ機械操作(情報入力装置)の体験をサービス。これは、機械が郵便



番号を諾取れなかった郵便物に、きちんと読取ができるよう手入力で修正する作業である。

・見学に満足した低学年小学生は、まだ見学に夢中の人が終わるまでの間、機械付近の広～い作業スペースを走りまわっていたが、局員は文句も言わずに見守ってくれていた。

この体験操作による郵便物が誰かのところに届いているのだ。この体験をした小学生は大喜び、将来きっと郵趣家になるだろう。

◎「第3回切手教室」(7月6日)

第1,2回に引き続き宮鍋講師が「普通

切手の楽しみ(日本)」を、1871年(明治4年)龍文切手から現在までの普通切手の推移、郵便料金の変遷(国内、外国)を、社会の変化と対応をつけながら話をされた。

断片的には知っていることも、体系的に整理されて聞くと、改めて教えられるところが多く大変参考になった。

続いて渡辺洋講師が、沢山のカラーライドを用いながら、1978年のアフガニスタン旅行の様相を詳しく紹介された。同時多発テロの印象も強く、破壊される前のバーミヤンの大仏の写真をみると考えさせられることが多い。(アフガン紀行記)は、当会報に掲載中)

◎「第4回切手教室」(8月3日)

8月はジュニア対象の「夏休切手教室」。蓋をあけると現役の小学生は1名、ほとんどが往年のジュニアで総勢約20名。

初めは甲斐講師の「切手整理(リーフ作り)の実践」。同講師準備の英国、カナダ、日本の各種切手を使つて、それぞれのテーマでリーフ作りに挑戦。昔々のジュニアは小学生以上に熱中し、予定の1時間はアツと言う間に過ぎていた。互いのリーフを鑑賞し、各人自作リーフを後生大事に持ち帰る。

次に宮鍋講師の『切手収集の基礎知識』。

同講師作成「夏休切手教室」の小冊子を参加者に配布。一同基礎を学び、または再認識。小冊子はジュニアにもシニアにも役に立つ。今回の切手教室に、本会会員の英国海外郵趣小西邦彦氏から恐竜切手と切手入りキーホルダーを、また上田克己会員から紙付切手が寄贈され、参加者に進呈した。

◎9～12月の「切手教室」予定

対象: 経験者(中級者)

例: 各種切手展出展者の講演等

予定講師: 小西、池沢、小熊、湯川他

総会・懇親会の予告

第3回の総会・懇親会を右記のように予定しております。詳細はおって連絡致しますが、皆様のご出席をお待ちしています。

- 日時：10月20日(日)
- 総会：早稲田大学教室 13:00～
- 懇親会：(総会終了後) 15:00～

『早慶戦物語』

産経新聞の毎金曜日スポーツ欄に『早慶戦物語』が連載されている。昨年の4月から始まり「三原・水原の時代」、「海ゆかば、球場包む別れの合唱」などを経て、8月9日日で63回をむかえる。

7月5日からは、「果てしなき死闘」と題して、昭和35年(1960)秋、優勝をかけた伝説的な早慶6連戦が始まっている。この号か届く頃、あの歓喜の瞬間が紙面を飾っているかもしれない。あれから42年、この記事を読むと胸が熱くなるのを禁じ得ない。単行本化については未定とのこと。なお、1992年秋、文芸春秋社から出版された「神宮の森の伝説」-60年秋、早慶6連戦-も一読したい。

ラグビー部、東伏見にサヨナラ!

7月7日早大ラグビー部東伏見グラウンドさよならイベントに行ってみた。西武線東伏見駅発行の記念SFレオカード(パスネット)と記念サントリー缶ビールが目的。イベントは新ルールでの試合ができないOB戦などを、NHK斉藤洋アナかユーモアたっぷりに解説進行。

レオカードは駅、会場で即日完売。ところが缶ビールは24本1ケース単位販売のみ。快晴の暑いグラウンドでは、1缶グイーツとやりたいOBの不服顔がいっぱい。私だって空き缶を持ち帰りたかったのです。結局、この缶ビール何千ケースも売れ残り、校友会に売りさばき依頼中とか。

住所変更のお知らせ

佐藤隆之

〒120-0006 足立区谷中2-5-10-402
Tel: 03-3606-3836

山崎哲夫

〒160-0022 新宿区新宿5-12-11
ディナ・スカーラ新宿501
Tel: 03-3356-9361

編集後記

日本中を熱狂させたワールドカップが終わりました。記念切手は2種でしたが、シート余白の図案がなんと13種、全部買うと1万円強。最初から諦めてた人もかなりいたようです。こういう出し方には首をかしげたくありません。

今年の夏は猛暑ではなく酷暑と言うとか。全く切手いじりには向かない季節です。切手のしみ防止に皆さんはどんな対策をとられているのでしょうか。

稲門フィラテリー第5号

発行日 2002年9月1日

発行 稲門フィラテリー

発行人 小熊忠三郎

〒226-0015

横浜市緑区三保町 2179-2-346

郵便掬替口座 00110-0-560458

稲門フィラテリー

編集担当：甲斐正三・湯川宗昭

稲門フィラテリー

第 6 号

2002 年 12 月 1 日発行

第 3 回総会開催される

平成 14 年 10 月 20 日、ホームカミングデー当日、午後 1 時 10 分より、早稲田大学 7 号館 205 号室において、会員 42 名出席のもと、稲門フィラテリー第 3 回総会が開催された。磯野幹事が開会を宣し、花本会長が挨拶をされ、奥島総長に替り白井新総長が誕生すること、2003～4 年にかけて「スポーツ科学部」、ロースクールや国際教養学部（仮称）が新設されることなどの大学の近況について話をされた。その後議事に入った。

第 1 号議案 活動報告：小熊副会長より
（平成 13 年 4 月 1 日～平成 14 年 9 月 30 日）
第 2 号議案 会計報告：鳥谷越幹事より
（平成 13 年 4 月 1 日～平成 14 年 9 月 30 日）
第 3 号議案 監査報告：住吉幹事より
第 4 号議案 会則の変更：諸田幹事より
（会計年度期間を 10 月 1 日～9 月 30 日に変更）

第 5 号議案 新年度活動計画：小熊副会長

第 6 号議案 新年度予算：鳥谷越幹事より

第 7 号議案 役員改選：小熊副会長より

全議案につき拍手をもって承認され、午後 2 時に閉会した。なお、第 5 号、7 号議案について、概要を下記する。

第 5 号議案：①切手教室の継続

②見学会（上越市前島記念館）予定

③会報発行継続

④関東郵趣連盟への加入

⑤稲門フィラテリーの名称は継続

第 7 号議案：新役員は次の通り。

会長：花本金吾 副会長：小熊忠三郎

顧問：大杉 徹 金井 宏之

アドバイザー：青木 常男 吉沢忠一

総務：磯野 昭彦 諸田 志郎 青柳 次男

早川 弘司 大西 章夫 鈴木 伸哉

会計：鳥谷越明子

編集：甲斐 正三 湯川 宗昭 池澤 克就

木元 淳一郎

部会：宮鍋 益治 小林 彰 渡辺 洋

山崎 哲夫

監査：住吉 忠男 政尾 吉郎

また、切手研究会の現状につき質問があり、花本会長より次の通り説明があった。

- ・立派な会室が用意されている。
- ・前代表幹事の鈴木君も大変に頑張っている。
- ・しかし、会員増加は非常に困難。

総会に続き金井宏之顧問による講演が行われた。貴重なご経験、そして切手収集の姿勢等に関する示唆に富んだ、お話を、ユーモアを交えてご紹介頂いた。（次号に紹介の予定）

懇親会は昨年同様、高田馬場駅そばの「びあぐら」に場所を替え、39 名が参加して 3 時半から開催された。久しぶりの旧交を暖めた楽しく賑やかな一時となったが、席上で 40 年以上前に作られた切手研替え歌も披露された。

今総会を機に、6 名の方が入会されました。

古怒田共子（32 教）、小林英昭（40 文）、

山田厚二（48 理）、後藤行宏（51 商）、

松藤 務（57 理）、佐久間拓也（4 大学院）

私のウェスタン・オーストラリア切手

根岸 昭二

こゝ 20 年余、熱をあげて集めてきた私のブラック・スワン切手のコレクションが、本年 8 月のフィラコリア 02 で、ひとつ上のメダルをいたゞきました。この結果、今後世界切手展に出品する際には、5 フレームから 8 フレーム 128 リーフの出品となります。こうなると気になるのは、一つには年令的な点ですし、二つには経済的な問題です。レベル・アップをするために、果して情熱が続くか、そして更なる出費を続ける余裕があるか、悩みはつきません。

もちろん 5 フレーム 80 リーフにまとめ上げるために、後半はかなり簡略化していますが、さりとて単なる引伸しでは、コレクションを向上させる体をなしません。

まず、理想的には、導入部分のスタンプレス・カバー群を、色々な消印のヴァリエティを採り入れて、せめて 1 フレームにまとめあげれば、非常にすっきりします。

そして続く無目打切手シリーズ、最初の切手 1854 年発行のパーキンス・ベーコン社製の 1d ブラックスワンの部分と、現地石版印刷の 4d, 1sh の最初のシリーズについては、3 種混貼カバーが入っているので、よほど変わったカバーでもあればといったところです。図 1 の 1d の使用済みペアーの向って左は、有名なり・エントリー POS.28 です。これは 240 面シートの中の POS.28, 170, 182 の 3 種の定常変種のひとつです。図 2 は現地石版印刷 1sh のカットカバーです。かなり以前のオークションには図の如く、第 2 シリーズの 6d が貼付された姿で登場していました。この後、著名な収集家ビュルス、そしてスペシャリストのガトナーのコレクションとなった時点では、すでに切り離されていました。書留便として重量オーバーでもない限り、レートが合致しない疑問は残りますが、オーク

ション誌を見るたびに、失われた 6d を探しているのが現況です。同一名宛人の 6d 2 枚貼りのカバーを所有していますが、私はかつて御主人宛の 6d 単貼カバーも持っていましたが、現在パースの郵便博物館の故ビショップ・チャールズ・リリーコレクションの中に入っています。不思議なことに同一差出人による現地印刷 2d 3 枚ストリップと 6d の混貼カバー（現在の所有者を私は知りませんが）は聖職者の御主人宛ですが、各々貴重な切手を使用している点です。残念ながら、当時の通例として、封筒上には差出人名がありません。少なくとも、同一差出人、同一夫妻宛のカバーが郵趣界に 7, 8 通存在していますし、各々かなり高価なカバー類と云えます。意識的に珍しい切手を貼ったとも思えませんが、差出人には興味がそゝられます。

同じシリーズの 2d には両面印刷図 3 があります。きわめて不鮮明ですが、ステート・ネームが鏡文字ではないので、明かに裏写りではありません。特にこのシリーズは印刷が稚拙で不鮮明ですが、それなりの味合いがあります。図 4 の 6d は、スワンの首が欠けている変種です。このシリーズについては、コンディションは兎も角、かなりの重品がまとめれば、ポジションの探求の楽しみが出来るのかも知れません。

最後の無目打シリーズは、パーキンス・ベーコン社版の現地印刷の 2d, 4d, 6d の 3 種です。特に 4d ブルーは発行枚数は極めて少いのですが、未使用のブロック 2d, 4d はそれ程の難物ではないのは、後年残存切手処分によって放出されているからに外なりません。

しかしながら、使用済となりますと、4d は非常に珍しく、現在知られているのは十

数枚にすぎず、図5は、そのパース使用例です。

これに反して、6dは未使用が少なく、とりわけマルチプルは皆無の状態です。

つまり、リメインダーとして後に放出された切手達は、発行年が古くても、我々のコレクションの中で定位置を占めています。

第2シリーズの2d,6d、第3シリーズの6dにマルチプルが皆無なものも頷けます。

これまでの無目打シリーズは透しは、すべてスワン透しです。紙質には変化はありません。最初の発注時に送られて来た紙を使用していたからでしょう。

今少し厚みを増すために、オークションのたびにビッドするのですが、僅かの差で落しそこない続きです。最近では、なまじ様子が判るので大胆な買値がつけにくく、盲蛇に怖じずの時代が懐かされます。

1862年発行の目打付きシリーズのトップは、再び英本国パーキンス・ベーコン社に発注された1d,2d,4d,6d,1shで、かなり華かな刷色の切手類が登場しました。このシリーズは、目打が3種のタイプに分類されますが、一説に同社の目打機の掃除の不始末を理由にする意見があります。即ち、クリーン・カット、インターメディアイト・カット、ラフ・カットです。その区別は多数の切手を見ていないと、また重品を持っていないと、正確には難しいところです。以上はすべて同じスワン透しです。

1863年に無透し、パーキンス・ベーコン社プレート使用のデ・ラ・ルー社印刷1d,6d切手が発行されています。印刷所が変わると微妙に印象が違ふと思います。

1865年、デ・ラ・ルー社製クラウンCC透しの1d,4d,6d,1shが発行されています。このあたりから、目打数の違うシリーズが出現して来ます。図6は、同シリーズのエラー切手、ダブル・プリント4dの未使用です。使用済は未見です。これに反して

6dの場合は、唯一の使用済単品が知られているのみです。

1870年代になると加刷切手が登場して来ます。そしてその位置違いと三重加刷エラー切手が存在します。

1880年代になると透しがクラウンCAに変わります。そして色調の変化も分類される様になります。

1890年代に3dのみ凸版印刷切手が発行されましたが、1889年から他の額面に同じ印刷方法が採用されることになりました。

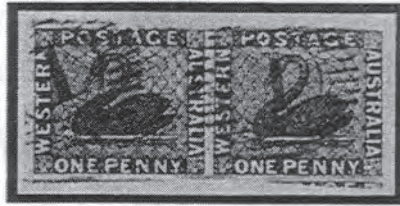
個人的な好みからか、これ以降の切手には少々興味が殺がれます。凹版印刷に比べて重厚さに欠けるのが気になります。そして印刷所が変わると、同じプレートを使用しても微妙に感じが違ふと思います。

1990年コモンウェルス・オブ・オーストラリアが誕生したのにも拘わらず、郵便制度はなかなか統一されませんでした。この間、十数年依然としてウェスタン・オーストラリア切手が発行されるわけですが、不思議なことに、2sh,2sh6d,5sh,10sh、£1の高額面切手群には、横顔の女王図案が採用され、ステート・ネームがウェスト・オーストラリアと表示されました。そう云えば、サウス・オーストラリアは、ステート・ネームはサウザン・オーストラリアではありません。

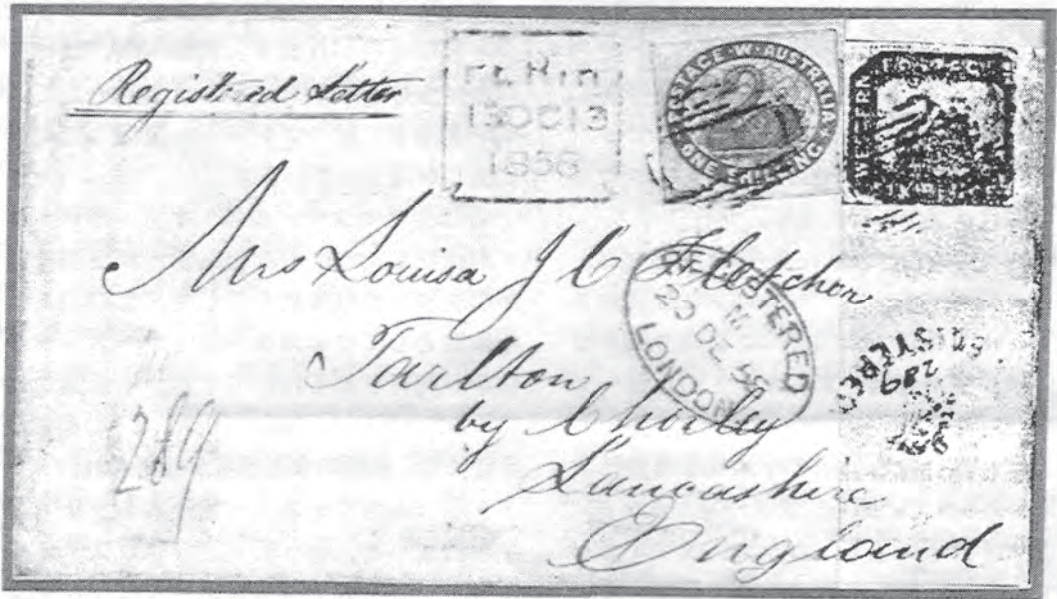
私のコレクションのアルバム・リーフを見る場合と、展示されたリーフを見る場合と、大分印象に差が出来る点に今夏の韓国展で気がつきました。これは使用済のマルチプルの有無に起因しています。

特に初期のそれ等は、入手にかなりの困難が伴いますし、滅多にはオークションでもお目にかゝりません。はたして神様は私にチャンスと幸運の微笑みを与えてくださるのでしょうか。まさに“神のみが知る”が、私の率直な心境です。

Western Australia



1



2



3



4



5



6

バイバイ後の独り言

吉沢 忠一

新発行の日本切手も買わなくなったのは、1980年代の初めから半ば(昭和55~60年)にかけてであろう。その後も、切手への愛着がチラチラして、一時は、小型シートだけでも集めようかと考えたこともある。調べてみると、ないのは、制定シート・昭和61年のふみの日小型シート。もたもたしている間にも、日本国際切手展91の入場券付き小型シートを買い損なった。制定シートは、年金生活の身に余るし、入場券付きは、スコットにも「郵便局で発売されず」とあり、ナンバーがふられてないから、無視してもよいなどと、役にも立たない言い訳を積み重ねている間に、長野オリンピックから、中型だか小型だか分からないシートが乱発されて、境界線が怪しくなり、切手に「バイバイ!」となった。

20年ほど前、仕事でアメリカへ行った時、フィラデルフィアで、やっと時間ができたので郵便局へ行って、イヤセットを何年分か買い、次にデパートのジョンワナメイカーに行ったら、入口にライオンの像があり、3時になるとパイプオルガンが鳴る。日本のあるデパートが同じ事をやっているのに、趣味の切手売場が大変立派で、日本のデパートの10倍くらいあるのに感心した。

フィラデルフィア美術館はなかなか立派で、モネの小品なんか3段掛けしているのは、まったく羨ましい。ある階では収集家が部屋ごと寄託しているので、素晴らしい家具やインテリアの中に絵画が下がっていて、コンクリートの壁に作品が下がっているだけの日本とは、大変な違いだった。「こりゃ〜!長生きして世界中の美術館を見な

ければ…」と発奮し、当時、岩佐又兵衛(江戸初期の画家、浮世絵の開祖だという説もある、荒木村重の子らしい)の研究に来ていたアメリカ人英語教師に聞いたら、「あすこだけ」というので、安心したり、ガツカリしたりした。もっとも、フィレンツェのパラチーナ画廊は、さらに素晴らしい雰囲気だったから、アメリカについてだけ返事したのかも知れない。

この先生は、日本人とアメリカ人のハーフだが、背は低く、首は太く、顔が丸くて、日本人以上に大和民族的風貌だった。外人ならば、春画をすぐ見せてくれると聞いて、熱海美術館(現MOA美術館)へ出かけて行ったが、どうしても見せてくれないので、知り合いの教授に紹介状を書いてもらって、出直し、やっと見せてもらったと言う。「ガイジンならガイジンでいいから、ちゃんと外人として扱ってくれ」と怒っていた。日本で外人というのは、欧米人らしく見える人だけを言うのかもしれない。

「英語はリズムだ!」というのが、この人の指導方針で、箱根の寮に合宿した時、日蓮の太鼓のように、割り箸を叩くのに合わせて、生徒が喋ってみると、その時だけ、いかにも英語らしく聞こえるのだった。しかし、英語らしいリズムで、ちゃんと喋るには、英語を母国語としている国の小学校か、せめて中学校に行く必要があるようだ。

10年ほど前に、DRUPAという世界最大規模の印刷機器展(記念カード参照、切手は1972年発行の平版印刷175年記念)の見学を主目的に、ヨーロッパの新聞社も回って歩いた。ハンブルグのある社では、ナイフの刃が立たない岩みたいな肉が出たし、一方、パリのルモンドの工場では、なかなか



おいしいランチをご馳走になった。ロンドンでは、移動中のバスの窓から、目敏く、スタンレー・ギボンズの店を見つけ、自由時間になった翌日駆けつけて、カバーなどを買った。客は割合いたが、店はそれほど立派ではなかった。アメリカのイヤセットやこのカバーなどは、福引にでもと、稲フィラに寄付したので、誰かが預かっている筈だ。

次に行ったのは、ロンドンの北側、ユーストン駅の西隣にあるコレクターズ・コーナー。ここはレイルマニアのための店で、さすがに、鉄道発祥の国に相応しく、広い店内にあるはあるは……。しかし、重いものを買うわけにいかず、パンフレットなど、ささやかな買い物で我慢したのは残念だった。午後遅くなって、やっと、ナショナル・ギャラリーと大英博物館をのぞきに行った。以上で分かるように、常に切手を最優先に、切手研OBとしての貞節を固く守って行動しているのだ。

遊びで旅行するようになってから状況が悪くなった。ほとんどツアーだから自由時間はわずかで、しかも、相棒の買い物に時間を取られて、切手どころではなくなった。それでも、郵便局が閉まっている日曜日に、リヒテンシュタインの首都ファドーツに寄

つたのは悲劇と言うほかない。買えるのは、みやげ物やのパケットだけだった。この国は、パスポートに入国スタンプを押すのに、金をとるのだから、しっかりしている。

去年、日本国際切手展 2001 の作品部に参加することになった時、なにか役に立つかも知れないと、英語の切手用語を勉強してみた。まず、スコットの初めのほうにある<切手の基礎知識>を

読んだ。国際的な出版物だから、分かりやすい英語で書いてあるのだろうと期待したが、そんなことはなかった。日本で出ている英和辞典には、意外なほど郵趣用語が載っているが、すべて出ているわけではない。いちいち例をあげると、英語力のないことを天下に宣伝することになるので、ほんの一例だけをあげると、<修理・修復・変造>の項目に次のような文章がある。---Further along the spectrum is the freshening of a stamp's color by removing その4行先にも along this spectrum . . . と出てくる。この Spectrum は、郵趣用語でも物理用語でもないらしいと見当はつく。辞書を見ると<範囲>というような意味も出ていて、なんとなく理解できないこともないが、どうもシックリしない。よいお智恵が有ったらぜひ教えて頂きたい。

もっとも、このような文章がすべて正しいとは限らない。日本語の例で恐縮だが、「さくら日本切手カタログ」のドライオフセット(凸版をオフセット印刷する方式)(水なし平版をオフセット印刷する方式もあるから全くややこしい、ただしこの方式で切手を刷っても外部の人にはわからないだろう)

の説明が、何とも奇妙だったので、はがきを出して注意を促したところ、2003年版から訂正された。こう直しましたと、カタログでも送って来るかと思ったが、何のご挨拶もなかった。

切手を考案(発明?)したのは、J. チャルマーズなのか、R. ヒルなのかというのは、喧しい問題らしい。どちらにしても、これだけ膨大な数の切手が発行されたのだから、もし一枚ごとに、ごく僅かでも、特許料のようなものを徴収していたら…と余計なことを考えてしまう。星名定雄著「郵便と切手の社会史」にも、アーチャーという人が、目打機の特許を、当局に4,000ポンドで売った話は出てくるが、切手そのものについての金の話は全く見当たらない。

世の中には、儲け損なった大発明が結構多く、かって、そのビッグ3はコカコーラ、パチンコのチューリップ、パソコンと書かれたことがある。コカコーラは発明者の薬剤師ペンバートンが、実質1ドル(1,750ドル?)で権利を売ってしまったことは、よく知られている。チューリップは、名古屋の製作所が、大阪の業者からアイデアを10万円で買い、特許をとって、かなり稼いだというから、チャンスを生かせなかったのは、大阪の業者のことだろう。パソコンは、アメリカのレメルソンという人に、日本の大手電気メーカーが、和解金を払ったから、ビッグ3失格に近い。切手に縁がある技術としては、オフセット印刷が有力候補だろう。これは、発明ではなくて、アメリカのルーベルという製紙工場経営者が紙差し工(印刷機に手で紙を供給する工員)のミスをきっかけに<発見>したものだが、特許を出願したところ、『30年前に特許になっている』と却下されてしまった。印刷機も製造したが、事業としても成功しなかったという。今では日本でも、カラー印刷の90%以上はオフセットではないか？

ところで、切手の将来はどうなるのだら

うか？郵便にどんな未来があるのだろうか？日本の郵便料金は、今でもかなり高いと思う。1994年(平成6年)に値上げがあった時、わたしは関西の印刷会社にいたが、新聞を郵便で発送していたお客さんたちが、郵便から逃げだそうと必死になった。そのトバッチリで、印刷時間を変えてほしいとの要望を聞くのに、苦勞したのを今でも覚えている。現在では、ファックスもインターネットも、当時よりはるかに普及している。初期投資は高いが、その後は、安いしすぐ着くのは、ご存じの通り。わたしが入っているゴルフの会でも、コンペの連絡などは、極力、郵便以外の方法に切り換えている。それこそ、コペルニクスの転回によって効率化しなければ、郵便の前途は厳しいだろう。

機能としての切手は、多分下り坂で、同時に、発行形態は多様化して行くであろう。インターネットで切手を売るという記事を読んだ覚えがある。ストックを置く必要がないし、郵便局へ行く必要もないと言うが、どうやって偽造防止をするのか、ご存じの方向がいたら、教えていただきたい。

似た例では、鉄道のキップが先行している。自動券売機のキップには、収集の魅力がほとんどないが、プリペイドカードが賑やかだし、記念キップも健在だ。しかし、圧倒的な存在感を誇っていたエドモンソン式(3.03×5.75cmの硬券)が、主役の座を降りてしまったことは、何としても寂しい。切手には、前納という機能以外にも重要な役割があり、その多くは国家という存在と深く結び付いている。従って、国家の手中に有るかぎり、切手は、当分の間、その機能を維持しながら、望ましくは、芸術的な英知を結集した作品となり、好ましくない方向としては、センスに乏しいシールカレットのような紙片になるのではないか？すでに、その萌芽があちこちに出ているような気がする。

古代エジプト切手の魅力

池澤 克就

ここに一枚の切手がある。エジプトが1947年に発行した、ツタンカーメン王の黄金のマスクをデザインしたものである。淡い茶色で一見地味な切手であるが、ハワード・カーターが数千年の眠りからこの夭折したファラオの棺を発見した時の感動が伝わってくる、ロマンにあふれた一枚である。



古代エジプトの遺跡をデザインした切手は、エジプトをはじめ、アフリカの周辺諸国やヨーロッパからも数多く発行されている。テーマも、遺跡やレリーフを図案にしたものから、古代エジプトに魅せられた考古学者まで様々である。エジプトは、考古学者や探検家には古くから魅力的な土地であった。1798年にはフランスのナポレオンがエジプト遠征の際に調査を行っており、その切手も発行されている（リーフ②）。また、1822年には、フランスの考古学者シャンポリオンがヒエログリフ（象形文字）の解読に成功し、それを記念した切手もフランスをはじめモナコやエジプトから発行されている（リーフ③）。

1959年からナイル川上流のアスワンに巨大なダム建設が始められると、河畔にあるいくつかの遺跡が水没することが判明した。ユネスコはこれらの遺跡の救済を世界に呼びかけ、アブシンベル神殿をはじめとするいくつかの巨大な遺跡が14年をかけて別の場所に移された。1960年前後にはこの救済活動を宣伝する切手が世界各国から発行されており、エジプ

トから遠く離れた国々の切手からエジプト関連図案を見つけたりするのも楽しいものである。このようにして集めたエジプト関連の切手は、古王国時代、新王国時代などその遺跡の建造された時代別に整理しても良いし、ギザ、ルクソール、アブシンベルなど地域ごとにまとめることもできる。

私は、切手に限らず、エジプトに関連するもので気になるアイテムがあれば機会あるごとに入手している。大学時代には主に古書店で、エジプトをテーマにした書籍や展覧会の図録などを片端から集めた。ある時、1965年に日本で開催された「ツタンカーメン展」の図録を手に入れた。ページを繰っていると、当時の展覧会の入場券が挟まっていた。それもコレクションとして整理している（リーフ④）。また、古書店で見つけたエジプトの古い絵はがきは、コレクションのアクセントとして利用している（リーフ①）。大学の卒業旅行でエジプトを訪れた際には、遺跡めぐりながら周辺の石や砂を集め、これはリーフに整理できないのでフィルムケースに入れてコレクションしている。切手という枠に限定せず、好きなテーマをとことん掘り下げてみるのもなかなか楽しいものである。



ヌビア遺跡救済キャンペーン切手カバー

（アルゼンチン発行）

Ancient Egypt

サッカーラの階段ピラミッド

サッカーラにある第3王期ジセム正の階段ピラミッドは、現在正の姿が実測資料から明らかになっていない。1970年代から1980年代にかけて行われた調査により、このピラミッドの自然の形状が明らかになった。写真は、このピラミッドの断面図である。



K.IKEZAWA

①サッカーラの階段ピラミッド。
古い絵葉書をアクセントに使用

Ancient Egypt

ナポレオンのエジプト遠征

1798年7月、フランス軍総司令官ナポレオン・ボナパルトは3万5千の精鋭を率いてエジプト侵略を開始した。占領後、ナポレオンはイギリス軍に対抗するために海岸線防備の強化を図り、地中海沿いの重要な改修工事を命じた。カイロ・ベイ要塞はナイル河口のロゼッタ村に位置していたが、その改修の過程で一兵卒が重い玄武岩の石碑を発見した。それは1799年8月、旅団長ブーシャール大尉は事の重要性を認めてナポレオンに報告した。これが、エジプト学史上もっとも重要な発見の一つとなった。



ロゼッタストーン

高さ114cm、幅72cm、厚さ28cm、重さ762kgのこの玄武岩の石碑は後に「ロゼッタストーン」と命名された。ロゼッタストーンは3語に分かれ、上から「エログリフ」、「デモティック」および「ギリシア文字」の順に文字が刻まれている。



フランス軍によるエジプト遠征の挿画

2002.09.07

K.IKEZAWA

②ナポレオンのエジプト遠征を
デザインしたフランス切手

Ancient Egypt

シャンポリオンによるヒエログリフの解読

フランスの考古学者シャンポリオンは、1822年、ロゼッタストーンやオベリスクに刻まれたヒエログリフの解読に成功し、「ダシェ氏(学士院事務局長)への手紙」によって世に知られることとなった。この結果、エジプト考古学は大きく前進した。



JEAN FRANÇOIS CHAMPOLLION
1790-1832

シャンポリオンはまず、ヒエログリフの表音文字としての機能から解読を始めた。彼は先人の研究から、カルトゥーシュ(楕円形の枠)に囲まれた部分が発音者の名前を表すと考え、ロゼッタストーンから「プトレマイオス王」のヒエログリフ(𐩢𐩣𐩠𐩣𐩠𐩢)を得た。また、ファラオ島のオベリスク(頂上にピラミッド型のキャップを持つ柱)に刻まれた「クレオパトラ女王」のヒエログリフ(𐩠𐩣𐩠𐩣𐩠𐩢)も同時に入手することができた(オベリスクの台座にギリシア文字でクレオパトラの名があったのでそのように同定された)。



「クレオパトラ女王」のヒエログリフ

この2つのカルトゥーシュを比べると「𐩠」、「𐩣」、「𐩠」および「𐩢」の文字が共通して見られるが解る。その位置と、プトレマイオス(PTOLEMAIOS)とクレオパトラ(KLEOPATRA)の位置から、それぞれが「P」、「O」、「L」および「I」に等しい音価を持つことをシャンポリオンは見出した。



2002.09.07

K.IKEZAWA

③象形文字を解読したシャンポリオン

Ancient Egypt

ツタンカーメン展

1965年8月21日～10月10日

観覧券



2002.09.07

K.IKEZAWA

④1965年東京で開催された
ツタンカーメン展の入場券

アフガン紀行記 (3)

渡辺 洋

今年(2002年)7月16日(火)から9月16日(月)の間、東京藝術大学大学美術館において、アフガニスタン文化財復興支援アフガニスタン悠久の歴史展(Afghanistan, a Timeless History)が開催された。早速初日に出かけ見学してきた。そこには、私が24年前にカーブル博物館で見、幸いにもその多くを撮影することのできた文化財の一部が展示されていた。石膏円盤「エンデュミオンと月の女神セレネ」(ベグラーム出土、1世紀)、仏陀を中心に左にはヘラクレス、右にはアフロディーテの像のあったタペ・ショトル仏教寺院跡の大僧院第5-2壁がん(ハッダ遺跡、2~3世紀)、猪に襲いかかるライオンをデザインした銀メッキ青銅製の儀礼用斧(バクトリア出土、前2000年ごろ)などである。

これらの展示品を眺めているうちに、カーブル博物館へ行った時の光景が目には浮かんできた。館内は、発掘品がアフガニスタンの地方ごとに分類され展示されていた。それらを時代順に述べていこうと思う。

はじめはアレクサンダー大王の東方遠征になろう。アフガニスタンからパキスタンにかけての地域を古代、ガンダーラと呼んでいたようであり、この地こそが仏像発祥の地なのだ、昔日の仏教の聖地ジャラバードから9kmくらいのところにハッダがあった。この地は、中国僧法顕、宋雲、玄奘らが訪れたところである。仏陀の遺骨があると報告している。仏陀に関すると信じられた品々が聖なる物として崇められ、この地は仏教世界でもっとも聖なる地として、巡礼者が多く訪れた地となったのであろう。この地からの出土品でカーブル博物館にあったものは、仏頭、僧の頭部、怪物の頭部などの塑像群であった。



とりわけ美しかったのが、もっとも整った仏様として知られる、高さ33センチの仏頭で、ほぼ等身大のものとされる。西洋的容姿に東洋的神秘をたたえた仏頭は忘れることのできないものであった。すこし離れたところに三尊像があったが、中尊は結跏趺坐の如来形で、通肩の衣を着、髪形は波型でゆったりとした姿に深いまなざしをしていた。次の瞬間思わず目をこすってしまった。そこには全く信じられないものがあったからである。それは如来の脇侍である。向かって左側の男性像はヘラクレスといわれ、筋骨たくましい裸形で、左肩には梶棒とともに彼の特徴とされる獅子の顔がのっていた。これはギリシア彫刻の男神像と同じ。右側にはカールした髪を高く結び、右手を高く上げた女性像があった。ガイドはビーナス(アフロディーテ)だと言っていた。左肩の上には葡萄・林檎などの果物を持ち、その姿は踊りをしてるかのよ

うにくねらせていた。この両脇侍の肉体の誇張は、他の仏教地域では見られないものだという。アレクサンダー大王の東方遠征等によって、ギリシア人がこの地に住み、混血をしながら東西文化の融合がなされた結果なのだろう。カーブルの博物館内で見たもの以上に興奮したのだった。

ベグラムは、首都カーブルから北へ約70キロ、2本の川の合流地点にある。カピシ国の首都であり、紀元1～3世紀頃には、クシャーン族の夏の都として大いに栄えた都市であった。なかでも盛んだったのは、強大を誇ったインドのクシャーン朝カニシカ王の時代(2世紀前半)のことである。このカニシカ王の下半身像がカーブル博物館の玄関ににあった【1971年、切手2種発行】。カーブルの北200キロほどのところにある、スルフ・コータル(赤い峠の意)とよばれる遺跡の出土品である。インドから輸入された象牙の彫刻類も見逃せない。この地から多く出土しているが、怪魚マカラの口から飛び出してきたレオグリフ(鷲とライオンの合体した空想上の動物)にま



たがる女性の像【1975年、切手発行】である。この他、ブロンズ像群(1世紀のもの)やストウッコ(塑像)群(1～2世紀)、ローマン・ガラスのゴブレット(2世紀)の品々が展示されてあった。これらを眺めてみると、アフガニスタンが、正に「東西文明の十字路」と呼ばれる所以がおのずとわかるのである。多くが失われ残念だが、残った物は子孫に受け継がれるべきものであろう。

最後に、トルコからイラン、アフガニスタン、パキスタン4カ国6,000kmを共に旅した先生方、お世話になった人びと、そして講師として随伴、ご指導くださった長沢和俊先生(現早稲田大学名誉教授)、人見楠郎先生(前昭和女子大学理事長)に心から感謝と敬意を捧げる次第である。



分科会活動報告(切手教室)

担当幹事

◎「第5回切手教室」(9月7日)

今回から上中級者向けとなり、毎回本会員の中から2名に講師をお願いし、原則、1名は専門分野の講演、他の1名には国内や国際切手展出品作品の解説を担当いただく。

・小西邦彦氏『英国王室と切手』

ローランド・ヒルによる近代郵便制度創始にいたるまでの状況。英国王室、ヴィクトリア女王からエリザベス2世まで女王・王のエピソードと切手について興味ある解説。参加者にこれらの切手が贈呈された。

・池澤克就氏『古代エジプト切手の世界』

サン・テグジュペリの星の王子様関連、古代エジプト・シリーズ、宮沢賢治関連など芸術的にレイアウトされたPCによるリーフに参加者一同感嘆。

◎『第6回切手教室』(10月5日)

・根岸昭二氏『西オーストラリア』

8月の韓国国際展で大金銀賞受賞作品の解

説を聞きながら、ブラック・スワン切手やそのカバーなど珍品・稀品を間近に見て興奮。

・小熊忠三郎氏『郵便と電子通信』

タイタニック号発信の遭難信号CQDがバハマの小型シートではCDQと誤って印刷された話ほか長年専門誌に連載コラムの解説。

「第7回切手教室」(11月2日)

・西村寿一郎氏『国際切手展出品について』

日本における国際展の歩み、昨年のPHILAMPPON金賞作品「SWEDEN1855-1873」および香港関係リーフの説明を通じて、国際展作品の準備から完成までを解説。

・宮鍋益治氏『占領軍による検閲郵便』

詳しいレジュメと料金表にて分かりやすく解説。追放前の切手貼付カバーに検閲印など歴史的にも興味あるマテリアルを紹介。

稲フィラ新加入会員の紹介

古怒田 共子	〒 250-0012	小田原市本町 2-12-13	0465-22-8753
小林 英昭	〒 338-0811	浦和市自鎌 574-10	048-854-8703
山田 厚二	〒 166-0001	杉並区阿佐ヶ谷北 1-11-21	03-3339-1638
後藤 行宏	〒 410-0872	沼津市小諏訪 459	0559-62-2230
松藤 務	〒 247-0051	鎌倉市岩瀬 310-604	0467-43-0546
佐久間 拓也	〒 252-1114	綾瀬市上土棚南 4-11-24	クレスト広田 101

編集後記

11月2日の切手教室、その日の神宮球場は早慶戦に勝ち、52年ぶりの春秋連覇の記念すべき日となりました。しかし夕方の高田馬場駅周辺には祝勝の雰囲気はなく、ちょっと拍子抜けの感じでした。そして3,4日にはしばらくぶりに早稲田祭が開かれ、大変にぎわったと聞きました。

例年より冬の寒さの訪れが一月早いそうです。風邪などひかぬように注意され、来年も元気で皆さんにお目にかかりましょう。

稲門フィラテリー第6号

発行日 2002年12月1日

発行 稲門フィラテリー

発行人 小熊忠三郎

〒 226-0015

横浜市緑区三保町 2179-2-346

郵便擾替口座 00110-0-560458

稲門フィラテリー

編集担当

甲斐正三・湯川宗昭

池澤克就・木元彰一郎

稲門フィラテリー

第 7 号

2003 年 3 月 1 日発行

切手戦線異常あり

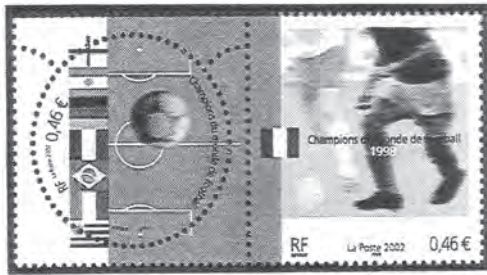
小西 邦彦

怪物が郵便を痛めつけている。E-mail という怪物が。グローバリゼーションと急速なテクノロジーの進歩は世界経済の潮流を一変させ、伝統文化を苦境に陥れている。アナログ文化の代表格「郵便」は、デジタル文明の E-mail に押されて後退を余儀なくされる。01 年度の 267 億通は 5 年で 4 億通が減るとの予測。もっと多そうだ。新生「日本郵政公社」の発足が迫るなか郵便事業、切手印刷、郵趣ビジネスの三者の最前線をレポートする。

☆ ☆ ☆

本年一月、日本郵政公社は当初 4 年間の収支見込みを 4 兆円の黒字と発表した。郵便事業でも 500 億の黒字が目標だ。一方ドイツ郵政は 2007 年の郵便完全自由化までに赤字 2,000 億と予測している。ドイツの国土面積は日本の 9 割、人口は 7 割弱。郵便局数は日本 24,700 に対して 13,000。この数を更に限界迄減らし、ポストの数や収集回数も減らし、赤字の増大を防ぐとしている。一方日本はコンビニのローソン全てにポストを設置、小包も 9 時迄配達を実施する。欧米の郵政が聞いたら腰を抜かす程のサービス向上だ。今年 1 月 1 日、ドイツ郵政は赤字の中での値下げに追い込まれた。通貨が同一となり国境が意味を無くしたヨーロッパ共通市場が悲喜劇を演出する。昨年ワールドカップでドイツ郵政は過去に優勝経験を持つ参加国に呼びかけ、共通図案切手を実現させた。これがヤブ蛇だった。同じ図案でフランス 46c、ドイツ 56c。

地続きでは郵便は安い国へ越境する。例えば日韓が地続きで国境が無かったら一通 19 円の釜山局へ日本の手紙が集中するだろう。英国もギリ貧状態だ。総裁アランの口癖は「私の前に法律を持ち出すな！」だ。今年新しく副総裁 2 名をスカウトした。一人は前英国サッカー協会の会長、もう一人が元ニュージーランド郵政の総裁。二人とも年俸 1 億円プラス出来高払い。赤字引きずり体質から、儲かる組織に再生できたら応分の分け前が貰える約束だ。コスト削減は徹底している。都市の大きな局舎は大方売却し、郵便局はアーケード街の一角に収まる。集配センターは郊外に移転した。上得意客への月刊誌も廃止し、e-mail(誌)に。郵便の元締めがコストの高い郵便を廃したのだ。メンテナンスが煩わしい自動販売機も全面撤去。切手はキオスク、新聞売場、コンビニ etc. での切手帳つるし売り。切手から額面を無くし 1st, 2nd, E に統一したので出来る芸当だ。世界一大きい USPS(アメリカ郵政)はどうか。テロと炭疽菌騒ぎで深刻な損害を受け、かなりの値上げが見込まれるところに、とんだ氏神が現れた。担当者の単純な計算ミスで、厚生年金基金の積み立てが 6 千億円必要なところへ、3 兆 8 千億余円と 6 倍以上の積み過ぎが発見されたのだ。向こう 4 年間の赤字を埋める金額で、値上げは見送りとの事。表彰ものだ。日本郵政創始 132 年。そのスクラップアンドビルドはどう



フランス

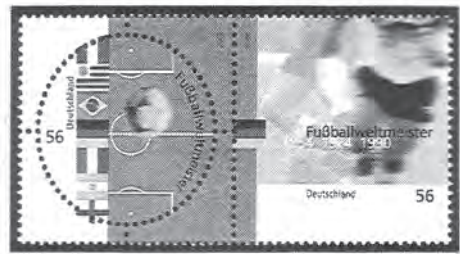
進むのだろう。時間はそんなに残っていない。
 (W杯共通図案切手。ドイツ、フランス、イタ
 リア、ブラジル、アルゼンチン)

☆ ☆ ☆

8億枚から4億8千万枚へ。スイス郵政の
 年間切手発注枚数。10年前と近年の比較で
 ある。切手を集める者にとって、クールボア
 ジェ (Courvoisier) の名はブランドだっ
 た。同社の会社案内はまず「当社は切手
 だけを印刷します」で始まっていた。そし
 てそれが倒産の因となった。2台のロータ
 リー印刷機と熟練工の集団。機械が止ま
 っている時間が出来ようになった。社長
 のフーチンは世界を飛び廻り、アジア、
 アフリカ、中東と小ロットの注文を取る
 のに忙しかった。国際切手展にはいつも
 ブースを出しマーケティングに努めた。し
 かしスイス切手の独占受注を失って一気
 に赤字体質に陥った。スイス郵政は台所
 が苦しく、切手に金を掛けられなくな
 った。趣味切手部門の不振が特に痛か
 った。国内マーケットリサーチでは年
 間3,000円を越す新切手



クールボアジェ



ドイツ

で収集家が離れ始めると教えていた。だが
 収入減のペースは早く、切手も国際調達
 でコスト減に努める他なかった。英国の
 ウォルソール (Walsall) 社がクールボ
 アジェの2台のロータリー印刷機と
 ブランド名を買い取ったものの、以前
 の名声が復活することは最早ない。
 ハリソン社はより悲劇的だ。1537年
 創業の世界最古の印刷会社だった。
 1800年代英国切手をほぼ独占受注
 していたデ・ラ・ルー社は、効率化の
 成功後も全く値下げに応じようと
 しなかった。二大政党並立の国イギ
 リスは、競争で前進を図る。1910
 年ロイヤルメールはハリソン社を切
 手印刷に引っ張り込んだ。デ・ラ・
 ルー社の社主は憤激の余り翌年死
 んでしまった。数社併立時代が続
 かなかハリソン社のシェアが増
 大し、10年ほど前には英国切手
 の90%を独占的に受注するよう
 になり、全長50メートルにも達
 するジュメル印刷機は休む事
 を知らなかった。年間最大需要
 のクリスマス切手を6月18日
 から印刷を始めても10月末
 の納期に間にあわなかった。一
 方デ・ラ・ルー社は徐々に切手
 印刷から遠ざかり、他のセキュ
 リティ印刷、外国紙幣、パス
 ポート、各種金券や株券、金
 銭自動受払機等の分野で成功
 を収め、全世界で7,000人の
 社員を抱える大会社となった。
 英国郵政は需給の安定の為と
 称して、切手印刷を4社の競
 争入札へ変更した。競争による
 品質の向上と、コスト安が狙
 いだった。独占受注を失った
 ハリソン社を見る間に赤字が
 膨らみ、僅かな額でかつての
 ライバル、デ・ラ・ルー社に
 身売りとなった。そして昨
 秋、地元ラジオ局の放送で
 350人の熟練工は



ケスタ



ハリソン



ウォルソン



デ・ラ・ルー

工場閉鎖を知った。再就職は難しい。ジュメル印刷機はスクラップだろう。デ・ラ・ルー社はケスタ社を買収し最先端技術を売り物にデ・ラ・ルー・グローバルサービスの名で再び切手印刷の世界市場へ打って出る。当面のライバルは民営化されたかつてのオランダ印刷局エンスケデ社とウォルソル社だ。中国も目下最新の印刷機を買いあさっている。いずれ世界市場に乗り出したら脅威となる。シンガポールや、タイの切手印刷会社もあなどれない。印刷機の台数と性能では世界一を誇る我が印刷局の健闘を祈りたい。

(各社の銘版をご欄ください)

☆ ☆ ☆

ドイツ切手商組合理事長シュルツは、任期満了後もう3年続ける事となった。ねばり強い交渉能力が評価されたのだ。旧マルク表示切手の交換年数を大幅に延長させた。当局側の増収策で考え出された切手シート10面化に際し、マーゼンには題字を一切入れないという一札を郵政から取りつけた。収集家の負担増を防ぎ、その減少を阻止したのだ。彼は地方都市の小さな切手屋だ。長い間理事長職は切手卸商の独占だった。力がある、即ち金を持っていたから。アメリカでも同様だった。昔を思えば切手商の経営は易しかった。供給を上回る需要があったのだ。50年代、東京の大学切手研の連中は海外の収友との交換で余分に入った切手を切手商に持って行けば、額面上乗せして売れた。卸商は余分に仕入れても、年々カタログ価が上昇し、デッドストックの心配は無かった。60年代も同じだった。

70年代に入ると各国郵政は切手卸に励むようになり、海外の有力切手商とも代理店契約を結ぶようになった。80年代に入ると郵政省は郵政商に变じ直販に精を出すようになり、今日に至っている。スコットカタログ1988年版は切手のカタログ評価がピークを記した版で、今も愛用している業者がいる。最新版では評価は半値ほどに。新切手の発行種数は92年に世界で一万種(カタログ価で180万円)を超し、2000年には17544種(4,948,000円)を記録している。市場は飽和状態から洪水状態となり、収集家の懐が頼りだった小国の郵政の破産騒ぎが続いている。かつて非難の的だったニューヨークの切手商社 Inter-Governmental philatelic Corporation は切手のデザイン、印刷、販売までを一貫して請負い、こうした弱小郵政の救いの神となり、小国の発行権のオークションでは敵が無い。連刷面白シート、Pスタンプにグリーティングスタンプ。郵政は増収策にチエを絞り、収集家は財布の口を押さえるのに必死だ。イギリスは歴代の王様が切手収集家だ。超レア物は Royal Collection へ収まる。新切手のデザインに最終OKを出すのはエリザベス女王だ。昔は花屋の数ほど切手屋があったそう。今、ロンドンに数えるほどで、多くは田舎で通販屋、オークション屋となった。しかしヨーロッパの郵政は切手商を 'Passe mg ers on the same boat' と見てくれる。船が沈めば死ぬのは一緒というわけだ。いよいよ荒海に乗り出す日本郵政公社。我ら郵趣家を漕ぎ手に加えればうまく進みますよ。

去る 10 月 20 日に大学の教室で開かれた稲門フィラテリーの総会の後、講演をされた金井宏之大先輩が「切手コレクションをリタイアし、「モーリシャスコレクション」も断腸の思いで手放した。今自分の誕生日の消印を押した物を集めている。年によってはその日が日曜などに当たったら存在しないので、意外と難しいが面白い」という趣旨のことを話されたのを興味深く拝聴した。

私は昨今の日本切手の乱発ぶりにはほとんど呆れ反発し、ニューイッシュはほとんど買ってない。私のテーマである音楽切手も整理しないでほとんど箱に入れたまま、怠惰なコレクターである。

世界的コレクターである金井先輩ですらリタイアされた、私流に勝手にこれを解釈し、「これからは肩肘を張ってしゃにむに切手のことに思い入れする事なく気楽に楽しみましょう」と、肩の重しが取れた気がした。

ところで「郵趣」とは、文字通り郵便切手の趣味であれば、切手を使った遊びだって一つのジャンルであろう。

例えば、平成 11 年 11 月 11 日等の数字並びの日には、1 円切手を貼ったカバーに当日の消印を押したもの、また乗車券も発売される。私はこれを応用して私並みに楽しんでみようと思った。完全な私的なもの、恥ずかしさとともに他人にはお見せする代物ではないことを承知の上ご披露する次第である。

私の家内の誕生日は 11 月 1 日、平成 11 年の誕生日は数字並びの日に当たる。そこで考えたのが彼女に送るバースデーカード、1



図 I

円切手で 11.11.1 とし、「寿」80 円切手、栃木県生まれでおん年 62 才なので、小さい時よく唄った大好きな童謡『あの町この町』の 62 円栃木県のふるさと切手がピッタリ、そして丑歳でホルスタインのふるさと切手を貼って消印は住んでいる国分寺の風景印と活印、当然日付は 11.11.1 である。封筒は慶祝切手 2 枚を含む 4 枚貼付して、配達を証明するため

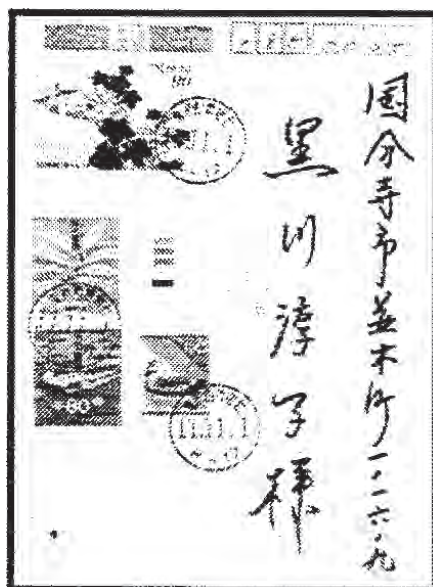


図 II

新宿から速達便で郵送したが、配達局である国分寺局のスタンプは 11.11.2 付けであった(図Ⅰ)(図Ⅱ)。

このカードを作って面白かったのは、家内の3つの条件①栃木県出生②この時点で62才③好きで良く唄った童謡「あの町この町」が一枚のふるさと切手に表現されていたこと、まったく偶然とは言え日本切手カタログで確認、私の音楽切手収集の「日本編」の中から使用した。62円の額面も当時は消費税が上乗せになっていた事でハンパな金額になっていたことも幸いした。

これから約2週間後の11.11.17に、今度は私の70才の古希の誕生日がやってくる。また懲りずに自分宛のバースデーカードを考えた。1円切手と7円切手、慶祝切手、70円と私の干支である巳の図柄の年賀切手を配して国分寺局の風景印と活印を押し、下手な自作の俳句を入れた。封筒には1998.2月発行の東京ふるさと切手世界ラン展を記念したものの中、「胡蝶蘭」の80円切手を貼付郵送した。この図柄に採用された胡蝶蘭はこの展覧会でランの種類別の部門で1位、さらに総合



図Ⅲ



図Ⅳ

部門でも最優秀賞に輝いたその名をシグナス・ルネッサンスという立派なランであるが、このランを栽培し出展したのは、我が住む街国分寺で「国分寺洋ラン園」を営む渡辺尚一氏である。このことも偶然知りなかなか面白いなと思った。(図Ⅲ)(図Ⅳ)

この私のカード作りも本来の切手収集とはちょっと離れたものだけれど、これはこれで結構楽しいし、またこのテーマのカードだとどんな切手が相応しいのかと考えながら、そのプロセスを楽しむのも日頃のストレスからの解放にはいいのではないかと思う。これからはあまりシャカリキせず、切手趣味をのんびりと楽しもうと思っている。そしてたまに稲門フィラテリーの会員諸氏とお会いして余生を過ごせれば幸いである。

杉原千畝・追悼・サクラ公園

渡辺 勝正

杉原切手発行の裏話

外交官・杉原千畝の記念切手が、「20世紀デザイン切手」第9集のポジション1として2000年4月21日に発行された。この20世紀を象徴するデザイン切手は、ご存じのように郵政省が、あらかじめ候補を選び出し、その中から国民の人気投票で絞り込み、各界著名人の審査員によって、最終的には170種がデザイン決定されたのであった。

当初、杉原千畝は候補対象470件に入っていなかったが、郵政省技芸官の森田基治氏か途中で気付いて追加されたのである。森田氏とは「ふるさと切手」に牛を描いてもらうため、千葉の牧場に1995年春、一緒に牛を見に行っただのが縁であるが、杉原について前宣伝しておいたのが役立った。しかし森田氏の追加提案に対して、郵務局長は怪訝そうに『杉原とは何者だ?』と言ったそうである。杉原の知名度はまだそんな時期であり、人気投票といっても杉原の当落は未知数であった。私たち杉原ファンは、八方手を尽くして応募運動を行った。その甲斐あってか、幸いにも杉原千畝生誕100周年の年、「命のビザ発給」の切手が発行されたのである。

杉原千畝に関するテーマに、私は今でも没頭している。こうなったのも、早大切手研同期生の原克氏から杉原家の人たちを紹介され、幸子夫人の『六千人の命のビザ』を私の所で出版したことに起因する。杉原は新しく歴史に登場した重要人物なので、調査研究が求められる。私は『決



20世紀デザイン切手・杉原千畝 2000年発行

断・命のビザ』と『真相・杉原ビザ』を発刊し、「杉原千畝研究会」を旗揚げし、さらに『検証・杉原千畝』（仮題）の刊行に取り組んでいる。

ところで杉原切手は、1998年4月27日にイスラエルで出されたのが最初であった。杉原を含む「外交官・諸外国の正義の人びと」という切手発行を、2年半前に教えてくれたのが同期生の小西邦彦氏である。彼はイスラエル切手の輸入総代理店を経営しているので、杉原切手の普及に何かと便宜を図ってくれた。「杉原千畝をハリ



外交官・諸外国の正義の人びとイスラエル 1998年発行

ウッド映画でやりたいので、協力してほしい」という話が、一昨年夏に舞い込んだことを小西氏に告げた。影響力のある小西氏がこの情報を何となく流したところ、抜け目のない海外切手業者は、昨年秋、唐突にもガンビア、グレナダ、リベリアなどから、杉原の肖像切手を幾種も乱発した。杉原関係の写真は私の事務所で管理しているのだが、海外業者からは何の断りもなく、切手が発行されたのである。ところで、ハリウッドの映画製作は、スタート段階から手間取っていて、今になっても実現するかどうか分からない。「シンドラーのリスト」も出来上がるまでに10年かかっている。発行理由のない杉原便乗切手は、タイミングを間違えて失敗したのであった。

早稲田大学と杉原千畝

杉原千畝は1918年に早稲田大学高等師範部(現・教育学部)英語科に入学し、翌年退学して外務省公費留学生となって満州に渡り、外交官になった。杉原の母校が早稲田と知れば、きっと早稲田出身者の杉原応

援団が出来る、と私は考えた。そこで『早稲田学報』(1999年6月号)に「早稲田の誇り、杉原千畝」と題して発表し、「杉原千畝の郷里、岐阜八百津には、人道の丘公園が出来ている。来年2000年は杉原の生誕100年にあたる。母校早稲田大学としても、杉原千畝顕彰記念碑を、人道の丘に建てるなど、何らかのアクションを起こしてほしい、と切に願う」と締めくくった。

嬉しいことに、早稲田大学ではこれを即刻実行することになり、2000年7月15日に人道の丘公園で、佐藤英善副総長出席のもとに記念碑の除幕式が行われた。『早大切手研50年』で巻頭言をいただいた奥島孝康総長の英断であったことは、言うまでもない。そのお礼をかねて、早稲田大学にて杉原幸子氏の講演会「命のビザ」を企画したところ、大隈講堂が提供されて、私も「都の西北と杉原千畝」と題して前座をつとめた。来日中だったサイモン・ウィゼンタール・センター副館長のクーパー氏、杉原ビザで助けられたマンスキー氏も駆けつけた。12月14日、大隈講堂は満杯の盛況だった。



早稲田大学により、人道の丘公園に設置された杉原千畝顕彰記念碑

講演会が終わったあと、グリークラブの諸君が集まり、杉原幸子氏の誕生日を祝って「都の西北」や「ハッピー・バースデー・トゥーユー」を合唱してくれた。この会場を特別に設営して下さったのは、先輩の和波久基氏だった。

リトアニアのサクラ街道

リトアニアのカウナスで、「六千人の命のビザ」が発給された話は、今や有名である。ところで、私がリトアニアという国を知ったのは、切手からであった。1939年5月に、「ヨーロツパ・バスケットボール選手権大会」を記念して発行された大型切手の隅に小さな野牛の紋章があるので、学生時代に入手した。その切手発行国がリトアニアであった。しかしこの切手が発行されて間もなく、第二次世界大戦が始まり、翌1940年8月にリトアニアはソ連に併合され、切手発行国の権利を失っていた。だからリトアニアという国は、私の学生時代にはすでに幻の国となっていたのである。

杉原がポーランドから逃げてきた避難民ヘビザを発給したのは、1940年の7月から8月にかけての苦闘であったが、現地リトアニアの人たちは、杉原千畝の人道的な行為を忘れていなかった。1990年3月、ソ連からの独立をリトアニアが真っ先に宣言し、やがてソ連崩壊に導いたが、独立に伴って早速出来たのが「杉原通り」であった。



野牛紋とバスケットボール大会
リトアニア 1939 年発行

この「杉原通り」に日本の桜の樹を植えよう、という企画が進められることになり、早稲田大学も前向きに桜の苗木の寄付に応じた。実行委員は勢いづき、アダムスク大統領の積極的な賛同を得て、桜を植える計画が拡大していき、ビリニュスのネリス河畔の広大な地にも、広げることになった。また早稲田大学は、ウクライナから30トンの赤御影石を取り寄せ、堂々たる杉原千畝の石碑を建立してくれた。

一昨年、250本の桜を植樹するため、私もリトアニアに行ってきた。植樹祭は2001年10月2日。その直前の9月11日に、同時多発テロが発生したので参加者は半減したものの、日本からの参加者は総勢120名であった。そのうち早稲田大学側からは、



1361年に制定されたカウナス市の野牛紋



牛の頭に十字架を付けた
現在のカウナスの紋章



早稲田大学がリトアニアに建立した杉原千畝記念碑

佐藤英善副総長、関昭太郎副総長など 10 名が参加した。

北緯 54 度の地は、染井吉野と仙台枝垂れ桜にとって、まさに北限の地に挑戦するかのような植樹であったが、昨年春に無事花が咲いた。首都ビリニュス市に出来たこの新名所は「杉原千畝・追悼・サクラ公園」と名付けられ、毎年春と秋に、日本からのツアーが組まれることになった。あとは杉原と桜の記念切手発行を、待つのみである。

先日、駐日リトアニア大使のクジス氏を訪ねて、切手発行について伺ったところ、すでに準備に入っているが、いつ発行されるかはまだ決まっていないということだった。

クジス大使は桜の植樹に大変意欲的である。今年はカウナス、来年はクライベタに植樹を継続するという。再来年からは EU 加盟が実現する予定なので、植物移入の検疫が面倒になるので、日本から苗木を持ち込むことは難しくなる。だからその後は、リトアニアに根付いた桜を各街道に広げたいという話であった。リトアニアのサ

クラ街道は、そのうち有名になるだろう。杉原切手のセット発行にも、力が入りそうである。

今年、リトアニアは日本との国交樹立 80 周年を迎えたが、杉原千畝の出来事は、やはり歴史の中で際立っている。旧日本領事館は「杉原ハウス」と呼ばれ、日本人も杉原を通じて、リトアニアに関心を持つようになった。いずれ、リトアニアの杉原千畝像に乾杯し、満開の桜の下で、日本酒が飲みたい。稲門フィラテリーの諸兄姉も、リトアニアの花見に、ぜひ参加してほしい。



杉原と桜を描いたツアー用のバッジ

切手収集の基本はトピカル

湯川 宗昭

12月7日に新宿北郵便局で開催された稲門フィラテリー協賛の切手教室で、掲題のタイトルでトピカル切手の収案について話す機会を持つことができた。その際に、レジメを作りながら考えたことを簡単にまとめてみたいと考えている。

ところで、今回の表題を見て、ふざけるんじゃないと思った人も多いただろう。しかし、これからは、こうなるのではないだろうか。トピカル切手収集というが、トピカルとはどういうものだろう。少し考えてみたい。

秋に開催されている全国切手展 JAPEX では、当初はトピカル部門が特徴で、トピカルの JAPEX、ゼネラル・国別の全日展(全日本郵便切手展)と呼ばれた時期もあるほどであった。しかし、トピカルの定義の曖昧さのためか、国際切手展での審査基準との兼ね合いか、JAPEX では、近年はテーマチックとか図案別とかに、更に細分化しているようである。しかも、トピカル切手部門は、JAPEX から春のスタンプショウにおけるトピカル切手展に移されている。

しかし、このような区分は、切手展の運営上は有意義かも知れないが、収集している者にとっては、大きな意味を持たないのではなかろうか。

かつて、トピカル収集をゼネラル収集及び国別収集の対極に置いた見方がされていたことは否めない。その際には、19世紀発行のクラシック切手を含む国別切手の収集が上位で、図案中心のトピカル収集はマイナーなもので見られていたことも確かである。しかし、切手の発行から1世紀半を経過して、しかも毎年の夥しい数の新切手が発行される現在では、国別で収集していてもゼネラル的な収集は困難になりつつある

のではなかろうか。特に、これから中心となるべき若い収集家には完収は難しくなりつつあるといえよう。

この国別収集を、時代を区切って収集するのであれば、トピカル収集の一種ということも考えられよう。

事実、最近では、郵便史などと、もったいぶった部門が設けられている。このコレクションは、クラシック切手や入手困難な郵趣品を含むということで、切手展などでの地位は高いが、トピカル収集の一部に過ぎないのではないか。

このように考えると、現在は、よほど余裕のある収集家でなければ、ほとんどはトピカル的な収集を行っているということになるのではないだろうか。

たかが切手収集、好きなものを好きなように集めることが奨められてこそ、多くの人に楽しんでもらえる趣味となるのではないかと考える。

そこで、切手収集の方法の一つとして、

好きな切手を、

好きなテーマで、

好きなように集めよう

を提案したい。

ところで、ここでテーマというと、テーマチックと称する、切手展用のコレクションでの何らかのストーリー性を持った収集を思い浮かべる人がおられるかも知れない。しかし、ここでテーマというのは、自分で選択した収集の対象という意味であり、ストーリー性があるかないかに関しては、何ら条件は付ける必要はないものである。

このように考えると、切手収集の基本は、トピカル的な収集にあるということが判って頂けるものと考えますが、みなさんのご意見はどうでしょうか。

「前島記念館」と「史跡相馬御風宅」

高橋 仁

< 前島記念館 >

前島記念館は1931年(昭和6年)、前島密生誕の地、高田市(現・上越市)下池部に一般から資金を募って建てられた。現在は通信博物館の分館となり、前島の遺品や郵便関係の資料が展示されている。

大学2年(昭和35年)の冬休みに新潟へ帰省の折、少し遠回りをして前島記念館を訪れた。信越線高田駅で下車し、バスで下池部までいった。市街地からはずれた、田んぼに囲まれた集落であつた。当時の建物は木造で展示室は薄暗く、見学者は他にはいなかったと記憶している。

この年、早大切手研の早稲田祭記念絵はがきは「前島密生誕125年」と銘打って発行され、新宿局で記念小型印が使用された。その絵はがきを受付に出して、『これを…』といいかけると物売りと思われたらしく、即座に、「買入れはお断りします」といわれてしまった

「いえ、寄贈したいと思ひまして」

「それならば、お預かりいたします」

そんなやりとりをして、絵はがきを受け取ってもらったのを覚えている。

それから約40年が過ぎた一昨年の12月、仕事で我が社の上越の店舗へ行ったとき、ふと前島記念館へ行って見ようかなと思ひ立った。若い社員に下池部への道順を聞いたら、

「えっ、下池部ですか？」と考へている。

「前島記念館へ行きたいんだよ」

「なんだ、そこなら…」とすぐ教えてくれた。集落の名前は知らなくとも、前島記念館を知っていたのはうれしかった。

しかし、その日は見学する時間が取れず、道路向かいにある「前島記念池部郵便局」で風景印を押してもらっただけで帰ってきた。そこには赤い丸型ポストが立っていた。

< 史跡相馬御風宅 >

相馬御風(本名・昌治)の生家は糸魚川市の中心部の大町にあり、居宅と土蔵が新潟県指定文化財「史跡相馬御風宅」として当時の姿のまま残されている。御風は33歳の若さで中央と決別して糸魚川に戻り、この生家で「良寛」の研究に生涯を捧げた。

御風宅を訪れると正門のわきに、『見学を希望の方は筋向いにある林宅へ申し出てほしい』旨の掲示があつた。林さんは御風の親戚にあたり、この史跡を管理されている方である。早速お願いすると、ご主人が快く応じて下さつた。

一階の玄関脇の洋室、奥の和室、中庭を案内していただいた後、二階へ上がった。広い窓の和室があり、御風はこの部屋を書斎として使っていたとのことである。部屋の中央には一基のガラスケースが置かれていて、御風直筆の「早稲田大学校歌」の歌詞の書が展示されていた。大学に建てられた「校歌碑」の原典である。この他にも数々の貴重な物件を拝見することができた。

御風は、「都の西北」以外にも、日本大学や旧制新潟中学など200校余りの校歌を作詞している、その中でも、「都の西北」は早稲田人にとって特別の思い出がある歌であるように、御風にとっても同様であつたようで、次のようなエピソードが伝えられている。

晩年になって、親しい友人が御風宅を訪れたとき、いくら呼んでも応答がないので勝手に部屋まで上がっていった。御風はうづくまるようにして涙していた。その時ラジオからは、「都の西北」が流れていたという。

なお、糸魚川市にはこの「御風宅」のほか、「相馬御風記念館」(糸魚川市歴史民俗資料館)があり、御風の遺品や良寛の遺墨などが収蔵されている。

大谷 博氏逝く

2月16日、心不全により大谷博氏が急逝されました。稲門フィラテリー、いや日本の郵趣界にとって重要な人材を失ってしまったことが惜しまれてなりません。ご冥福を心よりお祈り申し上げます。



前島記念館見学ご案内

昨年総会でご案内のとおり、前島記念館(上越市)の見学会を下記の要領で実施いたします。同記念館はひじょうに交通の便の悪い所にあります。この機会に見学されることをお勧めいたします。

1) 期日: 1泊2日

2003年5月31日(土)～6月1日(日)

2) 交通手段: 貸切バス(31日) 新宿(予定)
⇒ (関越道) ⇒ 上越高田 ⇒ 前島記念館(見学) ⇒ 糸魚川

(1日) 糸魚川 ⇒ 相馬御風宅 ⇒ 相馬御風記念館
⇒ 翡翠園 ⇒ (関越道) ⇒ 新宿

3) 宿泊: 魚川温泉「ホテル糸魚川」

4) 費用: 交通・宿泊・食事含め約3.5万円予定

5) 詳細は別途ご案内いたします。

編集後記

会報の編集がすべて終り印刷へ回す直前に、大谷さんの訃報が突然まいこんできました。第5号に寄稿いただき、元気な姿を見せていただいた直後で、とても信じる気になりません。謹んで哀悼の意を表します。黙祷。

先月号でお知らせしました金井氏の講演録は都合により次回にいたしますので悪しからずご了承くださいと思います。

分科会活動報告(切手教室)

◎「第8回切手教室」(12月7日)

・湯川宗昭氏「トピカル収集の楽しみ」

「スポーツ切手を中心として」の副題で初期国体の開会式前の切手発行、開会日の初日カバー、赤二貼り大阪相撲の番付表などを紹介。

・渡辺勝正氏

「ルーマニア初期の不思議な切手」

印刷技術未発達時代のモルダヴィア切手を発祥とするルーマニア切手に焦点を当ててテートベッシュ版などの説明に興味津々。映画「シャレード」にも登場したモルダヴィアの一番切手。27,81,108パレラと額面が半端なのはフランス・フランを基準にしたためと。現物を見る。

◎「第9回切手教室」(2月1日)

・渡辺洋氏 「前島密と早稲田大学」

・宮鍋益治氏 「前島密と切手」

まず、渡辺氏が前島密の人となり解説。続いて、宮鍋氏の各種前島切手のリーフを展示、その説明に耳を傾ける。詳細は切手研50年記念誌でのご両氏の記事を参照乞う。

・山崎哲夫氏「外国切手の集め方」

フランスの平和タイプ50サンチームの専門収集のリーフを見ながら、①収集方針、②入手方法、③整理方法の解説を聞く。

※切手教室後の拡大幹事会で、花本金吾、野村恵造、林竜次郎の三先生の編者による力作「旺文社レクシス(全語彙の意)英和辞典」が紹介されました。(1月発行)

稲門フィラテリー 第7号

発行日 2004年3月1日

発行 稲門フィラテリー

発行人 小熊忠三郎

〒226-0015

横浜市緑区三保町 2179-2-346

郵便撥替口座 00110-0-560458

「稲門フィラテリー」

編集担当 湯川宗昭・甲斐正三

稲門フィラテリー

第 8 号

2003 年 6 月 1 日発行

方 寸 一 途

<第 3 回総会 (平成 14 年 10 月 20 日) 時の講演の抄録>

金井 宏之

金井でございます。

私の今日の話というのは、テーマもなければ筋書きもございません。私が、50 年以上切手に携わって参りました歩みの歴史と申しますか、そういうものを踏まえまして、こんな時にこんなことがあったんだというような事をお話したいと思えます。

私は、物を集めるということについて、一流といわれる国の中で、日本人が一番劣っている国民だと思っております。切手だけじゃなくて、陶器とか絵画のコレクションとか、一人の人が集められたコレクションというものを拝見してですね。外国人のコレクションというものの思想と、日本人の物を集めるという思想は、まったく違っている。それが切手にも表れてきている。日本人でまともに切手コレクションを作れる人がいない。私が 50 数年かかってやってきた、一番残念なところがその部分でございます。例えば、中国や韓国の古い陶器などは、一つが何百万円とか何千万円とかします。これを系統立てて、高麗時代から、又、明時代からときちっと順番に集めてくるということをしてない。自分はどこを集めたら良いかということを考えて集めようとしません。それらを買うような人は皆金持ちなんです。商人が持ってきて、「これどう

ですか。」と言われたら、それを見て好きであれば買う。お金と物をただ交換するだけである。ここが私の理解できないところなんです。

私が学んできた、外国人と接触してきた物の集め方と全然違う。モーリシャス切手というのは、私の一番有名になった話なんです。これは 38 歳の時でございます。当時の 850 万円と言いますのは、1 ポンド 1008 円の時の話で、それを手に入れた時に、週刊誌から新聞社まで、どれだけの人がやってきたか知りません。中には、「そんなのを買う金があんのやったら金くれ」と言ってくるミミッチィ日本人が相当たくさんいまして、私はゲッソリしたんです。私は、余裕があって買ったんじゃない。あの切手を買うについては、別に切手を利用した仕事をして、それで稼いで切手を買う。そういうようなことをずっとしてきております。

私には、切手の先生は 2 人しかおりません。両方とも英国人です。一人はディーラーですけど、日本のディーラーのようなケチなディーラーではなくて、われわれよりずっと立派な家に住んで、立派なくらしをしておって、学歴もあるインテリで、有名な切手商になっておりました。その人が、私を 30 いくつ位の時に見抜いて、これをどうしてもものにしようと

考えてくれたんだと思います。その人のお陰で、私は外国人の優れた切手の集め方を教えてもらい、その通りやって、外国へそのコレクションを持っていったら、それで戦えたということなんです。だから、日本人では戦える人が非常にすくない。言ってみれば、日本人は集め方を初めから間違えていると思えるのです。

切手の集め方というのは、まず、文献を買う。集めたい切手の、その国の郵趣家が書いた本でないとは駄目なんです。文献なしにどうして切手を集めるんですか。カタログじゃありませんよ。

文献を読み込まなければカタログに載っている切手がなんであるか分からない。という所から始まって、切手に触らしてもらうまでには、相当な基礎コレクションを集めた後でないとは専門コレクションに入るお許しが出ない、というようなことを50年続けて参りました。そういうことで、私は非常に恵まれた環境の中で、切手が集められたんじゃないかと思えます。それに、日本の国があの悲惨な、ボロボロの国からですね、今日のような立派な国になるその過程において、成長期に私が切手とも一緒にお付き合いができたということは、経済的にも恵まれてきていたと言えようかと思えます。

コレクションはどうして作るかというのは、いろいろな方法があります。切手ですと、発行順番にずっと集められるわけですけど、皆さんは何回か、切手収集の方針を変えておられると思いますよ。それで無駄な時間をものすごく費やしてしまっておられます。他人がやっているからとか、流行だからとか、そういう信念のない集め方をすることによって、年数だけ古くても、見られるコレクションが日本人には少ない。そのために国際展

に出品してもらおうと思っても、戦えるコレクションがなかなか出てこないのです。この点が、私が日本郵趣連合を財団法人にしてから25年経っているんですが、一番苦労したところでございます。その中でも、今、連合の理事になっている人は、私が直接手を下して教えることができたので、英国人の受け売りということでございますけれど、その思想を有しながら集めて貰えましたので、国際展に出せる人が現在はおります。

国際展に出した人が、あるランクの賞を貰っていくと、その人が審査員になっていく。審査員になれば、また、審査員同士、これがまた大変です。外人のことですから、国際展に行ったら、嫁さんを皆連れてくるんですね。そしたら、主催者は嫁さんのお守りをするのが大変。主人は、皆切手の仲間と会って飲みながら、夜中中、切手談義をやっている訳ですから、嫁さんは1週間放ったらかしにされるのです。そこでエクスカージョン(小観光旅行)をやるのですが、日本は、2001年の国際切手展ではケチで1回しかやらない。本当は、もっとご夫人方を大事にしなければいけないんです。大事にすれば、切手は安心して集められる。

珍しいものを持ったら勝ちという、日本人のコレクションというものの定義が間違っている。そこが非常に困った点です。これでは日本の文化というものは、物を集めるという方向については、できる筈がない。こういう風に私は思っております。日本人の切手の集め方というものを、何かに集中して、20歳過ぎて大学を卒業した頃くらいに、自分の行くべき方向は、何から入ろうかと自分で決められる筈なんです。それが、難しいか、易いか、外国人とやり取りしながら、でき



るだけ背伸びしながら集めなきゃならんようなことを選んで、これからの人にはやってもらいたい。

私は850万円の切手を買って、大騒ぎされましたけれども、裏には、皆さん知っていると思うんですがね。グリコのおマケ。あれは私の仕掛けたことなんです。上智大学の神父さんが、事務所へひょっこりは入ってきて、「あんた、切手買ってくれんか。」という話。お役に立つことであればということで買い出したら、何ぼでも持ってくる。これは世界中から集めてくるんですから、何ぼでもある。300万枚あったんです。橘喬一が、「こんなのは、部屋にも入らへんから困りますよ。もう、買うのは止めなさい。」そこへ、ある日1人の若い男が入ってきて、「外国切手100万枚欲しい。世界で一番安いのが欲しい。それ、どこで買ったらいいやろ。」と訪ねてきたわけです。私はちょうど、その時、300万枚もっているんですね。それを3倍で売ったんです。それが昭和37年です。850万円の切手を買ったのが38年。その資金の計算はきちっと出ているんですよ。38歳で850万円の切手を私が買ったのは、グリコのお陰で買った。潰れそうになっていたグリコがあ

れで回復した。両方でうまくいった。中学の後輩で、グリコの創業者の孫がやってきましたのでその話をしたら、「その話、知らなんだな。」という。「グリコを助けたのは俺だから、俺をもっと優遇せい。」といったこともあるんです。

戦後55年の間にはいろいろなことがございました。それで自分の今までのアルバムがあると思うですね。私は重品は一切持っていません。重品は一枚もない。それは、次を買うためのお金なんです。そんなものを持つて余裕がない。それは全部整理してしまいます。外国へ行って売った方が有利ですからそうしました。

私は、昭和52年に日本郵趣連合というものを創りまして、この4月(2002年)で引退致しました。まだ、総務省の許可を得ないとポストがないそうですが、この間、許可がでましたので名誉会長に就任してくれと狙われておるんです。日本郵趣連合には、誰も1銭も金を出していないんですよ。私個人で全部やったことなんです。おおよそ6千万円を日本の切手の発展のために使った。外国と十分に戦えるような日本のフエデレーションをつくたということについては、私は非常に誇りに思っております。けれども、立派な人が育ってきて、国際切手展などで、よくぞあそこまでいったのか、という人が出てこないのです。それが私にとっては非常に不満なんです。どうやって育てるかということ、学んだことを忘れん間に、家へ帰って頭の中へインプットしておけと。これが先生なら教える。それを教えないような郵趣の先輩の先生のところへ行っても何もならん。私はそう思いますね。

私の人生のすべては、切手を中心にしてまわっていました。私は36歳で、親父が社長をやれというので、仕様がなからやりまいたけれども、昼間は切手に1枚も触りませんし、会社には1枚も切手はありません。家へ帰ったら、それこそ気違いのように切手をやっておりました。そういうことで、今日やっと世界で戦えるだけになったと思います。そういうような人生を送ってまいりました。

外国切手を集める方に一言、無責任に申しますけれども、世界中の人種の中で、目の黒い人種、目の茶色い人種、目の青い人種、大別して3つある。ここに置いた早稲田の大隈講堂切手が、それぞれの目の色の違った人にとって、何色に見えるかということを考えてことがあります？おそらく無いと思います。誰もこれを研究してないんですよ。そのうちにノーベル賞来るかもわからんですね。(笑)

10年前にモーリシャスの切手を手放しました。何故かという、次のタマが欲しいということで手放したんです。それで、今フィンランドのコレクションを手許に持っています。日本にはフィンランド語の辞書がないんです。現地へコレクションを持っていったら全部剥がされました。色の説明が間違っているというのです。直すように言われて徹夜で直しました。それがナショナル・グランプリを受賞しました。受賞者のインタビューをやるから集まってくれといわれて行ったんですが、目の色の違う記者にそのこと(目の色の違いによる見え方の違い)について言ったんですが、なるほどそういうこともあり得るこっちゃということでした。これは一般の人なんか余計に気にしないだろうということです。今のところ、これを解明してくれる人はおりません。全部剥がされて、徹夜でやれと言われて

書き直したことがあるので、その人の助けを借りてグランプリになったと言っても過言ではありません。目の色の違いによる見え方については、これからの課題として残るのではないかと思います。

リタイアしてからの収集について考える時期に来ている皆さんにお話しますが、私がモーリシャス切手を売るときは断腸の思いでした。けれども大阪国税局に私に関するファイルがあります。身辺整理のつもりでコレクションを本にしました。これだけのものは無いと自負しております。そして今は二つのことをやっております。1つは、自分の誕生日の日付のついた切手を、内外を問わず集めています。が、これはなかなか集まりません。こういう、ただみたいなものでも楽しみながら一生送つてもいいと思います。2つめは、私は先祖が播磨の国の住人ですので、播磨の国の郵便消印のついた手彫切手を集めています。これは、価値もありそうです。

日本切手は、大阪に郵趣文化センターという財団法人がございますが、そこへ全コレクションを寄付してしまいます。これは、私は外国切手が好きで、日本切手が嫌いだからなんです。

戦後、銀座の店で、GI達がタバコと手彫切手を交換していた。私は外国へ行ったら、必ず「日本切手が無いか」と訊きます。アメリカのツインタワービルの際の通りに、ずらりと店が並んでいる。そういうところへ片っ端から行きました。ところが金が割り当てで、円からドルへ替えてくれない。1日35ドルしかくれなかった。仕方ないから、ニューヨークでは食うものも食わないで、1ドルくらいのサンドイッチをテイクアウトして部屋で食べ、その他は切手購入に注ぎました。そういうことしながら買って帰りましたら、旅費、滞在費すべて、日本で切手を処分し

たら金が出る。こんなボロい商売ない
なと思いましたね。会社からは、35ドル
の出張旅費はくれる訳ですから、それは
貰うてエクストラに売れて儲かったやつ
はこっちのもんです。足が抜けてるとか、
手が無いとかいうような龍切手が、2～
3ドルとかで買えましたからね。どうし
てやるかと言いますと、ニューヨークへ
行きまして、先ず、ニューヨークの地
図を買って、電話帳で調べたホテル
近くの切手屋の印をつけて、会社の仕事

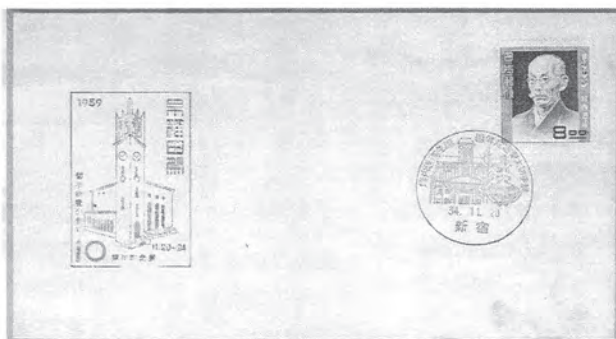
を済ませてたら、虱つぶしに順番に回つ
ていきました。99%は回ったと思います。
それで帰ってきたら、見違えるほどリッ
チになっています。そういう訳でのワル
でありまして、金持ちの道楽息子ではな
いのであります。現在はリタイアコレク
ションを始めて、楽しくやっております。
ムキになってやらんことです。もう先の
年齢が分かっているんですから。私はの
んびりやっております。

切手研究会創立 10 周年記念展カバー

宮鍋 益治

「早大切手研 50 年」誌が出た後で、
収友からこのようなカバーが有るといた
だきました。早稲田の卒業生でもないの
で入手の経過については覚えていないと
のこと。

坪内遣遥生誕百周年の早大切手展の記
念小型印 (34.11.20) は、記念誌にも掲
載されている岡部冬彦氏描く記念ハガキ
に押印された品が切手研のオフィシャル
な記念品と認められており、昭和 34 年当時
私も切手研に在籍していたはずですが、こ
のカバーは初めてみる記念品でした。早速、
稲門フィラテリーの現役員の方に見ていた
だきましたが、どなたも記憶に無く作成の
記録が判りません。



カシエには「早稲田祭 切手研究会創立 10
周年記念展 1959 11.20-24」となっていま
すので、切手研のどなたかが上記カードと
は別に作成した品と思われる。作成の経
過をご存知の方、お教えてください。

分科会活動報告（切手教室）

◎『郵趣懇談会』（3月1日）

・小西邦彦氏「切手戦線異常あり」

今回は一般参加の「切手教室」は休会と
し稲フィラ会員のみの郵趣懇談会とした。
4月1日から郵政公社が発足するが、最近
の郵便・郵事情を上記演題で英国海外郵
趣代理部会長の小西氏に熱く語っていただ
いた。（詳細は前号参照）その他数名の参加
者から興味ある情報を聞くことができた。
また、急逝された大谷博氏の生前の活躍に

も話が及んだ。

◎「第 10 回切手教室」（4月5日）

・宮鍋益治氏「切手を楽しく集めよう」

今月から新年度の切手教室を開講。初心
者向け資料が配布されたが、われわれに
も切手集めの基礎を思い起こさせ非常に有
用。

ジュニアの参加がないのは残念。各郵趣
会でも頭を悩ませているジュニア問題を本
会でも真剣に考えたい。

外国切手の集め方

山崎 哲夫

私は現在フランス切手を専門に収集しており、その中でも 1932 年から発行された普通切手<平和>シリーズに力を入れています。

特にこのシリーズの国内書状料金額面である 50 サンチームはシート、切手帳、コイルごとに図案の細部に变化があり、製造面での面白さと 1945 年頃まで使用されているので戦前・戦中の時代における使用例の面白さもあります。4 年前の 99 年全日本切手展にこの 50 サンチームを作品としてまとめて出品し、銀賞の評価をいただきました。

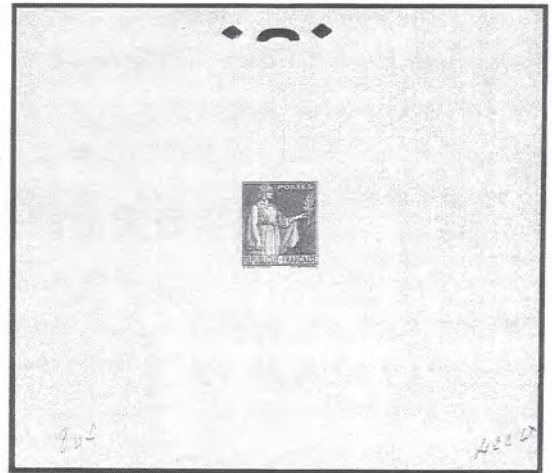
私の拙い経験ではありますが、以下外国切手の集め方として記述し、これから収集をされる方の参考になれば幸いです。

☆ ☆ ☆

1. 収集の方針

(1) どの分野を

私はゼネラル収集が理想だと考えていますが、現実的には当然無理であり収集範囲



<平和>シリーズ試刷

を決めざるを得ません。

そこで国別・トピカル・テーマチック・郵便史などに範囲をきめていくこととなります。

私も国別では日本、オーストラリア、スペイン、アイルランドをやりましたし、トピカル・テーマチックでは美術、自転車などを手がけました。

(2) どの時代を

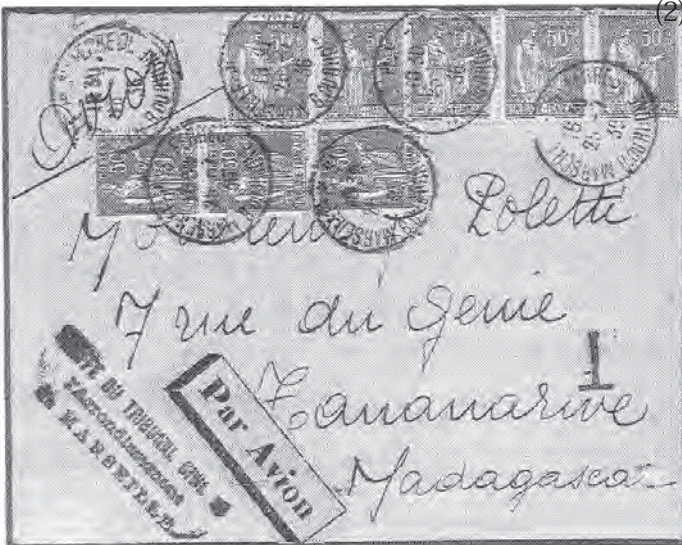
19 世紀を収集範囲にすることは理想的でありコレクションとしての深みが増しますが、一般的に金額の張るものが多く金銭的に余裕がないと困難です。

しかし、現行切手でも目玉となるものは高額であり、収集が進むにつれ手に入れたくなるものですから考え方次第です。

(3) どんな物を

未使用で集めるか、それとも使用済か。カバーはどうするのか。

分野・時代を決めた後、収集



マダガスカル宛航空便

品の範囲を決めていくこととなりますが、その分野・時代に合ったものを選ぶ必要があります。

国別の専門収集であればブルーフ(試し刷り)なども必要になりますし、トピカル・テーマチックであればマキシムカードなどが必要となるでしょう。

2. 入手の方法

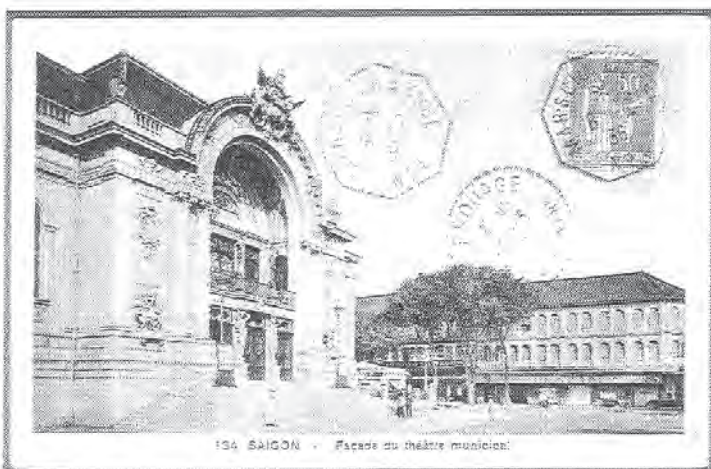
(1) 各国郵政公社から

国別収集であれば自動発送サービスが便利です。フランスの新切手の場合四半期に一度の配布で、支払いはクレジットカードでもできます。

(2) 切手商から

外国の切手商から購入する場合がありますが、切手商組合に加盟しているなど信用のおける店を選ぶ必要があります。

オークション誌を発行している店は一度落札すれば自動的に発送してくれます。支払いはカードもしくは国際郵便振替でできます。国際郵便振替は郵便局で口座を作れば割安な料金で送金ができます。



マルセイユ・神戸間船内八角印消

(3) 収集家から

外国の郵趣誌の文通欄などで収集範囲の同じ人を見つけられれば、重品を安価に分けてもらうこともできますし、収集に役立つ情報も入手できます。

3. 整理の方法

(1) 図入りリーフに

一番手間がかからずに綺麗に整理できます。収集もれをすることもありません。

(2) ブランクリーフに

バラエティがあったり、専門的な収集になると図入りには収まりませんからブランクリーフをつかうこととなります。最初は仮張りをしていき、順次作品としてまとめていきます。

(3) 切手展出品の為に

出品にあたってはやはりコンプリート(完集)であることが理想ですが、それではいつまでたっても出品できませんので、収集の成果をまとめる意味での目標にすべきだと考えます。



ドイツ宛広告付切手帳貼

長方形の魅力

野島 正顕

振り返ってみれば、私の切手研時代は麻雀全盛で、牌の山に秘められた文様を揃えることは切手収集に通ずるものだ、などと強弁する先輩もおられたが、切手や麻雀だけでなく、囲碁、将棋、パチンコと、あの頃から長方形の世界にのめり込んだ生活だった。同じ長方形でも、教科書やノートに熱中していたら良かったのに、と思ってももう遅い。言うまでもなく、現代社会は長方形に溢れている。居住空間はもとより、紙幣、テレビ、パソコンからサッカーフィールドにいたるまで、我々の身の回りの大半は長方形から成り立っている。異星人がこれを見たら地球人は長方形狂だと思うに違いない。自然界を見ると、鉱石や雪の結晶、草花のかたちは素晴らしいし、蜘蛛や蜂は造形的に見事な巣を作る。しかし、長方形は見当たらない。人間界にだけ存在し、我々を魅了してやまないこの長方形は、いつどのようにして人間社会に入り込んだのだろうか。

大古の原野で、祭祀のためにか巨石を環状に並べたりした人類の祖先は、やがて屹立する木々に負けず天空に向けて柱を立てた。エジプト、メソポタミア、ギリシャと古代の人々は神殿の柱列を立てることに熱中した。日本でも負けていない。青森空港の近くで、縄文時代の三内丸山遺跡が発見された。ここに、直径1メートルという巨大な栗の木の柱を6本、4メートル強の等間隔、方形の配置で立てた跡が残っている。何に使われたのか判らないが、今からおよそ5000年前と聞いて感動した。そのうち、古代人は柱列の上にまぐさや梁や屋根を置いた。人類

が無意識ながら最初に長方形を作ったのはこの頃だろうか。

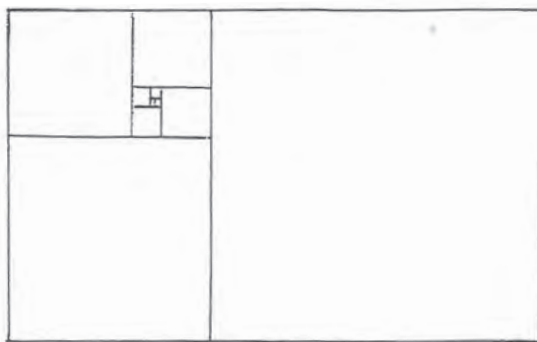
都城が形成されるころには、長方形は物理的にも機能的にも、よほど都合よく便利だったのか人間社会の隅々にまで広まった。洞窟内に描かれた垂直も水平もなかった太古の絵は、壁が出来ると壁画に成長し、やがて額縁を得て絵画となった。絵画に独立をもたらした額縁の発明は、長方形が二次元世界の王者となる決定打といえる。我が国では、どこから伝えられたのか弥生時代の水田遺構に長方形の地割りが見られる。我々の祖先が意識的に長方形を造形し始めたのはこの頃だろうか。同じ頃、ローマ帝国の学習塾の書き板や算盤はすでに立派な長方形だから、日本人は、人類の長方形指向大潮流に乗るのにやや遅れたといえるが、その後この形をひときわ好きになったようだ。中国の丸窓や円形門、円卓は普及しなかった。他方、長方形の料理皿を多用しているのは日本人だと思う。そして高度成長の宴のあと今や長方形の異常氾濫だ。

優れた建築や美術で、意識的にあるいは無意識に使われているという黄金分割(ゴールデンセクション)も興味深い。黄金比と呼ばれる $1:1.618\dots$ (乃至 $0.618\dots:1$)の比例を辺に持つ長方形は、最も調和があり美しいとされる。黄金比は代数で求められるし、直角三角形や正五角形から作図的にも得られる。植物の種子の配列に見られるある数列の極限值も、この無限の桁をもつ無理数の $1.618\dots$ になるという。黄金長方形は、これから正方

形を切り取った残りの長方形も同じ黄金比を持つという特徴がある。面白いことに、この無限連鎖で縮小する黄金長方形に内接して中心に収束する渦巻きが描ける。黄金螺旋(対数螺旋)と呼ばれ、オウム貝やひまわり等、自然界の成長模様幅広く観察されるだけでなく、宇宙の彼方の渦状銀河星雲の形状にも当てはまるという。黄金比は古代ギリシャ人によって紀元前500年頃発見され神殿建築や彫刻に使われた。これより2,000年さかのぼるエジプトのピラミッドの玄室にも見られるとの説もある。ルネッサンス期、ポーニアの僧がこれを神聖比例と呼んだ。神の啓示ということか。

試しに、紙の上に縦10cmの線、この両端から横に2本の平行線を引く。そして、最も調和がとれると思う所で縦線を引き長方形を作る。もし横辺が16.18cmあたりであれば、あなたの美的感覚は古代ギリシャ人クラスということになる。私の場合ほ多少寸足らずであった。普通の切手サイズや、35mmフィルムも太めである。ちなみに、切手研時代に発行された日本切手を調べると1958年の関門トンネルやブラジル移住50年がこの比例に近い。東洋美は階調にあらざ乱調にありというが、大胆な構図で印象派にも影響を与えた江戸時代の浮世絵版画のサイズ

黄金長方形



を測ってみると、これも黄金比に近い。黄金比は、商業的なものでは、名刺や一部のタバコの箱、絵のM型(海景型)キャンバス等に使われている。

長方形は人間にとって発見だったのか創造だったのか。それにしても、黄金比知覚は、遙かな流れのいつの頃に人類のDNAの二重らせんに刷り込まれたのだろうか。我々が視覚的に美しく感ずるこの二次元の形状が、もし宇宙が秘める普遍的な調和の一端を示すものであれば、黄金比で作った切手をロケットに乗せて宇宙に送り出せば、地球には科学万能でない優雅な生物が存在するという、ETへの平和なメッセージにもなるというものだ。フィラテリストは長方形狂どころかエリート種族といことになる。横浜港大棧橋に奇妙な広場がオープンした。24時間解放というので日の出の写真を撮りに行ったが、ガウディの世界にも似たアンチ長方形の広大な無人の空間を早朝強占したとき、いわれのない不安を味わったものだ。サンテクジュペリが、果てしない不毛の砂漠の夜間飛行のさなかに眩いている。人間社会の諸々のきまりは人生の額縁をなす、と。たしかに、人間の存在はこの長方形という普遍のフレームを持たなければ、原始のカオスからあてもない時空に浮游拡散するのもかも知れない。



ラディゲとモーリシャス POST OFFICE 切手

小林 彰

フランスの小説家、レイモン・ラディゲと聞けば「肉体の悪魔」を想起されるに違いない。ラディゲは1903年パリ郊外マルヌ河畔に生まれ、1923年に病気で早逝した。アルチュール・ランボー以来の天賦の才に恵まれていたと言われ、事実、14,5歳から詩を書き始めた。ジャン・コクトーの知遇を得て、最後まで彼の庇護のもとにあった。



〔ラディゲ肖像 コクトー画〕

最初の長編小説「肉体の悪魔」は18歳の時の作品である。少年が人妻と関係し、人妻は彼の子を宿す。生まれた子に自分と同じ名前を付けさせ、人妻が子の名を呼べば、彼のことも思い出すという心理小説。

20歳となった1923年に2作目の長編小説「ドルジェル伯の舞踏会」を書き上げたが、その年の12月12日に悪性の腸チフスで帰らぬ人となった。

『この小説の中では心理がロマネスクなのだ』で始まる「ドルジェル伯の舞踏会」も、ある貴族の息子、フランソワがドルジェル伯爵夫人に想いを寄せるという、現代風には第一級の不倫小説というのかも知れない。

ところで、この「ドルジェル伯の舞踏会」

の2カ所に興味深い描写がある。

①フォルバック夫人は、1850年にプロシヤの田舎紳士フォン・フォルバックという酒精中毒の句読点蒐集家と結婚したのだった。この蒐集というのは、ダンテのある版の中の句読点の数を、いちいち謂べることだった。総計は一度も同じには出なかった。彼はたゆまず、やり直した。彼はまた最初に郵便切手の蒐集を始めた一人だった。当時、それはまるで狂気のさたとしか考えられないことだった。（*1）

②これらの来訪者をよそにしてはフォルバック親子の生活はことごとく《支那児童教済》にささげられていた。すくなくも1914年までは、そうだった。フランソワも少年時代には、この神秘的な事業に対して深い嘆賞を払っていたものだ。彼はただ、支那児童は郵便切手で買いもどされるとより以外は何も知らなかった。フランソワの家族の間では叔母さんたちのところでも、従姉妹のところでも、皆がアドルフのためにできるだけ多くの郵便切手を蒐めるのがしきりになっていた。アドルフは、父が句読点に対してしたと同じように、彼の所に届けられる郵便切手の正確な数を調べた。そして一定の数に達すると、彼はそれを本部に送ってやった。もちろん、アドルフはフォン・フォルバックの蒐集も出し惜しみしなかった、こんな次第で、この人道的な教済事業には、ただみたいに安い《フランス共和国》切手に交じってたった1枚で、支那児童の全部が買い戻せるほど高価なモーリス島の切手が、なん枚か交じったりしていた。（*2）

モーリス島とはモーリシャスの仏語表示。インド洋に浮かぶ小島で、レユニオン島の

東に位置する。フランスの領有が1715年から100年続いたが、英仏植民地戦争の結果、1814年から英国領となった。英領になる時、仏語も存続させることが英仏間で合意された。従って、現在公用語は英語であり、道路標識など公用表示は英語となっているが、その他民間の野外広告や店の看板などはほとんどが仏語表示で、街ではむしろ仏語の方が一般的である。現地人は日常、仏語から派生したクレオール語を話している。現在、人口60万の内約60パーセントがインド系であるが、彼らもクレオール語を日常語にしている。英・仏語それぞれの新聞社、英・仏語のテレビ局もあり、仏語圏の英領という歴史に裏付けられた奇妙な背景を持っている。

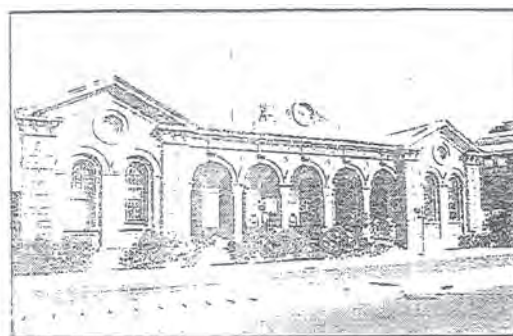


[POST OFFICE 切手と POST PAID 切手]

ラディゲのいう高価なモーリス島の切手とは、1847年第7のヴィクトリア女王の横顔を描く1ペニー(オレンジ)と2ペンス(ブルー)の凹版無目打切手で、POST OFFICEの文字が入り、モーリシャスのPost Officeと通称されている。1848年に発行された次の切手からはPOST OFFICEに代えて、POST PAIDと改められたことから、最初の切手は、POST PAIDとすべきところを、POST OFFICEと誤刻されたと言われているが、これは誤りではなくPost Office Mauritiusという郵便印が、切手発行以前から私用されていたためであることが分かった。因に、2002年版スコットカタログでは、1ペニーが未使用\$1100000、使用済\$500000。2ペンスの未使用は現

存する4枚すべてが博物館の所蔵で市場になく、評価が付けられていない。使用済は\$500000。ラディゲの小説が書かれたころのスコット1926年版では、1ペニー未使用\$20000、使用済\$12500、2ペンス未使用\$17000、使用済\$15000と評価されていた。

さて、モーリシャスのPOST OFFICEと言えば、本会顧問、金井宏之氏のコレクションがあまりにも有名。マダガスカル駐在時代、モーリシャスの首都、ポート・ルイスの中心街、海岸通りに面した郵便博物館を見学したおり、学芸員からMr.KANAIを知っているかと尋ねられた。早大切手研究会の創設者で大先輩であると、いささか鼻を高くして答えたものだった。ところで、この郵便博物館は1869年竣工の旧中央郵便局



[モーリシャス旧中央郵便局・現郵便博物館]

の局舎をそのまま利用したものである。

大多数の切手収集家はモーリシャスのPOST OFFICE切手を知っているであろうが、一般の人はまず知らない。従って、ラディゲは切手を収集していたか、あるいは少なくとも切手に興味を抱いていたに違いない。しかし今日までフランスでラディゲの切手が発行されていないのは残念である。「肉体の悪魔」を演じたジェラルド・フィリップの方は、1961年にフランス演劇シリーズの5人の役者の一人として、コルネイユの名誉と愛、義理と人情を描く作品「ル・シッド」の扮装で切手が発行されている。

[註]* 1 *2 堀口大学訳・角川文庫版。

郵政公社部外者表彰 郵便局から稲フィラ会員 2 名が受賞

今年の第 70 回郵政記念日に、主要郵便局ごとの式典で、小西邦彦、磯野昭彦両氏が郵便局長から郵政公社発足して最初の感謝状を受けた。小西氏は東京中央郵便局長、磯野氏は新宿北郵便局長からの表彰である。

今まで、主要郵便局では、4 月 20 日の通信記念日（今年から郵政記念日に変更）に、局員を表彰する記念式典を行ったり、一日郵便局長を招いたりしていた。早稲田大学

の西原総長は平成元年に、奥島総長は平成 10 年に、新宿北郵便局の 1 日郵便局長になっている。新郵政公社では、今年から部外功労者も表彰することとし、今年には稲門フィラテリーから 2 名が選ばれたものである。表彰の趣旨は「郵政事業に深い理解を寄せ、事業の円滑な運営の発展に貢献」であった。

郵政公社化と P スタンプ



編集後記

この号が出る頃は、前島記念館見学旅行から帰ったばかりの頃、次号で見学記を紹介したいと考えます。昨年の春秋連覇に続いて、今年もわか野球部の活躍がめざましいものがありますが、この見学旅行の 때가、優勝のかかる早慶戦にあたっていているかもしれません。

郵政公社化と関係して、会員二方が表彰されたことをお知らせできるのは嬉しいことです。おめでとうございます。会員の皆様のご活躍を祈りたいと思います。

公社化後、最初の全日展が“ていパーク”で 4 月 19 日から 24 日まで開催され、事前申込みをした人だけを対象に会場で P スタンプの販売が行われた。（写真は湯川氏提供）1 シートは 80 円切手 4 枚、6 シート 1 組で 3,000 円で販売された。左上に作成日がプリントされている。

25 日からは“ていパーク”、東京中央郵便局、新宿郵便局、品川プリンスホテル、椿山荘など東京 10 ヶ所でデモンストレーション販売が開始された。（案内のパンフレットには 2004 年 3 月 24 日までと記載）通信販売が 6 月上旬から開始との情報もある。

切手のデザインは、シール式で発売中の中から 4 種、P スタンプは目打式なので、オンペーパーの中から出てくる可能性は非常に低いと思われる。

稲門フィラテリー 第 8 号
発行日 2003 年 6 月 1 日
発行 稲門フィラテリー
発行人 小熊忠三郎
〒 226-0015
横浜市緑区三保町 2179-2-346
郵便擾替口座 00110-0-560458
「稲門フィラテリー」
編集担当 湯川宗昭・池澤克就
木元淳一郎・甲斐正三

前島密と相馬御風

稲門フィラテリー「前島記念館」見学会

上田 克己

卑しくも切手収集を志す者にとって、「前島密」という名前は片時も脳裏から離れぬ存在である。ましてや、「稲門」の名を冠する集団に所属するとなれば、神の如き存在であってしかるべきである。

稲門フィラテリーが設立されたのは平成 12 年 11 月のこと。世話役の方々のご苦労によって会員数も 100 名を超え、定期的な活動も順調に行われるようになった。その活動の一つとして、会員参加による“フィラテリストの聖地”とも言うべき「前島記念館」見学ツアーが計画されたと理解して参加した。

記念館の存在を知ってはいても、所在地が新潟県の上越市、その上、幹線から離れた場所とあって訪れたことのある会員は僅か。そんなことで、今回の企画は多くの会員にとって、願ってもないチャンスとなったと思われる。もちろん小生も喜び勇んで参加させて頂いた。ただ、このツアーの準備に当たられた方々は、先ず参加者数の把握からバスの手配、宿泊先の確保、記念館以外の観光、見学コースの設定と、ご多忙の中、並ならぬ時間と手間を割いてご苦労されたに違いない。参加の最終連絡が遅くなったことを、ここにお詫びし(衷心から)、それと同時に、日頃から稲フィラの行事にも積極的な参加を怠っている反省も込めて、このツアーの顛末記をお引き受けした次第である。

第 1 日平成 15 年 5 月 31 日

見学会への参加者は日帰りで開催された吉沢、林の両氏、新潟在住で現地参加の高

橋氏を含め、副会長の小熊氏以下 18 名。急用で参加戴けなかった方の内、渡辺(洋)氏は風邪(サーズではない)で発熱にもかかわらず、生憎の雨天の中、マスクを装着してバスの出発を見送りに来られた。

稲フィラの母体である早大切手研究会では、部活の一つとして夏季合宿を行っていたものだが、久々に顔を揃えての旅に当時は懐かしんで思い出話も語り合いながら、午前 7 時 30 分予定通りの出発となった。今回参加の面々は日本の発展に向けて(?) 十分に働いてこられた方々、山崎、池澤両氏を除くと還暦を過ぎた小生より更に年長者ばかりだが、昔に帰ったようで揃ってお元気そのもの。

バスは練馬インターから関越道に入り、上里サービスエリアで休憩後、藤岡からは長野道に入る。天候は今一つはっきりしないが、心配された台風は四国に上陸後、温帯低気圧になって消えたとのことで一安心。長野県にはいると南に見える山々には、まだ山頂に白く雪が残っているのが見える。休日にもかかわらず、天気予報の所為もあってか道路は混雑もなく順調に進み、北陸道に入って予定通り 11 時過ぎには信州中野インターの到着、高速道路を降りて昼食を取る。再び高速道路に入り上越高田インターへ。国道 18 号線でツアー第一の目的地、「前島記念館」に到着したのは午後 1 時過ぎである。ここで高橋氏が新潟市から遠路駆けつけ合流する。

「前島記念館」正しくは「郵政研究所附属資料館(通信総合博物館)分館」と言い、昭



和6年11月7日、当時の前島記念池部郵便局長坂田増五郎氏と稲田郵便局長川崎真治氏が前島密の業績を顕彰するため募金して、生誕の地である当地に設立されたものである。記念館が建設されているのは前島密の生家である上野家の跡地で、大正9年に村民有志が買戻し池部神社を建立、2年後の11年、境内に生誕記念碑を建てていた場所に隣接している。設立当初は上越三等局長会が維持運営に当たっていたが、昭和12年に国に寄贈され逓信省の管轄となり、逓信博物館の分館となった。また、昭和56年には会館50周年を記念して別館が新築された。別館は道路を隔てた左側にあり、前島記念池部郵便局とつながっている。更に、昭和63年には組織改正により「郵政研究所付属資料館」と改称され、次いで平成元年12月に旧館の外壁を保存して全面改装すると共に、郵政研究所付属資料館から関係資料を移管するなど展示品の大幅な充実を図り今日にいたっている。

稲フィラー一行を出迎えてくださったのは、記念館長の樋口嘉和氏。まだ勉強中ですが……と仰りながら設立の由来から展示品について丁寧な説明を戴いた。記念館の正面には前島密の銅像、右隣には先にも触れた生誕記念碑がある。銅像は大正15年3月に逓信省内に建てられ、戦時中は供出されていたが鑄潰されることを免れ、昭和22年10月5日この地に建立されたもの。また、記念碑は前島密と親交のあった渋沢栄一が碑文を、碑背の文は会津八一の原案を呼内遣遥が校閲し、市島謙吉が撰文したものである。記念館は1階と2階の展示場があり、1階の絵画(梶鮎太・画)によ

る前島密の業績とその生涯の紹介から見学が始まる。左の部屋と2階には業績を示す文書や書簡類の他、遺品の展示が多くあり、その人となりが見られる。特に書や山水画は見事なもので多芸多才ぶりに驚かされた。遺品の展示品中に尺八があった。尺八の演奏にも堪能だったそうで、ご夫人の三味線と合奏を楽しまれていたと言う。(前島密の業績については充分ご存知のことと思われるので、ここでは触れない)

記念館見学後、休日にもかかわらず一行の望みで開けてくださった「前島記念池部郵便局」を訪れ、来館記念のゆうペン、しおり、たとう、絵入りはがき等々を買い求めた。切手収集家の一行が大勢で、当日の消印や風景印の挿捺をお願いしたため局長と奥様は大忙しであったが、銘々は記念の品を入手して大満足である。一騒ぎの後、隣接の記念館分館に移動すると、稲フィラーが訪れるとのことで、記念館近くの高田や柏崎の郵趣会々員で前島記念池部郵趣会々長の佐々木雄二氏がご自慢のコレクションを携えて一行を迎えてくださった。佐々木氏は地元の柿崎中学校の先生でもあり、切手を歴史の教材にも使っているのか。ユニークなのは先生の名刺で、前島密の1円切手が名刺に1枚ずつ貼られている。さすが、前島記念池部郵趣会の会長さんである。しばし先生のお話を伺い、地元の郵趣会の方とも懇談して、メインの行事を無事に終えることが出来た。郵便局長の奥様がお茶と一緒に出してくださいました漬物もおいしかった。皆様の温かいもてなしに感謝！分館前の郵便配達夫像にも別れを告げ、宿泊先である糸魚川温泉に向けて出発。こ



こで日帰り参加のお二人は別行動でお別れ。

途中、上杉謙信ゆかりの地、春日山城趾を訪れ謙信公を奉る春日山中腹の春日山神社に参拝して、謙信公の銅像を仰ぎ見てカメラにも収めた。更に、今回のツアー立案者のサービスでもう一つ、「日本スキー発祥記念館」も見学した。よく写真でお日にかかる立派な髭をたくわえた「レルヒ少佐」が、ここ高田市にあった歩兵第35連隊で近代スキーを教えたことを記念したものとのこと。

一日の行程を終えて、宿に到着したのは予定通り5時30分。糸魚川は静岡から日本を縦断するフォッサマグナの日本海側地点で、ここに地下1千メートルから高温の温泉が湧出している。今夜の宿は「ホテル糸魚川」。部屋に入ると窓の外は川に面している。これが「糸魚川」と思いきや、さにあらず、川の名前は「姫川」で『糸魚川』は地名と言う。それでは何故この名がついたの？ K氏の名解説によると“この川では糸魚と言う魚が捕れるので、”この名がついた。本当？

豊かな温泉に旅の疲れを癒し、ホテルの従業員さんによる「糸魚川小唄」を聴き、踊りを見せていただいて、おいしい新潟のお酒で大満足。宴会のあとは、部屋に集まり有志がお持ちになったご自慢のコレクションを拝見、もう一度、今度は高橋氏ご持参の越後の銘酒でオヤスミナサイ。

第2日平成15年6月1日

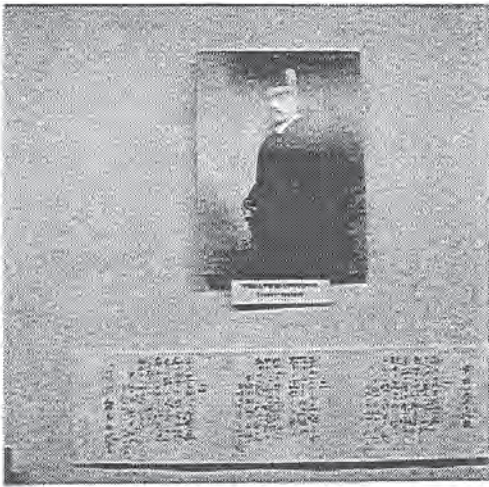
一行は朝のお目覚めが早い。朝風呂を楽しんで朝食を済ませ、ゆっくりと宿を出発した。前日は台風の心配もなくなり、雨にも殆ど遭うことなく過ごせたが、この日は朝から雨模様。2日目の一番の目的は、あの“都の西北、早稲田の杜に……”の作詞者で



知られ、ここ糸魚川が生んだ叙情歌人『相馬御風』の生家と記念館の訪問である。先ず糸魚川駅近くの御風の生家を訪ねる。現在は新潟県の史跡に指定され保存されている。御風は高田中学を卒業し早稲田大学にすすむ19才までと、大正5年33才でこの地に戻り昭和25年5月に没するまでを、この地で過ごしている。詩人であり、歌人であり、そして評論にトルストイなどの翻訳と幅広く活躍、生涯の著作は126冊に上る。生家は当時のままに残され、御風の書などが掲げられているが、こよなく愛し研究に没頭したと言われる「良寛」の書もある。広いとは言い難いが御風の日常が推察される生家である。

雨の中を次に訪問したのは糸魚川市歴史民族資料館に設けられた「相馬御風記念館」。こちらには御風が作詞した作品の原稿も数多く展示されている。その作品リストを見ると“春よ来い”等の童謡、“カチューシャの歌”で代表される歌謡、昨夜聞いた“糸魚川小唄”等の民謡、更には社歌、団歌、国民歌と驚くべき数である。“早稲田大学校歌・都の西北”は大学創立25周年を記念して坪内逍遙、島村抱月に命じられて作ったもので、校歌の作詞はこの他、200を有に超えている。その全てではないが、





多くの原稿を見ることが出来る。“都の西北”の原稿も目にする事が出来た。ここには御風の見事な書や若山牧水など著名人からの書簡、良寛の書などが展示されており、改めて相馬御風の大きさを実感させられた。

これで今回のバスツアーの大きな目的は達することが出来たわけだが、帰途、またまた世話役殿の気配りで「翡翠園」と「地球博物館・フォッサマグナミュージアム」を見学させていただいた。糸魚川は“フォッサマグナ”と共に“翡翠”が採取されることで有名である。残念ながら姫川を逆上って翡翠を探すことは出来なかったが、様々な翡翠やその原石にお日にかかることが出来た。原石には巨大なものがあり、大きなものは数十トンを超える。

それと同時に、ここで小生が学習出来たことが二つある。その一つは、糸魚川に翡翠のあることが分かったのは昭和13年頃と、ごく最近のことだと教えられたことである。それまで地元の人々も単にきれいな石や岩としか見ておらず、石垣や庭石として、あるいは漬物石などに使われていたと言う。それとこの翡翠の発見には、当時考古学にも熱中して長者ヶ原遺跡を研究していた相馬御風が関わっていたことである。縄文中期の遺跡には翡翠の装飾品が見つかり、長者ヶ原や寺地遺跡はその加工部落であったと推測されるが、それ以降、長い間全く翡翠の存在が忘れ去られていたと言う

のは不思議としか言い様がない。もう一つ教えられたのは、フォッサマグナと言うのは静岡から糸魚川に至る線ではなく、ラテン語で“大きな溝”を意味し東京あたりにまで広がる帯状の面であると言うことである。その断層が静岡と糸魚川を結ぶ線上にあるとのこと。

帰り道はバスの中でリラックス。活発な議論、情報の交換、それを助けたのが新潟の銘酒。2本の酒は新宿到着までには、几帳面に処理された。途中、昼食に立ち寄った海沿いの”マンドリーム能生”で紅ズワイなるカニを土産に買い求め、渋滞に巻き込まれることもなく、予定通り午後7時新宿西口に到着した。旅に出るといろいろと見聞が広がり、学ぶことも多い。思わぬところで、思いもよらぬ事実や出来事に遭遇する。それがまた楽しい。今回の旅を計画され、お世話になった方々には、ただ感謝の一言です。

ところで、またどこかへ楽しいたびがしたいものです。今度は佐賀へ大隈侯のふるさとを訪ねるとか……。了



分科会活動報告(切手教室)

小林 彰

◎「第11回切手教室」(6月7日)

・磯野昭彦氏『郵便物集配自動化機械の現状について』

自動化機械の歴史、郵便番号が示す範囲、バーコード印字など概要をうかがう。その後、当教室会場・新宿北局の自動機械を見学し、局係員から各機器の具体的説明を受けた。昨年も自動機械を見学したが、処理速度がひじょうに早いのにはいつも感心する。

・小林彰氏「カナダ・アドミラル・イシュ」

48リーフの紹介。アドミラルを銘版、彩紋、タイプ分類など製造面を中心にまとめた伝統的郵趣専門収集。

◎『第12回切手教室』(7月5日)

・宮鍋益治氏『(日本)普通切手の楽しみ』

銘版、バーコード、カラーマークなどを実際の切手で紹介。また料金の変遷を表で説明いただく。現品が回覧され、普通切手の楽しさがひしひしと伝わってくる。

・甲斐正三氏「外国普通切手の楽しみ方」

フランス、カナダ、イタリー、オーストリーなど主要国の普通切手のリーフを前に各国の特徴を伺う。個々の切手では日を引かないが、一つのシリーズとしてリーフにまと

められると、全体で調和のとれた迫力、美しさに圧倒されるものもあり、特殊切手では味わえぬ面白さが理解できる。

◎「第13回切手教室」(8月2日)

夏休みの月で『ジュニア切手教室』と銘打ったが、残念ながらジュニアの参加はなし。

宮鍋益治氏「切手収集の楽しみ」

小冊子『楽しい切手集めを始める方のために』が配布され、これに沿って、収集の日標・切手入手方法などが、宮鍋講師自身作成のリーフなどで具体的に説明され分かりやすい。同時に垂涎的であるマテリアルも何気なく紹介される。外来語(和製英語)に的を絞った郵趣用語の説明。「ヘゲ」の語源が分かりますか。

・磯野昭彦氏「アニメ切手」

日本のアニメ切手、漫画家原画の切手の一覧表配布。日本最初のアニメ切手は、昭和53年(1978年)8月1日発行の『ラジオ体操50年』(原画:佃公彦)。その後平成10年ごろからアニメ切手の発行が急増することがよく分かる。サザエさんは20世紀シリーズ第10集で初登場。磯野講師作成のサザエ家の家系図が配布された。一同驚嘆。

早稲田大学創立125周年記念事業募金について(お願い)

標記の件につきましては、皆様ご承知のことと存じますが、この度、大学総長、校友会代表幹事名で、稲門会の一員である我々稲門フィラテリーに「会員の皆様に声をかけ、ご寄付を取りまとめていただきたい」という要請がありました。

幹事会にて「当会はこの記念事業に賛同するとともに、大隈侯切手発行推進運動などで大学と共同活動するなど、お世話になることも多いので、協力すべきである」という結論に達しました。

その大筋は次の通りです。

・募金日標 20万円

・1口1千円、1人2口以上をお願いする
(会員110名、平均1名約2千円)

・募金期間~来年2月末

・具体的なことは次回総会で説明

皆様のご協力をよろしくおねがいたします。

なお、大学としての一般個人募金は、1口1万円として2000年4月1日から始まっております。日標は200億円、まだ50億円の申込みしかないとのこと。なお、早大切手研究会50周年記念事業実行委員会では、20万円を2000年4月1日に寄付いたします。

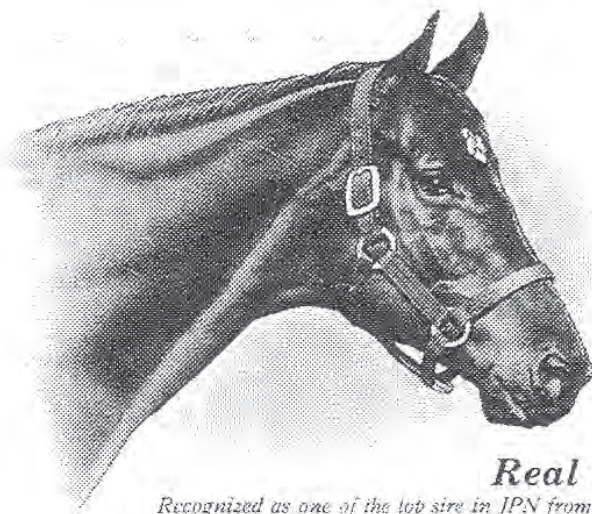
自分だけの世界

高馬 邦夫

私は現在切手の収集はしておりませんが、切手との関わりは半世紀を超えます。半分はコレクターとして、半分はディーラーとしてお世話になった世界です。1960年代後半から90年代前半にかけてあたりが、日本郵趣界の最盛期であったように思います。丁度その時期に、サンフィラテリツクセンターという切手の会社の経営に携わることが出来たのは幸運でした。海外から初期の日本切手を大量に逆輸入して良く売れた時代です。現在国際切手展に出品して金賞以上を獲れるであろう日本のコレクターは少なくとも10人くらいは居りますが、皆さん良く存じ上げております。中でも日本切手専門のコレクターであれば、コレクションの中にサンフィラか

らお買上げ戴いた切手か必ず入っている筈です。かつて日本切手の大コレクションは海外にたくさんありました。ウッドワード、アレン、レヴィ、ペプロー等々、或いはキャスパリーやヴェルスのような

ゼネラルコレクションの日本の部だけでも大変な内容でした。日本では小島勇之助氏や三井高陽氏のコレクションが良く知られておりますが、現在名実共に手彫切手世界一は金井宏之氏のコレクションです。その後日本切手専門の有カコレクターが7～8人続きます。海外ではイスラエルのナタニエル氏(2002年フィラコリアでグランプリ)が健闘しておりますが、他に日立ったコレクターは居なくなってしまいました。初期の日本切手の殆んどが里帰りしてしまったようです。私もそれに加担した1人であったように思います。



Real Shadai

Recognized as one of the top sire in JPN from his first crop.

今現在私が切手の収集を止めてしまった理由は決して切手が嫌いになったからではありません。職業柄多くの世界的コレクターに接して余りに見事なコレクションを見たり、そのコレクションに収まる珍品稀品級の切手が私の目の前を通過していく過程で物差しというか評価基準のレベルだけが上がってしまって自分の実力に対応しい二流三流のコレクションを作ることは満足出来なくなってしまったのです。理想と現実のギャップに落ち込んだとでも申しますか、ある意味では不幸なことです。かといって生来の収集癖まで無くなったわけではありません。現在は自分の名前に因んで馬のテレフォンカードと馬のコインを集めております。カードは殆んどが使用済みですが現在 2500 種を超えております。

コインは紀元前の古代ギリシャから現代に至る世界各国のコインで 900 種近くになっており、どちらも種類の上では日本一ではないかと自負しております。少なくとも他に名乗り出る者が現れるまでは自称ナンバーワンのタイトルを保持することにします。

ひょっとしたら競争相手が殆んど居ない世界なのかも知れません。これも寂しいことです。余りにか

け離れた上が居るのも面白くないがライバルが少ないのも寂しい。

一般にコレクターはそれほど我儘に自己満足を追及する存在なのです。しかし自分が 100% コントロール出来る世界を持っているコレクターは幸せです。一般社会では個人の独善的自由は許されません。ストレスも溜まります。仕事を引退したらこれらの制約から解放されるものと思っておりましたが、今度は長年の結婚生活から相対的に力を増してきた女房からの制約を受けることとなります。やはり自分が支配者であるこの世界を手離すわけにはいきません。たとえマスターベーションであろうとも生涯現役で収集の趣味は続けることになりそうです。



英国ジョージ五世 (1910-36) クラウン 1935 年パターン銀貨

続・戸塚スタンプ物語

中川 孝昭

□何でだろ～う

2年生の早稲田祭の、展示場での出来事です。法学部の学生に、何故切手なんか集めてるんだ、とからまれました。答えに窮した小生は、返事にならない返事をしました。「じゃあ、何故映画を見たり音楽を聴いたりすると楽しいんだい。」こりゃダメだと思ったのでしょうか。その学生は明らかに人を見下した態度で、目の前から消えて行きました。だけど、俺は本当に一体何でこんなことが好きなんだらう。それからしばらくの間、そんな自問自答を繰り返したものの、生来怠け者の筆者は例によって、テツ&トモのように『なんでだろ～う』とはあまり深く追究することもなく、19号室と、西北荘そして時々「戸塚スタンプ」の日々を送り、無事卒業ということになりました。

その後ご存知の通り、誠に不純な動機から、平凡なサラリーマン生活の道を選ばずに、グラウンド坂上の戸塚スタンプで、切手屋稼業の見習いを初めました。事務所の雑巾掛けから始まる毎日は結構楽しい日々でした。ところがある日のこと、小生の切手好きが高じて、商品である手彫り切手を売り借しんだため、店の古い客である戸塚2丁目の米屋の親父は、「そんな切手屋があるか!」と頭から湯気がでるほどカンカンに怒って帰ってしまいました。自分の店に帰ってもその怒りは静まらず、その湯気で売り物のお米がおこわになってしまったらしく、その日を境にしてぱったりと戸塚スタンプには顔を見せなくなりました。結局店にとっては古い大事なお客を一人失ってしまいました。幸いなことにその日は、たまたま一人で店番をしていたもので、事なきを得ましたが、ひょっとすると、自分はこの商売には向いてないかも知れないなど不安がよ

ぎりました。

□念願の羽田デビュー

その後しばらくして、当時は文字通り国際空港であった羽田空港の、国際線ロビーの花屋の一角に、ショウケースがたったの1本ですが、念願の小さな切手屋を開店しました。当初からこの計画があったので、小生もあっさりとサラリーマン稼業を放りだしていたわけなのですが、昭和40年初頭の国際線といっても、例えばスイス航空の飛行機は、一週間にたった1度しか飛んで来ないというような状態でした。

国際線の発着は、多くても日に3,4便程度しかなかったと記憶しています。ですから、時々店を抜け出して展望デッキから、今まで見たこともない外国の飛行機が着陸するのを見物に行けるのを楽しみにする有様でした。とにかく一般の人々にとっては、海外へ行くなどと言うことは、夢のまた夢という時代でしたから、それこそ一族・友人・知人総出の送迎風景が多く、とても華やかで一種独特な雰囲気を出しておりました。現在の結婚式のロビーを思い出していただくと、似ているかも知れません。

何しろそんな便数ですから、ロビーにある他の店があまり商売熱心ではなく、出店していることに意義がある、いわば看板代わりみたいなどころがあったもので、暇そうにしているなかで、切手ブームの景中でもあり商売はすぐに繁盛して、ルフトハンザの機長だとか、芸能人の固定客ができたりもして、結構忙しく働いていました。ところがその繁盛が裏目と出て、半年後に追い出されることになるのです。そもそも花やさんの店先で、花切手中心にしてに売る、という当初からの約束ではあったのですが、



12枚の中では一番気に入っている切手(高いからではありません)

まだ、現在のように郵便事業の必要性がない小島まで入り乱れて、華々しく花切手を発行するような時代ではありませんでしたから、そんな商売が成り立つわけもなく、1,2週間もすると、もう勝手なことを始めていました。当然のように周りからやっかみ半分のイチャモンがついたのです。「月に雁」には、すすきがよく似合う、とか「見返り美人」の衣装には華がある、と言ったところで後の祭りです。ショウケースを飾る『写楽』や、「ニホンカワウソ」で嘘がばれて、あわれ追放の身です。「カワウソ」はまだ発行されませんでしたね。

□切手頂戴社

その翌日から心ならずも、(有)切手経済社の社員兼務となり、戸塚1丁目と四谷の間をタクシーで往復する毎日となりました。切手の取引を兜町方式を真似て始めたこの会社は、日本切手の店頭取引相場を、株式新聞よろしく週刊で発行される『切手経済新聞』紙上に発表したり、「切手で儲ける本」なる本の出版など、それなりに世間を賑わすこととなり、当時のマスコミにもかなり取り上げられたりもしました。

一方では、子供達を対象にした『ケネディ・スタンプ・クラブ』という会員組織を作り、少年マガジンなどの雑誌を通じて、全



あこがれの見返り美人

国的な通販ネットワークを構築し、自ら大いに切手を消費して、相場を盛り上げる原動力となりました。アルバイト7,8名を含め総勢20名位の社員を抱え、それなりに活気に溢れる職場でした。やり手の経営者でしたから、この販売チャンネルを利用するのが、仕手戦で大いに儲けたのではないかと思います。

あまりに店頭での買入れ値を叩くので、その後「切手頂戴社」という自嘲的な呼び名を進呈し、社員間で密かに流行らせたりしました。

一時期、小西先輩もこの会社にノソッと現れては、「スタンピーの世界一周」という、クラブ会員をターゲットとした結構お金のかった本の出版を、小生と一緒に手伝ったりしていました。どちらの責任かは知りませんが、この本は最終的には在庫の山となって、その印刷を手掛けた某一流印刷会社の御曹司(切手収集家)の、自宅の一室を満杯にする結果となりました。

印刷会社も自分の倉庫に入れて会社が傾くよりは、役員が自宅が傾く方を選択したことになり、賢明な経営上の判断であったと言えます。

そうこうするうちに、小生の例の悪い癖が出て、「切手も切れない縁」で、見事(?)50周年記念誌の続編とは、相成るのですが、「つまらん!お前の話は、つまらん!」と、地下の横山先輩から声がかかりました。



50年誌を飾りそこなった「チャコちゃん」の切手

郵便局巡り

木元 淳一郎

日本切手オンリーで収集していた私ですが、ここ 10 年ほど日本切手が乱発され何の意図で発行したのかわからない切手が増えてきました。そのため、1999 年にふるさと切手を辞めたのに続き、2001 年 1 月に郵政省が郵政事業庁に移行したのを機に、新発行切手もいいと思うもの以外は購入しないようになりました。

切手購入への熱が冷めると反比例するように興味を持ち始めたのが、郵便貯金を利用した郵便局巡りです。1996 年、当時切手研が加入していた JPS 港北支部の支部報『Port Phi1a』に載っていた「郵貯ラリー」の記事を見たのを機に、学生という時間のある身分を利用して局を巡り始めました。当初は専用の貯金口座を作って局巡りを行っていました。就職活動で様々なところへ出向くことも手伝って順調に局数を増やしていたのですが、どうしたのか通帳を紛失してしまい、99 局回ったところで途切れてしまいました。

現在は、以下の 2 通りの方法を併用す

る形で続けております。

①実際にお金を出し入れするのに使う通帳に、暇がある時に局巡りをしてスタンプを押してもら。普段使う通帳に所々スタンプを押してもらというのは、見た目は余り美しいものではありません。しかし局によっては使用する局名印を変えることがあるので、同じ局の印が 2 度以上あってもさほど気にはなりませんし、繰り返して行ってみたりすると違いが現れて面白いものです。(図 1)

②夏休みなどで旅行をした時に、新たな口座を作って貯金していく。旅行が終われば口座を解約・閉鎖する。こうすることで、行動の跡が局名印の形で残り、通帳自体が旅の記録にもなります。(図 2)

あまり局巡りに集中しないように、「郵便

図 1 「郵政省」、「大蔵省」が、それぞれ「郵政事業庁」、「財務省」に変わった時のもの

図 2

郵便番号	郵便局名	郵便種別	郵便番号	郵便局名	郵便種別
13-04-01	1	光明寺	*201		
13-07-31 00297	10	羽田空港郵便局	*211		
13-08-13 90051	10	新大塚郵便局	*221		
13-08-14 90153	10	目黒郵便局	*231		
13-08-14 97027	10	目黒郵便局	*241		
13-08-14 97041	10	目黒郵便局	*251		
13-08-14 97024	10	目黒郵便局	*261		
13-08-14 97106	10	目黒郵便局	*271		
13-08-14 97020	10	目黒郵便局	*281		
13-08-15 97219	10	目黒郵便局	*291		
13-08-16 90362	10	目黒郵便局	*301		
13-08-16 90362	10	目黒郵便局	*311		
13-08-16 90362	10	目黒郵便局	*321		
13-08-16 90002	10	目黒郵便局	*331		
13-08-17 90023	10	目黒郵便局	*341		
13-08-17 96002	10	目黒郵便局	*351		
14-03-27 01191	10	目黒郵便局	*361		
14-04-01	1	目黒郵便局	*362		
14-07-26 03020	10	目黒郵便局	*372		
14-08-19 23243	10	目黒郵便局	*382		

図3

局巡りのための旅行」ではなく「旅行の結果としての郵便局巡り」として、観光の副的な目的と位置付けて行動するようにはしていますが、ご存知の通り午後4時で郵便貯金窓口は閉鎖されますので、ある程度のスケジュールを立てて行動しないと希望の局に達せずに終わってしまうことがあります。局側も気を利かせて4時以降に処理をしてくれるところもありますが、まず無いと思っていた方が良いでしょう。

また、「変種局名印」用の通帳を作り、①・②を行う過程で面白いものがあればそちらにも貯金する。(図3)

この郵便貯金を利用した郵便局巡りをする人のために、いくつもの局名印を用意する局や、ユニークな印を用意する局は以前からありましたが、近年特に増えてきました。(図4) 郵政省から2001年の郵政事業庁、今春の郵政公社を経て数年後の完全民営化に向けて郵便局も「採算」を重視するようになり、客を呼ぶために様々な手を取るようになっていきます。以前の貯金通帳にあった局長印を押すスペースは、通帳が横開きから縦開き

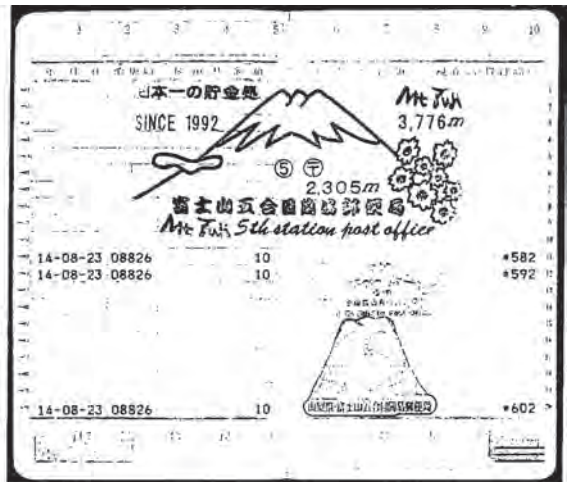


図4

になったことにより無くなってしまいました。が、今後も局名印のバラエティの楽しみが増えそうです。学生時代は時間があって色々なところに出向いていたのですが、就職して以降はあまり平日の昼間に外に出る機会もないため、行きたいと思ってもなかなか叶わないのが実状です。それでも、仕事の用事で外出するときには貯金通帳を持ち歩いて踏破局数を増やしています。インターネットで郵便貯金を検索すると「同業者」が色々な情報を載せているので、参考にしています。

切手に関して、乱発を嘆いて新種の収集をほとんど止めてしまった私ですが、局巡りの方は今でも続いています。それは、切手と違って閉鎖でもない限り郵便局はなくなるということの他に、私の頭が切手に対して保守的であるのとは対照的に、郵便局巡りに関してはまだそれほど保守的になっていないということも理由の一つなのでしょう。これからも、興味を失うことなく続けるためにも、「巡らなければ」ではなく、「暇がある時に、行きたい時に巡ろう」の気持ちで続けていきたいと思います。

稲門フィラテリー 2003 年度総会および懇親会のお知らせ

稲門フィラテリーの第4回総会は、今年も大学のホームカミングデー当日、下記の通り開催いたします。

今年の講演は、当会花本会長から、長年の英語教育と辞書編纂経験をもとに貴重な話をさせていただくことになりました。

懇親会も例年通り予定しておりますので、万障繰り合わせの上、出席いただきたくご案内申し上げます。

記

総会および講演会

- ・平成15年10月19日(日)
- ・大学西早稲田キャンパス7号館

関東郵趣連盟名簿に 稲門フィラテリーも収載

本会は、先に関東郵趣連盟に加盟したが、同会が作成している会員名簿に稲門フィラテリーも収載された。

名簿には加盟47団体の所属会員の氏名、住所等が収載されており、稲門フィラテリーは、役員の電話番号も記載されている。

連盟より届けられた名簿は在京役員に配布し、残部は希望者に10月の総会時に300円で頒布する予定。

編集後記

稲門フィラテリー発足して初めての一泊旅行となった前島記念館見学会は、大いに盛り上がった楽しい旅となりました。上田さんがイキイキとその模様を書いてくれました。

今年は冷夏、大型台風が日本を縦断し、米は不作になりそう、10年前を思い出します。ヨーロッパでは40℃の猛暑とか。自然の異変ですが、もとは人間が作り出しているのかもしれませんが。科学技術が進み沢山の恩恵を受けましたが、失ってしまったものも沢山ありそうです。

(205教室の予定)

- ・総会 13:00～14:00
- ・講演会 14:00～15:00
「これからの英語教育と辞書の役割」
講師 花本 金吾 法学部教授
- ・懇親会 15:30～18:00
「びあぐら」(JR、西武線高田馬場駅北口すぐ前)
新宿区高田馬場 2-17-4
菊月ビル 2F 電話 3200-1811
- ・会費 5,000円
他に年会費 2,000円を用意ください。
付:花本先生編纂「LEXIS 英和辞典」は、今年1月旺文社から発売中。

上越新幹線に

「本庄早稲田駅」誕生

埼玉県本庄市に建設が進められている上越新幹線・熊谷～高崎間の駅名が、本年5月「本庄早稲田駅」に決まりました。本学の本庄キャンパスや高等学院が新駅に隣接していることからの命名で、新幹線の駅名に大学名が入るのは初めてのことです。

切手収集家、鉄道ファンとしては記念小型印の発行が望まれます。どなたか、乗り(降りに?)行く方がいるかもしれません。

稲門フィラテリー 第9号
発行日 2003年9月1日
発行 稲門フィラテリー
発行人 小熊忠三郎
〒226-0015
横浜市緑区三保町 2179-2-346
郵便替口座: 00110-0-560458
「稲門フィラテリー」
編集担当 湯川宗昭・池澤克就
木元淳一郎・甲斐正三

稲門フィラテリー

第 10 号

2003 年 12 月 1 日発行

稲門フィラテリー第 4 回総会報告

「稲門フィラテリー第 4 回総会の開会を宣言します」司会進行役諸田幹事の声が響いた。外からは、ホームカミングデーの喧騒が聞こえる。7 号館 205 号室。総会が始まった。

そう言えば、9 月始め頃…。

「ピー、ピー、ピー」嫌な電子音が 3 回続けて鳴る。また、紙詰まり。これで何回目だ。約束の期日が 2 日後に迫っているのに、封筒への宛名印刷は、遅々として進まない。これが終らなければ、総会の準備に支障をきたしてしまう。“あと 30 枚、キゲンを直して、何とかお願いします”。印刷機を拝みながら作業を続け、何とか間に合った。

束の間の余裕のあと、第二段階の準備が始まる。続々とは言えないスピードで出欠連絡の葉書が到着する。例年のごとく「欠席」連絡が多い。締切りの 10 月 6 日時点で、総会出席予定者約 30 名。懇親会の方は、20 数名。これではあまりに寂しい。心当たりに電話をして、いくらかの努力をしてみるものの、効果は限りなくゼロに近い。締切日以降、パラパラと連絡は届くものの、期待と違うものばかり。

総会 1 週間前。懇親会場に 25 名と人数を連絡。「えっ！去年より 10 名も少ないんですか」と、店長さんもかなり落胆の様子。しかし、総会 4 日前、会員諸兄姉の勧誘が功を奏し、総会出席予定 42 名、懇親会は 38 名に増加した。早速、懇親会場の予約を、

当日の欠席を考慮し 35 名に変更。電話の向こうに、店長さんの安堵の顔がうかがえる。

そして…。「全ての議案は承認されました。これにて第 4 回稲門フィラテリー総会を閉会します」

諸田幹事が閉会を宣言し、総会は無事終了。「続きまして、花本会長にご講演をお願い致します」閉会宣言に続いて講演会が案内されると、小熊副会長が「レクス英和辞典」（花本会長編纂旺文社刊）を片手に講師である花本会長を紹介し、講演が始まった。

「これからの英語教育と辞書の役割」と題する講演は、花本会長が「英和辞典」を編纂された時の苦労話から、日本の英語教育全般に関する内容で、特に、殆ど知ることの無い辞書の作り方を「垣間見る」ことができたのは、大変興味深く、会員諸兄姉も、失礼を承知で申し上げれば、久し振りに「アカデミック」な気分を味わわれたのではないのでしょうか。

この日、18 年ぶりに優勝した阪神タイガースが、日本一をかけて、福岡ダイエーホークスと戦っていた。その為、トラキチの会員は、懇親会よりも試合のテレビ観戦を優先。懇親会は来年もあります、トラの方は？ それを考えると、「イタシカタナイ」ですね。

これからの英語教育と辞書の役割

花本 金吾

はじめに

今年1月、私が編集委員の一人をつとめた英和辞書が旺文社から刊行された。昨年からは今年初めにかけては、少なくとも5～6冊のほぼ同程度の厚さの英和辞書があちこちの出版社から刊行され、さながら辞書刊行ラッシュの観を呈した。それだけに市場での競争は熾烈を極めたようだ。

「レクシス」(ずばり「辞書」の意のLEXISから命名)という名のわれわれの辞書は、明治の昔からとかく論議の対象となってきた用法などについて、米国を含む主たる英語圏に住むネイティブ100名に意見を求め、その結果をグラフにして収録するなど、目新しい項目を盛ったこともあり、好評をもって迎えられた。ほぼ5年をかけての出版であった。

このような背景があったからであろうが、本年度のフィラテリーの総会が近づいていたある日、小熊副会長からじきじきに、総会後に行われる講演会で辞書について話をするようにとの電話を頂いた。

切手関係の会で英語の辞書の話をするのは場違いではないか、と思ったし、また、会員の中にもそう感じられる方がいるのではないか、というためらいの気持が強かったが、最終的には引き受けさせていただくことにした。私をその気にさせたのには、次のような、小説よりも奇なり、とでも言いたい出来事がおおいに関係している。

その出来事とは、磯野さんと辞書の下請けの作業を一手に引き受けてくれたW社の山室社長との出会いであった。見ず知らずの他人同志が偶然同じ飲み屋で、知り合ったのである。その飲み屋に置いてあった『早大切手研50年史』を通じて知り合い、共通の知人である私を酒の肴にして話に花が咲

いたという。小熊氏から講演の要請があったのは、この飲み屋の話をメールで聞いた数日後のことであった。このような信じられないことが現実に起こるとは、「切手の場で英語のことを話せ」という天の声かも、と思ったのである。

前置きが長くて恐縮であるが、「切手関係の会で英語の話をするのも許されるかもしれない」と思うに至ったのには、もう一つ、小熊副会長から日頃お聞きしている事柄が関係している。

副会長は6年近くにわたる海外生活を体験しておられる。それに最近(といっても相当に長期間)、近所の知人や先生方と「時事英語を読む会」を続けておられるとか。また会員の中には、現在もお仕事で海外に出られる方もあると聞く。結局私は、こうした方々にぜひ話を聞いていただこうと、むしろ積極的な気持ちになった次第である。

最近の日本教育界の動向

明治の昔から英語を懸命に教えながら、日本人の英語が惨憺たるものであるのは、周知の事実である。アジア20数カ国中でTOEFLの成績がつねに下から2～3番目であるという事実は、どうしても変えていかなければならない。日本の英語教育界は、「英語が使える日本人構想」とか「英語で議論できる日本人の養成」などの目標を掲げ、文科省を先頭にして国民的的一大イベントを繰り広げようとしている。

それは、①小学校への英語教育の導入、②中高での外国語科の必修化、③Oral Communicationの一層の促進、④SELHi(=Super English Language High School)の指定、⑤平成18年度よりのセンター試験でのリスニングの導入、などの政策となって具現化さ

れている。

このうち④と⑤について若干の解説を加えておきたい。

SELHi は国語科以外の教科をなるべく英語を使いながら授業を進めようとする高校のことである。初の試みとして昨年度発足した。3か年のうちに全国で100校を指定する予定であり、現在までに50数校が決定している。

遅きに失した感があるが、センター試験へのリスニングの導入が正式に決った。当初は、音響効果の公平性を確保する観点から会場を高校に移して行う方向で検討されていたが、各受験生にそれぞれレシーバーを使わせることで公平性は保てるとし、結局現在のまま大学の施設を使用することに決定した。

以上は高校までの動向であるが、大学以上についても瞠目に値する変化が見られる。文科省は、「仕事で英語を使える人材を育成する観点から、各大学が達成目標を設定する」とし、競争原理を導入している。

わが早稲田大学でもそれに対応する様々な取り組みを行っている。相当数の学部が、新入生向けに、4人程度を1組にして徹底した口頭演習を行う tutorial English を必修化させている。また、来年度には、講義をすべて外国語で行う国際教養学部も新設される。この学部では1年間の海外留学が義務づけられる。

グローバルの視点から見ても、語学の質の向上を迫るものがある。

近年は海外留学を希望する学生が増えてきているのは好ましいことであるが、特に米国への留学のためには、TOEFLを受けるのが一般的コースである。このTOEFLにはかつては「読み」「リスニング」しかなかったが、数年前に「作文」が加えられ、そしていよいよ来年の7月ころからは「スピーキング」も追加される見通しである。

日本のビジネスマンの多くが受験するTOEICは、TOEFLを開発した同じETS社が実施している。TOEICで高得点を取っても現実にはほとんど役に立たないとの批判に応えるためにも、TOEICへのスピーキングの導入はごく近い将来に行われる、と見るべきであろう。

現代に通用する「生きた英語」の必要性は、ますます高まっている。

辞書の役割

こうした状況の中で辞書の果たす役割が大きいのは、言うまでもない。辞書無くして語学の習得を考えるのは、羅針盤のない航海に出るようなもので、無謀も甚だしい。

ではどのような程度の辞書が良いか、ということになるが、「現代の生きた諸相に限定した辞書」であるべきであるから、「学習英和辞書」と銘打たれるような、手ごろの厚さのものがよい。古語やお蔵入りになった構文や熟語などが混ぜんと収録されている大辞典的なものは、使い方にもよるが害になる可能性の方が高い。

上で「現代の生きた諸相に限定した辞書」と述べたが、それには、①古くなった語や表現・構文などが削除されていること、②代わりに、新しい語法や表現が収録されており、しかもその用法が十分に説明されていること、③猛スピードで発展・変容しつづける人類の営みによって日々おびただしい数の新語や複合語が生み出されているが、その中である程度の生命を得たものは収録されていること、の少なくとも3つの要素が不可欠であると思う。

辞書にカビを生やさないためには、常に新しい英文を読みつづけ、収録しつづけることが必要である。それは際限のない、賽の河原の石積みにも似た作業である。それでも私は、かつて少年の日に切手収集に注いだあの情熱を込めて、その石積みを今後も続けようとしている。

野球とともに「切手の虫」健在

市川鴻之祐

「君の機嫌をとるのには切手の話が一番と聞いているが、まだやっているかい。幼稚な趣味だそうだよ。ヘッヘッヘッ…」一名古屋の小学校からの友人K君から届いたはがきがある。昭和25年、早大に入学し野球部に在籍、切手研にも入会したころのこと。もちろんそんなことはお構いなく50年以上過ぎた今も私の中の「切手の虫」は健在である。

早大切手研会報・創刊号の名簿に吉沢忠一先輩らとともに私の名も載っている。当時の切手研は月10円会費で、切手の特価斡旋、見学会や坪内逍遥切手カバー発行などと活発に活動していた。もっとも私は野球の練習で、文学部地下にあった暗く狭い部屋には時おり顔を出す程度。卒業後は記者生活に追われ、細々と収集を続けていたが、切手研との音信もとだえ、同じ会社に吉沢先輩がおられたことも50年史の刊行さえ知らなかった。

00年春から浅草での第一回オープン切手展に「野球と平和」を出品、以来「ポスト君」「愛NY」「東京五輪」と出してきた。春先に一カ月ほど徹夜して作品作りに熱くなる。

私の切手との出会いは、幼いころ伯父か

らもらった切手帳。ドイツ、フランス切手が貼ってあり自慢だった。高校時代には学園祭で切手展、授業を抜け出して見返り美人を買いに行ったことも。米国の収集家と文通を続け、十数年前に家族ぐるみで訪米して40年ぶりの初対面。その後、W大からUSCへの交換留学を終えた息子の案内で郵便博物館とクーパースタウンの野球殿堂を訪問。殿堂入り選手の絵はがきがそろった。楽しい記念グッズも入手、コレクションが膨らんだ。中国は30年近く自動発送で集めているが、ぼつぼつ戦線縮小して野球に絞ろうと思っているのだが…。その野球とのかかわりは中京商業3連覇にも縁がある。私が生まれた昭和6年と翌7年に我が家から通学していた2選手が栄光に輝いた。全国少年野球で優勝したオヤジ(橘小)の教え子で初優勝の鈴木鍾四さんは早大に進み、渡米メンバーになった。01年の早大野球部百年記念展で私が甲子園に出た時の長野茂監督と一緒に写った船上の写真を見つけて驚いた。このほか甲子園や六大学野球で活躍した選手も多く、幼いころから選手たちの自転車に乗せられて野球見物に通った。だが、戦争で選手は次々と戦場へ。そして



図1 昭和24年度高校野球記念押印広島・長崎平和記念貼り



昭和6年第17回
中京商初優勝



昭和8年第19
回中京商三連覇



図3 早慶ハワイ三校対抗野球（明治40年11月）

帰らぬ球児もいた。心の叫びが伝わる軍事郵便も残る。

「何としても無事に帰って親孝行したい」「野球の腕を発揮できて爽快でした」。

私たちは旧制中学1年から軍需工場へ。その工場が爆撃され学徒ら2千人が犠牲になったが、私たちは2か月前に動員先が変わったため命拾いした。恐怖の戦火をまぬがれ平和の有難さが身にしみる。

終戦直後から校庭でキャッチボールをはじめ、学校統合で生まれた瑞陵高時代は金田正一投手をKOして県内無敗。甲子園では初戦完敗。良い思い出はないが、当時の入場券とともに広島・長崎平和記念として発行された切手に風景印を押したカードが

図4 海軍兵学校1加治木氏あて実郵便

延長13回
慶応5-3ハワイ（明治40年11月7日）

残っている。オヤジが残した3連覇の甲子園招待券とともに私にとっては、貴重なお宝である[図1]。

野球に関する切手やはがきは数多い。多くの郵趣仲間に支えられて甲子園絵入りがきをはじめ満州開拓団の野球試合、ハワイ・早・慶対抗戦(M40年)[図3]、シカゴ・早大戦など戦前のもも入手した。今年は早慶戦100年。記念オールドボーイ戦出場に備えている。

収集の総まとめに誕生日「S6・4・29」の押印切手かカバーを長年捜している。天長節なのでムリなのか？ まだ見つからない。

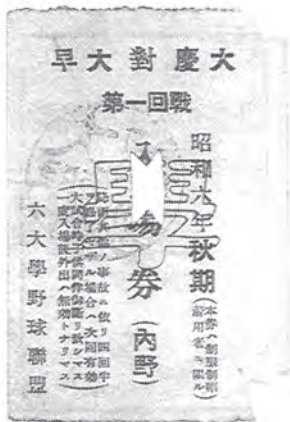


図5 昭和6年秋の早慶戦1回戦内野券



図6 早大野球部創部100年記念押印（切手原画作者の藪野教授サイン入り）

ギリシャ神話の切手

青木 幹多

切手研 50 周年の記念行事に参加した後、それまで中断していた切手収集を再開した。会社を定年退職、失業保険を受ける者には暇つぶしとしても誠に良いチャンスだった。「さて、どんな切手を集めるかな?」と自問して見たが、答えは簡単だった。これ迄の収集が中途半端なのだから、先ずその続きをやれば良いのだ。

切手研・現役の時、私のコレクションを見て、「是は、安い切手のトピカルコレクションだ」と言った仲間が居たが、実に上手い事を言うものだ。と我ながら感心した事を覚えている。中学時代の切手収集・初歩の初歩から少しも進歩して居なかったのである。

そして、今でもその内容はあまり変わっていない。そんな自分に呆れる事もあるけれど、「人生 100 年・まだ先は長い。のんびり構えて集めれば良いさ」と自分に言い聞かせている今日この頃でもある。

高等学院・西洋史の時間に古代ギリシャの歴史、特にギリシャ神話を熱心に講義された先生の影響を受けて大いに興味が湧

き、専門書を読み耽った時期があった。

この事が発端となって、特にギリシャ神話に関する切手を集め出したのである。学部 2 年になり、どうやら留年しないで卒業出来る見通しが立ち、切手研に入会した。

初めてスコットのカタログを手にした時、切手の種類の多い事に驚いたものである。その頃、世界の切手発行の種類は 20 万種とも 30 万種とも言われていたのだ。

そこで誰が言ったかは忘れたが「切手を収集するのなら、先ず 3 万種集め、それから自分の好きな分野の切手を集中して集めるのが一番良いのだ」との言も思い出した。

今の私は言われた通り 3 万種のコレクションを目指し、同時にギリシャ神話に関する切手を集めている。

そこで、最も簡単な方法と思える、国別のパケットを毎月購入する事とした。その中から、時としてギリシャ神話の神々が現れるのである。その喜びを期待して集めていると言っても良いだろう。

そして神々はギリシャ以外の国からも実に多く発行されている。フランスの初期の通常切手にはセレス、マーキュリー、イー



イカズチを投げるゼウス



マーキュリー



サンダルをはくヘルメス



琴を奏でるアポロン



横顔の美しいケレース



現代のケレース



戦うアテナ



ギリシャ神殿



大熊座



Wの小熊座

リアス、と多彩である。その他、ヨーロッパは勿論の事、北米、中南米、アジアの国の中にも神々は御尊顔を見せて下さる。ギリシャ神話の、文明への大きな影響力とでも言えようか。

切手に現れるギリシャ神話の神々の中では、ヘルメス(マーキュリー)が圧倒的に多い。この神の職能の1つに使者がある。父親・ゼウスの手紙を身内に届けるのである。

通信の神を現代に置き換えれば郵便のシンボルとなる処から、ギリシャ以外の国でもヘルメスの像を描いた切手は実に多く発行されている。この神の職能は通信に留まらず、商業、交通、果ては医学にも及ぶ事がある様だ。切手研の会報に、「切手の神様」と題して一文を書いた事を懐かしく思い出した。

膨大で複雑な内容を持ったギリシャ神話を此処に述べるつもりは無く、又その能力も持ち合せて居ない。発行された切手の中からギリシャ神話に出て来る神々、その他関係のある動物等を拾い出すだけである。「全知全能の神」ゼウスとは、何回もお目に掛かる事は出来ないが、イカズチを投げる構えをした彫刻の切手は幾つかある。ゼウスの正妻・ヘラの切手も少ないようだ。

太陽の神・アポロン、戦の神・アテナ

の切手の発行は何かと多い。その他ローマ神話の領域にも入る様だが、豊穰の神・ケレースも実に多くの国の切手に見る事が出来る。太陽、戦、農業と言うテーマが、何処の国でも、そのシンボルとして表現し易いものと思われる。ケレースに関して言えば、美しい横顔だけのデザイン以外に、鎌をもって穀物を刈る姿を多く出ている。このデザインを原形として、美しい女性が畑で麦(又は稲)刈をしている切手を良く見かけるのだが、私はケレースの切手と同様にアルバムに収めている。

ギリシャ神話の神々だけでは、物足りなさを感じた時、神話に出て来る動物、植物も収集の対象として手を広げてみた。アテナの聖獣・梟はその一例である。

そして更に大空の星座にまで手を伸ばす事になる。特に冬の夜などに大空を眺めると実に多くの神話の主が輝いて居るではないか。これは奥島・前総長が述べて居られたが、北の空には、北極星を挟んで、我が早稲田大学の創立者である大隈(大熊座)と小熊座がWの文字を輝かせているではないか。

凛々しい佇まいを見せてくれる、ギリシャの神殿も集めている。その建築様式は各国の国会議事堂等にも取り入れられ居り、列柱の美しさは何とも言えないのである。

鳥切手とバードウォッチング(探鳥)

諸田 志郎



日本国際切手展 2001
復元切手記念シール

日本野鳥の会に入会して10年になる。日本野鳥の会東京支部は毎月決まった場所で行う定例探鳥会のほか、一、二泊の遠出探鳥会を行っている。以前は、時折参加する程度であったが退職した2年

前から熱心に参加するようになった。

探鳥会では東京支部の幹事を中心としたリーダーが参加者の手助けをしてくれる。探鳥のコースの設定、種の識別、生態・特徴の解説など初心者からベテランまで楽しめるよう心がけてくれる。また定例で観察し鳥の種、個体数、繁殖状況のデータを取り調査活動につなげている。探鳥では野鳥の種の識別が重要であるが初心者には難しい、中級のウォッチャーと自認している私にも大変難しい。リーダーの手助けがどうしても必要である。

野鳥の種の識別のポイントは①大きさ、形、羽や嘴・足の色などの姿②鳴き声③動作④場所⑤時期などであるが、季節により羽色が変わる種や鳴き声が囀りと地鳴きと違うなどなかなか手強い。探鳥には双眼鏡、望遠鏡が必需品であるが、図鑑は必携である。上述した内容が種ごとに詳しく記載されている。今では、写真図鑑など多く出版され選択に困るほどである。私は写真図鑑もあるが持ち運びには少々重いので日本野鳥の会の『フィールドガイド日本の野鳥』を愛用している。

さて本題である切手に話を移そう。鳥を図案にした鳥切手(想像上の鳥は除く)は日本では郵便制度創業4年後の明治8年に早々と12銭、15銭、45銭の3種が発行された。

普通切手では、その後昭和21年(1946年)第1次新昭和切手の1円30銭落雁図までまたねばならずさみしい限りである。続いて第1次動植物国宝切手で5円尾長鶏、第2次、第3次、新動植物国宝切手で3円ホトトギスほかオシドリ、鶉飼、ヤマドリ、タンチョウヅル、イヌワシが発行された。改定の都度その数は徐々に増えている。平成になると平成切手で13種、額面印字コイル切手で6種が発行された。一気に花開いた感じである。航空切手にはキジ航空5種がある。記念、特殊切手では、昭和24年今でも人気のある郵便週間の8円の月と雁などが発行されているが、昭和30年代後半になるまでは極めて少なかった。その後、周知のとおり、鳥シリーズ、自然保護シリーズ、特殊鳥類シリーズ、水辺の鳥シリーズなどシリーズ化され多くの鳥切手が発行された。さながら切手上でバードウォッチングを楽しんでいる感じである。

しかし、切手上では前述した種の識別のポイントのうち①姿、形しか分からず、いささか困難と言うかハンディがある。

日本国際切手展 2001 小型シートより復元した鳥図案



手彫り鳥切手 3種



今回は、この条件で手彫鳥切手の識別に挑戦してみようと思う。

この3種は明治8年1月1日(1875年)日米郵便条約(皇米郵便交換条約)の実施にともない発行された。日米郵便条約締結の経緯については多くの資料、研究発表があるので詳細は省略するが、日本に近代郵便制度が創設されても横浜、神戸、長崎などにアメリカ、イギリス、フランスの郵便局が存続しており、主権を回復することが日本の大きな課題であった。前島密はアメリカ人サミュエル・M・ブライアンを雇い入れアメリカ政府との折衝にあたらせ、漸く合意し実現にこぎつけアメリカ経由であるが郵便を世界に送れるようになったのである。その時の前島密の感慨は「郵便創業談」に詳しく述べられている。

鳥切手の図案が採用された経緯について、樋畑雪湖「日本郵便切手史論」(復刻版)によると3種のうち少なくとも2種は不採用になった下絵があったとのことであるが不明な点が多い。日米郵便条約締結の昂揚感がこの斬新な図案に示されていると思う。

いよいよ識別にはいるが、郵便創業百周年に郵政省が発行した「日本郵便切手・はがき図録」には12銭芦雁(あしがん)、15銭鶴鴿、45銭鷺と記されているが、「フィールドガイド日本の野鳥」にはガンカモ科ガン類は9種、セキレイ科セキレイ類は6種、ワシタカ科ワシタカ類ハヤブサ類は29種載っている。

切手のカタログではどう表示されているか。カリ、セキレイ、タカと表示されていることが多い。Scott, GibbonsともWild Goose Wagtail Goshawk、である。日本郵便協会発行「世界動物切手図鑑4」はヒシクイ、ハクセキレイ、ミサゴと表示され「図版は日本画的で種の特徴をつかみ難い点があるが種々の事情を考慮しできる限り近いと思われる同定を行った」と記されている。「世界動物切手図鑑」以外種を特定してない。

そこで、日本野鳥の会東京支部の幹事であり探鳥会のリーダーである中村一也氏に協力をお願いすることとした。氏は野鳥に造詣が深く、特にワシタカの識別では右に出る人はいない。

長文の回答をいただいたが割愛して結論だけを記載する。

12銭「顔の近くの部分が大きく白っぽく見えるのでこの白色部はマガンの嘴基部の白色ではなくシジュウガラガンのノドの近くの白色部であるように見えます。そのためシジュウガラガンの可能性が高いと思われます。」

15銭「体下面が白色でないこと、また尾羽が長いことの2点からキセキレイ的に見えますが白っぽい顔に細い過眼線がある顔のもようは日本産セキレイ類ではハクセキレイしか考えられません。」

45銭「はっきりと眉斑があり黒っぽい眼帯がある顔からはオオタカのように見えます。しかし尾羽に横斑がないのでその点はオオタカ的ではありません。また翼先が分裂しないで尖っているのはハヤブサ科の特徴ですのでその点でもオオタカ的ではありません。絵の背景が海の岩のように見えるのでイメージとしてはミサゴかハヤブサなのかも知れません。翼が尖っているのはハヤブサ的ですが顔面のもよういわゆるハヤブサヒゲがないので違うかも知れまん。ただしミサゴでは白い眉斑が後頭部まで広くつながっているため顔はあまりミサゴには見えません。つまり顔はオオタカ的翼先はハヤブサ的全体のイメージはミサゴ的なので判断はつきかねます。」

専門的な分析で慎重な判断をされている。確定的な種の特定は出来なかったが、新たな資料が発見され解明されることを期待したい。

なお、小林彰氏から谷喬「手彫切手入門」世界動物切手図鑑編集委員会編「世界動物切手図鑑4」ほか資料の提供を得た。感謝したい。

サザエさん家系図

磯野 昭彦

●今年8月切手教室「アニメ切手」の話のなかで、サザエさんをクローズアップさせ、途中で私が約20年かけて作った「サザエさん家系図」を配ったところ、出席者のほとんどが、私の話をそっちのけにしてこの家系図に夢中になってしまいました。

●そこで、「サザエさん」の作者長谷川町子がなぜ「磯野」と名付けたか。私の推測話をしはじめたところ、これまた出席者はここにこしはじめてくださいました。

その話を簡単に紹介します。

○長谷川町子は、住んでいた博多の家から福岡西新の百道海岸に毎日のように通っているうちに、海を眺めながら「サザエさん」を思いついたのでした。

○私の実家は博多で、叔父磯野孫一がこの百道海岸の近くの西新に住んでいたのです。街から百道海岸に行くには細い道一本しかなく、叔父の家の前を通らないと行けなかったのです。

○叔父は昔から表札に普通よりはるかに大きい文字で「磯野」とだけ掲げていました。



サザエ



ふぐ提灯

(フグ田マスオ)



カツオ



○とすると、長谷川町子は、毎日のようにこの表札「磯野」を見ずにはいられなかったはずですね。

○私は、この話を聞いただけだと一度長谷川町子さんの家を訪れたのですが、病気のため会えませんでした。しかし、この話はまず間違いないと思っています。皆さん、この話どう思いますか。信じてくださいますか。

●そんなことで、まんが「サザエさん」に関係する郵政発行のマテリアルは一生懸命集めています。努力していると結構仲間が、情報を教えてくださるもので、少しずつ収集品が増えています。サザエさん関連のマテリアルについては改めて本紙で紹介したいと思っています。

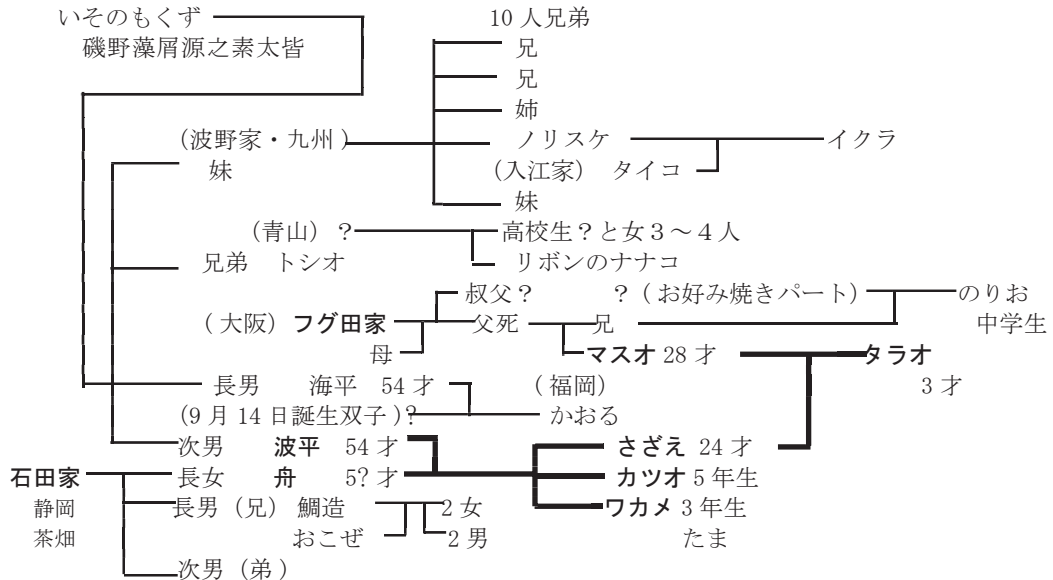
皆様、いい情報があったら教えてください



サザエさん(磯野)家系図とその仲間

磯野 昭彦

磯野家 住所 世田谷区新町3丁目51
福岡(幕末)



- 石田家 静岡 茶畑
- 近所
- 兄弟 大八さん
 - いささかなんぶつ (静岡) かおる
 - じんろく
 - うえき
 - (舟の女学校同級生) パチ
 - みどりかわさん (隣家: 境界塀の上がたまの道路)
 - いじわるばあさん
 - りカ (タラオのボーイフレンド) 5才
 - さぶろうさん (三河屋)
 - はまさんみつこさん
 - うらしまさん (パロー社勤務)
 - 湯水金造 (誰かのアルバイト先)
 - 花沢不動産 娘がカツオと同じ5年3組
 - ともひこ
 - イカコなみえ
 - (猫) ミー公 (犬) エルザ ジョン 太郎
 - たばこ屋の少女 (かつおの・・・)
 - 山口さん (銀行員)
 - ジュリー (いささかさんの前住人)
 - チャールス一家 (いささかさんの前住人?)
 - ピッチ・チャップ (漫才師)

- 今はない近所
- かもめ第三小学校5年3組 なかじま はなざわさん かおり わかさぎ
 - はやかわさん はしもと 山田先生
 - 3年?組 みゆき すずこ めぐみ 大原
 - 山野若芽 ぼり川 (ワカメフレンド)
 - マスオの会社海山商事営業課
 - 営業課 あなご まき貝君
 - 人事部長フジクラ 新入社員ひじき 隣課かわいひとみ
 - 波平の会社仲間 おかじま 友人おおくぼ やまだ?
 - 波平福岡の友人 タツナミよっちゃん 山□
 - 波平の先生 鯨おかしゅうへい
 - のりすけの会社 新聞社
 - うきえの友人 なみこ
 - いささか先生弟子 貝柱好太郎
 - サザエ学友 さよりちかこ
 - マスオ実家隣 太閤藤吉郎

平成 15.11.10 現在

- ・アニメサザエさん
- ・サザエさん 1~68巻・別冊サザエさん
- ・磯野家の謎 (サザエさん学会編) から

- カツオは3年生からストックブックに切手収集、タラオもこれに興味をもつ
- 波平と舟は結婚して35年、珊瑚婚式を挙げたばかり
- マスオは早稲田大学卒、愛車はスバル 360 だった

「会員所有の大学関連のコレクションリスト提供依頼」 —大学史資料センターから—

早大切手研究会 50 年記念の「記念展」、
「記念誌」、また「大隈講堂切手発行記念展」、
「野球部 100 年記念写真展に協賛出品」など
で実績をあげた稲門フィラテリーに、この
度大学史資料センターから次のような依頼
がありました。来年 3 月、資料センターで
は「安部磯雄展」を企画中であり、稲門フィ
ラテリー会員からコレクション(リストとコ
ピー)を提供して欲しいとの要請です。

「安部磯雄展」では、安部磯雄の書簡その
他も対象、野球関係のコレクションも使用
するかもしれないとのこと。会としても協
力をしたいので、皆様のお持ちのコレクショ
ンリストを作成提供いただきたくお願いい
たします。1 件でも構いません。

当総務担当 磯野までご一報ください。

分科会活動報告(切手教室)

- ◎「第 14 回切手教室」(9 月 6 日)
宮鍋 益治氏「昭和切手の楽しみ」
野島 正顕氏「砂糖の話」
- ◎「第 15 回切手教室」(10 月 4 日)
池澤 克就氏「パソコンで楽しむ切手収集」
府川宏昭氏「漁業、大空襲、そしてカーナビ」
- ◎「第 16 回切手教室」(11 月 1 日)
吉沢 忠一氏「切手と印刷よもや話」
小西 邦彦氏「切手のデザイン」

新会員の紹介

今年の総会時に、あらたに 7 名の切手研
OB が稲門フィラテリーに入会されました。

編集後記

100 周年を迎えた早慶戦は、秋のシーズ
ンを最高の試合で幕を閉じました。早大と
して初の 4 連覇、10 戦全勝の完全優勝と野
球部始まって以来の記録を樹立し、36 回目
の優勝をきめました。これからはラグビー
が楽しみのシーズンです。

次号は 3 月 1 日発行で準備を進めていま
す。原稿集めに苦勞していますので、協力
をお願いします。この号がお手元に届くこ
ろ、もう忘年会シーズンが始まっているこ
とでしょう。健康に留意され、良いお歳を
お迎え下さい。

当初 100 人弱でスタートした当会も、今は
117 名と大幅に増えています。(敬称略)
木辺円慈(38 文) 小川義博(40 文)
武田文也(41 文) 石川雅之(43 理)
越智哲雄(43 法) 佐藤悠(44 商)
竹中信勝(60 法政)

上越新幹線「本庄早稲田駅」

3 月 13 日に開業

上越新幹線・熊谷～高崎間の新駅「本庄早
稲田駅」が来年 3 月 13 日に開業することが
発表されました。上下 50 本が発着し、東京
から平均 50 分、最速で 48 分で結びます。
記念小型印の発行を期待したいものです。

稲門フィラテリー 第 10 号
発行日 2003 年 12 月 1 日
発行 稲門フィラテリー
発行人 小熊忠三郎

「稲門フィラテリー」

編集担当 湯川宗昭・池澤克就
木元淳一郎・甲斐正三

稲門フィラテリー

第 11 号

2004 年 3 月 1 日発行

お年玉付郵便はがき

西村 寿一郎

第一回の発行から 7 年目、昭和 30 年 12 月の新聞で年賀はがきの売れ行きに、次のような見出しが日に付いた。“お年玉はがきを作った社長さん”、“味気ない世に発憤、未明脳裏に閃くクジ”、“荒ぶ心の夢託す幾歳”、“正に一石数鳥の狙い”、“大野次官ハタと膝を打つ”等々原案者の林さんの写真を入れての記事です。

1996 年度の(平成 8 年度用)年賀はがきの発行は 39 億枚を超え、史上最高の多さを数えました。

第一回から半世紀、その定着度、利用度は一種の国民的な行事に発展しました。

誕生までの経緯

京都市上京区寺町通丸太町上ルに住んでいた、林正治さん(43)が発案者である。林さんは大阪心齋橋北詰の洋品雑貨商「株式会社ハヤシ」の社長さんで、れっきとした民間人である。昭和 24 年頃の世の中は荒むに荒んでおり正月が来ても年賀状を出す人など極めて少ない時代だった。「お年玉はがき」の創始の前年 23 年末の全国年賀郵便取扱総数がやっと 7 千万枚だったのを見ても当時の人心がうかがわれる。林さんはこの世相を見て頼まれもしないのにジッと考え込んだ。年賀状のやりとりは日本の美風だ。この美風を復活させれば荒む人心に明るい灯火をともし、世間を落ちつかせる一助になろう。と遠大な理想に向かって

日夜構想を練った。林さんは古くから発明考案を趣味に持ち、この「お年玉付きはがき」の後「声の郵便」「小包用荷札はがき」、昭和三十年から登場する官製「京都祇園祭絵葉書」等々次から次へと考案を成している。

昭和 24 年も春から最寄りの郵便局で割増金つき定期預金の勧誘についての名案を依頼されたり、囑託をしていた京都府からも宝くじの売上増進策についての相談を受けておられた。しかし、心に帰するところはやっぱり好きな文通ということに凝固してしまい、年賀交換の復活を一途に考えられたものと思われる。

既に出ている各国の慈善切手は極めて悪評だと判っていたので、切手以外で『国民助け合い』をスローガンに 1 円の募金を付加して人々に押しつける方法は？

6 月 21 日の朝、床の中で自を覚ました途端フツと脳裏をかすめたのが、このくじ付き年賀はがきの事だった。

「宝くじに似てギャンブルにあらず、景品の夢を楽しませつつ賀状のやりとりのよき旧習を復活させ、さらに社会福祉にも貢献できる」というアイデア。当時のはがきの料金は 2 円だが、そのためには 1 円を加えて 3 円にしても売れるのではないかというものだった。早速、林さんは近所の文具屋に頼み、はがきの原型を謄写版で刷らせ、賞品の品定め、売り出しの宣伝方法などを立案し、絵心のあるところから宣伝ポスター

まで作ってそれらを携え、7月20日に大阪郵政局の小泉潤局長へ進言にいったである。局長としてはどうにもならず、「自分一存ではどうしようもないので、本省へ直接行ったらどうか」であつた。

翌日には、列車で上京、22日に郵政大臣小沢佐重喜と直接談判に及んだ。「その話なら浦島郵務局長が担当官だからそのほうへ回れ」と紹介され、浦島喜乃衛氏と対決した。「なにぶん全国的なプランで…」と、ここでも即答はふんぎりのついたものではなかった。仕方なく半ば諦めの気分で携行してきた資料を残し、上京のついでに友人を訪ねることにしたところ、ここに思わぬ吉報が待っていた。その友人こそ当時の郵政次官の大野勝三氏と学校の同期の仲間であつた。

友人と二人で、すぐに大野氏のもとへ駆け込み原案について説明した。話を聞き終わった大野氏がその名案に賛同し実現に努力することを力強く約束されたのである。林さんの上京は無駄にならず、意気揚々であった。帰京後、今度は活版刷りで、改良した試案はがき7,8通り作り考えを重ねた。新アイデアが浮かぶと上京して当局へ参考にと進言したのである。

刷ったはがきの中の一種を、大阪郵政局の承諾を得て裏面に後記のような世論の調査事項を刷り込み、京都市内の銀行、商社、官庁、学校、飲食店などあらゆる方面へ配り回答を待つて全国的な需要数量の割り出しに使った。8月中旬のことである。一方、郵政当局でも発行の方針は既に本決まりとなっていた。法律の議会通過や文書類の事務完了を待つてからでは遅いので、8月末に出来上がった図案は既に製造に回されるといった進捗ぶり。法律は発行も迫った11月14日に公布施行となった。ここに林正治氏の夢は実現したわけである。

はがきの正体

林氏の提案をそのまま採用するばかりでなく、当局は当局の立場上独自に企画し、林氏の案を修正したのが「お年玉つき郵便はがき」と正式に呼ばれるところのものである。

この法律は第二百二十四号をもって昭和二十四年十一月十四日に公布施行されたもので、時の総理大臣は吉田茂、郵政大臣は小沢佐重喜であつた。



第1回発行の年賀はがき2種

寄付金なし
銘付：銘なし

寄付金つき
発行所：印刷庁製造

参考文献

- 「官葉研究」 谷垣恒彦
- 「日本郵便葉書総鑑」 谷垣恒彦
- 「京寸」 武田修
- 「切手研究」 切手研究会
- 「日本通常葉書要覧」 山岸福治

年賀状・年賀はがき【概略】

明治4年3月1日 (太陽暦4月20日)	郵便制度開始	年賀葉書」発売印刷用製造の銘い りと無しがある
5年12月3日	太陽暦を採用 明治6年から 月日 を同じとする	25年2月1日 お年玉賞品として「虎」小型シート 発行
6年12月1日	はがき発行	26年11月1日 郵便料金改正低料金取扱制度
7年1月2日	元日の郵便取扱がないために、葉書に よる年賀状の初め	27年11月15日 寄付金なし「日の出に鶴」の 年賀はがき発行
32年12月	年賀郵便特別取扱開始(指定局)取扱期間 12月20日から30日	31年11月15日 今回から、寄付金なしのはがき にも「お年玉」が附く
33年10月1日	私製はがき認可	36年11月15日 年賀取扱期間に差し立ての ものは、引受印省略
33年12月	年賀郵便物特別取扱規定 取扱期間12月中、結束して記票を付け差し 出す	41年11月11日 この年から印面にローマ字 「NIPPON」が入る
38年12月	全ての局で「年賀郵便」とし束ねて 差し出す	43年11月8日 郵便番号枠と標語を印刷
39年12月	年賀特別郵便取扱の規則が制度化される。 取扱期間12月15日から29日	53年12月 全通信労働組合のストで、年 賀郵便の取扱が大幅に遅延。小型 シートの交付も2月に延期される
40年4月	私製はがきの1/3に通信文記載が可能	55年11月7日 印刷業者の買い占めにより、 裏面に印刷をして市販
40年11月	差し出通数制限撤廃、ポストへの投 函可能	56年11月5日 郵便料金値上げで、業者の買占め、 抽選結果にこだわる社会問題が発生
大正元年12月	明治天皇崩御により、年賀郵便引き受け 休止	57年11月5日 寄付金付きはがきの裏面、絵や図 案入りのものが発売される
3年2月	昭憲皇太后崩御。年賀郵便ではなく 「年始郵便」の取扱とした	62年11月5日 四面連刷はがき発売
12年11月	関東大震災のため年賀特別取扱休止	平成元年12月1日 世界で初めての「くじ付き切 手」を年賀用に発売
15年12月25日	大正天皇崩御。以前に差し出したもの には「大正16年1月1日」のものもある。 料金還付の措置もとられた。	2年11月1日 くぼみ入りはがき発売(盲人用)
昭和10年12月1日	年賀用切手「富士山」発行	7年11月1日 版画用はがき発売
15年	太平洋戦争(日華事変勃発)により、 虚礼廃止で、年賀郵便取扱停止	8年11月1日 再生紙はがき発売 インクジェット用紙発売
24年12月1日	年賀特別取扱開始、「お年玉付き	

海辺の生活と切手

青木 常男

千葉千倉町、花と海の町、外洋に面した人口13,000人ほどの静かな任まの町並。

この地へ戻ってきたのが、三年ほど前。小学校が現町内、当時の村立健田小、中学が県立安房中、途中学制変更で高校併設中となり、安房第一高を卒業して早稲田への途を辿った。以来、夏、正月と帰ることはあっても、五十年の間隔がある。

当地に居付いてから暫く、我が家に来客あり。高校で一年先輩の早川快太氏であった。

彼とは、当時未だ珍しかった切手収集の同好者の集いを、当地で立ち上げたメンバー。

その様な背景をバックに、しばし郵趣談に華が咲く。その中で、館山郵趣会の紹介、何と私たちが創立に係わった切手会の後身とのこと。案内を頂ければ参会させていたゞくとの結論となった次第である。

半世紀ぶりの地域社会へ溶け込む、云うならば軟着陸のために、移送ボランティア、視覚障害者を対象とした町広報のテープ吹込み、公民館教養講座の英会話講師、その他養護施設のイベント介助などに取組んでいる。

これに館山郵趣会が加わる訳である。

会員数は前記早川氏(会長)を始めに、玩在十三名、90歳を頭に、殆どが年金生活者、現役は、医師、地方公務員、商店主など数名に止まる。そして男性だけのメンバー。

肝心の収集範囲を見ると、会員の半数が東京中央局扱の記念切手、ふるさと切手の通販を、会一括で利用、とは云うものの普通切手を含めて目打、カラーマーク、銘版などに拘る人はほんの僅かである。日本切手をとっても、単片あるいはシートでコレクション。アルバムは、郵趣協会の“日本”を使っているのが数名といった所か。

総じてコレクションの内容は、日本物のベタ集め、あるいはトピカルといって良いだろう。

例会は月一回。特色は会員自宅で行われること。出席は8名ほど。家庭的な雰囲気といえどそれまでだが、お茶菓子の手配など、家の者も、親爺の道楽に付合う形となる。

例会の内容はほぼ同じ。日本のニューイッシュの紹介を始め、最近の話題。これをスタートに、次は当家ご主人のコレクション

紹介となる。それぞれの人なりに作り上げたコレクション。それに関連した資料などが回覧に供され、解説やら質問などが交わされる。

人さまざま、このコレクション拝見では、アルバムのレイアウト、関連資料のデータをどのように採り入れるかなど、参考になる点が多い。

リーフにワープロによる明細なデータの書込みなど、こつこつと手がけておられる(稲門フィラの切手教室でも同種のテーマがあったと記憶)会員など、年令的に見ても頭の下がる思いすらある。

さて、例会次のメニューは、国名解説である。会員中最年少のメンバー池田氏が担当。郵趣に連載された資料を参照しながらの解説。感心するのは、彼の事前準備の周到さと、時により変化はあるものの切手現物、カバーなどの手配。毎月のことともなると、その労力も容易なものではあるまい。

最後は、恒例のオークション(盆廻し)。日本切手、外国々別、トピカルなど、いろいろなジャンルの出品がある。全数落札の回もあれば、応札の少ない回もあるが、総じて高価なものは、仲々応札がない。年令と懐具合のなせる業と云うべきか。但し一月開催の新年例会では、アルコールが入る為か、オークションがないのは、ご愛嬌である。

その他のイベントとしては、年一回初心者を対象とした切手教室。館山郵便局会議室を会場に、会員のコレクション展示、会員による解説など。参加者は数名単位。

また十一月上旬には、館山市文化祭の一環として、2~6パネル程度の展示物を各自が持寄り、切手展が開催される。来訪者は、三百~四百名といった所であろうか。

私自身、この郵趣会のメンバーとは云うものの、相当のレベルまで収集した日本切手は、殆ど処分し、特定の国の美術切手、航空切手に範囲を限り、これらのイベントの出展に対応しているのが現状である。

これらのトピカルには、明城、吉沢、根岸各先輩方が、資料あるいは現物で、ご援助いたゞき心から御礼を申し上げたい。

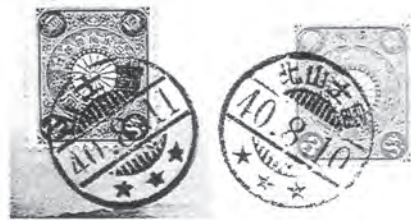
房総半島南端という地域性か、館山郵趣会の雰囲気もスローライフと云う表現がぴったり運営されている。

フィラテリーの原点と絵葉書

鎌倉 達敏・さゆり

今から25年ほど前、社会人に成り立ての頃、新入社員紹介を見た先輩から誘われ、それ以来、ほとんど積極的な活動はしていませんが、年に数回例会に出席している地元の小さな郵趣会があります。入会した頃の頃、切手展をやるので作品を出して欲しいとの依頼があり、急遽一晩で何かアルバムリーフを作る必要に迫られた事がありました。

手持ちの材料で作品を作るとなると、日頃の気ままな収集から、一夜でまとめるには大変無理がありました。その時、数年前に亡くなった妻の祖父の遺品である絵葉書の束が、ふと頭に浮びました。これは、旅行好きな祖父が旅先で絵葉書を購入し、記念押印また実通として差し出したもので、全て切手が貼られ、郵便印が押されていました。絵葉書収集家にとっては不完全なものかもしれませんが、切手収集家にとっては価値のあるものです。祖父はフィラテリーの素養があったのか、津共進会の記念印、富士山・富士山北などの季節局、東京日本橋の落成記念印などの大変面白い消印を残しています。



富士山局

富士山北局



遠江・舞阪 明治 39年 8月 31日



津共進会記念絵葉書



津共進会 明治 40年 4月 27日

また、旅先ではこまめに、切手帳のペ-ンを使用し、旧大正毛紙1銭5厘切手の単線目打のものが貼られた葉書が多数残されています。青函連絡船の絵葉書では函館と青森の消印を押したり、東京から大阪宛てに記念飛行便で差し出したりするなど郵趣のセンスはかなりのものであったと思われます。

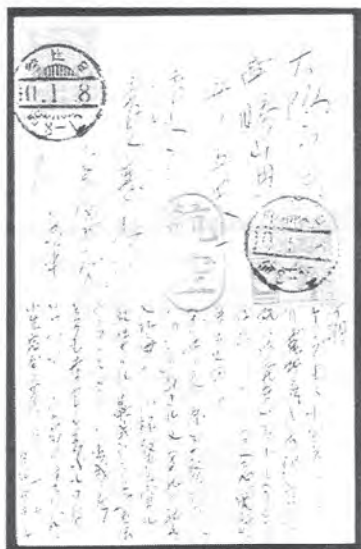


青函連絡船翔鳳丸
 青森昭和2年6月13日
 函館昭和2年6月12日
 (右上、旧毛紙切手帖単片目打単線11)

1リーフに2枚この絵葉書を使えば、簡単に作品は出来上がります。追い詰められた者にとってグッドアイデアです。絵葉書の束の中から、消印のきれいな物を選び出しました。作品のタイトルは一般受けするよう「おじいさんの日本旅行」としました。その頃、まだ子供もいなかったもので、私が選定とレイアウト、妻はリーフ説明書きと分業し、一夜で2フレーム24リーフを作り上げ、翌日の切手展に、無事間に合わせる事が出来ました。これも、良い郵趣品を残してくれた妻の祖父のお陰でありました。



日本橋落成記念明治44年4月3日(紫印)



日比谷
 昭和10年1月8日
 大阪宛て航空郵便葉書



尾張・鳴海
 明治42年1月1日



京都
 明治41年10月3日



近江・長濱
 明治42年10月1日

しかし、清水家(妻の実家)にとっては、この絵葉書は何とも云えない遺品だったようです。妻の祖父は明治24年生まれで、昭和54年に他界しています。蔵前工業(現東京工業大学)を出た技術者であり、発明家であり、事業家でしたが、波乱万丈の人生を送りました。大変裕福な商家出身で、窯業関係の発明や、中国事業の成功で大変羽振りの良い時代もあったようですが、88歳で亡くなる時には、全ての財産を使い尽くし、まさしくきれいさっぱり無一文での主のもとへの旅立ちでした。その後、遺品を整理する中で、百数十枚の絵葉書が見つかり、価値の判る者がいないので、我々夫婦がもらう事になりました。よくよく整理してみると、前述の通り、切手収集家にとっては、大変価値の有るものが含まれていました。また、旅行先から小まめに出しており、故人の人生記録としても、大変興味深いものです。

結果的に、祖父が残した遺品の中では、最も価値があるものであり、我々が受け継いだのも、何かの縁であり、今後も孫夫婦として大切にしていきたいと思っています。

我々夫婦にも、祖父の血筋が脈々と流れているようで、旅先では必ず郵便を出す習慣は今でも続いています。また、娘たちにも小さい時から、旅先では必ず家へ葉書を出すよう育てており、先日も風景印付きのきれいな絵葉書を金沢から出してくれました。このような些細な事ですが、郵便を愛するフィラテリーの原点ではないでしょうか。



箱根・芦の湯 松坂屋旅館



善光寺 長野 昭和3年10月10日



胆振・登別温泉



札幌



神奈川・芦の湯
明治43年4月9日



神奈川・江ノ島
明治43年4月8日



山形



宮城・松島海岸

早稲田が建立した杉原記念碑

渡辺 勝正

リトアニアから杉原切手が出る

リトアニアのカウナス市に、「命のビザ」を発給した旧日本領事館があり、この建物は現在、「杉原記念館」の名で保存されている。また首都ビリニュス市のネリス河畔に、「杉原千畝・追悼・桜公園」ができ、ここに早稲田大学は、堂々たる杉原の石碑を建てた。

そのリトアニアが今年の6月19日に、杉原千畝の功績を称えて、記念切手を発行することになった。デザイン発表は2月下旬で、現段階では見ることができないが、リトアニア大使館からの情報によると、デザイン・エレメントは、杉原の顔、桜の枝、領事館官印だそうである。9名の指名コンペによって進められ、優勝者は、コスタス・カトカツ氏という。

杉原切手は、1998年にイスラエル建国50周年記念で発行され、奇しくも千畝生誕百年にあたる2000年に、日本からは20世紀デザイン切手として発行された。すでに

このことは本誌第7号(2003.3)で報告したが、リトアニアでの杉原切手発行を祝したい。

聖地・人道の丘公園に行こう

私は『決断・命のビザ』と『真相・杉原ビザ』を刊行し、現在、第3冊目の『検証・杉原千畝』(仮題)を執筆中であるが、杉原という重いテーマを解明して、近代史の深い謎の部分に迫り、新しい見解を提案するため、探索の時間はいくらあっても足りない。今や、杉原千畝研究は、私にとってライフワークとなってしまう、裁判問題、映画製作など多次元にわたって、抜き差しならぬ状態に追い込まれてしまった。したがって切手の方は、残念ながらすっかり疎遠になっている。しかし、「稲門フィラテリー」の諸氏が、私が夢中になっている杉原テーマに興味を示してくれ、このたび春の合宿で「人道の丘公園」に行くことが提案されたと聞いて、大変嬉しかった。ぜひ、一人でも多くの方々が、この機会に参加されることを希望する。

売価45円
非木材紙はがき(ケナフ/リブ使用)



杉原千畝生誕100年

記念館オープン

人道の丘公園管理事務所 TEL.0574-43-2460
〒505-0301 岐阜県加茂郡八百津町八百津1071

記念館モニュメント

杉原千畝生誕100年エコーはがき



パイプオルガン

歴史に名を馳せる杉原千畝

このところ、杉原に関連する記述について、解説や監修を頼まれることが多くなったが、3月発行予定である理論社刊行の『NHKにんげん日本史』全10巻の企画には驚いた。日本の通史を、当時の代表的人物で話らせるという企画だが、その登場人物が「聖徳太子・聖武天皇と行基・紫式部と清少納言・源頼朝・織田信長・徳川家康・伊能忠敬・坂本龍馬・福沢諭吉・杉原千畝」となっている。古くは「聖徳太子」で始まり、新しいところでは「杉原千畝」で締めくくられる、という設定はまことに愉快に思う。

1998年に「20世紀デザイン切手」が公募されたとき、「杉原千畝」を推薦する人がどのくらいいるか、知名度の見当もつかずに合否を心配したが、いつの間にか杉原千畝が、歴史のなかで、ここまで高く評価されるようになったのである。

早稲田カラーのインド産赤御影石

さて、このたびの合宿水先案内人として、早稲田記念碑の紹介をしておこう。

木曾山脈が連なる仙境の地、杉原千畝の故郷に「人道の丘公園」がある。ここに設置された世界初のセラミック・パイプ・オルガンは、爽やかな音色で平和を奏でる。杉原千畝生誕百年を迎えた2000年7月30日に、「杉原千畝記念館」がオープンしたが、その直前



杉原記念碑の除幕式

赤塚町長と佐藤早大副総長

の7月15日に、杉原の胸像の傍らに、早稲田大学は記念碑を建てた、設計者は理工学部建築科の鈴木殉教授であり、その趣旨について次のように述べておられる。

「顕彰碑は低い造形にして、水平を強調し、そこに大地性を表現いたしました。人道、博愛、世界平和、それらは言葉として、天に向かうものですが、杉原千畝が行った人道的な行為は、まさに肩立たず大地に根づく愛であったと考えるからであります。

また形態から見ますと、古里八百津の山々と深い谷の形象に重なりましょう。またはその形を千の畝の連なりにみることも、そして早稲田のWの文字型と見なすこともできるでしょう。まさに赤いインド産の御影石は、杉原の行動を思いおこすために、静かで力強い造形として、ここに置きたいと考えました」

1900年に生まれた杉原千畝は、長じて早稲田大学に入学し、在学中に外務省の公費留学生試験に合格してハルビンに渡り、やがて外交官になったのであった。

リトアニアでの勇氣あるビザ発給は、早稲田精神の発露である、と、西原、小山、奥島、白井の歴代各早大総長が、こぞつて杉原千畝を応援して下さっているのは、まことに嬉しい限りである。

主要国郵便 & 切手情報

小西 邦彦

1)USPS(アメリカ郵政)

670億ドル企業(全米11位)。従業員843,000人(全米2位)。

ブッシュ大統領の任命した委員会がUSPSを調査し、208ページのレポートを発表。負債額920億ドル、うち480億ドルが退職者健保の赤字。今年の郵便事業はBreak even, 収支均衡。切手印刷は財務省証券印刷局が長らく独占していたが、価格・納期・品質全てで民間に及ばず、今は全面撤退。日下、アベリー・デニソン, アシュトン・ポッター, バンクノート社等が受注。95%以上がシール式切手。切手テーマは数千件の候補より一人の専門官が決めるが、広告会社を起用してのマーケットリサーチも行う。売り上げを最重視、マスコミを巧みに使う。

2)Royal Mail(イギリス郵政)

日銭6億円を超す赤字を昨年度2億円まで減らした。3万人のリストラ計画は、1万6千人減を達成。Cost Cutに総裁、二人の副総裁(ニュージーランド郵便会社元社長、イギリスサッカー協会元会長)が大ナタを振るう。切手印刷は入札で選定された3社(ウォールソール社、デ・ラ・ルー社、エンスケデ社(オランダ))と3年契約を結び、指名発注。発行計画は多くの調査、マーケットリサーチを基に売り上げ重視で3年前に決定し、デザインは18ヶ月前には決まり印刷所へ、納期は発行8週間前。デザインの一次選択は民間委員のSAC(Stamp Design Advisory Committee)が行う。デザイン室は直接原画に関わらず、原画作者3名の選定、完成までの打ち合わせや手助け、記念消印の作成を行う。デザインの最終認承者はエリザベス女王。切手収集は国民的趣味でロイヤルコレクションは世界一。

3)German Post(ドイツ郵政)

本年1月より、赤字の中で値下げを行う。ユーロ圏形成で近隣国と値段比べされるのが弱い。ドイツの面積は日本の90%、人口は65%で、郵便局数は13,000。無人郵便局導入の試行が続く。本年6月30日、突然マルク表示切手の無効を告示。切手印刷は財務省所管のBundesdruckereiが独占していたが、本年より国際調達。Bundesdruckerei社は外国切手製造に進出し、スペインの切手商Afinsa社と協力して、アンゴラ、ギニアビサウ他の切手を計画から製造販売まで手掛けている。

4)RegioPost(オランダ郵政)

民営化達成後4~5年で赤字克服。切手は同国のエンスケデ社100%調達を中止、イギリスのウォールソール社が主調達先に。切手普及部(郵趣部)もウォールソール社に売却。大胆なアウトソーシングを実施して財政再建を果たした。

5)Swiss Post(スイス郵政)

美しい切手で収集家の人気を集めるスイス郵政は、郵便事業の斜陽化、切手収集の衰退で赤字に陥り、切手調達もクールボアジェ社依存を中止、安価な国際調達に方針変え。結果的に切手印刷の最高峰クールボアジェ社と直営切手印刷所を廃業に追い込んだ。同国内のリヒテンシュタイン公国も1995年以前発行の切手の無効を宣言し、投資家・収集家の非難を浴びた。前途は多難。

6)HKPO(香港郵政)

基本的にはRoyal Mailの施策を流用。切手調達は入札審査で選ばれた3年契約の適格会社へ指名発注。高品質で低価格の切手発行を実現している。入札は部外の入札局が一括実施。情実と口ききが横行する中国

社会に於ける公正保持に、旧宗主国英国が考えた智慧。有人衛星「神舟ロケット」が無事に地球に戻った翌 10 月 16 日にその記念切手・切手帳を発売。2004 年発行の全切手をカラー写真で今年 9 月に発表、同時に購入申し込みも受け付け。新切手は収集家の便宜の為に日曜日に発行される。お客様第一主義。

7) Austria Post(オーストリア郵政)

国営印刷所による極めて美しい、手の込んだ切手を製造するが、日本と同様で売り切れるまで何年たっても販売するので余計売れない。郵便事業は不振で収集人口も減少。ドイツ郵政に身売り話も出ている。今後は記念切手の発行量を一気に減らし、売り切れによる人気回復を計る。ドイツ郵政が実験的に始めた無人郵便局は、隣接のオーストリア、スイスにも急速に広がるもよう。

8) Australia Post(オーストラリア郵政)

目下世界的な流行を見せているパーソナル切手(マイスタンプ)の発明国。通信販売による P スタンプサービスは完全に軌道にのっている。切手は大半が SNP Ausprint 社製。シドニーオリンピックの際に豪州金メダリストたちの切手を翌日発行し、世界的话题を呼び、営業的にも大成功を収めた。表彰式で写真撮影→IOC の承認→AOC の承認→印刷(富士ゼロックス)→翌日 12 時に発売。約 1 年に亘るリハーサル的成果だった。

9) 台湾, タイ, シンガポール

切手発行に意欲的で、低額面にもかわらず国際調達で高級な切手を発行している。シンガポール郵政は企業の名を入れたラベル付切手を発行。局舎では時計なども販売している。

10) CA と IGPC

Crown Agents Stamp Bureau(英) と Inter Governmental Philatelic Corporation(米)

は共に小国の切手を、デザインから発売まで一貫して行う切手製造会社。CA(クラウンエージェント)は英国の植民地経営の必要で生まれた国策会社で、鉄道敷設、通貨の発行なども扱い、切手は 19 世紀中頃から CA 透しの切手を製造販売。今も Ascension 島から Zambia. 迄、旧 British Commonwealth 国を主に扱っている。印刷はデラルー社のオフセット印刷。IGPC はユダヤ資本によるニューヨークの会社で、毎年切手濫発国の上位 20 カ国の多くはこの会社が製造販売している。具体的には切手の発行権を年間 5 千万円前後で落札し、売れそうなテーマを片っぱしから切手の形に刷り発売する。発行国の意向が反映されることはあまり無い。投下資本を取り戻すべく切手濫発は続く。一枚のシートに何種類もの異なる切手を入れ、シート買いをさせる手法を考えたのはこの会社で、多くの非難を浴びたが、今は同じ手法を大国も取り入れるようになった。日本もその仲間入り。印刷は同じくデ・ラ・ルー社のオフセット印刷。

おわりに

今年から中国郵政は全ての記念・特殊切手の発行の際、特製ペンの発売も始めた。単片の 5 倍以上のお金をとられる。増収策は同時に切手愛好家や投資層を離散させることだ。12 億余りの人口を持つ発展途上国ならではの技といえよう。地球規模で眺めた場合、切手の供給は Over Capacity で切手印刷業者の前途は明るくない。切手収集マーケットは飽和状態を通り過ぎて、縮み続けている。全世界合計の発行数は 1976 年 7,715 種、1981 年 8,427 種、そして 1992 年に 10,505 種の大台に、2000 年には 17,544 種とピークに到達した。そこから流れは変わる。2001 年の総数は 13,879 種、一挙に減少に退じた。発行量も減り、IGPC などはミニマム 25,000 枚から請負う。300 万円で切手発行可能だ。この傾向は今後も続くだろう。これからはマーケットの動向、マスコミの動きなどを探って、時流にマッ

2002 年度新切手発行状況

濫発国上位 10 国	総発行数	額面価円換算	主要国発行数概要	総発行数	額面価円換算
①ギニア	391	35,594	アメリカ	263	16,650
②リベリア	318	15,277	日本	166	13,999
③アメリカ	263	16,650	フランス	117	9,465
④グレナダ	248	31,830	イギリス	107	8,919
⑤アンチガ・バーブダ	204	26,060	中国	104	2,803
⑥チャド	188	33,700	オランダ	100	6,598
⑦パラオ	185	20,245	オーストラリア	93	5,465
⑧ガンビア	171	29,325	ニュージーランド	84	9,449
⑨日本	166	13,999	ドイツ	75	8,265
⑩マルディブ	164	22,410	スウェーデン	65	5,712

新刊紹介

◎大谷博『切手ワンダーランド』

日本郵趣協会、2003 年 11 月 1 日発行
定価 3,500 円 (荷造料 380 円別途加算)

同書掲載の協会専務理事・落合宙一氏の「刊行ごあいさつ」から抜粋。

(前略) 本書は、本年 2 月に逝去された大谷さんが『スタンプマガジン』に 17 年間にわたって執筆された「切手は語る」の全 208 回を纏めたものである。本書の刊行は大谷さんの生前から進められており、タイトルの『切手ワンダーランド』も筆者自ら考え単行本になるのを非常に楽しみにされていた。(後略)

見学旅行会の案内

杉原千畝記念館、明治村

今年度も見学会を予定しております。

日時:5 月 29 日(土)～30 日(日)

会費:35,000 を予定

◎予定が決まり次第、別途ご案内をさし上げる予定です。

編集後記

新春を飾るラグビー大学日本一は、惜しくも準優勝となり連覇はなりませんでしたが、来シーズンを期待したいものです。

会報も 11 号を迎えています。今まで寄稿いただいた方にお礼をを申し上げると共に、なるべく偏らないよう、いろいろな方に書いていただきたいと思いますので、編集よりお願いをした際には、何卒ご協力のほどお願い申し上げます。

申込:168-8081 杉並区上高井戸 3-1-9

郵趣サービス社、振替口座 00160-8-606

電話 03-3303-0111, Fax 03-3304-5318

◎正田幸弘『郵趣雑誌に見る外国切手記事 (その 2)1980-1999』私家版

2003 年 8 月 25 日発行、頒価 2,000 円 (送料込)

◎正田幸弘『文献に魅せられて』私家版

2004 年 1 月 14 日発行、頒価 3,000 円 (送料込) 申込み: 正田幸弘氏

振替口座:00240\4-6061 または

定額小為替で同氏宛

〒233-0011 横浜市港南区東永谷

2-14-44-309

上越新幹線「本庄早稲田駅」

開業記念カバーの作成

上越新幹線「本庄早稲田駅」の 3 月 13 日開業を記念して、稲門フィラテリーとして記念してカバーを作ることが決まりました。すでに別途で連絡をさし上げていますが、申込みをお待ちしています。

稲門フィラテリー 第 11 号

発行日 2004 年 3 月 1 日

発行 稲門フィラテリー

発行人 小熊忠三郎

〒226-0015

横浜市緑区三保町 2179-2-346

郵便振替口座 00110-0-560458

「稲門フィラテリー」

編集担当 湯川宗昭・池澤克就

木元淳一郎・甲斐正三

稲門フィラテリー

第 12 号

2004 年 6 月 1 日発行

「本庄早稲田駅開業記念カバー顛末記」

長谷部 晃

「稲門フィラテリー」の第 10 号に「上越新幹線本庄早稲田駅開業で記念印は」という記事を見て「これは俺の出番だ」と思いました。卒業以来切手は細々とやってきました。記念印や風景印は手出しをしていなかったのですが、本庄局で記念印を出すように働きかけ、記念カバーや記念ハガキを作るには私が動かなければならないと思ったのです。P S W U で本庄に一番近いところにすんでいるのは私ですから。「働きかけてみるから」と小熊さんと磯野さんに手紙を出すと共に、本庄郵便局に電話しました。本庄局の郵便課長は「記念印をつくるという話は出ていないが、希望があるようでしたらその旨上司にあげておきます」という役人特有の返事だったので「そんなに悠長にしているのは期日が来てしまうから、直接話をしましょう」と翌日局に行ってみました。そしたら郵便課長が「局長も交えて話を聞きます」ということになり、

局長は「記念印を作るように申請しています。新上武大橋の記念印は群馬で出すことになったが新幹線はこっちで出すことになると思います」という話。本庄の局長は課長にはからず記念印の話を進めていたのです。そして記念印を押す台紙を作ることも計画し、駅の写真も撮ったが「工事中なのでもう少し進んでないと台紙は作れない」とまで言っていました。正式に記念印が出ることが決まったら連絡してくれることになりました。その帰りに「本庄早稲田駅」の工事現場をみましたが南口も北口も工事中でした。ただ「本庄早稲田駅」というネームプレートはできあがっていました。(写真)

上越新幹線は早稲田大学本庄校地の隅を走っています。高架線路の北側を駅舎に提供している関係で早稲田の名前が駅名に入っているわけです。南口を出るとすぐに校地、校舎があります。この地域は大久保山という丘陵地帯で 40 数年前本庄市が早稲

田大学を誘致した際、大学に寄付した土地です。その後「早稲田大学本庄高等学院」が開校し、図書館の分館などもでき、今年度大学院の建物も完成、授業が行われるようになりました。

2 月の切手教室に来て報告してくれと言う要請があったので新宿北郵便局に出かけ、磯野、甲斐、諸田の諸先輩と久しぶり



にあいました。カバーを作る場合のカッシュにいい写真がないのが問題点でしたが、もう少し開業日に近いところでちゃんと撮る、構図は甲斐さんと連絡して決めるということになりました。

3月初旬までに2度現場に行ってみましたが、工事は続いており、パソコンでプリントするにも時間の限界があります。ネームプレートでも使えると思いましたが、工事中の写真で間に合わせるということになりました。また稲門フィラテリーで注文の受付が始まり、メールで注文数が届きました。カバー58通、絵入りハガキ67通という数字でしたが、その後追加注文もありカバー、絵入りハガキとも100部作ることにしました。稲門フィラテリーの名前で出すことにしたので、丁寧にプリントアウトしましたが、少なからずの枚数が不良品になりました。インク漏れで封皮の裏側が汚れてしまったのです。できあがった封皮に切手を貼り郵便局に持ち込んだのが3月9日でした。郵便課長の「注文が多いので13日の開業日にはお渡しできません」ということで、16日の火曜日に受け取るということになりました。13日は土曜日、臨時出張所を設けるので職員は出払う、翌日が日曜日でだめ、月曜日には作業を終えたいということでした。また13日は九州新幹線の開業日にもあたり、12日に記念のふるさと切手が出るので、これを販売するということでした。

小林さんと甲斐さんから当日本庄早稲田駅に行くので受け取れないかという連絡も頂いたのですが、そういう事情で受け取りは当日には間に合わないということになりました。

開業の一週間前に見学会があり、家族でホームまで入ってみました。大盛況でした。開業日の3月13日は午前中に用事を抱えていたので、昼過ぎに本庄早稲田駅に出かけました。

開業日も大盛況で駅前の駐車スペースが満杯になり周辺の道路にも駐車する者が大勢いました。幸

いというか北口前は広々とした田畑、道路は舗装したばかりというわけで路上駐車でも渋滞はなかったとか。

記念の硬券入場券やオレンジカードも出たのですが、開業早々に売れ切れたそうです。本庄郵便局の臨時出張所も混雑していました。深谷郵趣会で顔見知りの方がいたので様子を聞いてみたら、「私は5時に来たのですが、硬券入場券は2番でした。一番列車をホームで迎え写真を撮りました。デジカメで撮ったものをプリントしてカバーにするように無地のインクジェット紙に記念印も押し付けてあります」と見せてくれました。上には上がいるということを感じました。

16日にできあがったカバーと絵入りハガキ受け取りましたが、記念印は一週間使われますので、毎日1通ずつのカバーを作ったのだけが残りました。最終日の記念印を押した後に送ってもらいました。

こんな訳で本庄早稲田駅開業記念印カバー、絵入り葉書ができあがりました。郵便印の世界もなかなか多様だということを感じました。

なおこれらのモノを記念品にして「64年3月卒業の同期会」が4月9～10日に行われたことも付け加えておきましょう。卒業40年に成ります。私が呼びかけ人で秩父で行われました。我々の同期は2人(岡田、岡崎)なくなっています。5人(池山、森、鳴村、中川、長谷部)が集まり秩父の春を眺め、夜は麻雀を囲み、昔に返りました。まさに切手研は不滅です。



文化

横浜洋菓子事始め

◇フランス人ペール兄弟の店の軌跡をたどる◇

小林 彰

店が空気に入りだした。「タラシの明治日記(二)又民子訳、講談社」の明治十年四月二十日の記述に、「フランス人の経営するペールフレールが、ぼろしくおいしいういコーヒーを飲んだ。母はペール氏にねだっていったコーヒー豆一ポンド売ってもらったが、ペール氏は惜しくてたまらない様子だった」とある。

フレールとは兄弟のひとり立ち代わり来日した。が、もっとも長く店を切り盛りした二男マチュウ・ウシエンは非常に厳格な性格だったらしく、有名なフランス人風刺画家ジョルジュ・ルシユールが描いた絵には「ペール氏と近きことになるには、直立不動で」

なければならぬ」と評する封筒を初めてオークションで手に入れた。すべてペール兄弟から南仏ムーリエスにある実家あてのものだった。

☆☆☆

子孫と連絡、史料入手、会社を定年退職後、二年前に思い立って調べ始めたところ、現存するペール兄弟の封筒は明治七年四月二十一日から十一年十月二十三日までの三十三通が確認できた。形状や筆跡、横浜開港資料館に残る店の新聞広告などから足跡をたどり、ムーリエスの市役所に史料の照会をお願いした。子孫の方がいたらおしえてほしいとも伝えた。しばらくたって、四男の孫から手紙が届く。い

くれた。店の写真や献立表などの史料も届けてくれたのである。

ペール兄弟洋菓子店は洋菓子の製造販売にとまらざり、ソーゼ、チーズ、パチなども売り、クリスマスや正月の福袋、舞踏会用の食材なども商った。明治二十六年七月八日の慶定食のメニューが残っているが、赤カブのバター添え、鯉のマヨネーズソース添え、ヴェニス風ヌードルなどの名が見え、デザートにはミルクイユや果物が供されている。

ペール兄弟の生家はムーリエスの大地主だった。明治七年に三男がます来日、フランス人の経営する横浜のオリエンタルホテルで見習いをした後、連れてやってきた長男とともに居留地八十番で店を開いた。同ホテルを譲り受けるが撤退、けれど洋菓子店だけは続いた日本人びいきの夫婦だ。兄弟がめまぐるしく入れ替わり、引越しもあったが、明治三十二年に別のフランス人に経営を譲った後も十二年店名は残った。よほどおいしかったのだらう。

横浜の老舗パン店といえは元町のウチキパンが有名だが、私の調査では創業者の打木彦太郎の弟がペール兄弟洋菓子店でケーキ見習いとして入店している。また、洋菓子店は日本の切手をフランスの愛称家向けに輸出もしていた。

☆☆☆

兄弟の生家訪問、フランス屈指のオリエンタルホテルを訪ねたのは去年の六月のことだ。ペール兄弟四男の孫がアルル駅まで車で迎えにきてくれた。数年前まで毎年、日本人女子学生をホームステイさせていた日本人びいきの夫婦だった。生家は往時のままだ。ついでに、ケルソン・ルシユール氏が別邸として使っている。当時の横浜街頭の額装写真、日本の新聞、民芸品などに加え、日本切手の仕入れ台帳も残されていた。

田園の中にある五千平方メートルの庭を散策しながら、なぜ兄弟はこんな豊かな境遇にいらはるか、日本を自指したのか、と問いをめぐらせた。

セルジュ氏は「農業が重労働で耐え難かったが、日本に未知の可能性を求めたのでしよう」と語っていた。真相はわからないが、明治の日本がそれほど魅力あふれる国だったことは確かだ。まもなく来日するセルジュ氏とまた、ゆっくり語り合いたいと思つた。(こぼし・あきら「経営宮口」)



ビゴーが描いたペール兄弟の二男マチュウ・ウシエン(左)とセルジュ氏(右)



ペール兄弟の封筒は明治七年四月二十一日から十一年十月二十三日までの三十三通が確認できた。形状や筆跡、横浜開港資料館に残る店の新聞広告などから足跡をたどり、ムーリエスの市役所に史料の照会をお願いした。子孫の方がいたらおしえて

日本経済新聞2004年2月26日最終面・文化欄に小林彰氏の「横浜洋菓子事始め」が掲載されました。ここに全文を掲載いたします。

KENYA UGANDA TANGANYIKA(ケニア・タンザニアの旅)

杉山 光雄



1948年、やっと中学生になったばかりの少年が、戦災で焼け残った葉書や封筒から剥がした切手やらを集めだし、やがて大学に入り切手研に入りスコットだ、

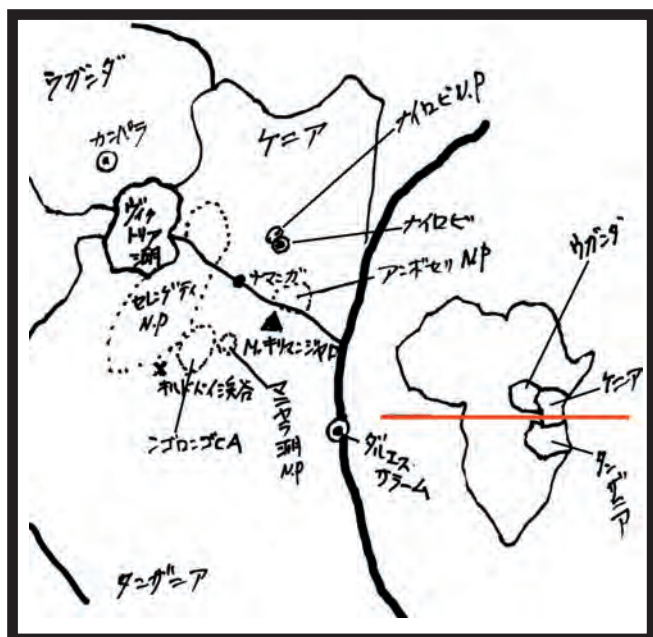
ギボンスだ、ツムースタインだと外国の切手カタログに接し、日本切手以外に興味を広がり、その中でも大型で重厚な凹版印刷の英領切手に魅せられて、それに手を出し始めた頃出くわしたのが KENYA UGANDA TANGANYIKA 1935年 1.May 発行の George V. シリーズの中の 10c - 黄色をバツクに East African Lion 黒いシルエットを浮かび上らせた 1 枚の切手だった。まだあまり各国共トピカル的な動物切手を発行しておら、私にとっては大変貴重な一枚となった。その後 1954 年からの Queen Elizabeth II シリーズでは Giraffe, Lion, Elephants と次々に美しい動物切手が発行されており、それ等を一枚一枚切手屋で見つけ出してはアルバムに加えていったのが昨日の様に思える。この地域の切手は 1890 年 5 月に発行された英国 Q.Victoria 切手に、BRITISH EAST AFRICA COMPAY と加刷された Half ANNA, 1ANNA, 4ANNAS の 3 種が最初



でした。同年 10 月に IMPERIAL BRITISH EAST AFRICA COMPANY として正刷の切手 (1/2ANNA ~ 5RUPEES) が発行されています。続いて Edward VII の時代となり、1903 年からは EAST AFRICA AND UGANDA PROTECTED として発行され、この表示は 1922 年発行の George V シリーズまで続きます。そして同年の CURRECY CHANGE により額面もセント、シリング、ポンドに変更され国名も KENYA UGANDA 及び TANGANYIKA KENYA, UGANDA UGANDA, AKENYA TANGANYIKA KENYYA UGANDA TANGANYIKA 等と表示されるようになり、これは Q.Elizabeth II シリーズにも継承されてゆきます。



第 II 次世界大戦終了を契機とし、その後これ等 3 つの地域はそれぞれ独立を果たし、ウガンダ共和国 (Republic of UGANDA)
首都:カンパラ、通貨:ウガンダシリング
言語:英語、スワヒリ語、ルガンダ語
国連加盟:1962 年 10 月
ケニア共和国 (Republic of KENYA)
首都:ナイロビ、通貨:ケニアシリング
言語:英語、スワヒリ語
国連加盟:1963 年 12 月
タンザニア連合共和国 (United Republic of TANGANYIKA)
首都:ダルエスサラーム
通貨:タンザニアシリング
言語:スワヒリ語、英語
国連加盟:1960 年 9 月としてそれぞれ独白に切手を発行しています。



閑話休題

さて学生時代せっせと英領切手を集めていた頃には夢想だにできなかったあの東アフリカの地ケニアのライオンの国へひょんなご縁から行くことになった。そのいきさつはさて置き2003年3月10日成田空港からKLMでアムステルダム経由ナイロビへと旅立つた。

◎ナイロビ NP(ナショナルパーク)

成田・アムステルダム間の飛行約11時間、アムステルダムでの乗継ぎ待ち約5時間、アムステルダム・ナイロビ間の飛行約8時間、それに加えてケニア日本の時差6時間、一体どこがどうなっているか分からない状態で現地時間3月11日午前6時過ぎ無事ケニアツタ国際空港に降り立った。早朝の空港は想像していたよりも清潔で空港ビルも近代的だ。朝が早いせいかあまり暑さも感じず迎いのマイクロバスで市中心部のナイロビヒルトンHへ向かう。道すがら早朝にもかかわらず大勢の人・人・人が何をするので無く両側に屯し我々の通るのをじっと見つめている。また道の両サイドに植えられたアカシアの大きな街路樹の並木

の梢には鶴程の大きさのアフリカハゲコウが無数群がっている。その鳥たちの大きさ、その数の多さ、そしてすぐ手の届きそうな場所に群がっている様等にいよいよアフリカの地へきたものだどと膚で感じた。

ナイロビ NPは市中心部からも、空港からも30分足らずの至近距離にあり、かって此処から迷い出たライオンが空港ロビーへ入り込み一時空港を閉鎖すると云う騒ぎもあったと言う。NPの入口には鉄のゲートがあるものの一步中へ車を乗り入るとそこは見渡す限りの草原と灌木と赤土のサバンナの大地だ。サファリカーはその広い草原を野生動物を求めて走り回るとの。インパラの群やキリンの家族、水辺ではエジプトガンの群、カンムリ鶴の夫婦等に遭遇する。夕暮近くなり帰途についた我々の行く手に忽然と地から沸いたようにアフリカバッファローの大群が現れ車はその場に立往生した。目と鼻の先に、小型トラック程もある大きな角を持った真黒な牛の群が立ちはだかり、赤い目でこちらを窺うように睨まれると興奮を通り越し恐怖感を感じさせる。ドライバーから「声を出すな」「音を立てるな」と注意されその場で息をこらすことしばし、やがて大群は静かに移動を開始し我々もやっと解放された。気が付くと両手の平に冷汗をじっとりかいていた。帰途夕闇迫る丘の上の残光を受けて黒いシルエットを浮かび上がらせていた二頭のライオンの姿は、まさにあ

めて走り回るとの。インパラの群やキリンの家族、水辺ではエジプトガンの群、カンムリ鶴の夫婦等に遭遇する。夕暮近くなり帰途についた我々の行く手に忽然と地から沸いたようにアフリカバッファローの大群が現れ車はその場に立往生した。目と鼻の先に、小型トラック程もある大きな角を持った真黒な牛の群が立ちはだかり、赤い目でこちらを窺うように睨まれると興奮を通り越し恐怖感を感じさせる。ドライバーから「声を出すな」「音を立てるな」と注意されその場で息をこらすことしばし、やがて大群は静かに移動を開始し我々もやっと解放された。気が付くと両手の平に冷汗をじっとりかいていた。帰途夕闇迫る丘の上の残光を受けて黒いシルエットを浮かび上がらせていた二頭のライオンの姿は、まさにあ



のGeogeV10cのライオンそのものでまことに印象的であった。

◎ケニアからタンザニアへの道

ナイロビを早朝出発した車は割合に良く舗装された国道A104を100km以上のスピードでつつ走り3～40分位で市街地を通り抜けると、そこは家一軒もないサバンナの真只中の一本道だ。時折沢山の牛を連れたマサイ族らしき人に行き合う。このあたりには全く家もないのに歩いている人や自転車に乗って行く人を見かけた。何とも我々には理解し難い光景であった。聞くところによると自転車は彼等にとって高級な乗物であり高価な財産なのだそうだ。

税関や出入国管理の事務所があるナマンガは成程これが国境の町かとうなずける雰囲気現地の人達でごった返している。厳重に警備された検問所があるのだがマサイ族の人達はそれに関係なく自由に両国を行き来出来るのだそうだ。実際ケニア側からタンザニア側へ、そしてその反対側へ大きな荷物を頭に載せたり背中に負ったりしたマサイ族らしき人達が勝手に検問所を通り抜けており、警備の兵士も別に何の咎めもしていなかった。ここまで来ると流石に日本人旅行者は見かけず、ヨーロッパ系の人も僅かしか見られず、殆どの人がアフリカ系だった。例によってお土産を売りつけてくる人達をかき分け、歩いて通り抜ける国境も無事通過しタンザニア側で再び別の車に乗り換え一路マニヤラ湖NPを目指す。道路はケニア側と比べ舗装も格段に悪く、この国の経済状況を表しているようだ。道路の東側には4500mm余のMt.MERUが青空に餐え山裾まで真白い花をつけたアカシアの林が続いている。このあたりはアルーシャ



NPの一角だ。

高原の町アルーシャを過ぎると道はA104と別れA144へと入る。道路状況は更に悪くなる。しばらく行くと山路にかかり、どんどんと登りにかかった。このあたりから道路工事が始まっており赤土の揆だらけの未舗装の道をジグザグ登ると、工事現場わきの建物に日の丸と日本の建設会社の社旗が風にはためいている。聞くところこの道路は日本の経済援助により現在建設中だとのことであった。やがて高原状の所まで登りつめるそこは今夜の宿レイク・マニヤラHだ。

◎レイク・マニヤラ NP

赤道直下の夜明けは思ったより遅く、翌朝は日の出前に起き出しほの暗くひんやりとしたホテルの庭に出てみる。庭のはずれは断崖絶壁で直下に200mm程落ち込みその先には黒い森が続く。やがて広い草原が広がりその先に白く霞む果てしない様に思える湖が広がっている。やがて日が昇り辺りが明るくなってきた。目を凝らしてみると草原に何やら黒点の様な物が蠢いている。



フラミンゴ、ペリカンの大群（レイク・マニヤラ）



親子の像 (レイク・マニヤラ)

部屋にとって返し 400 mm の望遠レンズを通して改めて見ると何とそれらの黒点は全て動物、インパラ、ガセル、ジラフ、バッファロー、エレファント etc…ピンクの霞に見えたのは何万羽とも思えるフラミンゴの大群であった。まさに大地から忽然と生き物が湧き出して来たと思える感動の一瞬だった。ここは今回訪れた NP の中でも特異な存在で、湖に面し、高地の照葉樹森の中にあり、鬱蒼とした緑のジャングルに周囲の山から数々の溪が流れ込み、樹木間を湖に下ってゆく。これまで茶と黄色のみのサバンナの世界に慣れた目には、とても新鮮で瑞々しい光景だ。葉を繁らせたバオバブの大木の間を 10 数頭の象の群が通り過ぎてゆく。親に逸れまいと母親の尻尾に小さな鼻を巻きつけてよちよちよ歩く小象の姿は何とも言えない可愛らしさだ。たった一匹群から離れた巨大な雄象が枝をへし折りへし折り食事中のところ、我々の接近に負け、くるりと向きを我々に変え、これ以上近付くと只では済まないぞと大きな耳をグタつかせ頭と鼻を上にあげ威嚇してくる等々、象の生態に間近かに接して驚く。

森を抜け疎林に入ると 20 数頭余りの雌に囲まれ一匹ゆうゆうと

草を食む雄のインパラのハーレムをうらやんだり、たった今朝風呂から上って来たばかりのていよらしく体中ぴかぴかと水に濡らした河馬が我々の直前に立ち止まり、一寸と一瞥をくれた後ヨチヨチと足早やに前を横切りブツシュに走り込むユーモラスな姿に大笑しながら湖に近づくと、そこには何万羽と言うフラミンゴ、ペリカン等の乱舞が待ちかまえていた。

◎ンゴロンゴロ CA (コンサベーションエリア)

外側を 6 ~ 700 mm の外輪山に囲まれた直径 16 km 余の噴火口と、そこに出来た数々の湖と草原はライオンの楽園のようだ。丁度ライオンの繁殖期に当たりカップルになったライオンをあちこちで見かけた。残念ながら交尾の現場にはでくわせなかったが、べたべたのハネムーンカップルには随所で遭遇した。彼等は何週間に亘りカップルを続け、この間はそのことだけに集中するのだそうだ。道理で我々の車が彼等のすぐ手の届きそうな所まで近寄ってもどこ吹く風の知らん顔であった。外輪山を背景に遠くに佇む黒サイの姿がばかに印象的だった。

(次回へ続く)



朝風呂帰りのカバ (レイク・マニヤラ)

切手のおかげ

小川 義博

切手に興味を持ってからはや半世紀、人生の多くの日々、切手に目を向け、触れてすごしてきた。このことは家族にも何らかの影響を与えてきたことは否めない。特に、50年誌にも触れたが切手研時代から続くオーストリアから年に4.5回は届く美しい切手を貼った書状は娘たちに外国への関心を育てたことを痛感している。その娘たちから思いもかけない楽しみを教えてもらったのも切手のおかげだと感謝している。

15.6年前カーディフそしてエジンバラで生活をするようになってしまった娘からビール好きの父に数枚のウィンザー城を描いた5£切手と7.8種類のマーチン・デシマルシリーズ切手を貼った重い小包が届いた。当時は珍しいビールの素の缶詰であった。これが意外に作り方も簡単、味も一様で利き酒も難しい日常のビールよりはベルギービールに似たいろいろな味を味あわせてくれるものであった。以来、病みつきになり年に数回は取り寄せることが続いている。おかげで10£にはじまる高額切手使用済みが分厚く集まることとなった。

この自ビール造りを始めて、ビールを扱った切手の少ないことを知った。ドイツではビールに関係する2種類の切手が発酵されている。この切手を紹介しながら自ビールの作りを紹介する。下に図示する80pfの切手はビール醸造法450余年を記する切手である。このビール醸造法はビールとは大麦、ホップ、酵母、水で作るものでそれ以外の

ものを使用したものはビールと認めないという法律で現在も生きており、日本のビールのように米とコンスターチ等を混ぜたものはドイツではビールと認められない。描かれているのは醸造師（ブラウマイスター）の紋章（麦芽を作るとき使うシャベルと仕込みに使用する櫂と柄杓の組合せ）と麦芽とホップを大鍋で煮込んでビールの素となる麦汁を作成している光景である。この煮込みを現在は産業技術シリーズの130pf切手のような麦汁煮沸釜で行っている。これ



鍋で1時間程度ビールの素を煮沸させる



な度と本

は糖分を煮出す過程で、我が自ビールでは鍋で缶の水飴状のエキスを煮て水で延ばす過程にあたる。その後は大きなポリバケツに移して酵母を入れおくと半日ぐらいで発酵が盛んになってくる。1週間程度たら瓶に詰めて完成度は水の量で調整する。1缶で大瓶30~37.8このように、缶詰を利用する限りは非常に簡便な作業でできてしまうが、大変な

作業は清潔な瓶を準備することである。通常の状態に置かれたビールの空き瓶は底にカビがこびり付いておりカビをとる作業に非常に労力を費やされる。

瓶詰め作業の後にはラベル作成という楽しい作業がある。この作業にはかなり切手からアイデアをもらっている。またこの作業はパソコンを使用しての作業となり、画像の取り込み、修正、トリミング、文字フォントの選択サイズ調整と通常の記事主体の入力作業でなく、かなりパソコン周辺機器の操作、ソフトへの精通が求められる。こ



1983年ビール醸造法450余年を記念するドイツの切手

の作業のお蔭でパソコンの操作能力がどれだけ幅広く深くなったことかと考えさせられる。



自ビールのラベル

ピルスナーからフルーツビールまでかなりの種類を楽しんでいた頃、オーストリアから現在ビールの大半を占めるピルスナータイプビール発祥の地、チェコのピルゼンにビール博物館があることを伝えてきた。詳しく問い合わせているうちに博物館を見に来るついでにオーストリアに来ないかという便りが届いてしまった。そして妻、末娘と3人、ビールを楽しみ、40年来の友人を訪ねる旅をすることになった。

ビール博物館は恵比寿にある麦酒記念館と異なり家内工業的にビールを造っていた時期の展示が主で自ビールを嗜む者には大変興味あるものであった。特に冷却装置のない時代に氷塊を地下に積み、喉越しさわやかな下面発酵ビールを醸造していた設備とそれを作り上げた努力には日本とは異なるビールへの思いを感じさせるものがあった。その思いを噛みしめつつ、博物館に隣接するパブで喉を通った良質の軟水とホップを産するこの地のピルスナーユンケル1パインのなんと美味であったことか。

この旅行で思いがけず世界遺産としては珍しい鉄道施設を通ることができた。オー

ストリアの切手に描かれているゼンメリンク峠を越える鉄道、数多くの美しい石造りの鉄橋、隧道である。オーストリア帝国がアドリア海に面する唯一の海港であったトリエステにウィーンから鉄道を結ぶための大工事を1850年代に行ったものである。



1971年都市間快速鉄道サービスを記念するオーストリア切手
ゼンメリンク峠クラウゼルトンネルを走り抜ける快速列車



ゼンメリンク峠の景観

旧信越本線碓氷峠の風景を思い出させてくれたが、それを遥かに越えてアーチ型鉄橋が連なり非常にきれいな景観を車窓に見せてくれる素晴らしい鉄道の旅を経験した。

車窓に美しい鉄道を眺め、友人から差し入れられた長年の懸案だった本場のブレッドソーセージをつまみにピルスナービールを飲みながら至福のとき、しみじみと切手のお蔭を深く感じたことを思い出す。

漁業、大空襲、そしてカーナビと切手 ＜その1＞

府川 宏昭



2002年山口県ふるさと切手
白長須鯨と下関風景

2003年、この稲フィラのメンバーは、上越方面に1泊の旅に出ました。その折、新潟、能生の港に舫う紅ズワイ蟹漁船の籠を見て、その漁法を数人の方に披露し、更に弾んで、捕

鯨の話になりました。これを聴きつけた分科会の幹事が、"切手教室でその話を(せよ!!)"。一方、本誌の(心優しい?)編集長は"一つ寄稿を、(ただし、断れないのだ!!)"と。二人の、ワルイお方の耳に入ったものでした。

閑話休題、私は、魚を獲る漁業、漁撈の会社に籍を置いていた訳ではありません。その周辺で糧を得ていました。「北転船」と呼ばれた遠洋底引網漁船で、北緯55度のカムチャッカ半島西沖の助宗鱈漁に、また中部太平洋、ミッドウェーの中程まで鰹を追う鰹船に乗って、機器のテストや効果などを確かめるために行ったこともありました。一方、切手収集の方は、仕事の忙しさに感(か)めて、を理由に、当の昔に止めてしまいました。本誌に寄稿される諸兄の足許にも及びません。

本稿は、先の切手教室でお話した事柄に加筆したものです。内容が面白くも、可笑しくもなかったときには、ご容赦のほどを。

前置きはこれくらいにして、本題に入り

ましよう。

日本人は明治開化まで、殆ど肉を食べていませんでした。それは遠く1330年程前に遡って、天武4(675)年4月、時の朝廷から殺生と、牛、馬、犬、猿、鶏などの肉食を禁じられたことにあります。

従って、魚類と豆類に、日本人は必要な蛋白源を求めたのではないかと推察します。

そこで、皆さんのご家庭の食卓にのぼるお魚を列举してみましよう。

春の初めを告げる鱈、初夏の鰹、夏なら関西では鱧、秋にかけては秋刀魚、鯖、鰯、冬になれば鰻、ちり鍋の鱈や、煮付けの鰯、かつての関東では正月用の新巻鮭、そして周年では、一番消費の多い刺身の鮭、めでたい鯛、照焼の梶木。魚ではないけれど、古くは太平洋戦争後、学童だった我々世代の給食や会社の昼食に出された定番、鯨の龍田揚げ、鯨かつ。その一方で高価な鱈場蟹、松葉蟹、また烏賊の類。

なんて種類が多いのでしょうか。そして、季節感がありますね。では、先ずその漁法について述べてまいりましよう。

1. 漁業(漁携)

(1) 捕鯨

最初に捕鯨を取り上げました。1982(昭和57)年に捕鯨に関するモラトリウムが決定し、商業捕鯨は全面禁止の憂き目に遭いました。

5年後の1987(昭和62)年3月14日、



第2次新昭和切手
捕鯨

第3日新丸船団が、ミンク鯨 1,941 頭の捕獲を終えて南氷洋を後にし、1934(昭和9)年から53年間も続いた捕鯨の歴史もその幕を閉じたのです。

その後は南氷洋での調査捕鯨と、日本沿岸での小規模な捕鯨だけになりました。

a. 鯨の種類としては大きく

鬚鯨ひげくじらと歯鯨はくじらの2つに分かれます。

①鬚鯨は、

上顎じょうがくに口蓋こうがいの一部が変化した鯨鬚そなを具えて、プランクトンの「沖あみ」や小魚を鬚で漉して食べます。いうなら、鬚はフィルターの役目を果たしています。その仲間は、白長須しろながす(簀)鯨、長須ながす(簀)鯨、鰐鯨いわし、座頭鯨ざとうくじら、似たり鯨こいわり、小鰐こいわり(ミンク)鯨、背美鯨せみくじら、小背美鯨こくくじら、北極鯨つの上ま、克鯨つの上ま、[角島鯨(新種)]です。一方の

②歯鯨は、

牙状の歯だいおういかで、大王烏賊や魚を噛んで食べます。歯鯨は聴覚が発達していて、声帯が無いのに喉や鼻道で高周波音を発し、その反射音で水中の物体を探知しているのだそうで、ソナー持ちなのです。超音波レーダを持っている蝙蝠こもぎの水中版です。

その仲間は、抹香鯨まっこう、小抹香鯨こまっこう、槌鯨つち、赤坊鯨あかぼう、北德利鯨きたとくり、南德利鯨なんとう、巨頭鯨こひれ、小鰐こいわり、鯨ごんとう、小鰐巨頭鯨こひれごんとう、鯨しやち、その他の海豚類となります。

現在、ミンク鯨と一部の海豚類を除き大型の鯨はもちろん殆どの鯨は、捕鯨禁止です。また一般的に4m以上を鯨、それ以下を海豚と呼んでいるようです。

b. 役割分担と漁法

昔の南氷洋や北太平洋の捕鯨船団(いわゆる商業捕鯨)では、原則的に、その役割分担が決まっていました。

それは、1隻の母船に対して捕鯨船は、調査探鯨に当たる船が2~3隻、捕鯨が主力の船が10隻ほど、集曳鯨に当たる船が2~3隻で、1船団を編成します。

その漁法は、

①調査探鯨船は目視で鯨の群を探し、発見したら、捕鯨担当の船に無線で位置、頭数他を連絡します。

②捕鯨担当の船は急行して鯨を撃ち電気ショックを与えて仕留め、圧搾空気を注入して浮かせ、ラジオ・ブイ(無線浮標)を着け、電波を出して



ラジオ・ブイ

③集曳鯨船は無線方位測定(方向探知)機で、捕獲した鯨に着けたラジオ・ブイから発射される電波の方向を把



無線方位測定機

握し、追跡します。④鯨を確保したら、舷側に抱えて、母船へ24時間以内に戻ります。なぜなら鯨は哺乳動物です。例外もありますが、厚い脂肪層を持っているため、自らの体温で腐ってしまうからです。

c. 現在、母船1隻、捕鯨船4隻の調査捕鯨では、主とするミンク鯨500頭と似たり鯨200頭を捕獲しています。

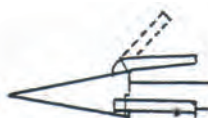
d. 沿岸捕鯨では、槌鯨62頭、巨頭鯨120頭の捕獲が許可されています。基地は全国で4か所、房総・和田、牡鹿・鮎川、北海道・網走、和歌山・大地だけになりました。

e. 捕鯨砲もりの銚すいは、先端形状がその昔の鋭角から直角になり、波や鯨に弾かれず命中率が飛躍的に向上しました。

f. 日本が改良、或は開発した無線方位測定機とラジオ・ブイがなかったら、効率的な操業はできなかつたろうといわれていまし

捕鯨砲の銚

先端形状鋭角の銚



先端形状直角の銚





産業図案切手 捕鯨
先端形状鋭角の鉾が描か
れている

た。それは延縄、刺網、籠等の漁法も全く同様です。

g. 近距離の潜った鯨を水中で探査するには、鯨探が活躍しました。原理は潜水艦が装備しているソナーと同じだと思います。

h. 日本人は、鯨の全てを活用、利用してきました。肉や内臓は食用、鯨油は石鹼や燈油、歯は装身具に、鬚は継竿の先端や工芸品に、骨は肥料になったのです。

巻網（施網）、巾着網

(2) 巻網（施網）、巾着網

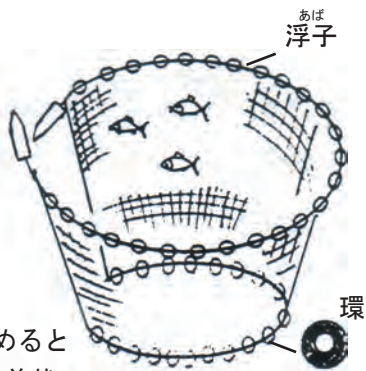
次は巻（旋）網です。
a. 対象魚は、鯆、鯖、鰯、鰺、鱈（青年期は青筋魚）、鯉、鮪等です。

b. 漁法は、一網打尽的に魚群を網でとり囲み、その囲みを狭め、網裾を締めて獲る方法です。船団は「統」と呼びます。

① 近海の1か統は、網船1隻に対し、探索船が2～3隻（西日本では灯船船とも呼び）、運搬船が2～3隻で構成されます。

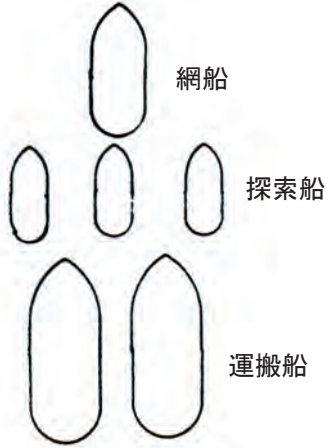
西日本の、東シナ海での操業は、底層の魚群を魚探で見つけたら、探索船が海中で電灯を点し、魚群を表層まで誘き寄せて、網船がこの魚群を巻いて獲ります。

② 沿岸では小型船の2艘施が主です。
③ 鯉鮪の大魚群を狙う遠洋での大型旋網もあります。1艘施です。



環を締めると
(逆)巾着状

統（船団）



(3) 延縄

a ① 表層、中層の浮延縄では、主として回遊魚が対象です。

鮪は、本鮪（黒鮪（しび））、黄肌鮪、目撥鮪、鬚長鮪（びんなが、とんぼ）

梶木（旗魚）は、目梶木、真梶木、芭蕉梶木、黒（皮）梶木



（鮫は混獲で、鱧鱈、練製品に）…以上遠洋、（近海）

河豚（鰻）～真鰻、虎鰻、鯖鰻

その他…以上近海

② 底延縄

海底深く棲む底魚が漁獲の対象です。鱈類では、真鱈、助宗鱈、銀鱈等で、目抜、喜知次（きんき）、金目鯛（鯛類ではありません）、その他です。

かわうその祭り

磯野 昭彦

新聞の連載小説なんて、ここのところ無縁の存在、連載まんがもサザエさん終了後はほとんど見ていない。しかしときにはあっと驚くときがある。

この4月、朝日新聞夕刊3面の下の方に切手らしき絵がちらりと目に入ってきた。あれっと目をやると、なんと連載小説「かわうその祭り」の挿絵。すばらしい切手だ。(図1)

この連載を読んでいる方は、私のこの駄文は見捨てていただきたい。しかし、読んでいない方は、ちょっと気にして欲しい。こんなに古き時代の切手を話題にできる連載小説がいまだに現れるんだと。

切手は第2次昭和切手4銭(図2)だと思った。ところが額面4銭のはずが5銭になっている。

色も青なので変だなとも思った。今までこの連載小説を連続して読んでなかったので、筋はどうでもいい、何を綴っているのかなと読みだしたら、なんとこの切手は玩具のラベルで贋切手とあった。

読んでみると面白い、小説ではなく戦後の切手ブームの裏話みたい。内容を少し紹介しよう。

いきなり、贋切手ということばがでてきた。戦争終わって7年、高校1年生が文通と切手収集に夢中の中、外国の文通相手から「この切手はカタログにない」と。この切手をよく見ると富士山の傍らに八角形の

満州国を象徴する遼陽白塔が建っている図柄、さらに菊の紋章をはさんで「大日本満州国郵政」とある。

文通相手はお得用「日本切手100種詰合せ」を通信販売で買ったという。この高校生が懇意の切手商に持ち込んだら「輸出用のバケットのやり方で、1割は贋切手や傷物切手を混入してある」と教えられた。正規の切手商でない輸出業者がアパートの一室で1人か2人で詰め合わせているので実態はまったくわからないらしい。切手バケットの1割はクズであることは戦前からの常識とのこと。「しかし、大日本満州国郵政とは、よくぞ考えたねえ。外国人は正規の切手と思い込んでしまうよね」。それから、しばらくたって、収集仲間から「大日本満州国郵政」の切手を作っている業者は、満州切手の収集家といううわさを聞かされた。この高校生はその業者を訪ねることにした。

その数回後には前島密の1円切手(昭和42年以降)の挿絵が載っていた。(図3)

この後、続けてこの連載を読んではいないが、この高校生は切手商に弟子入りし、映画の古フィルムとか古書とか春本などいろいろなコレクションをも商売の種にするかしまいかの日々を送っているようだ。

作者は出久根達郎、画は土橋とし子。それにしてもいろんなことをよく知っている出久根達郎に脱帽。さすが小説家。

おしまい



(新聞連載の挿絵)

図1



図2



図3

2003年発行郵趣誌ほか掲載「稲門フィラテリー」会員および誌友の記事

編：小林、池澤、甲斐

全日本郵趣（日本郵趣連合）

1月号	「1990-99の郵趣雑誌に見る外国切手記事(21)」	正田幸弘
2月号	「1990-99の郵趣雑誌に見る外国切手記事(22)」	正田幸弘
3月号	「1990-99の郵趣雑誌に見る外国切手記事(23)」	正田幸弘
4月号	「1990-99の郵趣雑誌に見る外国切手記事(24)」	正田幸弘
5月号	「1990-99の郵趣雑誌に見る外国切手記事(25)」	正田幸弘
7月号	「1990-99の郵趣雑誌に見る外国切手記事(26)」	正田幸弘

郵便史研究（郵便史研究会）

第14号	2002年9月	開港当時の在日欧州系商館発着書簡	(1) 小林彰
第15号	2003年3月	開港当時の在日欧州系商館発着書簡	(2) 小林彰

切手研究（切手研究会）

418-419 合併号書評	「Leonard H.Janssen, Parity of Currency in Postal History	正田幸弘
418-420 合併号書評	大西二郎、日露戦争と大阪の俘虜収容所	西村壽一郎

たんぶるぼすと（鳴海）

No.01	日本郵趣会の盛衰⑥（古庄昭夫さんのこと）	高馬邦夫
No.02	日本郵趣会の盛衰⑦（印度の旅に学ぶ）	高馬邦夫
No.03	日本郵趣会の盛衰⑧（郵趣会の功労者）	高馬邦夫
No.04	日本郵趣会の盛衰⑨（大コレクターの条件）	高馬邦夫
No.05	日本郵趣会の盛衰⑩（なんでも鑑定団）	高馬邦夫
No.06	日本郵趣会の盛衰⑪（忘れ得ぬコレクター）	高馬邦夫
No.07	日本郵趣会の盛衰⑫（オークション）	高馬邦夫
No.08	日本郵趣会の盛衰⑬（コレクターは経営者）	高馬邦夫
No.09	日本郵趣会の盛衰⑭（掘り出し物）	高馬邦夫
No.10	日本郵趣会の盛衰⑮（バランス）	高馬邦夫
No.11	日本郵趣会の盛衰⑯（ニセ物語）	高馬邦夫
No.12	日本郵趣会の盛衰⑰（切手と投資）	高馬邦夫

郵趣研究（切手の博物館）

2003-4/53号	海外の郵趣誌から（ISJPモノグラフ、1870年代・日本の内国送達宛名日 フィラ・スリー・ホークス（日本郵趣協会三鷹支部）	小林彰
第130号2003年1月	お便りコーナー	大谷博
第131号2003年2月	お便りコーナー	大谷博
第132号2003年3月	大谷博さんを偲んで	横佩道彦・多賀 正男
第134号2003年5月	諸外国の切手展（10）	正田幸弘
第137号2003年8月	植民地ブラジルにおけるポルトガル郵政	正田幸弘
第140号2003年11月	19世紀のブラジル国内郵便	正田幸弘
方寸（方寸会・JPS杉並支部）		
01月号	『「はやて」に乗って』	甲斐正三
02月号	『ルボン砲兵大尉の書簡』	小林彰
10月号	『JPS 松本理事長講演、ワンフレーム・クラスの楽しみ』	湯川宗昭 記
12月号	『シンガポールの昆虫切手』	石井道久
フィラ関西（関西郵趣連盟）		
01月号	「新新・紙の宝石（8）、1878年1シリング vemillion 目打15」 「小判切手の最古使用例」 稲葉良一	正田幸弘
02月号	「新新・紙の宝石（9）、1881年4ペンス臨時加刷」	正田幸弘
03月号	「新新・紙の宝石（10）、1881年1/2ペニー臨時加刷横棒抜け」	正田幸弘

05月号	「新新・紙の宝石(11)、1879年25サンチーム無目打」	正田幸弘
06月号	「新新・紙の宝石(12)、1881年5s背景逆刷と1882年5s色エラー」	正田幸弘
07月号	「新新・紙の宝石(13)、1868年スエズ運河会社切手」	正田幸弘
08月号	「新新・紙の宝石(14)、1838年New South WalesのLetter Sheet」	正田幸弘
09月号	「新新・紙の宝石(15)、1919年North West Pacific Islands」	正田幸弘
10月号	「新新・紙の宝石(16)、1869年Ru mm ing Chicken 消力バー」	正田幸弘
11月号	「新新・紙の宝石(17)、1919-22年在中国アメリカ郵便局」	正田幸弘
12月号	「新新・紙の宝石(18)、1870年St.Lucia ローカル切手」	正田幸弘
	「郵趣」	
2003年1月	JAPEX 審査総評	稲葉良一
2003年1月	近頃おもしろいマテリアル⑦共通図案ジョイントイッシューの話	大谷博
2003年2月	近頃おもしろいマテリアル⑧盛り上げ印刷の切手の話	大谷博
2003年2月	主要各国の最新切手発行政策①「商品としての切手」	甲斐正三
2003年3月	近頃おもしろいマテリアル⑨写真つき切手・Pスタンプ	大谷博
2003年3月	主要各国の最新切手発行政策②「利便性の追求・シール式切手帳」	甲斐正三
2003年4月	追悼大谷博さんを悼む	渡辺勝正
2003年4月	主要各国の最新切手発行政策③「収集の基本にかかわるサービス」	甲斐正三
2003年5月	主要各国の最新切手発行政策④「販売促進あの手この手」	甲斐正三
2003年9月	書評:JPS カタログ「フランス切手2003-04」	甲斐正三
	「スタンプ・マガジン」	
2003年1月	切手は語る 205 ローマ法王世界を行く	大谷博
2003年1月	テーマチックコレクションABC73 世界の風は色とりどり	大谷博
2003年1月	ジャポニカ野口英世の肖像	瀬古耕介(※)
2003年2月	切手は語る 206 ヒツジの貢献度は抜群	大谷博
2003年2月	テーマチックコレクションABC74 文字ばかりのデザイン	大谷博
2003年2月	ジャポニカ外国切手に登場した日本の首相	瀬古耕介
2003年3月	切手は語る 207 春を告げるアコーデオン	大谷博
2003年3月	テーマチックコレクションABC 最終回タマちゃんの仲間たち	大谷博
2003年3月	ジャポニカ <フィラコーリア>と日の丸	瀬古耕介
2003年4月	切手は語る 208 愛すべきテントウムシ	大谷博
2003年4月	ジャポニカ日本人宇宙飛行士の活躍	瀬古耕介
2003年4月	訃報・大谷博さんご逝去	
2003年5月	大谷博さんへの追悼	
2003年5月	さようなら「切手は語る」	
2003年8月	切手歳時記「海水浴」	湯川宗昭
2003年10月	ブック・トピックス大谷博「切手ワンダーランド」刊行予定	
2003年12月	トピカル最初の1枚フランスの名優ジェラルド・フィリップ	甲斐正三
2003年12月	フィラメイト・スポット大谷博著「切手ワンダーランド」	
	※大谷博氏のペンネーム	
	「毎日小学生新聞」	
2003年11月	とっても喜んでくれた!カンボジアの子どもたちに文房具などプレゼント	甲斐正三
	山ぼうし(山ぼうし会)	
2003年8月	ケアの切手とカンボジア	甲斐正三
2003年11月	映画の切手つれづれ	甲斐正三
	切手(便文化振興協会)	
2632号	8月2日平成15年度東京地区切手教室の開催 ◎定期切手教室B~Cクラス(経験者)	
	〒169-8799 新宿北郵便局開催回数4回(9,10,11,12月の第一土曜日)開催時間14:00-16:00	
	[編集註]本切手教室の開催は稲門フィラテリーの協力による	

渡辺勝正氏が「軽便鉄道」を出版

- 昭和戦後を生きた小さな旅客鉄道回想 -

戦後間もない頃から、「切手収集家」と「鉄道ファン」が増えていき、両者は2大趣味といわれたことがある。今ではどちらも若者が少なくなったが、根強い趣味人のエネルギーによって、活動は支えられている。

JRの正規線路幅(1067mm)より狭い線路を走る鉄道を軽便(けいべん)鉄道と呼び、貴重な風姿を「鉄道ファン」が書にまとめた。版元の大正出版(社長:渡辺勝正氏)は、中島健蔵、水原明窓らによって創設されて27年がたち、鉄道書の刊行はすでに100冊を超えている。

早稲田大学創立125周年

記念事業募金の御礼

当会機関誌稲門フィラテリー第9号、昨年度総会時等にてお願いしておりました「早稲田大学創立125周年記念事業募金」は、下記の通り皆様のご協力により募金目標額を達成することができ、大学に寄付することができました。大変ありがとうございます。

寄付してくださった方へは既に大学から礼状と領収書が届いているかと存じます。

記

募集期間:平成15年12月~16年3月

寄付金総額:204,000円

寄付金納入先:早稲田大学総長室募金課寄付

金納入日:平成16年4月7日

寄付者団体名:稲門フィラテリー

寄付者内訳:会員42名

寄付者氏名:早稲田学報に氏名掲載

(平成16年6月号の予定)

編集後記

本庄早稲田駅開業の日、記念のオレンジカード類は早朝に完売、残念なことをしました。新切手発売の日の行列は、遠い過去のこととなってしまったことを思い出させた一日でした。

今回、小林氏からの提案で、会員が郵趣誌等に書かれた記事を一覧表に作成いたしました。会員の皆様のご活躍を期待いたします。また、このような提案がございましたら、遠慮なく編集まで連絡をお願いいたします。

分科会活動報告(切手教室)

- ◎「第17回切手教室」(12月6日)
府川宏昭氏「漁業、大空襲そしてカビと切手」
西村壽一郎氏「年賀・年賀状解説」
- ◎「第18回切手教室」(2月7日)
小西邦彦氏「切手図案のいろいろ」
小林彰氏「フランス横浜郵便局」
- ◎「第19回切手教室」(3月6日)
黒川清知氏「切手もきれぬエニシ」
宮鍋益治氏「切手収集の楽しみ」
- ◎「第20回切手教室」(4月3日)
磯野昭彦氏「郵便物自動読取区分機の解説と見学会」

会員所有の大学関連コレクション リストについて

大学史資料センターからの依頼により稲門フィラテリー第10号で標記の情報提供をお願いしたところ、市川鴻之祐、井上城、伊藤和紘、磯野昭彦の各氏から情報をいただきました。これら情報に加えて、切手研50年展(平成11年11月)、大隈講堂切手発行記念展(平成13年10月)、早稲田大学野球部百周年記念写真展への出品(平成13年11月)の展覧記録を大学史資料センターに提供いたしました。

残念ながら、目的の一つであった安部磯雄展(3月~4月開催)には、これらコレクションは要とされませんでした。しかし、いくつかのコレクションは大学にはないので、いずれ提供いただくことがあるとのこと。なお、大学史資料センターでは秋に野球関係の展示企画をすることも検討中とのことでした。(磯野記)

稲門フィラテリー 第12号
発行日 2004年6月1日
発行 稲門フィラテリー
発行人 小熊忠三郎
〒226-0015
横浜市緑区三保町 2179-2-346
郵便擾替口座 00110-0-560458
「稲門フィラテリー」
編集担当 湯川宗昭・池澤克就
木元淳一郎・甲斐正三

稲門フィラテリー

第 13 号

2004 年 9 月 1 日発行

『杉原千畝記念館』を訪ねて

第 2 回稲フィラ見学旅行会

上田 克己

早いもので、あれからもう 1 年が経ちました。あれからって？ 勿論、昨年張り切って出かけた第 1 回の「稲フィラ見学旅行」からです。そして再び、この旅行記を記す役を仰せつかった次第です。それでは、記念すべき道中の顛末を……。

今回の見学旅行は“命のビザ”で知られ、早稲田大学ともゆかりの深い「杉原千畝記念館」を訪ね、帰路、我が国の歴史的な明治時代の建造物を集め保存する「明治村」に立ち寄ろうと言うものである。新宿を起点に、中央高速道路、東名高速道路で日本の中央をぐるりと回るドライブ行となる。

見学旅行の出発は平成 16 年 5 月 29 日午前 8 時。そして集合場所は昨年と同じ新宿駅西口。参加者は総勢 20 名、その内、名古屋在住の市川鴻之祐氏は途中参加されるので、新宿発は 19 名となる。また今回、特別参加者として杉原千畝氏の縁者としてご長男夫人杉原美智さんと、戦後、商社で杉原氏の部下であった川村秀氏が同行された。また、昨年、新潟への旅でお世話になった高橋氏は前日、新宿駅前に宿泊して参加してくれた。参加者名簿を見渡すと、稲フィラの会員は全員が還暦を過ぎている様子。昨年は若い会員も参加してくれたのだが、今年は皆無。会員の中には相当数、若い会員もいる筈で、次回からは是非多くの方に参加して貰いたいものである。“切手の蒐集”が素晴らしい趣味として、長く続くことも目的の一つとして「稲フィラ」が設立さ

れた事でもあり、積極的に呼びかけたい。(まさか、小うるさい先輩ばかりと言う事で敬遠されたのではないでしょうネ。後輩諸君…)

年齢の所為で前置きが長くなったが、兎に角、予定通り 19 人を乗せたバスは新宿を定刻に出発、首都高速から中央道に入り、本日の目的地、岐阜県の八百津町にある「杉原千畝記念館」に向かった。今回の幹事役は野島、府川の両氏。同期生のお二人は息の合った名コンビ振りを発揮され、最後まで一行を楽しませて下さったことを、まず最初に記しておく。

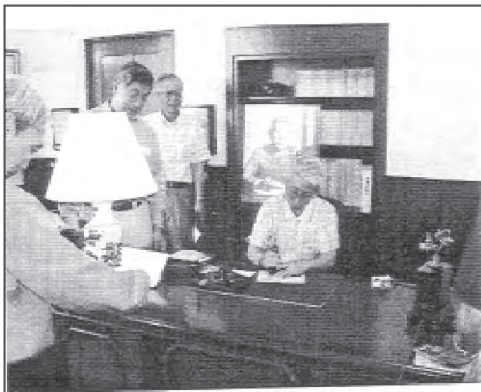
日頃、高速道路をマイカーで走行すると、どうしても前方ばかり眺める事になるが、こうしてバスに乗り、ゆったりした気分で左右の景色を堪能しながらのドライブは、また格別である。車中、世話役から行程の説明や注意があった後、「杉原千畝」の業績や経歴について、『決断・命のビザ』及び『真相・杉原ビザ』を刊行され、その偉業を広く知らしめようと活動されている渡辺勝正氏からレクチャーを受ける。更に、ご同行下さった川村氏と杉原女史からも、思い出話を聞かせて頂いた。千畝の行動には否定的な説を唱えられる向きもあるようだが、リスクを省みず「命のビザ」を発給し 6,000 人に上るユダヤ難民を救助された事は事実として残り、官僚的な対応では為し得なかった偉業である。

千畝は明治 33 年(1900 年)1 月 1 日、岐阜県八百津町に生まれた。その八百津町で

は同氏にちなみ、平成6年8月に丸山ダムに隣接する高台に「人道の丘公園」をオープン、続いて同氏の生誕100年にあたる平成12年(2000年)には杉原千畝記念基金をベースに公園内に「杉原千畝記念館」が設けられた。それが本日のターゲットである。

稲フィラー行は談合坂、諏訪湖のサービスエリアで休憩を取りながら快調に進み、駒ヶ根インターで一旦高遠道路を降りて「レストハウス駒ヶ根」で信州そばのついた昼食にありつく。ゆっくりと休憩をとって再び中央高速に戻り、長い長い恵那峡トンネルを抜けて、土岐インターに着いたのが午後2時過ぎ。ここで市川氏が合流され、ルート21、ルート418をたどって目的地「杉原千畝記念館」に到着した。

到着すると記念館の館長と八百津町役場の担当職員の方に迎えられ、記念館に隣接する山荘で千畝の業績をまとめたビデオを見せて頂くと共に館長が記念館設立の経緯などをご説明下さった。続いて記念館を見学する。館内には生い立ちから彼の仕事が写真や文献と共に展示され、勿論、「命のビザ」と呼ばれるビザの実物、多くの写真もある。「決断の部屋」と名付けられたコーナーには千畝のリトアニア・カナウスにあった領事館の執務室が再現されており、デスクに座って記念スタンプを、千畝になった気分(?)で押捺することが出来る。記念館の周りの公園内には様々な記念碑やモニュメントが設置されている。最も目を引くのがパイプオルガンをイメージさせるセラミック製のパイプ160本からなる公園のシンボ



ルモニュメントで、コンピューター制御によって「故郷の空」、「大きな栗の木の下で」などの曲を奏でる。周りは噴水で囲まれ、ライトアップもされる。さらに記念館のあるメモリアルゾーン入り口には、我等が早稲田大学寄贈による顕彰碑が杉原千畝像と並んで建立されている。ここで一行は校歌を斉唱、母校の先輩に捧げ、全員揃って記念撮影をして見学を終了、夕日を受けて「人道の丘」を去る。



バスは再び土岐インターから中央高遠道路を恵那峡インターまで戻る。今夜の宿は恵那峡奥戸温泉の「恵那峡グランドホテル」と立派な名前のホテルである。

部屋に入って、早速温泉に入浴。大浴場も露天風呂も大井ダムに面しており、眼下に絶景が広がる。勿論各部屋からの眺めもすばらしい。風呂から上がって、さて大宴会。バスの長旅にお酒の回りも良く、小学校の校歌まで飛び出すカラオケ大会で盛り上がった。それにしても遥か何十年も昔に歌った校歌を良く覚えている方が多いのには驚かされる。次いで幹事殿の部屋に集まって、昨年同様に持ち寄られたコレクションを拝見。フィラテリストの集いならではの風景となった。

翌30日も快晴に恵まれ、二日酔いの姿もなく全員元気に午前9時、宿を出発。再び高速道路を土岐インターへ。先ず訪れたのは美濃桃山陶「織部(焼)の里」である。この辺りに通じておられる市川氏の案内で窯元「創陶園」を訪れ、一行は「楽焼」を楽し

むことになる。時間が少なかったのが残念だったが、各人思い思いに素焼きの作品に絵付けを行う。2週間ばかりで自宅へ送り届けられることになるが、さてどのような名作、迷作が出来上るのか、心配と期待とが往き来する。また、当日は近辺で織部流の茶会、陶器市が開かれたりしていた。織部焼の展示も一瞥するのみとなったのは心残りであった。またの機会に是非ゆっくり見学したいと思いつつ、また再び高速道路を次の目的地へ向う。

小牧東インターで降りて向かったのは、博物館「明治村」。正直言って、小生これまで幾度となく訪れる機会があったのだが、その都度、敬遠してきたのだが、見ると聞くでは大違いと俗な表現だが大いに反省させられた。日本最古の溜池といわれる“入鹿池”のほとりに、在るワ在るワ、日本の西洋文化黎明期に作られた60余りの建造物が1丁目から5丁目までのゾーンに分けられ、学校、銀行、ホテル、兵舎、県庁や町役場、更には監獄まで揃っている。まだまだ、種々の商店や食堂、寄席などから有名な茶室や文人などの住宅までもが移築保存されており、その内には実際に当時の面影を残して営業している食堂もあり、寄席では吉本の芸人が出演中、教会では結婚式が行われていた。広い施設の中の移動には懐かしいボンネットバスが走る。市電に蒸気機関車まであるのには驚いた。とりわけ、稲フィラの面々を喜ばせたのが「宇治山田郵便局」。今も郵便局として立派に活躍しており、記念はがきを購入したり記念スタンプを押したりと充分に楽しませて貰った。折からの晴天で、散策、見学には汗をかくほどであったが、緑の木立に囲まれて清々しく過せたひと時であった。

明治村を満喫し、村内の食堂で遅め昼食をとり帰路に就く。帰りは小牧から東名高速道路に入り、一路東京へ。途中、浜名湖、富士川、海老名のサービスエリアで休憩をとりながら、車中では幹事殿が充分に準備されたお酒やビールで盛り上がり、満ち足



りた気分で二日間の旅を締めくくった。

新宿到着は予定通り午後の8時丁度。次の旅にも全員揃った上、更に多くの会員が参加されるよう願って、それぞれ家路についた。

今回の見学旅行では、名古屋からご参加くださった市川氏に大変お世話になりました。記念になる品々まで頂戴し、厚くお礼申し上げます。また、ご多忙中ご一緒に旅をして下さった杉原さん、川村氏にも紙面を借りて感謝の意を表します。また、今回の旅をご準備戴いた世話役の皆さんにもお礼申し上げます。本当に有難うございました。

さて、来年はどこへ行きますか？ 会員の皆さん、稲フィラの見学旅行は楽しいですよ。

次回は是非ともご一緒に……。お待ちしております。



地下鉄の切手

明城 興一

切手から始まって紙類の収集という病気にとりつかれ、記念乗車券の収集を思いついた、私は完全収集か出来そうな地下鉄に限定しようと決めました。当時日本では東京と大阪の2都市にしか地下鉄は開通してはいませんでした。それで割りと完集し易いのではないかと思ったのと、日本の地下鉄は昭和2年に開通しましたが、私も昭和2年に生まれたので地下鉄にしたのです。この地下鉄の開通記念乗車券の収集に打ち込んでいる中に名古屋・札幌・横浜・神戸と開通して、またそれぞれの都市も路線を増やしてくるなど忙しくなってきました。1977年地下鉄開通50年にあたり日本橋三越で地下鉄59年展が催されこれに荒井誠一氏の「世界の地下鉄切手のすべて」なる展

示がありました。荒井誠一氏のなんたるかを知らない私はこれを見たとき、自分は記念乗車券を集めており、切手も集めているのだから地下鉄の切手を集めようとすぐに思いつきました。そこが病気だと思います。

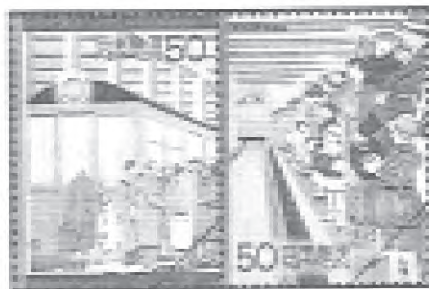
さて地下鉄はイギリス・ロンドンで1863年に開業し当時は蒸気機関車が客車を牽引していましたが1890年に電気機関車に変わりました。地下鉄開業は以外にもハンガリーのプタペストが世界で2番目で電車を使った地下鉄としては最初のもです。

日本では先に述べたように1927年12月30日に浅草・上野間が開通しましたが、この切手は1977年地下鉄50年として、また20世紀シリーズ第5集に、計3種発行されました。

日本では地下鉄の開業は大阪(1933)名古屋



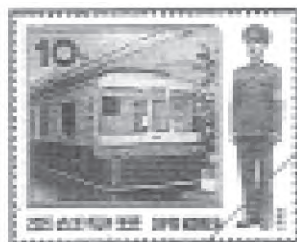
地下鉄開業50年(1977年)



20世紀シリーズ(東京地下鉄開業)(2000年)



世界の地下鉄建設
(1971年)



ボッシュエンの地下鉄
(1981年/1982年)



上海の地下鉄
(中国普通/1996年)

屋 (1957) 札幌 (1971) 横浜 (1972) 神戸 (1977) と続き、地下鉄 50 年の切手には直近の神戸の地下鉄が採用されています。私が地下鉄切手を集めようと思った時 1977 年には世界 33 カ国 54 都市だったものが今では 127 都市に増えています。

日本でも前記の 6 都市に加えて福岡 (1981)・京都 (1981)・仙台 (1987)・広島 (1994) と増えました。(広島は広島高速交通・アストラムラインが駅前から 2 駅地下を走行してから地上に出ており地下鉄協会に加入しています。)

お隣の韓国でもソウルに 1974 年、続いて釜山 (1985)・大邱 (1997)・仁州 (1999) で開業し、光州・大田でも建設中です。

北朝鮮のピョンヤンの地下鉄はつとに知られているところですが、最深部は地表より 150m に駅があります。

中国では北京 (1969)・天津 (1980)・上海 (1993)・広州 (1997) と開業し、ハルビン・南京・深汕と建設または計画中です。

香港は 1979 年に最初の地下鉄が建設され現在は 5 路線が営業していますが 1997 年 7 月に中国に主権が返還され特別行政区になっています。

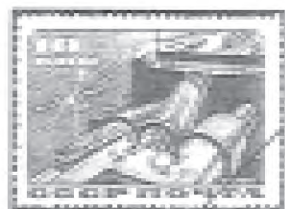
このほかアジアではマレーシアのクアラルンプール (1998) シンガポール (1987) インドのカルカッタ (1984) デリー (2002) イランのテヘラン (2000) トルコのイスタンブール (1875)・アンカラ (1996)・イズミール (2000)・ブルサ (2002) があります。

イスタンブールの地下鉄は Tunnel 式と呼ばれるケーブルカーで僅か 573 m で 1875 年のものは 1971 年に近代化されました。本来の地下鉄は 1989 年に開業です。このほか今年に入ってタイのバンコック (2004) に開業しました。

切手はロシアのソビエト時代の地下鉄駅シリーズが美しく有名ですが 1935 年からの第 3 期開通まで計 16 種・環状線開通第 2 期まで 11 種発行、1965 年にも主要都市の地下鉄駅 4 種も発行されています



近代化切手
シンガポール (1984年)



テヘラン地下鉄開業
(イラン/2000年)



モスクワ地下鉄開業切手 (開通4周年/1935年)。
ロシアには数種類しいがデザインは地下鉄切手が多い。

ケアの切手とカンボジア

甲斐 正三

「ケア・ジャパン」

私がNGO組織「ケア・ジャパン」でボランティアとして働くようになって間もなく3年になる。ここは、タイ、カンボジア、スリランカなどで「貧しさからぬけ出して人間らしい生活をするために必要な教育活動」を行っているが、ここに来るまでその名前を知らなかった。

現在、「ケア」は世界的NGO組織として、先進11ヶ国(アジアからは日本)がメンバーとなり、世界の貧困地域で活動を行っている。「ケア・ジャパン」は、1987年に今度は支援する側として発足している。

「ケア・ジャパン」へ通うようになって数カ月後、「ケア・アメリカ」の本に、イングリッド・バーグマン、ロナルド・リーガン(後の大統領)などお馴染みの映画スターが、「ケア」物資を前に立つ写真を見て、オヤ、なぜ?と不思議に思った。そして、1945年末にアメリカで発足した「ケア」が、疲弊した欧州に、次いで1948年からは日本に膨大な援助を送り続けたことを知った。ララ物資の名前は子供だった私の記憶にもハッキリ残っているが、ケアの名前は記憶にない。また、ほとんどの英和辞書にCAREが載っているのも驚きであった。

※ The Cooperative for American Relief Every Where(地球規模の米国援助組合)

さらに驚いたことは、1995年11月にドイツで「ケア50周年」の記念切手が発行

されていることであった。ドイツでは、それだけの国家的行事として捉えられていることに他ならない。本家のアメリカは1971年に「ケア」25周年の記念切手を発行、私のアルバムにおさまってはいたが、友人から言われるまで気がつかなかった。ホンジュラスでも1976年に「ケア・ホンジュラス」20周年の記念切手を発行している。世界的に有名だが、日本では知名度が低く残念である。

カンボジアでのボランティア活動

カンボジアは長い内戦の時代に教師、知識人はほとんど殺され、教育水準は著しく低下し、文房具に事欠いている。私の担当する「レインボー事業」は、日本の小中学校から文房具を提供してもらってカンボジアの学校に贈り、そこで「絵の教室」を開き、学校へ来る楽しさを感じてもらい、物心両面から就学・進学の上、改善を計ろうとするものである。

メイン・イベントである「絵の教室」が開かれるのは、首都プノンペンから車で南へ3時間弱の小学校である。この一帯はメコン河沿いに南北50kmにわたり25弱の小中学校が並んでいる。午前の部には、遠く20kmも離れた所から、朝4時に起きて自転車で、オートバイの荷台に乗って駆けつけてくる。午後の部はスクールがくる前の4時ころには終えないと、遠くから来た子どもは家へ帰れなくなってしまう心配がある。

昨年4月、初めて「絵の教室」を共にした



ドイツ (1995)

アメリカ



ホンジュラス (1976)

が、皆、真剣な面持ちで取り組み、わき見をしたり、おしゃべりをする人は一人もない。終って教室を出る時、キラキラ輝く目で、両手を合わせて膝をかがめて感謝の気持ちを表す子どもの姿からは、胸を熱くするものが伝わってくる。

学習センターに対する表彰

この時の印象は強く心に残り、自分としてもっと何か出来ないかと折にふれ考えていた時に、学習センター建設の依頼があった。なんとか応えたいと思ったのは、そのためである。その結果、思いもよらず、カンボジア国家からメダルと感謝状を受けることになった。4月初旬、学習センターの開所式に合わせて表彰式が行なわれたが、私の体調がすぐれず参加出来なかったのは実に残念であった。



学習センターの前で

体調が回復し、8月中旬ようやくカンボジアを訪れ、1週間を田舎の小学校とその周辺で過ごした。そこで改めて表彰式を開いてくれたことは望外の幸せであった。その模様はカンボジアのテレビで全国放送されている。

カンボジアの生活

この国は田舎でもドル札がごく普通に流通しているのは驚きであった。小額にはリエルが使われるが、ここは一体どこの国なのかと思ってしまう。

食事は辛くなく日本人の口によく合い、毎日食べてあきることがない。お気に入り、鯉くらいの大きさの川魚を煮たもので、香港のガルーパに似ている。マンゴー、バナナ、ルモツ（無花果と柿の間みたいな果物）など採りたての果物もじつにおいしい。

泊まった村長宅から小学校まで車で40分、朝夕毎日往復するが、荷物や人間を乗せた馬車、牛車がすれちがう。メコン河の氾濫にそなえた高床式の民家が道の両側に並び、人間と牛、鶏、豚、犬が共存している。電気はなく明るくなる朝5時過ぎると

人が動き出し、日暮れと共にランプの生活が始まる自然と共の生活がくり返されている。実生活では日本とカンボジアの間には時差がないようだ。

時間がゆっくり流れ、日本が戦後の急激な成長の中で失ってしまったものが、たくさん残っている。私の接した人たちは皆やさしく親切であり、明るく生き生きとしている。物質的な貧しさは、心の貧しさとはつながっていないように感じる。

中央郵便局と郵便事情

最終日の半日、プノンペン市内観光が出来たので中央郵便局へ寄ってみた。日本に出す封筒に貼る切手が欲しいと頼んだが選択の余地はない。Phlatelyと書いたコーナーがあって沢山の切手が陳列され期待したが、品物はほとんどないと言う。奥から数枚ずつパックされた収集家用の切手の束を出されたのには驚いた。切手商も兼ねているのか、けっこう高い。とても郵趣どころではないであろう。

私の過ごした田舎では、住所もなく、手紙を出すことも受取ることも出来ない。今回、日本の歴史・文化・現在の姿を伝える切手を40～50枚を額装して寄贈したが、切手自体を目にすることもないであろう。外との連絡も携帯電話がないと不能で、外の動きはほとんど分らない。

全ての子どもが学校に通え、そして切手を楽しめる日が一日も早くすることを願いたい。今は恵まれた生活を享受している日本が、敗戦直後の貧困にあえいだ時期を思い出して、少しでも役に立つことが出来ればと思っている。



売り物の少ない郵趣窓口

KENYA UGANDA TANGANYIKA II

(ケニヤ・タンザニアの旅)

杉山 光雄

◎セレンゲティ N.P.

アフリカ中央地溝帯・人類発祥の地オールドバイ渓谷を渡りいよいよアフリカ最大と言えるセレンゲティ N.P. に向かう。道は益々悪くなり車は上下左右に激しくバウンドし、赤い土埃は締め切った車窓の隙間から遠慮会釈なく流れ込み、バンダナで覆った顔、鼻、口も土でジャリジャリになる。こんな悪路を2時間あまり下ってくるとそこはセレンゲティの大草原の入り口だ。行く手は見渡す限りの草々の草原、目に入るものは他に何も無い。その中を1本の道だけが地平線の果で見えなくなるまで続き、そしてその先もまだまだ道なのだ。

ここは"果てしない草原"と呼ばれ、東京、千葉、埼玉、神奈川の一都三県を合わせたよりも更に広い地域とのことだ。夕暮れせまるセレンゲティには遠方でシャワーがあったらしく、灰色の雲が流れ、冷たい風が吹き抜け、紫がかった空が無気味に我々を迎え入れてくれた。今日からの宿舎"セネロラ・ワイルド・ロッジ"はこんな平原のど真ん中に風化して丸みを帯びた巨岩に抱かれるように守られ、周囲の景観に溶け込むように建てられていた。ロッジに着いて更に我々は驚いた。サバンナの中の一軒家的な存在にもかかわらず、岩山を巧みに利用したすばらしい宿泊施設(ホテル)だった。ロッジ全体の構造は丸みを帯びた巨石群で作られ、岩と岩との間の内部空間は時代を感じさせる黒光りする木材で重厚にそして上品に仕上げられている。100人は収容できそうな広々とした高い天井のダイニング、岩にインパラ等の動物の絵を直接画いて壁として利用した洒落たバー、何とこのバーには衛星を利用したTVまで備え付けられているのだ。各ルームは渡り廊下で結ばれ中庭には色とりどりの花を配し、まるで軽井沢か箱根の高級ホテルにきた様だ。勿論トイレは水洗、温水のシャワー、広いルームと清潔なベッド等々。これ等の施設はすべて自家発電でまかなっているとのことだ。

さて 夕食もバイキング形式ながらコンソメ・ポタージュに始まり各種のサラダ、野菜料理に魚料理、肉料理とつづきデザートも新鮮なものが山積みされている。勿論、アフリカ特有の料理もある。ニガリ(米粉を湯で捏ねたような食物で現地では主食)、ナイル・バーチ(ビクトリア湖等で獲れる淡水魚)のグリル等がそれだ。アルコール類もブランデー、ウィスキー、ワイン、Etcと充分用意されていたが我々は専ら現地産のビール(TUSKER---ケニア産、KILIMANJARO---タンザニア産)を愛飲した。これ等の食材は定期的にナイロビなどの都市から遠路はるばるトラックで運ばれてくると聞くともたびっくりだ。

かって英国人はその富と力でこんなところまでサファリ用の贅沢なロッジを築いたかと思うとある種の感懐をいだと共に、こんな施設を現在に残してくれた事にあらためて"有難う"と云う思いだ。

満天の夜空に輝いていた無数の星が一つまた一つと光を失っていくと、黒い空は濃い藍色から紫へと変わり、やがて黒ずんだ赤から深い紅色へそして黄金色へと変化していく。まもなく、東の地平線から金色の光の矢が茜色の夜空に次々と打ち放たれ溶鉱炉から流れ出るどろどろの鉄の火の玉のような太陽が昇ってくると地平線とまばらに生えたアカシアの大木が逆光線に黒々としたシルエットを鮮やかに浮かび上がらせる。サバンナの壮大で厳かな夜明けだ。眠っていた幾万の野生が各々の活動を開始するときだ。



サバンナの夜明け

明け方のサバンナはあたり一面赤茶けた濃い霧の海に沈んでいる。赤い霧の奥からは"ムー、ムー"と云う無数の鳴き声が遠く近く際限なく聞こえてくる。霧が薄まってくるにつれ朝日で赤茶色に染められたその生き物が徐々に姿を現してくる。夥しい数のヌー(うしかもしか⇨大型草食動物)がこちらを窺うようにじっと佇んでいたのだ。周囲は益々明るくなり遠くの疎林まで見えるようになると我々はゼブラとヌーの大群のど真ん中に居るのに驚かされた。突然ゼブラの群れで馬達の動きが激しくなった。群れの中の数頭が後足で立上がり仲間の背中にとびかかる。相手はそうはされじとこれも立上がって、頭と頭をはげしく撲けあう、若者の力比べだった。

乾季も終わりに近づき僅かに残った水場に水を求めてヌーやゼブラの群々が次々押しかけ、岸辺から水中へ押し合いへし合い躍り込み一斉に水を飲み始める。ざわめいた水面がしばし治まり水を飲む彼らの姿が水面に写し出され一時の平和と静けさが訪れる。しかしそれも束の間突然に皆弾かれたように一斉に跳ね上がり反転し必死に泥水をはね上げて我れ勝ちに岸を目指して駆け戻ろうとする。大パニックだ。何か肉食動物の気配を察したようだった。群れの中にはつい先程生まれたばかりの臍の緒をつけたままのヌーの赤ちゃん、茶色の産毛でやっと立ち上がれるようになったゼブラの赤ちゃんも沢山居る。死の危険から我身を守るため彼等も必死で母親のあとを追う。

ゼブラの群れに数頭の雌ライオンが近づいて様子を窺う。ゼブラはライオンに向かっ



水場のゼブラ親子

て2-30m離れた所に横一列になり両耳をピンと立てて警戒の鳴き声を立てながら相手の動きを窺いライオンが少しでも間を詰めるとその分後へ退き常に一定の安全距離を保って対峙している。両者の間に流れる緊迫感が我々にも痛いほど伝わって来る。

遠くの疎林で白い砂煙が上がり、あたりの動物が一斉に走りだした。遠くのゼブラの群れを数頭のライオンが全力疾走で追いかけているのが見えたがやがて静かになった。多分群れの誰かが犠牲になったのだろう。数時間後そこを通ると腹部から下半身を喰べられたゼブラが横たわって居り、近くに二頭のライオンが寝そべっていた。



ゼブラをねらうライオン

我々の居るこの辺りは乾季と雨季にセレンゲティとマサイマラの間で繰り返される草食動物大移動の通り道に当たっている。今はセレンゲティ(南)から北への移動時期で草原を埋めつくすヌー、ゼブラ、バファローが黒い河の様に一本の太い帯となって北へ北へと移動していた。その周囲には彼等を獲物とする肉食獣が一緒になって移動し、そこに生と死が背中合わせの壮大なドラマが展開しているのだ。

夕日を浴びた草原には、インパラ、ガゼル、ウォーターバック、トビ等々の中型のそしてヌーやゼブラ、バファロー等の大型草食動物が悠々と何事も無かったように草を喰む平和な光景が広がっていた。

(次回へ続く)

漁業、大空襲、そしてカーナビと切手

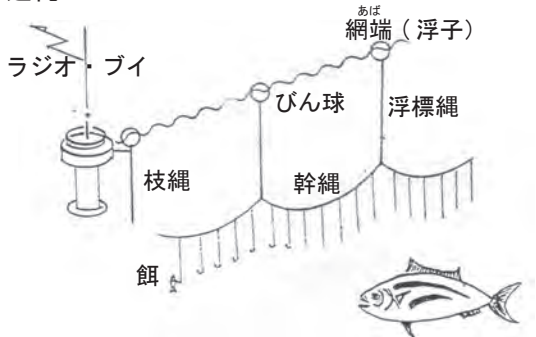
< その2 >

府川 宏昭

漁業では、前号に記した延縄の続きとそれ以降について述べてまいりましょう。

b. 漁法は、^{みきなわ}幹縄から^{えだなわ}枝縄を下げ、その先端の針に餌を付けて魚を釣ります。

延縄



(4) 棒受網

a. 対象魚は、鰯鯖もあるようですが、主は^{さんま}秋刀魚です。

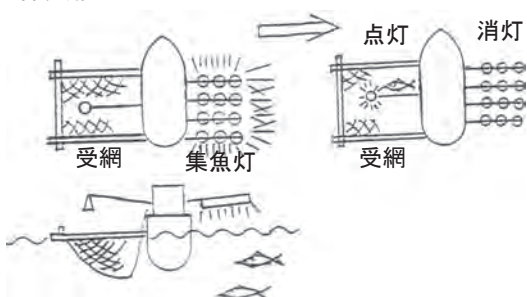
b. 夜間に、魚が明かりへ集まる習性を応用しています。その漁法は、

①左舷に竹の棒で方形の受網を拡げ、たるませた状態に張ります。

②右舷の集魚灯で、魚を集めます。集まったら、頃合を見計らいその集魚灯を消します。

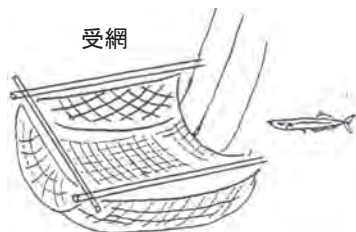
③すかさず左舷の集魚灯を点けます。

④右舷の魚を左舷側の受網へ誘導します。



⑤魚が受網に入ったら、網の船側の綱を引き上げ生簀状にして、中の魚を掬い取ります。

(5) 刺網



a. 刺網の対象魚としては、

①浮刺網では、

鮭鱒類の

A. 回遊する^{ますのすけ}鱒之介(キングサーモン)、白鮭、紅鮭、銀鮭等が主な魚です。

北太平洋の母船式鮭鱒漁は消滅し、北海道の東沖、中部鮭鱒漁と沿岸での漁が主です。また、^{からふとます}樺太鱒、^{たらばかに}桜鱒等が遡上します。

b. 非回遊の琵琶鱒、姫鱒(陸封)等が鮭鱒の仲間です。

②底刺網では、^{そこさしあみ}鱈場蟹

母船式蟹工船団では、西カムチャッカ沖とアラスカ南のブリストル湾での漁は共に消滅してしまいました。

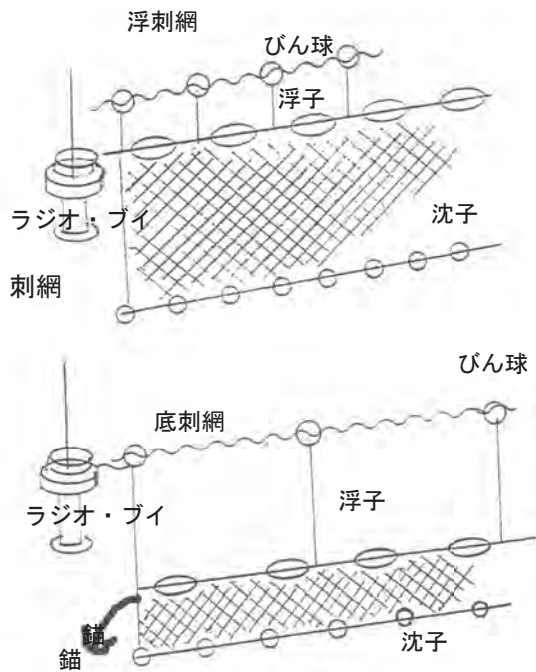
沿岸での伊勢海老、近海でのその他の底魚が対象です。

B. 漁法は、海中に魚の目には判らないような網を、沈子と浮子でバランスよく带状に展開し、網の目に魚が頭から突き刺さって獲る方法です。

(6) 籠^{かご} 籠漁の対象は、主に^{かに}蟹です。

a. 蟹の種類 まず蟹の種類ですが、

①クモガニ科には、ズワイ蟹の仲間、



ふるさと切手
越前ガニ
籠漁

松葉蟹 5脚1対



鱈場蟹 4脚1対



松葉蟹（鳥取、島根）、越前蟹（福井）、紅ズワイ蟹（新潟）等が日本海側に棲息しています。

たかあしかに
高足蟹は本州中部の太平洋側にいます。

②タラバガニ科（ヤドカリ類）には、

鱈場蟹（オホーツク海ほか）、花咲蟹（根室半島近辺）が対象です。生物分類学上、やどかり宿借はエビとカニの中間に位置するそうです。

③クリガニ科では、毛蟹です。

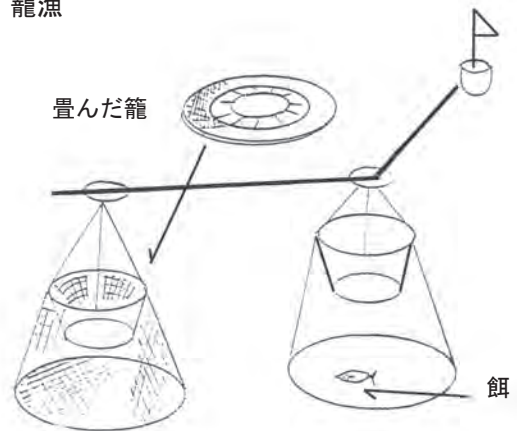
b. 漁法は、

海底に籠を沈め、その中に鯖や鰯等の餌を入れ、蟹を誘い込む方法です。籠の口には「返し」があって、一旦入ったら出られない仕組みです。

(7) 一本釣

対象魚は様々ですが、その中でも

a. 遠洋、近海で、竿釣の、びんちよう鰹、鬚長鮪、沿岸で、手釣の、津軽海峡の本鮪、豊予海峡の（関）鯖、（関）鰹などです。

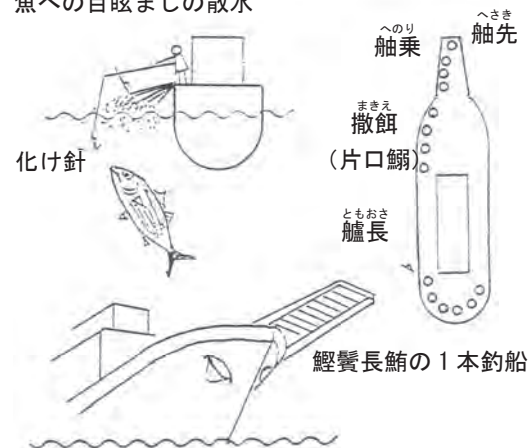


b. 漁法は1本の釣糸に1個の針を付け、釣竿で、または釣糸を手で操って、釣上げる方法です。

一本釣



魚への目眩ましの散水



会員の郵趣活動

- ◎「フランス切手展覧会」に会員3氏が出品
小林彰氏「フランス横浜郵便局」
池澤克就氏「サン＝テグジュベリの生涯」
甲斐正三氏「ガンドンのマリアンヌ」
7月9～11日：切手の博物館
- ◎“It's a Stamp World”に会員2氏が出品
渡辺勝正氏「牛の切手」
湯川宗昭氏「スポーツの切手」(オリンピック)
7月23日～8月2日：渋谷パルコ地下ギャラリー
- ◎池澤克就氏 樋口一葉と夏目漱石関係の監修
サマーペックス 8月7日、8日：ていぱーく
- ◎小林彰氏「横浜にあったフランスの郵便局」
「横浜洋菓子事始め」を出品
8月10日～9月26日：日本新聞博物館(横浜)
- ◎湯川宗昭氏オリンピック関係切手出品
8月17日より：日本新聞博物館(横浜)
- ◎小林彰氏「横浜フランス局」関連の講演
8月20日：横浜校友会
9月19日：JPS三鷹, 杉並ほか4支部合同例会

アフガン難民寄付納付報告

杉原千畝記念館見学会の際、参加者より受けた寄付を納付した旨、渡辺洋氏が報告されました。

編集後記

記録をぬりかえた今年の猛暑、皆さま無事にこの夏を乗り越えられることを祈っています。そしてオリンピックでの日本選手の大活躍、眠い目をこすった人も大勢おられたことでしょう。メダルラッシュと騒がれる中で、悲喜こもごも感動的なシーンに胸を熱くした方も多かったのではないかと思います。

来月24日は早くも第5回総会を迎えます。一人でも多くの方が年1回の集りに参加されることを願っています。

分科会活動報告(切手教室)

- ◎「第21回切手教室」(6月5日)
中川孝昭氏 「私の中の切手」
甲斐正三氏 「切手の楽しさ三題」
- ◎「第22回切手教室」(7月3日)
宮鍋益治氏 「切手を楽しく集めるには」
小川義博氏 「切手のウンチク」
- ◎「第23回切手教室」(8月7日)
宮鍋益治氏 「切手のアルバムの作り方」
大西童夫氏 「消印」

新入会員紹介(敬称略)

- 坂下泰一 (35年卒一文英文)
154-0004 世田谷区太子堂 3-12-9
- 佐藤邦男 (55年卒教・切手研OB)
175-0082 板橋区高島平 5-30-1
- 占野靖長 (39年卒理工・切手研OB)
270-2232 松戸市和名ヶ谷 1437-5
住所変更
- 岡田要 040-0053 函館市末広町
15-1-802
- 中川和樹 222-0032 横浜市港北区
大豆戸町 471-4

甲斐正三氏が

カンボジア政府より表彰

甲斐正三氏が「カンボジア絵の交流拠点施設」の建設に協力され、4月上旬カンボジア政府より表彰を受け、5月7日の毎日新聞都内版にも紹介されました。

稲門フィラテリー 第13号
発行日 2004年9月1日
発行 稲門フィラテリー
発行人 小熊忠三郎
〒226-0015
横浜市緑区三保町 2179-2-346
郵便振替口座 00110-0-560458
「稲門フィラテリー」
編集担当 湯川宗昭・池澤克就
木元淳一郎・甲斐正三

稲門フィラテリー

第 14 号

2004 年 12 月 1 日発行

第 5 回稲門フィラテリー総会報告

新会長に小西邦彦氏

2004 年 10 月 24 日、稲門フィラテリー第 5 回総会が、母校 7 号館 205 号室で開催された。会員 40 数名出席のもと、午後 1 時、開会が宣言され、諸田幹事の司会で次の通り議事が進行した。

○花本会長挨拶

大学の発展の現状、早大切手研究会の実情、また花本会長率いる早大レスリング部の近況などの紹介の後、会長退任の意思を表明された。

○役員改選

小熊副会長より新役員候補の紹介があり、満場一致で承認された。新役員は次の通り。

会長 小西邦彦

顧問 大杉徹 花本金吾 金井宏之

アドバイザー 吉沢忠一 小熊忠三郎

総務 磯野昭彦 小川義博 青柳次男

早川弘司 大西章夫 錦木伸哉

会計 石井克忠

編集 甲斐正三 湯川宗昭 池澤克就

木元淳一郎

部会 渡辺洋 宮鍋益治 野島正顕

府川宏昭 小林彰

監査 住吉忠男 諸田志郎

○次の各議題が満場一致で承認された。

- ・平成 16 年度活動報告

- ・平成 17 年度活動計画
- ・平成 16 年度会計報告
- ・平成 17 年度予算
- ・平成 16 年度会計監査報告

○その他

小林彰幹事から分科会活動について報告があり、甲斐幹事からは会報に関する報告と共に、原稿執筆への強い期待が表明された。

議事は順調に進行し、午後 2 時 10 分閉会した。

休憩後、講演会に移り、根岸昭二会員が、「西オーストラリアのスワンリバー・スタンプショウに参加して」と題して、ユーモアを交えた楽しい話を紹介された。詳細は次号に掲載の予定。乞うご期待。

総会、講演会終了後、恒例の懇親会が、母校南門前、あの高田牧舎で開催された。40 名の会員が集合し、大杉先生の乾杯で始まり、新会員の挨拶、渡辺（勝）会員の杉原千畝最新情報の紹介など、和やかな雰囲気ですぐに 2 時間が経過し、午後 6 時、小熊旧副会長の音頭でお開きとなった。高田牧舎での開催は、今回が初めてであったが、会員の評判が良かったため、来年も予約した。

早稲田と郵便（明治編）

稲葉 良一

学生の頃より、早稲田関係の郵便物を見つけては集めていました。そこで今回は、明治時代の『早稲田大学』を郵便物や絵葉書を通して、早稲田大学の歴史を眺めてみたいと思います。

1 東京専門学校時代

明治15年10月、都の西北に早稲田大学の前身である「東京専門学校」が設立されました。明治35年まで続く東京専門学校時代の郵便物は少なく、現在

まで4通しか入手出来ていません。そのうちの1通（つい先日小林彰先輩から譲っていただいたもの）をお見せしましょう（図1）。私の所持する中では最古の使用で、明治17年4月29日に東京から埼玉宛で、表はU小判2銭1枚貼で東京ボタ消です。興味あるのは、住所が「東京南豊嶋郡下戸塚村」となっているところです。

次にお見せするのは、東京専門学校の専用封筒で講義録を送ったもので（図2）、住所は東京牛込早稲田になっています（明治29年6月差立て葉書には、すでに牛込早稲田の表示が見られます）。この封筒、残念ながら中身はありません。切手は裏に貼ってあり（U小判2銭）、消印は丸一印で東京牛込明治32年3月9日差立てです。

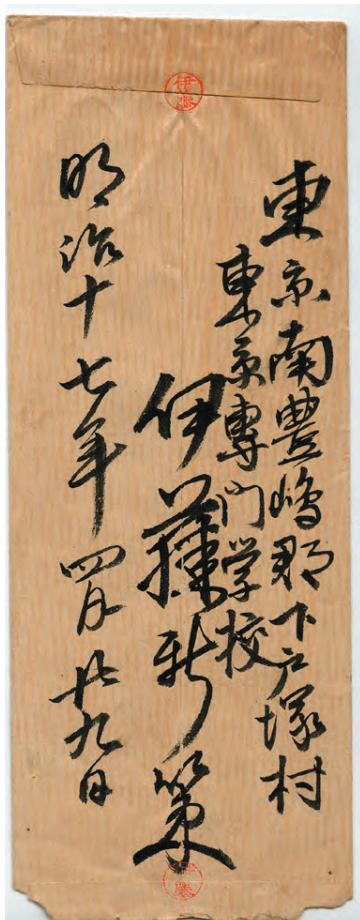


図1

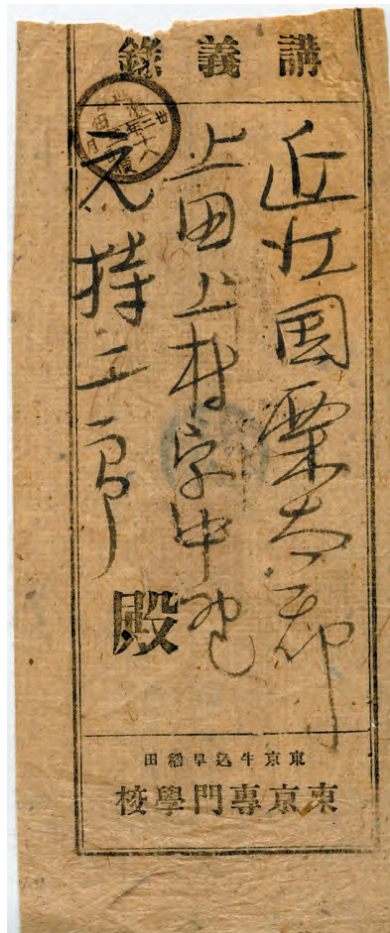


図2

2 早稲田大学時代

東京専門学校創立20年の明治35年に「早稲田大学」と改称されますが、そのとき記念絵葉書が発行されています（図3）。この葉書には、当時の大学の



図3

全景写真が入っていますが、写真を見るかぎり大学の周囲は森と水田に囲まれており、まさに「都の西北早稲田の杜」がぴったりの景色です。

さて、ここに興味ある1通の葉書があります(図4)。消印は丸二印で、東京牛込 明治35年9月15日差立ての福岡

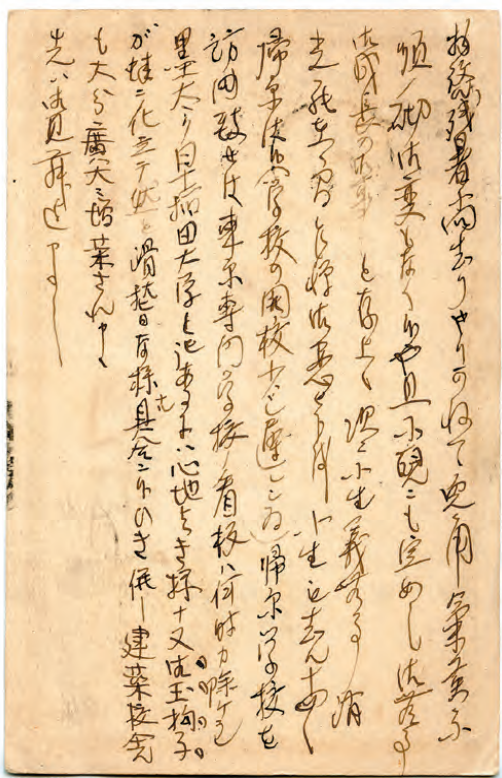


図4

宛です。差出人は、早稲田大学の学生で帰郷先から学校に戻ってきたときの様子を書いています。その文面には「(5行目より)・・帰京仕候(学校の開校少し遅れし為)学校を訪問致せば東京専門学校の看板は何時か除けられ墨太に早稲田大学と記あるには心地よき様な又御玉杓子(オタマジャクシ)が蛙に化立て然と滑稽

な様なる具合に行いき併し建築校舎も大分廣大に増築され申し候 先は御見舞い迄かしこ」とあり(一部私の知識では読めず、読み間違いもあると思いますが、お許してください)、当時の驚きぶりや大学となったうれしさや戸惑いがうかがえて面白いものと思います。

他にも早稲田大学の学生が出した葉書



図5



図6

3通所持していますが、そのうちの1通をお見せします(図5)。明治37年に東京牛込から差し出されたもので、差出人住所が「東京牛込早稲田大学寄宿舍乙第十号室」とあります。裏の文面には、法

科大学生と2人で6畳間に入舎したこと、燈は電気燈で、入舎金壹円、舎費1円70銭、食費3円6銭、都合5円76銭掛かることなどが書かれており、当時の世相をよく表しています。

次は菊1銭5厘(赤紫)を貼った絵葉書で(図6)、消印が読めず時代がはっきりしませんが、大隈さんが総長で高田早苗が学長の時代ですので(2人は明治

40年に就任)、明治の終わり頃と考えられます。この葉書の写真を見ると、大学の周辺には家が立ち並び、明治35年の創立20周年のときと大きく様変わりしているのがわかります。

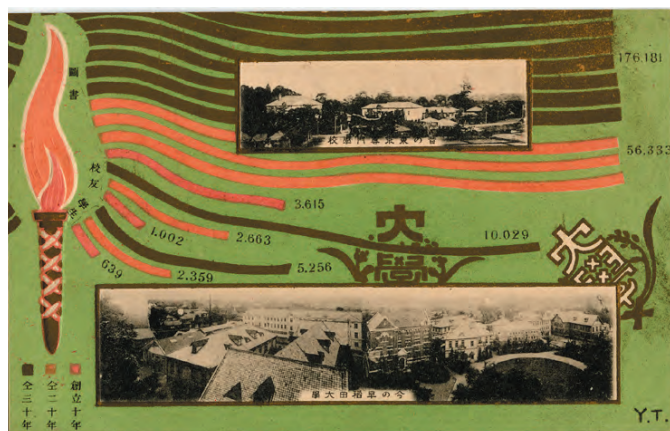


図7

最後に、早稲田大学30周年記念葉書を2枚お見せします(図7, 8)。この葉書は早稲田大学出版部製作で4枚1組だったようです。図7では、図書・交友・学生の創立10年・20年・30年の比較がなされ、学校の成長がうかがえるものです。図8はスポーツに関するもので、「陸上運動会」「野球観戦」「水上運動会」となっています。早稲田大学は昔からスポーツが盛んだったことを示す1枚だと思います。



図8

今後さらにコレクションを充実させ、将来は「早稲田大学」でオープン切手展出品を目指そうと思っています。皆様何かありましたら御協力ください。

KENYA UGANDA TANGANYIKA < そのIII >

ケニア・タンザニアの旅

杉山 光雄

◎アンセボリ N.P. (思いがけない象のドラマ)

乾季のこのシーズンでも機嫌が悪いと仲々姿を見せないと云うアフリカ大陸最高峰キリマンジャロ (5896m) が、今朝は黎明の寒気の空にうっすらとブルーの姿をかすかに浮かび上がらせている。やがて東の地平線に茜色がさし込んでくると、頂上の冠雪が何とも云えない優しい淡いピンク色に輝きだす。そしてその下からなだらかな稜線を真平な地平線までひく雄大な山容を現してくる。昇り始めた太陽を逆光にしてバッファローのカップルが黒々とシルエットを浮かび上がらせ、上空をこれまたシルエットだけの大型の鳥達が南を指して飛んでいく。草原に立ち込めた冷気を帯びた朝靄が徐々に晴れてくると遠く近くに転々と草を喰む草食獣達が見えはじめてくる。キリマンジャロ山麓に広がるアンボセリの朝だ。

早曉に宿舎オルトカイロッジを出発し野生の象群を求めてこの大草原を走り廻るのだがこの朝は仲々お目当ての象には遭遇しない。小一時間も走り続けたが、ヌー、ガゼル、インパラ等のおなじみの仲間にはしか出っくわさず目指す相手には皆目お目にかかれぬ。ドライバーも何とか象を発見しようとするこの広い大地を走り廻り、他のサ



遥かキリマンジャロを背に

ファリカーからトランシバーで情報を得たり一生懸命努力するのだが肝心の象の姿らしきものは一向に見当たらずただただ美しく雄大なキリマンジャロがわれわれを慰めてくれるばかりだ。象の群生地として有名なアンボセリの象群は一体どこへ消えてしまったのか。

更に二時間余りも走り廻り日も大分昇り今日はこれまでかと半ば諦めかけたころ草原の真っ只中でドライバーが静かに車を止めエンジンを切った。何ごとかと周囲をぐるりと見廻すも背の高い草とアカシアの疎林が広がるだけで何も見当たらない。「どうした」とドライバーに問いかけると「エレファント」と云って左遠方を指さすがそちらの方向にはまばらに疎林が見えるだけだ。しかし車は動こうとせず「ここで待つ。エレファントは間違いなくこっちに向かって来ている」と自信ありげに云い切った。やがてなんとなく遠方の疎林がモゾモゾと動いたように思われ、なお目を凝らしてみると疎林から湧き出るように象の大群が出てくるのではないかと。しかも彼等はゆっくりゆっくりと我々の居る方向に向かって進んでくるのだ。してやったりドライバーの肩をたゝいて「Good!!」と思わず親指を立てる。彼もニヤリと笑って答える。およそ5,60頭ほどのこの群れは最初感じたよりもずっと早いスピードでぐんぐんこちらへ近づいてくる。さすがにこれ丈の大群が歩みを止めず一直線に近づき目の前まで迫ってくるとその圧力はすごいものだ。当初の好奇心は何処へやら、このまま象群に呑み込まれ踏み潰されてしまうのではないかとすっかり恐ろしくなり、思わず「逃げよう」とドライバーに声をかける始末になってしまった。し



乳を飲み、眠りこける豆象達

かし彼は「シー」と我々を制し「このままじっと動かないで居るのが最も良いのだ」と云う。我々と群れの間はさらにつまった。象の息づかいが分かるようだ。我々の車と群れの中に丁度そだけ草が跡切れ赤土がむき出しになった 100m ばかりの幅のある広場があったが、彼等はその縁までくると突然行進を止めた。あたかもこちらを窺うかの様にじっと様子を見ているがやがて静かになった。どうやら行軍は終わったらしい。我々にもやっと落ち着いて観察するゆとりができた。

群れの最前列には長くて立派な牙を持ったひとときわ大きな象達が壁を作るように横一列に並び、その後ろに牙のあるものや無いもの、大中小さまざま大きな象が群れを成している。耳をさかんにばたつかせているもの、しきりと鼻を上を持ち上げるもの、お互いに牙をからませたり鼻をからませたり、頭をくっつけあったりするもの等まるでおしゃべりしている様だ。一方では我関せずで砂を盛んに浴びるもの、無心に草を喰い続けるもの等さまざまだ。それらの間を生まれて間もないような豆象がチョコチョコと

走り廻り、母親の腋に鼻を差し込み乳を飲むもの走りつかれてコロんと寝ころんだりするものなどまことに賑やかで平和な光景が展開していく。

こんな情景にしばし心を奪われているうちに左遠方に何かの動きを感じそちらに目を転じてみると何時の間にか左から今までの象とは全く雰囲気異なるしかも一回りも二回りも巨大な象がたった一頭で大きな耳をばたつかせ、牙を突き上げ鼻を高く差し上げ足を踏み鳴らしてこちらの群れ目指して近づいて来るではないか。どうも話に聞いた一匹狼の雄の離れ象らしい。彼は群れから 50m ぐらまで近づくとついに立ち止まり、再び大きく耳をばたつかせるくだんの行動を繰り返し、じっと群れを窺う。すると群れの中からやはり大きな象が一頭だけ進み出て彼のほうへ近づいて行った。お互いが数メートルの近さまで寄り睨み合った。これから二頭の象の果し合いでも始まるのかとどきどきしてくる。ややしばらくして二頭はまずお互いの鼻で相手を探るような行動に出る。次



突然、現れた離れ象と思われる巨象

には頭をつけたり、牙を軽く打ち合わせようような行動がしばらく続いたあと、二頭は一旦離れ巨象が先になり群れからの象がそれに続いてその場でぐるぐる輪をかくような行動をみせ再び向かい合うと、今度は先程より激しく頭の押し合い、鼻のからめ合い、牙のからめ合いを始め、挙げ句の果てにはお互

いの鼻を相手の口に突っ込んでしまった。何とこんな行動を続けたあとくだんの巨象は群れから出てきた象の横うしろから腰のあたりをぐいぐいと押し始めた。両方の後足をぐっと踏んぱり頭を押し当て満身の力を込めて押し付けていく。と見る間にその巨象の股間から男性のシンボルが伸び始め長々と地面に届きそうにまでに成長した。我々はてっきり象の交尾が始まるものと固唾をのんで成行を見守った。しかしこのままの状態では動かない。気付くと意外や意外もう一頭からも男性のシンボルが伸び出ているではないか。何とこの二頭は共に雄だったのだ。この状態をしばらく続けたあとで二頭は力を抜き仲良さそうに並んで再びぐるぐる廻りだした。二、三回も廻った後、群れから来た象がくだんの巨象を後ろから押すようにして自分達の群れの方へと誘っていった。そしてこの二頭は群れの中へ溶け込んでしまった。この間群れの像達は何事も無かったようにじっと静かに見守って居るばかりだった。気がつくともう昼近かった。

思いがけなく遭遇した一連の象の行動は多分単独行動の雄の巨象を自分達の仲



ペニスを出しての珍しい象の力くらべ

間に入れるかどうかの品定めであったように思われたが、我々の知らない象社会の一端を垣間見る思いがした。

やがて、巨象を新しく仲間に加えた象の群れは静かに静かにキリマンジャロの山懐に消えていった。 [完]



キリマンジャロの山懐に抱かれる象の群れ

写真付き切手

五十野 和男

平成 13 年 8 月 1 日から 7 日まで開かれた国際切手展フィラ東京 2001 で写真付き切手 (P 切手) が日本で初めて発行され、先着順に 1 日約 400 名、1 人 1 回 10 シートまで販売されました。額面は 80 円切手 5 枚・50 円切手 5 枚の 650 円を 1100 円で販売されました。



その後、日本郵政公社が発足した平成 15 年 4 月 20 日から 24 日まで通信博物館で開かれた全日本切手展 2003 で再度 P 切手が販売されましたが、これは往復葉書とインターネットによる申込者から、抽選で作製することができました。今回はデザインが 4 種類、額面 80 円切手 4 枚の 320 円を売価 500 円で、1 回 1 種類を 6 シートまで購入することが出来ました。

4 月 25 日から各地でデモンストレーションが始まり通信博物館のほか、東京中央郵便局、新宿郵便局、品川プリンスホテル、椿山荘、ワンザ有明ベイモール、ミニストップワンザ有明店、サンリオピューロランドの 8 箇所を設置されました。

デザインは、会場ごとにオリジナルデザインが各 1 種類と、十字リボン・ハートリボン・動物 (犬と猫) の 3 パターン 15 種類のスタンダードデザインから各 3 種類の 4 種類が各会場の販売機に組み込まれました。

シートの上部余白部には、設置場所と発行日が印刷されますから、デザインは

同じ物でも 8 会場× 4 種類で 32 シート作製せねばならず、実通便が欲しくてもすべての会場で初日に作成することは出来ませんでした。

おまけにサンリオピューロランドは入場券を購入しないと入れてもらえず、2500 円も出費する羽目にあいました。

平成 15 年 6 月 10 日より新宿郵便局では、その場で撮影して P 切手を販売するサービスのほかに、自分で持参した写真を用いて P 切手を作製することも出来るようになりました。

当初は顔写真のみでしたが、その後はペットとか風景等自分で撮影をした写真を P 切手にすることも可能になりました。

常設会場は当初の 8 箇所から、利用者の少なくなったワンザ有明ベイモールとミニストップワンザ有明店が 11 月 24 日に閉鎖しました。

当初の P 切手は“のり式”でしたが、湿度の関係で紙詰まり等のトラブルが多発したため 12 月 10 日より全会場共“シール式”に切替えられました。但し、通信博物館だけは“のり式”と“シール式”が併設されました。

P 切手の販売は、恒久ではなく試行であると当初より云われておりましたが、機械の故障が多く、補助員を 1 ~ 2 名常置しなければならず、コストが意外にかかること等で、平成 16 年 1 月 24 日突然全部の常設会場とも終了しました。但し、新宿郵便局の持ち込み機械だけは残りましたが、韓国が竹島切手を発行し、マスコミや国会で領海問題として騒いだ竹島の写真を持ち込み P 切手の作製をされるなど、管理上問題となり 3 月 24 日で終了しました。

その後、P 切手の機械は、順次関東近郊のイベント会場に持込んで期間限定で販売されるようになり、最初は平成 15 年 7 月 20 日と 21 日の 2 日間千葉の幕張メッセで開かれた“KADOKAWA 真夏の学園祭”

でオリジナルデザイン4種が発行されましたが、日本郵政公社のホームページで発表されなかったため、作製した人は、わずか10数人と云われています。

当初は設置場所が少なかったのですが、11月頃より急に多くなり、1日に2箇所のイベント会場で催されたりして、実郵便を作成するために各会場と郵便局を往復し大忙しでした。

何より困ったのは、P切手の発行日時・場所等の開示が2～3日前で、会社勤めにとっては仕事のやりくりの調整に大変です。また、初日は作製するのに行列ができ、1回に1時間も掛ることもあり、4種類取得して実郵便を出すと午後の日付印になることもしばしば起こりました。

楽しいことは、設置会場でその場所に相応しい相手や物を探し出して(受付嬢・店員・スタッフ・家族等)、一緒に撮影することです。また作成したP切手を使用し、国内海外の友人に手紙を出すことです。期待通り必ず返事が来ました。

設置場所はついに名古屋に持込まれ、松坂屋本店で15年12月15日から、オリジナル3種類発売され、この時は出社後新幹線で会場に行き、トンボ帰りで夕方には無事会社に戻れました。

16年2月4日から“さっぽろ雪まつり”で札幌大通郵便局と札幌駅地下パセオで、オリジナル1種、バレンタイン1種、スタンダード各2種が発行されましたが、さすがに現地までは行けず札幌在住の義妹に作成を頼みました。しかし残念なことに、今年4月7日より始まった“浜名湖花博覧会”と、5月5日浦安イクスピアリに設置の“こどもP OSTHOUSU”は自分で会場へ行けず、ついに知人に作製を依頼しました。

そもそも、どうしてこのP切手にはまり込んでしまったのかと言いますと、平成13年に開かれた国際切手展のあの広い会場で、我が母校芦屋市立山手小学校の恩師井間稔之先生とぼったりお会いしたとき、先生がP切手を作成し誇らしげに私に見せられ、さっそく女房と再来場し、早朝より並んでP切手を作製しました。井間先生は75歳で、関西郵趣連盟理事や阪神郵趣会芦屋支部長等活躍されており、毎年切手展

などに出品されご活躍中です。

その2年後、平成15年の全日本切手展で再会しました。この時、先生はP切手の抽選漏れでがっかりしていらっしゃいましたが、私が家族と写したP切手で先生宛ての実郵便をおくり、大変喜ばれました。



これ以降、発行されるごとにP切手の実郵便を作成し井間先生宛てに送っているうちに、私の手元にもP切手が集ってきて現在4面シートで61種類に至っています。

P切手には4面シートのほか、10面シートも通信販売で平成15年6月より発行されており、1シート額面80円×10枚800円を1000円で1シートより申込みます。また平成15年2月には額面50円と90円のP切手も通信販売が開始され、いずれも20面シートである。販売価格は額面50円が1200円で90円が2000円です。

1000シート以上申込むとオリジナルデザインで作製してもらえるサービスも同時に始まった。第1号は“阪神タイガースリーグ優勝記念”で、何と30万シート以上作製されています。

4面シートのP切手発行は、今後どのようなかたちで続けられるか判りませんが何とか追っかけていきたいと思います。但し、10面シートに関しては、発行された案件の情報が開示されていない状況で収集を続けるのは困難であります。

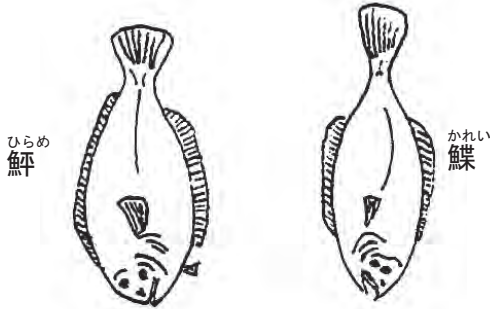
また、商品の景品で100シートのみ発行(残部はバラして配る)したり、企業等が配布したりしており、完収はとても無理な状況になりました。

重品が沢山出来たので、長生きをして手紙をどんどん出さなければと処分に困っています。

漁業、大空襲、そしてカーナビと切手 ＜その3＞

府川 宏昭

さて、漁業、とりわけ漁携篇については、その締め括りです。



で魚を誘導し、最奥の袋網ふくろあみに集めて獲る方法です。

(8) 底曳そこびき(引) 網

a. 当然のことながら、底魚が対象です。

① 遠洋～鱈、赤魚、目抜、ひらめ鯛、大鯛が対象で、日本近辺では、北洋が漁場です。

船型は欧米型の船尾式です。

② 近海～鱈、蝶、鯛、きんき、鱈、鯖、その他の底魚で、日本近海や東シナ海が漁場です。

b. 船型は、

① 欧米では、

船尾式せんび(スターン) トロール型です。西アフリカ沖から輸入される蛸、紋甲烏賊がこの漁法で獲っていました。かつてはこの海域に日本船が出漁していました。けれども、殆どが締め出されてしまいました、

② 日本では、

以東底曳いとう(1 艘曳そうびきサイドトロール)、
以西底曳いせい(2 艘曳) の、2 種類です。

古来には、

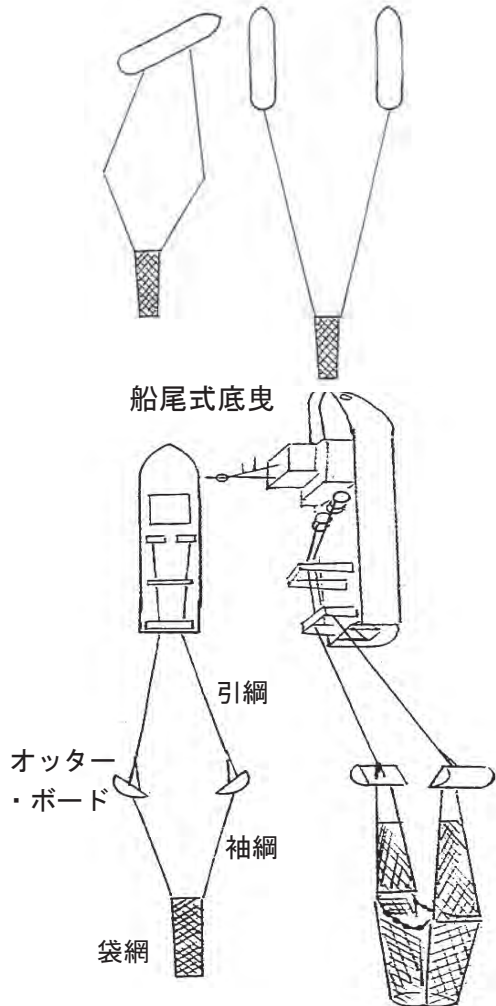
八郎瀧他、「打瀬網」の打瀬船、

霞ヶ浦、「帆引網」の帆曳船

等がありました。今日では観光や風物詩として僅かに残るだけです。

c. 漁法は主として、左右の引網ひきづなに続く袖網そであみ

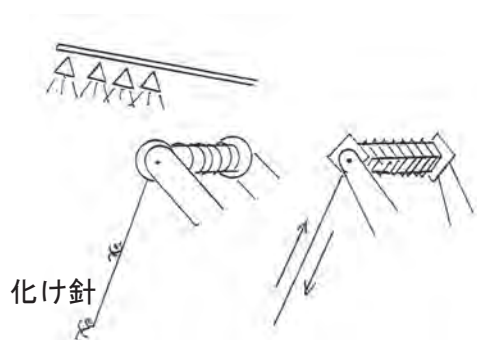
(9) 烏賊釣いかつり 1 艘曳 2 艘曳



烏賊も食卓のお惣菜です。

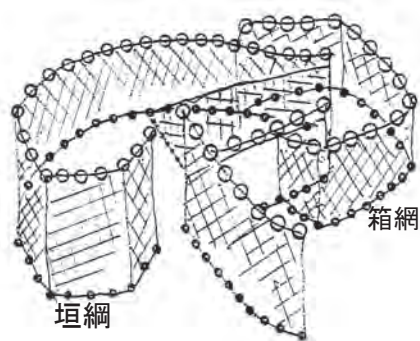
- a. 烏賊の種類には、大きくは2種類で、
①ツツイカ科として、^{するめ}鰯いか、^{やり}赤いか、^{けんさき}槍いか、松いか、^{けんさき}剣先いか、などが対象です。
②コウイカ科には、甲いか、紋甲いか、などです。
- b. 主にツツイカ類での漁法は、夜間、集魚灯を点け、丸型または角型の糸車で、化け針が付いた釣り糸を上下に昇降させ、烏賊が餌と思い、抱きついてきたのを釣ります。

(10) その他



- a. 定置網 (大謀網、落とし網ほか)
①鰹、鮪、鰯、鯷、鯖などの魚が対象となります。
②沿岸、岸の近くに垣網を仕掛け、魚の回遊を遮り、箱網の中へ魚を誘導して捕らえる方法です。

さて、漁業のお話はここまでとします。しかし、今回この漁業、漁携を紹介するに



当たって、日本切手で何があるかを調べてみました。

すると漁業の切手は真に少ないのです。鯨を含めて魚に関しては、年賀切手ほかで玩具の類として、そして郷土の風物詩的な情景として、もしくは、どのような基準で選ばれたのか判りませんが、魚介類のシリーズで取り上げられています。

しかし、魚を獲るという場面での漁携は、普通切手の「捕鯨」の、それも、大きくはぴ2種類しかないのです。

日本は獲るという漁業から、買うとか、輸入する漁業、国になってしまいました。食糧の米も大雑把な量で1千万トン、魚の、海産物もそれに匹敵する1千万トンです。けれども、その6割方が輸入魚となってしまいました。200海里の経済水域の設定により、世界の海から縮出されてしまった結果のことで、仕方ありません。

大手の水産会社も、大洋漁業が「まるは」、日本水産が「ニッスイ」、日魯漁業が「ニチロ」、極洋(捕鯨)が「キョクヨウ」、宝幸水産が「ホウコウ」と名前が変わって、漁業、漁携の看板は降ろしてしまったようです。

ここで少し“頭の体操”、お遊びです。女性の白く細い綺麗な指をたとえて、“白魚のような指”といいますが、この

・シラウオ(白魚)とは、サケ目シラウオ科の魚で全長10cm、内湾に棲み、2から4月にかけて川に遡上し産卵します。“白魚のような指”というのは、この魚からのことです。一方、

・シロウオ(素魚)とは、ハゼ科で全長5cm、これも内湾に棲み、春になると川に入り産卵します。シラウオとは別種です。福岡、室見川^{むろみがわ}“踊り食い”が有名です。

次回からは、関連した次のテーマです。

金井宏之氏が「切手文化博物館」を来春開設

10月7日の神戸新聞に、金井宏之氏が来年5月「切手文化博物館(仮称)」を有馬に開設することが報じられました。以下にその一部を紹介します。

『切手に魅せられ、収集歴70年という会社経営、金井宏之さん(79)＝芦屋在住＝が貴重なコレクションを展示する「切手文化博物館(仮称)」を来年春、電子メールが幅をきか時代に「お国柄がにじみでる切手の面白さを、今こそ伝えたい」と意欲満々だ。(中略)

分科会活動報告(切手教室)

- ◎「第25回切手教室」(9月4日)
甲斐正三氏「ケアと切手」
小林彰氏「郵便で知る横浜洋菓子事始」
- ◎「第26回切手教室」(10月2日)
西村寿一郎氏「モンゴルと切手」
諸田志郎氏「奈良の国宝切手」
- ◎「第27回切手教室」(11月6日)
小西邦彦氏「世界の切手印刷事情」
宮鍋益治氏「郵便料金の変遷と切手」

編集後記

今年も残すところ僅かとなりました。長い猛暑が終わり、秋は足早に過ぎていきそうです。関東大学ラグビーは対慶應戦に大勝してV4に王手をかけ、期待すること大なるものがあります。

切手を楽しむ人も高齢化が進んでいるようです。趣味が多様化し、親子で切手を楽しんでいる家族のことはほとんど耳にしません。それにしても、若い人たちがもっと切手に目を向けるような試みが考えられていいのかもしれませんが。研究的、専門的な収集と同時に、もっと楽しい切手集めの世界があることを知ってもらい、切手の世界が少しでも広がることを期待したいものです。

博物館開設は「日本の郵便の歴史を子どもたちに知ってほしい」との思いから。そのため明治初期からの切手約1万3000枚を展示し、1871(明治4)年に始まった日本の郵便制度を紹介する予定。(中略)「自分も集めてみようかな、と一人でも思ってくれば本望。切手人生の集大成です」と金井さんは目を輝かせている。』

近々にさらに詳しい情報をお届け出来ればと思っています。(記:編集)

新入会員紹介

村井 悌二(44・商) (敬称略)
343-0041 越谷市千間台西19-6
サンライトパストラル1-503

新しく事務局が出来ました

このたび、小西邦彦氏の会長就任に伴い、初めての事務局が英国海外郵趣内に設けられました。渋谷駅から宮益坂方向へ徒歩7.8分です。

発行日： 2004年12月1日
発行： 稲門フィラテリー
発行人： 小西 邦彦
〒150-0002
渋谷区渋谷1-11-3 正栄ビル4F
(株)英国海外郵趣代理部内
稲門フィラテリー事務局
郵便振替口座： 00110-0-560458
「稲門フィラテリー」
編集担当： 湯川宗昭・池澤克就
木元淳一郎・甲斐正三

稲門フィラテリー

第 15 号

2005 年 3 月 1 日発行

スワンリバースタンプショウ

根岸 昭二

2004 年 9 月 9 日から 12 日までの 4 日間、西オーストラリアのフリーマントルに於いて、西オーストラリア最初の切手、ブラックスワンを描く 3 種の切手が発行されてから満 150 年になるのに因み、オーストラリア展が開催されました。地元のウェスタン・オーストラリア・スタディ・グループに所属している私には、前年競争出品の要請がありましたので、伝統部門にチャレンジすることにしました。今回は年齢を考えて、乗り換えを避けた直行便を利用して、9 日間のゆったりした日程で、西オーストラリアの州都パースを目指しました。経費のかさみは兎も角、充実した日を過ごすことができました。

6 日の夜、成田を出発したカンタス便は、翌 7 日の早朝、私にとって 20 年ぶりのパース空港に到着しました。乗り物での睡眠が苦手な私は、一刻も早くホテルで休息と、パースを通過して、フリーマントルのコロニアル風ホテル・エスプラネードに向かいました。チェックイン・タイムまでは未だ大分時間がありましたが、幸い直ぐに部屋が使えることになって助かりました。

一眠り後の午後、ホテルから直ぐ近くにあるラウンド・ハウス 1831 年、スワン川の河口に刑務所として建てられ、すっかり周辺の砂地と同化してしまっ、単なる丘にしか見えないが、ここから行く見晴台からインド洋の水平線が一望できたのが印象的でした。

このあと、明日出品物を持ち込む会場の場所を確認のため、無料巡回バスを利用して、フリーマントル駅を目指しました。線路越しに見える会場までは歩くと結構時間

がかかりました。

9 月上旬のパース周辺は、思ったよりも寒く感じられ、厚手の服装が必要かと心配になりましたが、8 日の午前中コート無しで、作品を会場に持参したときは、じっとしているとちょっと寒いなど思われました。顔見知りのトッド氏に会ってピンルームに連れて行かれ、受付事務が終わりほっとしました。

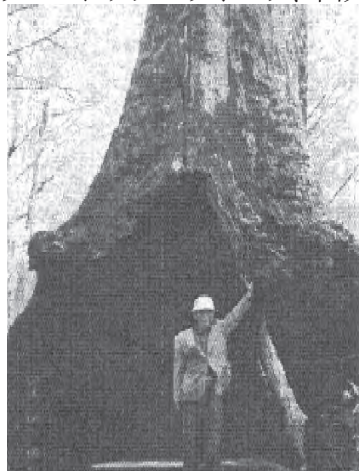
フリーマントルの町は、古くから開けたとはいえ、小さな港町で、高層建築無しの明るい街中は、歴史の息吹がそここに感じられ、観光スポット、サウス・テラスにしゃれたカフェが並び、歩き回るのは楽しいところでした。結構イタリアン・フードがはやっていましたので、好きなエスプレッソとカプチーノは飲みまくりました。近くに 20 年前駆足旅行の際は改修中で入れなかったフリーマントル郵便局もあり、日本の郵便局の将来を思わせるステーションナリー類のいっぱい店内に一驚しました。

ホテルに帰り、コンサルジュに今回の訪問で、どうしても行って見たいアルバニーへの交通手段を相談したところ、鉄道、空路の方法は不可との回答で、ちょっとあきらめかかったところ、一日がかりのバスツアーがあるとのことでした。パースを出発点としたフルデイ・ツアーの中に週 3 回、便があるとのこと、曜日の関係で明日 9 日はどうかと言われましたが、明日は生憎オープンの日です。しかし、この日を逃すとちょっと無理と、思い切ってこのツアーに参加することにしました。本来バスツアーは好かず、海外ではこれまで利用した

ことはありませんでした。レールの上を走る乗り物が一番ですが、止むを得ません。

ツアーは9日早朝に始まりました。午前5時半ホテルのフロント付近で待っていますと、この時間帯私一人でしたが、迎えの車を運転する男性が話しかけて来ました。フリーマントルからは私一人とのことで、ワゴン車にピックアップされてパースへ向かいましたが、突然の雨に驚かされました。パースから約500キロ南の西オーストラリア最初の植民地アルバニーまでの往復16時間の行程でした。ウィークデイでしたので参加者は僅か11名、車内は、おかげで大分寒く、スプリング・コートでは役に立たない程で、ちょっと困りました。

天候はめまぐるしく変わりましたが、車外に出るときは晴れてくれましたので助かりました。ハイライトは、ワルポール国立公園の中でテイングルという巨木のツリー・トップ・ウォーク、山火事のすさま



じさを語る大木の焼けた黒コゲの木肌の連続、珍しい植物の説明と、二人組のドライバーの活躍は、平均100キロ近くの走行とかなりのハードワーク

ですが、気持ちよい対応は、本当にご苦労様でした。

アルバニー近くの巨岩の続く海岸にある見下ろすと寒気がする程のすさまじい岩のギャップと、自然の妙というべき自然岩のブリッジを急いで見学した後、やっと念願のアルバニーの丘に到着しました。アンザックの記念像がある丘の上からキング・ジョージ・サンド湾を俯瞰できましたのは、大感激でした。明るいうちにここまで来たのは幸運でした。私のコレクションの中で、最も貴重な最初のシリーズの3種の切

手を貼ったカバーが、この地からヨーロッパ向けに運ばれて言ったのです。

ウェスタン・オーストラリアからの初期の郵便物は、パースの外港フリーマントルかアルバニーから差し立てられていきました。

パース近くのハイウェイのターミナルで、私一人乗り換えてホテルに到着したのは真夜中12時近く、まさに強行スケジュールでした。



キング・ジョージ・サンド湾の俯瞰

10日は朝食後、真直ぐ会場に直行しました。会場は鉄道フリーマントル駅の向かい側の波止場との背中合せのフリーマントル・パッサンジャーズ・ターミナルと、普段は全く人通りのないエリアになりますが、狭い町の中では、このような催しが開ける唯一の場所かも知れません。全豪展800フレームの規模は国内展としては丁度良い規模と思われます。

入口近くにコート・オブ・オーナーの作品として旧知の香港のウー氏のクラシック・ウェスタン・オーストラリアが展示されていました。



切手展会場

世界の珍品の一つ：フレーム・インバートの4ペンスのエラー切手が4枚も含まれているこのコレクションとは99年メルボルン、00年ロンドンで、私は既に対面していましたが、何度見ても、私にとって嘆息の連続でした。79年スイスのオークションで、その獲得に挑戦しましたが、私の予想価格の倍で落札されてしまったものが含まれています。

他に招待作品として、ウェスタン・オーストラリアのポストアル・ヒストリーとエアメールの2作品が並んでいました。こぢんまりした切手展の割には、なかなか盛り沢山の内容で、当初私が考えていた展覧会よりは、はるかに充実したものでした。作品は全オーストラリアにとどまらず、英国、カナダ、ニュージーランド、米国、タイから出品されていました。そのため、審査員は、各ステートは当然として、夫々の各国から招聘されていました。また、初めての試みとしての3か国対抗戦があり、シンボルマークが夫々カンガルー、キウイ、エレファントの3か国が、夫々の作品を指定し、その作品の合計審査ポイントを競う催しがありました。加えて別枠でオーストラリア・ポスト・カップに4作品、そしてサラワク・スペシャリスト・ソサイエティの9作品が展示されていました。同州の収入印紙とローカル切手の分野に、私の興味を引く作品があったのは、今回の収穫でした。

02年の韓国展で大金銀賞をいただきましたので、それ以降の競争作品の出展に際して、原則として5フレームから8フレームの作品に格上げしなければなりません。質を落とさずに3フレーム48リーフ分を拡大することはなかなか大変なことなのです。コレクションに付け加えていくべきアイテムに巡り会える機会が、オークションを初めとして簡単にあるわけではありませんし、資金面でいつも余裕があるわけでもありませんし、まさに悩み果なしの連続でした。

審査の点数は、私にはなかなか厳しいものでしたが、6フレームの半端な展示でしたが、特別賞付きの金賞で、充分満足しています。

10日からはパースのシェラトン・ホテルに宿替えをしました。パース中央駅からちょっと遠いのが難点でしたが、スワンリバーのクルージングには好都合の場所でした。

スワンリバーをボートで下ってフリーマントル港までのクルージングでは、リバーサイドの豪邸群とヨットマリーナ群の打ち続く様は、あのアメリカズカップの会場となったのも、もっともなことと納得しました。

12日朝9時からアワード・プレゼンテーションで頂いた特別賞がオールド・フリーマントルの豪華な写真画集をカラマンダ・スタンプ・クラブからベスト・ウェスタン・オーストラリア作品として私に送られたのは、金賞と二重の喜びでした。夕刻には出品物の受け取りも無事終わり、ホテルに帰って、貴重品ボックスに預けて一安心。

13日はスワンリバーワイナリークルージングに参加して一日を楽しみました。船の中でご一緒させていただいた日本人夫妻のアノレコールに強いには驚かされました。スワンリバーを遡る途中で眼にした最も自然なブラックスワンの姿を見られたのも嬉しいことでした。

モンガール湖畔と、14日の午前中に訪れたパース動物園のブラックスワンは、ちょっと淋しさが伴うのは、もの足らぬ思いを残しました。

14日夜半パース空港を出発して1時間半後、急病人が発生して、出発地にトンボ帰り、3時間以上遅れの再出航は、私の30年に及ぶ海外旅行でも初めての体験というオマケ付きで、今回の旅が、ザ・エンドとなりました。



切手と共に 50 年

坂下 泰一

私にとっての最初の切手

昨年 11 月、20 年振りに 3 種の新銀行券（新札）が発行され、大きな話題となった。お札の顔とも言うべき肖像画は、1 万円札こそ福沢諭吉と変らなかつたが、5 千円札は新渡戸稲造から樋ロー葉に、千円札は夏目漱石から野口英世にそれぞれモデルチェンジされた。

新札の肖像画は、われわれ切手愛好家におなじみの文化人切手を思い出させてくれ、おもわずなつかしさと親しみを覚えたものだ。今から 50 数年前に発行されたこの野口英世、福沢諭吉、夏目漱石そして樋ロー葉の文化人切手こそ私を切手収集へと引き込んでくれた思いでの切手であった。

中学生になってまもない頃、1 人の親友が、お祖父さんから貰ったと言う 1 冊のノート（ストックブック）を私に見せてくれた。そのなかには見たこともない大型の切手十数枚と色鮮やかな絵葉書が何枚か入っていた。今まで切手と言えば、交から送られて来る手紙や葉書に貼られた乃木大将や東郷元帥の、そして戦後は農婦や炭鉱夫を描いた小型の切手しか記憶に無かつたので、もの珍しさからしばらく見とれていた。明治銀婚、大正大礼、大正ご婚儀等の記念切手やその記念絵葉書だった。華やかさのなかにも威厳が感じられ、私は圧倒される思いがした。

家に帰るや、親や姉に話した。「渋谷の東横デパートの 5 階にある趣味の切手売場にはいろんな珍しい切手を売っているよ」と姉。母から「郵便局には記念切手がまだ何種類か売っている」との情報貰った。

早速、郵便局へ行くと、発売中の切手が入った額があり、その中に野口英世、福沢諭吉、夏目漱石、その他何種類かの記念切手があった。またスポーツを描いた切手もあった。財布を気にしながら十数枚の切手を購入した。この切手が趣味の切手として私が買った最初のものであり、切手収集の端緒となるものだった。

野口英世の切手が特に気に入った。文化

人シリーズの最初の切手ということもあるが、渋味のある緑色や大胆な彫り線が魅力的に感じられたからだ。野口英世の原版制作者である加藤倉吉氏が「切手研究」(346 号)誌上で次のように語っている。「紙幣に用いるようなオーソドックスな彫り方の外に切手なるがゆえに許される表現の仕方と言うものができるのと直ちに思っていた。荒彫りで、顔に入れる点を思い切って強弱をつけ、写真的になることを避けて絵画的というのか直感的というのか、少々思い切った線の扱いをしてみた」

学生時代の収集

その後間もなくして発行された郵趣協会の「標準切手カタログ 1951」や切手商組合の「日本切手カタログ」を手にしてから収集も一段と進んだ。カタログは今の 3 分の 1 くらいの薄手のものだが、収集の大きな助けとなった。

学生時代は、カタログナンバー通りに 1 枚でも多くの切手を集めるのが目標であり、1 種 1 枚で満足していた。収集範囲は日本切手全般、記念、特殊切手はもちろん小判切手以降の普通切手、琉球切手やステーションナリーも収集の対象であった。学生の身分ではお小遣いも十分ではなく、家庭教師、その他のアルバイトをしながら補っていたが、ところどころ穴があつたのは言うまでもない。当時、「郵趣」、「切手趣味」、「ゆうびん」などの購読会員になっていたが、郵趣会やサークルはどこにも属していなかつた。切手は独り楽しむもの、と勝手に思っていたらしい。早稲田に切手研究会というサークルがあり、いろいろ活動していたことをうかつにも知らなかつた。残念なことだった。集めた切手を自慢したり、研究したり、話しあつたりする同好の士が身近にいなかったことは収集する上で大きなマイナスだったと思う。

その後、就職し、自分でお金を稼げるようになってからは、収集活動も大いに進んだ。記念・特殊切手はほとんど集まり、普通切手は、製造面に力を入れていた。特に、菊、田沢切手の目打ちや枠線、昭和切手の

エラー等に夢中だった。55円マリモ1色落ち、5円オシドリ無目打等のエラー切手は2リーフになっていた。

手彫切手専門に

社会人になって10年近くになった頃は、日本切手のアルバムも6,7冊になっていた。しかし、まだ手彫切手に関しては、カタログコレクションの域を出なかった。市田氏の英文「竜切手」や「櫻切手」。また「青一」等の専門書を読み、雑誌に載った記事や、論文に目を通し、切手展に出品された手彫作品を見たりするうちに手彫切手に対する興味がだんだん増して行き、また面白さも分かってきた。

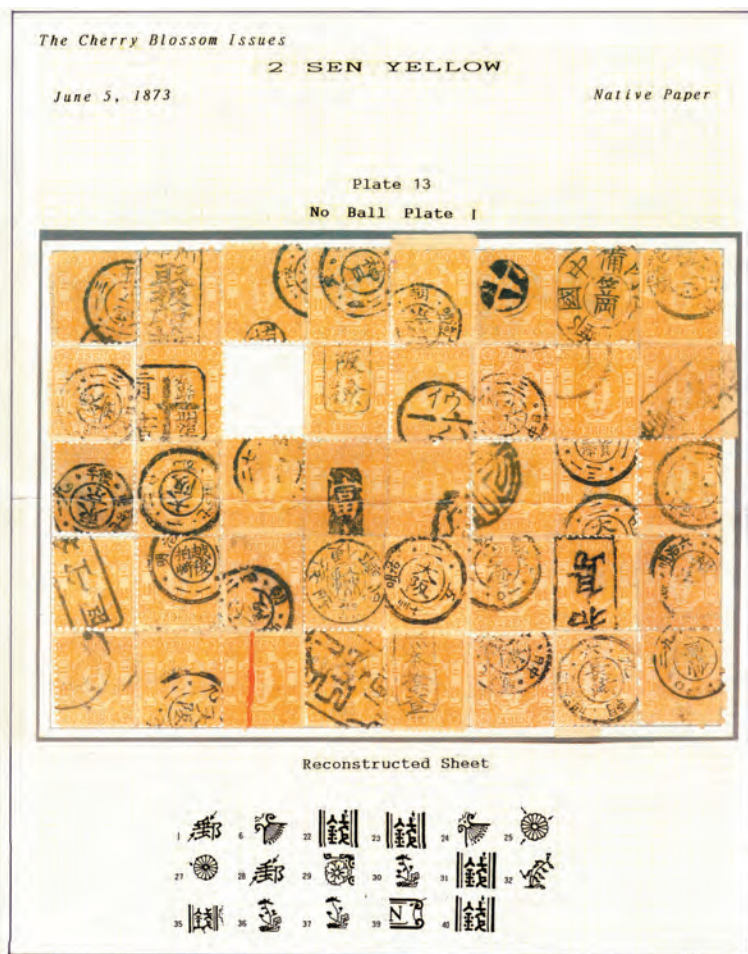
そんなころ、手彫切手を専門に集めようと決意させたことが2つあった。国際切手展〈フィラトキョヴ71〉を見て、その手彫コレクションのすばらしさに感動し、刺激を受けたこと。もう1つは次のような出来事だった。

新宿の郵趣会館地下の切手街にNスタンプと言う切手店があった。あるときいつものように、顔を出すと、「こんなのが入って

いる」と言って竜1銭と2銭の状態のよい未使用を見せてくれた。1銭の方をよく見ると、何と3版ではないか。「3版でしょ?」と言うと、「そうだ」とすまし顔。外国の取引先から最近入ったのだと言う。こんなセンターのよい未使用は初めてだ。いくら?と聞くと「カタログ値」だ。当時の値段は50万円(今の専門カタログでは170万円)。そんな大金があるわけではない。しかしこの機会を逃したらもう手に入らない。「少し考えさせてくれないか」と答えるのがやっとだった。2~3日は大丈夫だろうと

言う考えがあった。店の中には、他にはだれもいない。そこに一人の紳士が入って来ていたことなど、全く目に入らなかったのだ。

帰りの電車の中で、竜1銭のことがどうしても頭から離れなかった。よし、コレクションの一部を処分しよう。家に着くとすぐ、ポストクアルバムに整理してあるステーションナリー(手彫から現行まで、琉球を含む)を2冊取り出し、渋谷にある行きつけのTスタンプに持ち込んだ。「これいくらになる。50万円ほしいんだ」。まるで計算したように50万円出してくれた。その金をもって新宿へ直行。「切手は?」「もう売れた」。こんなのがっかりしたことはない。帰るときそこにいた人が買ったと言う。その人とは、後の国際切手展でグランプリを獲得し、手彫切手研究会の現会長である福原一信さんだった。ふさわしい人の



何故か ようかい譚

池山 眞彦

つれづれなるまゝに日暮し椅子にもたれて、心にうつりゆく妖怪(あやし)のことをそこはかと書いてみんとて…。

妖怪道も始めの一步を踏み出したにすぎない未熟者が斯界の権威者の目を盗んで、オレ流の存在感を顕示しようという、恐ろしい試みであります。

さて2004年は地球的規模での天災・人災が相次ぎ、その規模は激烈甚大、まさに「災」の字で象徴される一年でありました。

地震、台風、大津波といった超自然現象や人間の傲慢、欺慢、独善の果の国際紛争や事件は、極めて悲惨であり、早急なる対応と回復が望まれますが、考えて見れば人間の存在、社会のあり方を原点から回帰する機会を教示した「荒ぶる神」の怒りの鉄槌だったのかも知れません。

縄文の昔から木石流水、山川草木を始めとして森羅万象に神は存在しその姿は常に神々しく、異様な靈力を備え、人々にとっては徳多き可畏(かしこ)き存在であったようです。

特に自然現象の泣きわめき、荒ぶる様は「青山を枯らし、河海を乾し神の声は万の物の妖(わざわい)を発りき」の如く、自然の力が神のイメージを作ったといわれます。

人間の力では手なづけ難い、未開の精霊、自然の靈威はあらゆる災の源であり、自然と社会に危機をもたらす源泉であったようです。自然災害の頻発する国ならではの自然発生的な神への畏敬なのであり我が豊葦原瑞穂の国は八百万神のおわ



ヤマタノオロチのモニュメント(島根県横田町)

す「神の国」であると同時に姿の見せぬ隠(オン)の概念をもつ「もののけ」の大地だったのです。これこそ現代に継がる日本文化の独自性、深遠性の原点であると思います。現代を生きる我々が自然科学の領域で十分に解明できる現象例えば美しい虹ですら、「河の上(ほとり)に虹の見ゆること蛇の如くして」の記述が残る程、自然の神威を敏感にとらえ又崇りを恐れていたようです。

そして、我国が自然を神とあがめる土俗信仰の時代から、東アジアの一員としての倭の時代へ、更に中国の律令制度や仏教思想を基とした先進国家「日本国」建設の過程でも心の深奥には古の概念が脈々と生き続け、新しい概念との密接な結びつきの中から、新たな妖怪概念が芽生えてきたものと思われまます。

特に中国最古の空想的地理書である「山海経」(せんがいきょう)に記述された妖怪や、死者の靈を弔う仏教思想の延長線上からは姿の見える鬼(キ)が数多く登場し、又、四霊と呼ばれる瑞兆を呼ぶ靈獣、すなわち龍、鳳凰、麒麟、亀といったものが神の使い信仰と同化して、我国に定着しました。その中でも龍は古来の蛇(オロチ)信仰と重なり容易に受け入れられ、敬われた



出雲・揖夜神社(藁の龍神・目玉は電球)

ものと思われまます。

龍は雲を呼び雨をもたらし、常に天地の間を飛翔する想像上の動物です。爬虫類の形をし、頭はラクダ、胴は蛇、角は鹿、目は鬼、鱗は鯉、耳は牛、爪は鷹、掌は虎、翼は蝙蝠という異形で、時代が大きく変化

する時、どこからともなく、やってくる」と伝えられています。時代が大きく変化する時、すなわち、西洋文明の手痛い洗礼を受け、明治維新という、抜本的な構造改革が急務であった時、近代的郵便制度の建議が民部省郵便司権正七位守源朝臣密前島により大蔵・民部両省の決議を経て、大蔵当局に回付されたのは明治三年6月でした。通信総合博物館に残された、正院本省・郵便決議簿第壹号の中で、新式郵便の仕法として、賃銭切手の必要性が述べられ併せて、その仕様について、「切手は百文、貳百文、五百文の三通にし、百文は白地に暗紅字、武百文は青地に黒字、五百文は紅地に黒字を以てし、紙は和唐紙を用ふ」とし、雛型は梅の文様で囲った中に百文、貳百文、五百文と認入れ三通彫刻の積、右は銅板にて彫刻可致積とある。その後郵便仕法について民部省、大蔵省間で掛合が行われ、賃銭切手に関しても最終的に五拾文を加えた四種とし大蔵省へ製造依頼された。



最初に考えられた図案

同年9月太政官より大蔵省へ「賃銭切手の儀は其省へ御委任候間精緻製造可致事」と通達が発せられた。しかし「精緻製造可致事」の具体的検討内容や過程については資料も散逸し全くの暗の中であり、明治4年我国最初の郵便切手は当初の図案、種類、刷色も異った「龍切手」として立上った記です。

樋口雪湖著「日本郵便切手史論」にしてもこの図案、色彩を変更したことについては「何等記録するものがなく具体的説明は困難である」と著している。

又、別に、当時は印刷の設備・技術ともとのつていなかったので前島密の考えた切手の図案「梅」はあまりにも簡単な図案なので偽造されやすいなどの理由から、図案、印刷を京都にいた銅板師松田敦朝に委記したが切手製造が急を要していたので当時の太政官札（政府発行の紙幣）の図案に使用されている双龍の模様を政府へ提案し、決定されたと説明されている。

時代が大きく変化する時、どこからともな

くやってくる「龍」。

大政奉還、王政復古、局地的に戦争状態の続く中、天皇を頂点とする新政権が発足したばかり、庶民の生活も世相を反映して農民一揆や打ち壊しが多発、激化そして「えゝじゃないか」の享乐的気分の中での新時代への期待感等、国力を諸外国レベルまで引き上げる最重要課題山積の中で、とにかく忙がしく、且つ貧乏だったのです。

近代の郵便制度の確立に夢を馳せた人々は、まさに自己責任で物事を判断し、決定し、実践していかねばならなかったのと思います。日本人の根底に古代より流れる土俗的な感情の発露として、そしてその後花開いた華麗な江戸文化の中で画人や工人、匠の心を捉えて離さない題材として時代の要請に出るべくして出たのが「飛龍」だったのかも知れません。

さて、先の通常国会、施政方針の中で改革の本丸として郵政民営化を自らの本懐として、「恐れず、ひるまず、とらわれず」と鼓舞されました。「まず民営化ありき」の発想は改革の基本コンセプト構築がないまゝの一人歩きであり、後年、悔悟の念を抱く危険性を十分にはらんでおります。あの貧しく、忙しい時代に近代国家建設への熱き思いを抱きながら現代の骨格をつくり上げた先人たちの先見性と努力の成果を無にしない様更なる討議の中から、次の郵政を見据えてほしいものだと思います。

下手をすると今の時代に登場するのは早天に慈雨をもたらず「飛龍」でなく中二階から行手を阻む「見越入道」なのかもしれません。早々に「見越入道見抜いた」と言わないと負けなのですが、……。無理でしょうね。



妖怪道五十三次 - 阪之下 -

早稲田学報に稲フィラ旅行記が掲載

稲門フィラテリーが平成 15 年に前島密記念館、相馬御風生家・記念館を訪問したことは、早稲田学報平成 16 年 10 月号の会合日より大きく掲載された。

続く去年の旅、杉原千畝記念館、宇治山田郵局訪問についても寄稿済で、早稲田学報編集部からの知らせでは早稲田学報平成 17 年 4 月号または 6 月号に掲載予定とのことである。

今年も都バスが合格祈願乗車券発売



ここ数年、受験シーズンになると、都交通局では早稲田大学入試に伴い、合格祈願割引乗車券を発売している。今年も写真のようなデザインで、通常 340 円の学バス往復乗車券が、受験期間に限り 300 円で発売された。

このような大学合格祈願都バス乗車券は、早稲田大学のみである。

(詳細は東京都交通局ホームページ参照)

編集後記

関東大学ラグビーの覇者となった早稲田とトヨタの試合は、生放送されないことで当日を迎えましたが、実際には視聴者からの強いクレームが殺到し、実施の運びとなりました。全ての新聞の当日 TV 欄には他の番組が載っていて見過ごした方もいるのではないのでしょうか。NHK 対朝日新聞問題の余波？

4 月には全日本切手展とスタンプショウが開かれます。切手を集めていない会員もおられますが、久しぶりにのぞいて気分を新たにするのもいかがでしょうか。ブースを巡れば新しい発見があるかもしれません。

写真付切手『大隈重信侯』頒布終了(報告)

昨年の総会案内に同封した「写真(オリジナルデザイン)付切手・大隈重信侯」頒布案内に、19 名の方から 84 シートの申込みがありました。とくに黒川氏からは国分寺稲門会用として多量の注文をいただきました。稲門フィラテリーの宣伝を兼ねて忘年会の景品に用意されたそうです。

今回の頒布は、佐賀県出身の古賀氏のご好意と、青柳氏のご協力を得て行なわれました。頒布実費に発生した若干の余剰金が当会に寄付されています。

追加注文希望の方は郵趣サービス社へ。

(「郵趣」誌、JPS ホームページに広告)

分科会活動報告(切手教室)

- ◎「第 28 回切手教室」(12 月 4 日)
五十野和男氏「写真付切手」
甲斐正三氏「新・切手を整理する道具」
- ◎「第 29 回切手教室」(2 月 5 日)
小川義博氏「老眼で切手を楽しむ」
池澤克就氏「PC で楽しむ切手収集」

平成 17 年度切手教室予定

来年度も新宿北郵便局にて切手教室を開催します。いずれも原則毎月第 1 土曜日。

平成 17 年 4/2, 6/4, 7/2, 8/6

9/3, 10/1, 11/5, 12/3

お誘い合わせの上参加ください。

発行日 2005 年 3 月 1 日
発行 稲門フィラテリー
発行人 小西 邦彦
〒 150-0002
渋谷区渋谷 1-11-3 正栄ビル 4 F
英国海外郵趣代理部内
稲門フィラテリー事務局
郵便振替口座 00110-560458
「稲門フィラテリー」
編集担当 湯川宗昭・池澤克就
木元淳一郎・甲斐正三

切手文化博物館—開館記念式典の風景—

吉沢 忠一

有馬温泉は、日本最古の名湯として知られ、1943年(昭和18年)までは福知山線三田駅から分岐して旧国鉄の有馬線が通っていた。今でも細い坂道の両側に古い建物が並び、昔の温泉街の面影を残している。万年坂を登り、息が切れる頃、切手文化博物館が現れる。

約300年前盛岡で建てられ、馬事文化資料館として使われ後、当地へ移築された建物の前に三張のテントが張られ、その下で開館式典を待つ。参加者は6~70人か? 高台にあるこの地は緑に囲まれ、素晴らしい環境で、ウグイスがさえずっている。

まず、金井館長が挨拶に立ち、切手には各国の文化が反映していること、竹を多用したこの建物の由来などを話された。次の井戸兵庫県知事は、若い頃切手を集めていた思い出を、矢田神戸市長は、有馬に新しい名所ができた喜びを語った。お二人とも、お顔も頭髪の感じもよく似ているのは偶然だろう。

今日は金井さんの80才の誕生日、と紹介があった後のテープカットでは、知事らが金井さんと中央の位置を譲り合って、参加者の笑いを誘った。式後館内を見学。建物は新築のようにキレイだ。「方寸の館」の額の下を通り、靴を脱いで進むと、岡田三郎助画伯の前島密像が迎えてくれる。第1展示室に

は、初期の郵便関係の資料が並べられている。左手にある特別展示室で、6月16日までの開館記念展「2003年グランプリ」の手彫切手コレクションを拝見する。竜文切手(1871年)シート4種、桜切手(和紙二十銭(イ))(1874年)など希少品が並ぶ見事なコレクションだ。手彫など縁がないと勉強不足の小生、橘さんに「ここに書き十」(鳥切手十五銭<1875年>)と教えていただきよく見た。

第2展示室はすべて日本切手で、年代順に展示している。自分で買い始めた1940年(昭和15年)頃になると、急に親近感が頭をよぎる。小熊さんが神戸新聞の女性記者の取材を受けている。この学芸員も若い女性だ。

続いて隣の古泉閣で立派な点心をいただく。この席にも金井さんが顔を出して「記者に"なぜ切手を集めるのか?"と聞かれると一番困る」と笑っていた。季節も天気も最高、金井御夫妻にとって人生最良の一日となったに違いない。



有馬温泉に「切手文化博物館」がオープン

2005年4月7日の読売新聞に、金井宏之氏の「切手文化博物館が有馬温泉に」オープンすることが大きく報じられました。

切手50万点

有馬温泉に博物館



有馬温泉に開館する「切手文化博物館」の完成予想図

大阪市の機械部品製造会社の会長で収集家の金井宏之さん(79)が有馬温泉に所有していた土地の寄贈を受け、財団法人「郵便文化センター」(大阪市)が建設、運営にあたる。2階建て延べ約3000平方メートル、建物約3000年前に建てられた土蔵造りの家を岩手県から移築する。総事業費は5億円。金井さんが館長を務める。収蔵品は、センターが個人コレクターから集めた。うち約5000点は「散逸を避けたい」と金井さんが寄贈。印刷はしたが発売しなかったため世界で2枚しか現存せず、2003年の国際切手展で日本発行の切手で初めてグランプリを受賞した「桜切手紙」千銭(イ)や、1871年に日本で最初に発行された「電四十八文」など4種の切手の未使用シートが

郵便制度が始まった1871年から約130年間に発行された日本の切手を中心に、約50万点を収蔵する「切手文化博物館」が5月16日、神戸市北区の有馬温泉にオープンする。世界で初めて英国で発行されたヴィクトリア女

来月オープン

王の肖像の切手に、発行日の「1840年5月6日」の消印が押された貴重なコレクションも。有馬温泉の観光客はピークの約9割にとどまっており、市観光交流課は「観光の起爆剤になれば」と期待を寄せている。

「世界で2枚」「日本初」収蔵



博物館が収蔵する世界で2枚しか現存しない「桜切手紙」千銭(イ)

含まれている。収蔵品のうち、普通切手や記念切手など30000〜40000点を、日本の郵便創業から現代までの変遷が分かるように常設展示する。ヴィクトリア女王の肖像の切手や「桜切手紙」千銭(イ)などは常設展示されず、一般公開が始まる5月17日から6月16日まで開館記念として特別に展示される。有馬温泉には1999年には年間19.2万人の観光客が訪れたが、95年の阪神大震災で10.2万人に激減。2003年にようやく170万人まで回復した。市観光交流課は「来館者に温泉やほかの施設なども回ってもらい、有馬のリピーターになっていただければ」としている。場所は神戸電鉄有馬温泉駅東約500メートル。一般500円、中高生200円。火曜定休。問い合わせは同センター(06・63446342)。

開館記念展

2003年国際切手展「グランプリド・ヌール」受賞コレクション

〈一般公開〉平成17年5月17日(火)～6月16日(木)

1 1871年(明治4年)、日本で最初に発行された「電文切手シート」。



切手文化博物館パンフレットより
開館記念展の一部を紹介

*稲門フィラテリーは切手文化博物館を見学する研修旅行を計画しています。詳細は別途、お知らせいたします。

Pacific Explorer 2005 World Stamp Expo

小西 邦彦

4月21～24日の4日間、シドニーで国際切手展があり、以下はその訪問記です。

JAL771便は夜の9時半に飛びます。会社で5時過ぎまで働き、5時50分品川発の成田Expressで成田へ。飛行機は定刻離陸で7割ほどの乗客。ジャンボ機の中央4列を独占し、アームを上げて寝台を作り9時間の飛行でした。

シドニーは多民族都市の見本で、東南アジアを中心に、東欧のアルメニア、ハンガリー等の移民も多く、活気に溢れ、かつリラックスした雰囲気です。ホテルまでのタクシーはタガログ語のフィリピン人でした。

Official Hotelはダーリング・ハーバーのNovotel Hotel チェックインは出来ても部屋は2時過ぎまで使えません。そこで切手展会場を覗く。初日は11時オープンとあってまだ入れない。このダーリング・ハーバー一帯は新しく開発された、お台場のような場所で、たくさんの観光名所が存在する。しかし一番のウリはChina townで、巨大なマーケット、美しいChaina Gardenそして中国全土からの中華レストラン。まずは無難なところで上海・海鮮料理店へ入る。Wan Tan SoupとRice Noodle Singapore Styleを頼む。日本風というと野菜入りビーフン妙めカレー風味。疲れている時には特に薦め。街は香港そのもので、カントン語が飛び交い、回転寿司、焼肉食べ放題、さらにストリップまでも揃っている。

さて切手展会場を訪れよう。入場料

400円。ただし半券が外国向け航空はがき(料額付)となっている。旧知の仲間を探してブースを巡る。ニコニコ握手をしたあと、商売の話となると”Terrible”の一言だ。切手趣味の衰退は世界共通なのだ。しかしオーストラリア郵政は連日、子供たち向けの催しを会場で行い、明日のコレクター作りに励んでいた。

作品を眺めていると肩を叩く人がいる。現地の凄いなまりで「来い」と云う。西オース

トラリアのBlackSwanの大コレクションの前で熱心な解説が始まった。しかし良く解らない。根岸コレクションの話を担当の正当英語で話すのだが、殆ど通じていない。別のBlack Swan展示の方へも引っ張られて、また15分の講義。名刺を渡してBye Byeした。英語にもいろいろあります。

三日目、各賞が発表された。大金銀賞に輝いた作品にBCOF JAPAN 1946があった。当時のオーストラリア普通切手7種に上記の英文字を加刷したもので、軍港 呉 を占拠した英連邦軍を中心に、母国との通信に用いられた。展示はそのいきさつを語るもので、手始めにTO-KYO BAYの黒活印を押したオーストラリア宛のカバーもある。即ち1945年9月2日、ミズリー号上の降伏文書調印に際し、それを記念する消印を用意した男が、このBCOF切手の企画発行にも携わっていたのだ。ひとつのコレクションを完成させるのに費やされた時間とカネ。ひとつ見るだけで疲れてしまった。

オーストラリア最後の晩餐は四川料理にした。CarltonCrownが一番の銘柄ビールで大変結構。マーボー豆腐はカントン米に合って食が進む。

帰りのタクシーは中国人で、「今日は」と挨拶のあと、なぜ日本の若い人は、日中戦争での中国人大量殺人を知らないのかと聞く。文部省に聞いてくれ！帰りはJAL772便。8時間ほど、アッという間に成田に着いた。

中国香港発行の記念小型シート



手前がシドニー・オペラハウス

電気通信・テレフィラテリーの世界

小熊 忠三郎

はじめに

「早大切手研50年」(1999年大正出版刊)に標題で寄稿して以来6年が経過した。

わが国テレコム業界で70年の歴史を有する(社)電気通信協会の月刊機関誌「電気通信」に「テレフィラテリー(Telephilately)」なる穴埋めコラムで相変わらず駄文を書きつづけている。

1. アンデルセン生誕200年

童話の世界でグリム兄弟と並び称されるデンマークのアンデルセン(Hans Christian Andersen デンマーク語では「アナセン」)は1805年4月2日同国のオーデンセに生まれた。本年は生誕200年にあたり、デンマーク郵政は3月2日4種の記念切手を発行した。

4.50 D.K.(デンマーク・クローネ)は本人の肖像と自署、5.50 D.K.は得意にしていた「切り紙(Paper cutting)」と大きな鋏、6.50 D.K.は「みにくいあひるの子」の自筆原稿に愛用のペンとインクつぼ、7.50 D.K.は無類の旅行好きだった本人の靴などアンデルセンを多角的に知ることができる素晴らしいデザインだ。各切手に共通して描かれているのは「H.C. ANDERSEN 1805-2005」の生誕200年を示す文字と愛用のシルクハットをかぶった本人のシルエットが左端に見える。これら4種の切手全部を貼付し、発行当日(UDGIVELSESDAG)2005

年3月2日付けのコペンハーゲン中央郵便局の記念スタンプ印影には切手と同じアンデルセンのシルクハット姿が配されたデンマーク郵政発行の公式初日カバー(First Day-Cover)をお目につけた。

ところで、新宿副都心の高層ビル群の中で京王プラザホテルに次いで2番目に古いKDDIビル正面玄関入

口の横にアンデルセン・モニュメントがあるのをご存知でしょうか。アンデルセンが作った10枚の切り紙をもとにデンマークの彫刻家が制作したもので、1974年(昭和49年)7月に建てられたモニュメントには日英両国語で書かれた次のような碑文あがる。

「この彫刻の図柄はデンマークの世界的な童話作家ハンス・クリスチャン・アンデルセン(1805-1875)の切り紙をもとにしたものです。……当社(旧KDD)は国際通信センター(現在はKDDIビルと改称)の完成を記念するため彫刻を設けることを考えていたところ、たまたまデンマークのグレート・ノーザン・テレグラフ・カンパニー(大北電信会社:GNTC)がこれを聞き、この図柄の寄贈を申し出られました。

アンデルセンは、わが国の子供たちにも広く親しまれているので当社もこれにちなむものを設けることは意義があると考え、……切り紙をもとにした彫刻を装飾壁とすることといたしました。

なお大北電信会社は明治4年(1871年)に日本と外国とを初めてつなぐ海底電信線を建設したわが国の国際通信にゆかりの深い会社であります。」

西新宿のKDDIビル前にあるアンデルセン・モニュメントをついでの折りにでも訪ねられ、この偉大な作家の一端をご覧くださいようおすすめします。



2. 世界情報社会サミット (WSIS)

日本人で国連の専門機関長は数少ないが、国連電気通信連合 (ITU) の事務総局長 2 期目を務められている元郵政省出身の内海善雄氏はユニークな方だ。

同氏が、日本 ITU 協会の機関誌に毎月寄稿されている「ジュネーブ便り」を通じ、世界中を駆けめぐって広般な仕事をなさっていることがよくわかる。その中でも、ここ数年「世界情報社会サミット」(WSIS-World Summit on the Information Society) に力を入れておられるが、世界サミットのようなものの必要性を次のように述べている。

第一に、情報社会とそれがもたらす新たな課題が意味するものについて、政治指導者すなわち各国政府の首脳レベルの認識を高めること。第二にデジタル・デバインドという不公平への取り組みに対して、それらの指導者から明確なコミットメントを得ること。第三に、サイバースペースに合致した新しい法的・政策的枠組みをつくることについて、それらの指導者から政治的コミットメントを得ること。

さらに、本年の年頭挨拶では「2005 年は ITU にとって節目の年になります。WSIS 第 2 フェーズ (チュニス) 開催の年であり、その成果に世界中の注目が集まっているからです。2003 年の第 1 フェーズ (ジュネーブ) では世界各国から 50 名もの国家元首らが集まり、情報社会の在るべき姿についての議論を展開しました。この世界初の画期的なサミットの場において政治的な宣言がまとめられ、具体的な活動の方向性が示された意義は大変大きなものでした。今年はいよいよその実施メカニズムについての議論を本格化する年です。」と力強く述べられている。

本年 11 月アフリカ地中海沿岸のチュニジアがホスト国として首都チュニスで第 2 フェーズの開催準備が進められているが、その間わが国では 5 月 16 ~ 17 日に「ユビキタスネット社会の充実に向けて—いつでも、どこでも、何でも、誰でも—」をテーマとする東京ユビキタス会議がある。

このサミットに、デジタル・デバインドの解消に取り組む 2 つの国から記念切手が発行されている。一つは中近東のシリア郵政が 2003 年 12 月 10 日に発行した第 1 フェーズ記念の 15 シリアポンド切手でアラビア語とともに "WORLD SUMMIT ON THE INFORMATION SOCIETY GENEVA 2003" と英語の標記、地球上に WSIS のロゴ、それを取り囲む人々とコンピューター端末が描かれている。

他の 1 種はベトナム郵政 2004 年 10 月 9 日発行の 1,000 ドン切手。世界地図と地球の円軌道上を飛翔する通信衛星を模した WSIS のロゴ、背景には 0 と 1 で構成したデジタル信号、ベトナム語と英語の併記で "World Summit on the Information Society Geneva 2003-Tunis 2005 (WSIS)" とある。

内海事務総局長総指揮のもとサミットの成功と、チュニジア郵政による WSIS の記念切手発行をテレフィラテリストは期待している。

world summit on the information society
Thematic Meeting on the Ubiquitous
Network society
Tokyo, 16-17 May 2005



world summit
on the information society
Thematic Meeting on the
Ubiquitous Network Society
Tokyo, 16-17 May 2005

(社) 電気通信協会の月刊機関紙「電気通信」に掲載の「テレフィラテリー」最新号から再録

アイスランドについて

岸 浩一

早稲田を卒業して27年が経ちました。現役時代は馬の切手、年賀葉書の使用例、オーストリア切手、日本全般の使用済み等を細々と集めてきましたが、現在は郵趣サービス社から月1回自動送付されてくる「オーストリア新切手」を集めているというより引き出しに10年間分を溜め込んでいるだけの「不良収集家」の1人です。何とか時間を作って収集を再開したいのですが、何時になることやら。そういう意味で年に1度の秋の稲門フィラテリー総会は貴重な時間となっております。

ということで、切手の話題を書くだけのネタもありませんので、この誌面をお借りして「アイスランド」について書いてみたいと思います。皆さんはアイスランドという国をご存知でしょうか？地理的にはイギリスの北方、ロンドンから飛行機で3時間の北海に浮かぶ孤島です。恐らく殆どの方が訪問された事がないかと思いますが、たまたま2003年と2004年の2年間に仕事でこの国を3回訪問する機会がありましたので、是非この国について紹介させて頂きたいと思えます。

アイスランドというと寒い国を連想します。実際、緯度がかなり北極に近いこともあり、夏は有名な白夜の日が続きます。太陽が沈んだと思ったら直ぐに浮かび、一日中明るい日が続く一方、冬は10時に日が昇り、3時にはもう暗くなります。ところが、島の周囲を暖流が流れているため、首都レイキャビクの場合、1月の平均温度は1℃、7月で11℃と年間を通じ涼しい気候と言えるでしょう。

国土面積は10万3千km²と日本の四分の一強の面積の国に僅か29万人しか住んでいません。歴史的には古く、13世紀にデンマーク人が移住を開始しており、言語的にはスカンジナビア諸国と似通ったアイスランド語が使われています。

が、教育レベルが極めて高いことから、国民の殆どが英語を話すことができます。また、世界で始めて議会を開設した国としても有名です。

現地では有名な話ですが、移住した人にとって余りにも住みやすい国であったため、他の国から人が来ないように寒い国を連想する「アイスランド」と国名を命名した一方、海を隔てたグリーンランドは本当は寒くてどうしようもない国なので、みんなに来て欲しいことから、緑豊かな国を連想する「グリーンランド」と命名したそうです。

この国の主要な産業は水産業です。周りを海で囲まれているため、水産物の加工が盛んで、魚そのものの輸出の他に、タラ肝油などの魚油は世界各国に輸出されています。ホテルのレストランの朝食ビュッフェにタラ肝油入りの瓶が置いてあり、現地の人々は毎日10ml程度飲んでいるそうです。私も飲んで見ましたが、とても魚臭くて一口だけ飲んでギブアップ！よくこんな油を飲めるなと思いました。アイスランドは日本と並んで世界でもトップクラスの長寿国として知られていますが、恐らく日本と同じように魚や魚油を多く摂取してきたのが長寿の理由の1つであると言われてます。特に青魚に含まれるDHAやEPAのような不飽和脂肪酸が動脈硬化の防止、中性脂肪の減少、善玉コレステロールの増加など、所謂「メタボリック・シンドローム」の改善に役立つことが最近の科学で実証されています。最近魚を子供たちが食べなくなり、ハンバーガーのような飽和脂肪酸をたっぷり含んだ食品を摂ることにより、日本の中でも長寿県として知られてきた沖縄では肥満の子供が急増し、このままでは長寿県の名譽を返上する日が近いとさえ言われています。

アイスランドの話に戻りますが、この

国第2の産業は観光です。火山国として有名なのはご存知でしょう。世界最大の露天風呂「ブルーラグーン」はレイキャビク空港から10kmのところであり、温泉の色が弱塩性の青い色をしています。勿論水着着用ですが、周りの風景の雄大さは素晴らしいの一言です。また、この温泉の近くには地熱発電所があり、この国の電気需要を全て賅っています。



従って、環境の良さと空気のきれいさがこの国の売りの1つです。この他にも、世界有数の間欠泉(下の写真)も有名です。また、「地球の割れ目」、氷河など、この国ならではのスケールの大きな観光地も有名です。そうそう、ホテルのバスタブには温泉が出てきますので部屋に居ながら温泉気分を味わえます。但し、少し硫黄臭いのが気になりますが・・・。

地質的には火山灰、火山の溶岩が多く、農産物の生産には適さない国土であるため、野菜、果物、肉などの生鮮食品を始め、魚以外の多くの食品を輸入に依存しています。このため物価が非常に高く、ちよっ



としたレストランで食事をすると飲み物を入れて一人あたり\5,000以上します。乳製品はほぼ自給自足してますが、生体の家畜の輸入は禁止されており、牛の場合、この国でしかない独自の乳牛が存在するそうです。

文化的に面白いのは、女性の名前です。女性の名前(姓)の後ろには、例えばLasbendottorriのように、必ずdottorri(娘の意味)がつきます。これは、父親の姓であるLasbensonの娘という意味です。結婚してもこの名前は変わりません。ですから、夫婦で海外に旅行した際ホテルでのチェックイン時に名前を宿帳に記入するような場合、夫と妻の名前が異なりますので、日本でですときっと変な目で見られるでしょうね。

この国の切手を現地で買ってみました。100枚入りのパッケージから5枚を選んだのが次のような普通切手です。お国柄でしょうか、魚と船を描いた切手が多いようです。人口の少ない割りに歴史の長い国ですので、将来この国の切手を集めてみようかなと思いました。

最後に、アイスランドへは日本からチャーター便が出ており、少しずつですが、ありきたりのヨーロッパ旅行に飽きた人、オーロラを見たい人など、目的を持った旅をしたい日本人観光客が急増しているようです。実際、過去3回の出張の際にも結構多くの日本人観光客を見かけました。少し費用はかかるかもしれませんが、是非アイスランドを訪問されることをお勧めします



漁業、大空襲、そしてカーナビと切手 ＜その4＞

府川 宏昭

話は漁業から一転し、航法へと移ります。これまで3回にわたって漁業を綴ってきたのは、" 漁業では、位置がとても重要な要素 " を占めていたからでした。

それは太平洋のどこへ行っても魚が釣れる訳ではないし、獲れるのは局部的な限られた水域だからです。

文明の利器は戦争によって発達するともいわれます。航法もその一つなのでしょう。それでは簡単に航法の歴史とそのシステムを述べてまいります。

2. 大空襲

太平洋戦争の末期ともなる 1944 年 11 月 24日、80 機の B29 が東京を空襲、目標は武蔵野の航空機メーカーでした。翌年 3 月 10 日未明、更に 5 月 25 日の東京、3 月 14 日は大阪、名古屋 5 月 14 日、横浜 5 月 29 日と、日本各地は連日のように B29 の空襲を受けました。

占領されたマリアナ諸島のサイパン、テニアン、グアムから発進した米軍の B29 爆撃機は、どうやって日本へ飛来したのでしょうか。一つには北北西に進路をとり、暗い夜でも富士山を目標にしたそうです。しかし、それだけではなかったようです。

電波航法が中心の本論に入ります。ただ、航法の基盤には、北を指す磁気 (マグネット) コンパス (磁石、羅針盤) や近代のジャイロコンパス (回転羅針儀) の存在は念

頭に置いて下さい。

(1) 地文航法

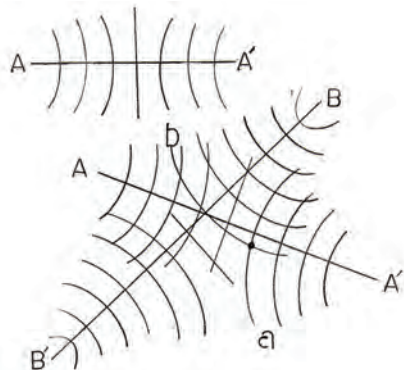
目視で山やその他の地形、地上の物標物を目標とする航法です。沿岸漁業の漁船や釣船が " 山を見る " と言って狭い漁場を推測し、航空機が海岸線や山、川を見ながら航行する直視的な航法です。が、欠点は陸が見える範囲だけで、それが見えないと航行できず、大海原に出たらどうしよう、ということになります。

(2) 天文航法

次には天文航法です。それは、①水平線から恒星数点の高度を測定、手計算で現在位置を求め、針路を確かめて航行する航法です。②その高度を測るためには、六分儀 (セクスタント) と正確な時計 (クロノメータ) が必要になります。

さて、近年の、電波航法のシステムは、全て「双曲線航法」とその発展方式です。図を参照して下さい。

【注 1】双曲線



一対(2 定点)からの距離の差が、一定な点の軌跡、曲線です。

【注 2】双曲線航法一対の曲線と、別の(2 定点の)曲線との交わりから、位置を割り出す航法です。

(3) ロラン (A) 航法 [Loran(A)]

B29 が日本来襲時に用いた航法は、ロラン航法でした。1940 年代前半にシステムとして確立し、実用化され、米西岸やハワイ、その他自国の島々は当然として、占領した島々にも、次々と送信局が設置されたのでした。サーヴィス・エリアも統治した中部太平洋から、戦後は北太平洋の大半に及び、冷戦時には北大西洋の西側と北東側を網羅し、航法システムとしてソ連圏を包囲しました。従って、南半球には局数が少なかったのです。

ロランは、Loran:

long range navigation の略です。

後世、次世代のロラン C システムが出現し、それとは区別するため、後になってからロラン A と呼ばれるようになりました。

ロラン A システムは、

①一対の 2 つの送信局から発射されるパルス電波を受信し、その到達時間差を計って、現在位置を求める航法、またその受信装置です。

②時間差の単位は、100 万分の 1 秒、マイクロ (μ) セカンドで、精度は、(基線、ベース・ライン上で) 凡そ 300m、といったところでしょうか。

③位置を算出するには、最小限二対(2

ペア) 要し、測定値から手計算で出します。現在から見るならば中距離航法で、2MHz 帯 (1750、1850、1900、1950kHz) の電波を使用しました。

④時代が下るにつれ、米は精度と、多数の局の維持費が負担になった、と推察します。

本当のことはわかりません。

一方、欧州では、

(4) デッカ航法 [Decca navigation]

1944 年 6 月 6 日、米英軍を主体にした連合軍は、仏ノルマンディ海岸に上陸作戦を敢行しました。

"The Longest Day" です。

このとき英仏海峡に展開する連合軍、数千隻の艦船が、衝突や接触を防ぎ、一糸乱れず渡海する航法として採用したのがデッカ・システムです。

そのシステムは、1940 年代前半、

①英国のデッカ社が開発した航法で、2 局から送信される電波の位相差を測定し、その軌跡から双曲線を得て、これも手計算で現在の位置を求める航法と、その装置です。

②ロランと同様に最小限、2 ペアが必要でした。100kHz 帯 (70 ~ 100kHz) の電波を用い、英仏海峡、下っては昭和 45 年ごろから日本近海を網羅、サーヴィスしました。

③精度はロラン (A) 航法と比較すれば良かったのですが、狭水域での短距離航法でした。



ソ連、東ドイツ発行の
スプートニク打ち上げ
記念切手



大きな四島からなる日本では、その狭い水域での航行に対して、また、操業する位置が領海侵犯で掌捕されてしまう漁船に対して、高精度の位置情報として提供されたのでした。

(5) オメガ航法 [Omega navigation]

オメガギリシャ文字の最後順「Ω」から名が付けられ、最後の航法としての期待がかけられました。1970年頃、実用化し、日本でも長崎県の対馬に局が設置されました。

①双曲線航法の一つで、地球上にAからHまでの局、計8か所の送信局が設けられ、そこから順に送られてくる超長波の信号を受信し、その位相差を測定して船舶の位置を測る航法と、その装置でした。

②用いた電波の周波数は10kHz帯(10.2、13.6、11.33kHz)でした。

③局数は少数でまかなえたのですが、精度が上がらず、かつ、電離層の変化による影響を受け、位相上のレーン・スリッ

プ、飛んでしまうという現象が起き易かったのです。

④初期の頃は手計算でしたが、後になると、外部の計算機、ミニコンが導入されるようになりました。

(6) NNSS [Navy Navigation Satellite System]

名前の通り、米海軍が開発した衛星による航法で、1975年ごろ民生上で一部開

放され、実用化されました。①1957年10月4日、ソ連が打ち上げたスプートニク1号の信号音を受信していた米国は、ドップラー効果があることに気がきました。

このドップラー効果とは、音波や電波等の、波を出す源と観測者とが近づいてくるときには、波長が縮み、音なら次第に高くなってきます。遠ざかるときには、逆に波長が伸び、順次低音になります。

例えば線路の踏み切りで、電車が警笛を鳴らしながら、通過するのを、待っていたとしましょう。電車が近づいてくると、次第にその音が高く、目の前では最高になり、過ぎ去る瞬間からだんだんと低くなる現象で、音の量、音量の大小ではありません。

②信号音のドップラー効果の発見で、米は、軌道情報を含む信号電波のドップラー・シフトを測定して、位置を測定する方法、いうならば立体双曲線航法を考え出しました。③高度約1,100キロ、秒

速 8 キロ、周期 106 ~ 107 分、極軌道で廻る衛星 6 個を米は打上げ、この衛星から 2 分毎の時刻信号と軌道情報他で位相変調した 400MHz と 150MHz の信号が送信されました。米海軍は 150MHz の内容と情報処理方法は開示しませんでした。

④ 400M ± 10kHz の、ドップラー・シフトを算出して、衛星の速度と距離の変化から 2 点間の距離差を出し、これを立体双曲線に直して地球座標に変換したのです。

⑤ここで初めて測地系の差が浮び上がってきました。各国で基準となる位置にずれが生じていたのです。この衛星での測位を基準にすると、日本列島は北西方向へ 450m ずれていました。

⑥高精度でしたが、衛星が飛来しないと位置が出ません。正確な位置は不連続で、その間は推測航法となりました。この航法は手計算での算出が不可能です。ミニコン、電子計算機を含んだ受信装置も、高価でした。

(7) ロラン C 航法 [Loran C]

1980 年代に出現した遠距離航法です。

①ロラン A と、原理的には同じで、信号の時間差を位相差に置換したシステムでした。使用した周波数は 100kHz です。

②比較的、高精度でした。それよりも絶対的な精度はともかく、同じ場所に再び戻れる、という回帰性、反復性に優れていました。

③受信装置も、CPU 含めて半導体の価格が次第に安くなり、それにつれて処理技

術も高まり、相対的に安価になりました。

④でも、この航法を以ってしても、全世界をサービスできません。

その理由は送信局の設置が自国の領土、友好国、またそれらの島々などに限られ、局の配置上の障壁もたくさんあったと考えられます。

3. カーナビ

カーナビに代表される、今、最先端の航法、測位システムが GPS です。1990 年代に一般化したカーナビを車に装着されている方も多々いらっしゃるでしょう。

(8)GPS[Global Positioning System]

①米国防総省が打上げた GPS 衛星からの電波を受信し、航空機、船舶、車輛、人、自転車、その他が自身の位置を確認できる全地球的、汎地球的な航法システムです。

②6 軌道に各 4 個、計 24 個の衛星が定間隔で周回して、測位には 3 個の衛星、4 個捕捉すれば高度、高さも測定できます。

③米時間の 2000 年 5 月 1 日、付加されていた誤差情報が廃止され、精度は数 10m 単位から m 単位になりました。

④利用活用範囲は幾何級数的に拡がり、更に伸びる可能性があります。

⑤欧州では米に対抗したシステムを模索し、隣の中国もそれに参加しつつ、独自のシステムを構築しようとしているようです。

まとめ

「有馬研修旅行」

今年は、金井宏之氏が5月16日に有馬にオープンした「切手文化博物館」を訪ねます。【今号1,2ページをご覧ください】

日時:本年9月11日(日)～12日(土)

集合:9月11日12時「新神戸駅」

改札口

宿泊:有馬温泉「古泉閣」

分科会活動報告(切手教室)

◎「第30回切手教室」(3月5日)

宮鍋益治氏「外国向け郵便料金の変遷」

◎「第31回切手教室」(4月2日)

渡辺洋氏「新・中国観光事情」

原口辰夫氏「私製マウントの作り方」

オヤッ、バス停留所名「早稲田」に

新宿駅西口から「早稲田リーガロイヤルホテル」行き都バス、終点の停留所名が、4月から「早稲田」に変更されました。

「につぼん郵便創業物語

▽前島密ゼロからの挑戦」

5月11日夜のNHK「その時歴史が動いたは「につぼん郵便創業物語▽前島密ゼロからの挑戦」を」放映しました。ご覧になった方も多かったことでしょう。早稲田の名は出ませんでした。知られない秘話も聞かれ興味ある番組でした。

編集後記

4月29日から浅草で開催されたスタンプショウには会員4名が出品。30日には新潟からかけつけた高橋さんを囲む7,8名が会場で集まりました。4名が説明を行い、最後はビアホール、楽しい一時でした。

5月28,29日の野球・早慶戦、今回は双方完全優勝をかけての決戦、この号が出る頃はすでに結果が出ていますが、ほんのタッチの差で載せることが出来ないのは残念です。ぜひとも優勝を期待したいものです!

稲門フィラテリー第6回総会(案内)

今年の稲門フィラテリー総会は、恒例に従いホームカミングデー当日に開催します。大勢の出席をお待ちいたします。詳細は改めて案内します。

10月23日(日)

総会:13時～15時(7号館の予定)

懇親会:16時～18時高田牧舎

大学史資料センター秋の企画展

戦後60年展くその2>

「野人政治家風見章の生涯」

稲門フィラテリーと友好関係にある大学史資料センターは、標記企画展を開催します。

「風見章の生涯展」

10月23日～11月19日

於:2号館企画展示室(旧図書館)

1930年代から衆議院議員として、戦後は日中国交回復に尽くすなど、時代と格闘した風見章の波瀾の生涯展。

なお、戦後60年展くその1>「1943年最後の早慶戦」は3月～4月に開催され好評でした。

池澤氏が「スタンプマガジン」に1年連載

池澤克就氏が、雑誌「スタンプ・マガジン」に今年1月号から「文化人切手ゆかりの地を往く」と題し、樋口一葉を皮切りに毎号一人ずつ採り上げて、12月まで続く予定です。

発行日 2005年6月1日

発行 稲門フィラテリー

発行人 小西 邦彦

〒150-0002

渋谷区渋谷1-11-3 正栄ビル4F

英国海外郵趣代理部内

稲門フィラテリー事務局

郵便振替口座 00110-560458

「稲門フィラテリー」

編集担当 湯川宗昭・池澤克就

木元淳一郎・甲斐正三

稲門フィラテリー

第 17 号

2005 年 9 月 1 日発行

切手文化博物館開館に当たって

金井 宏之

〈開館記念式典のご挨拶〉

切手文化博物館館長の金井でございます。よろしくお願いたします。博物館開館に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

本日は、公私何かとお忙しい中、遠路わざわざ開館式典にご参列賜り、厚くお礼申し上げます。井戸兵庫県知事を初め、多数の方々のご列席を賜り、本日切手文化博物館を開館することが出来ますのも、皆様方のご指導ご支援の賜物と感謝申し上げます。

皆さんご存知のとおり、郵便切手はその小さな紙面に、図案や印刷技術を通して、その国の歴史や文化が凝縮されており、その国を知る貴重な資料でございます。この切手を収集し、整理し、研究する郵趣は一つの学問といえます。

日本の郵便制度は世界に遅れる事 30 年、明治 4 年 3 月 1 日に竜の図案 4 種の切手の発行と共にスタートいたしました。爾來 130 年の間、政府によって切手が発行されて参りました。

本日開館いたします博物館のように、日

本切手を年代順に並べた常設展示を中心とし、郵便事業の歴史について、古い資料を整理して展示する等の博物館は日本は勿論の事、海外でも珍しい例と思います。

今回、特別展示しております日本初期に発行された手彫切手のコレクションは、整理といい研究といい、世界最高のものと存じます。

開館記念期間中 1 ヶ月展示をして皆様方に見ていただくつもりしております。

なお、建物は約 300 年前の土蔵造りで、岩手県盛岡で馬事文化資料館として使われていたもので、今回処分されることになり、当地に移築したものでございます。

この建築には、前年京都金閣寺の茶室を新改築いたしました、心傳庵の木下棟梁のお力添えで本格的な日本の当時の代表的な建物に復元することが出来、当有馬温泉の名物建築として、有名になることと存じます。

皆様方お忙しい中、ご来館賜りありがとうございました。

簡単でございますが、お礼のご挨拶といたします。



テープカット向かって右から

石原 実 (財) 郵趣文化センター理事長佐々

木 英治 日本郵政公社近畿支社長

金井 宏之 有馬切手文化博物館館長

水野 清 (財) 日本郵趣連合顧問

(元衆議院議員)

井戸 敏三 兵庫県知事

矢田 立郎 神戸市長

受賞に寄せて

林 輝子

国の叙勲・褒章制度は、官に厚く民に薄いと言われておりますが、たまたま官の末端の統計調査員としての功績で、この春藍綬褒章を受章いたしました。切手とは全く関係ないのですが、経緯を報告して欲しいとのことでペンをとっている次第です。



私は就職難の昭和 32 年に卒業し、幸い都の公立小学校事務主事として就職できたのですが、当時保育園も少なく、育児をしながらの共働きは無理で、6 年

間勤めた上、やむなく退職。何か社会とのつながりがほしいと思っていた折、市の広報誌で「登録調査員募集」の記事を見つけ、早速応募いたしました。時間的にも制約が少なく、調査期間だけ活動するという子育てをしながら可能な仕事でしたので、役所から依頼された調査は、確実にこなしておりましたが、主人の大阪本社への転勤でやむなく中断、昭和 50 年から再登録をして現在に至っております。昭和 54 年からは、受賞の対象になった家計調査員を拝命いたしました。

この調査は、総務省統計局が昭和 21 年から都道府県を通じて毎月行なっている調査で (全国で 9000 世帯余の無作為抽出調査) 国民生活の実態を家計の面からとらえるために、家計の収支を半年間、準備された家計簿につけていただき、全国の家庭の平均収入や支出 (品目別に記入) がどの位あり、どのような品目がどれだけ消費されてい

るか、また地域によってその内容がどう異なっているかなどを詳細に調べています。その結果は毎月公表され、国の政策の基礎資料とされるほか、民間の会社でも、給与ベースの算定、商品の生産計画などの資料として盛んに利用されております。私ども調査員は、指定された地域の世帯名簿を作成し、乱数表に基づいて無作為抽出された世帯に記入依頼・指導・回収・審査を行ないます。最近、特に個人情報の問題で、プライバシーをたてに協力を得ることが大変難しくなってきました。

ただふり返ってみますと、必ず理解していただける世帯にめぐり合うことができ、人間の「誠意」が如何に大切であるかを、身をもって感じています。調査活動で歩き廻っているせいか、足腰が鍛えられ、現在の「健康」につながっているのかもしれない。

全国で調査地域は限られておりますが、万が一、このような調査が諸兄姉の在宅地域で行なわれた場合、是非協力していただきたいと切に願っております。

神奈川県 現家計調査員
林 輝子さん
統計数字は、データを提供して下さる方々があって初めて成り立つもので、世帯の方にご協力とご理解を頂くことが、調査員の大事な役割だと考えてまいりました。この度、受章の榮譽に接して、改めて家計簿の記入を続けてくださった 800 世帯余の方々にもまずお礼を申し上げます。

切手研最初の最後のエラー？！

磯野 昭彦

みなさん判りますか

皆さんご存知の昭和32年早大切手研究会が発行した早稲田祭記念横山隆一原画フクちゃんの記念漫画絵はがき、実は下の絵はがき2枚のうち1枚は大エラーです。

本日はじめて気付きました。

このことは、切手研仲間で話題になったこともないでしょう。

このエラー発生を知っている会員がいるはずですが、しかし、このエラーを誰にも告げずに今日に至っているようです。

当時、エラーに気付いたこの会員は即刻訂正印刷をして、すまして沢山の方々に頒布したのでしょうか。エラーのまま頒布された数量は全く不明です。もしかするとエラーの方が多いかもかもしれません。

ですが、エラーの頒布数量はそれほどないと推定できます。早稲田祭委員会発行のパンフレット「創立75周年早稲田祭」の表紙にも記されているように、早稲田祭は10月21日～27日でした。ここに、2枚の絵はがきの小型記念印の日付を見るといずれも10月21日になっているからです。すなわち、早稲田祭初日には訂正版が発行されたこととなります。

そのエラーとは

ヒントは前述にあります。小型記念印の日付は「10月21日」です。「早大切手研究会発

行」の文字の上の日付（早稲田祭開催期間）をよく見てください。1枚はなんと「32.10.22～27」となっているのです。これは明らかにエラーです。訂正版はちゃんと「32.10.21～10.27」になっています。

両絵はがきをよく見比べてみると他に印刷色や活字も若干違ってきます。

なお、記念会堂を描いた絵はがきも、もちろん同様エラーになっています。

さて、皆様お手持ちの漫画絵はがきは？！。「早大切手研50年」誌には平成11年に刊行されたこの本に掲載された漫画絵はがきはどっちだったか気になって見てみたら、エラー版でした。ついでに、他の漫画絵はがきにこのようなエラーがないかと虫めがねで確かめたがノーエラーでした。



文化大革命当時中国にて切手収集等の変わった体験

渡辺 浩章

昔の話をするようになっては、私も年をとったものだ。

1967年、私が初めて海外駐在を命ぜられた年である。場所は広州経由で北京だった。当時は、日本と中国とは国交もなく、ほんの一部の者だけが、入国を許可されていたという極めて特殊な時期であった。期間も中国側の事情で、7.5ヶ月間と言う短いものだった。私の勤務していた蝶理株式会社は、中国との友好商社だった為、比較的楽に入国ができた。この年の中国は、文化大革命が一層過激となり、何もかもが毛沢東一色だった。それに反するものは、大変なお咎めがあると聞かれ、言動には常に気をつけざるを得ぬ状況だった。中国人は男も女も皆菜っ葉服を着て居り化粧している者は居らず何とも殺風景だった。この文革の最中で、日本人の入国許可は極端に減少し、蝶理から通常8名が駐在の許可を得ていたが、我々のときは3名までに削られ、一体、今までの仕事をこなし切れるのかと不安に駆られた。私が赴任すると先任者の先輩が、



よく来て呉れたと大歓迎をしてくれた。これが却って大変な思いをするのでないかという嫌な予感がしたものだ。

到着すると早速用意されていた毛語録が配られ、その日から勉強会に入り文革の洗脳が始まった。全てが中国側のペースで進展し、我々はそれに従うより道はなかった。勉強会では皆に意見を求められるが、商売欲しさからか、皆が毛沢東を称えるもっともらしい意見を述べる。最初は、皆さすがに共産主義に精通していることだと感心した。しかし、だんだん慣れてくると、誰も彼もが、同じ事を言って居るではないか。なるほど、同じ事を言っておれば安心なのかと適当に合わせることを覚えていった。

ところが、一向に商売が出来ない事に不安を覚えるようになる。中国側は、人数が減った分だけ、商売量も減らし調整してしまっていたのだ。輸出繊維機械部出身の自



分としては、繊維機械関連の商売が全くできず、化学機械、船舶の部品、化学品、金属製品 物資など、関連外のものばかりで、それも少額で、これでは、帰国したら元の部署に戻れるのかと不安に駆られたものだ。(初めての事だったので気を揉んだが、それは杞憂であることを後になって知った。)

当時は、我々駐在商社員のホテルは、新僑飯店一箇所にとまめられ、事務所も宿泊所もみなその中に置かれた。商売は直接需要家と話が出来ず、各会社が、全中国の需要家の希望を集計し、代表して海外の駐在員と商談を行うことになっていた。各会社は、一つのビルにまとめられており、そこは、午前中しか事務所が開かない。日本からは、商売の事で尻をたたかれたが、限られた時間内で、それらを消化することは、不可能で回答は段々と伸び伸びになってしまう。新しい商品を紹介しても、それを検討して、引き合いとして帰ってくるのは、いつの事か分からない。当時の中国は、商売に関しては、それ程、鷹揚なものだった。

そんなこんなで不安を緩和できたのも、私が中国切手を集めていたことと、繁華街に書画、骨董品を見に行ったりした事だ。社交ダンスやゴルフがご法度だったのは言うまでもないが、卓球がふんだんに出来たことも助けとなった。

最初は、思うように商売が出来ぬことに不安を感じていたが、慣れるに従い、焦っても仕方が無い。全ては中国側に統制されていることなのだと考えるようになって

いった。他の商社も同様な様子だったのも意を強くした。給料を貰ってのんびり生活出来るのだと、達観するようにもなったのが不思議である。振り返ってみて、私の半生で一番のんびり出来たのもこの頃だった。

当時の中国切手の販売は、いい加減で、記念切手や特殊切手、それに、普通切手を、あまっているものから順に、適当に売っていたようである。中国では、以前から、大変美しい切手を次々と発行していた。当時は、それらの売れ残りが、あちこちに、大分あったはずだが、それらは、地域によって種類が偏っていたようだ。

今にして思えば、珍しい切手が、そこかしこで、額面で買えた訳だが、それを、完全に買い集めるのは、きわめて至難の業だった。それというのも、一つの地域から、別の地域へ移動するのに、ビザが必要で、特殊事情がない限りビザの発給はなく、我々商社員は、北京以外、どこにも出られぬ状態だった。

そのうち、毛沢東がらみの切手が発行されたことを知ったが、北京では古い切手が、沢山残っていたためか、大分後になって、それらを売り出したようだ。

当時、日本より広州へ出張員から、北京の私のところに、毛沢東の切手を貼った手紙が、舞い込んできたのに、北京では、それらの切手がなかなか手に入らなかった。今まで切手面に入れられていた通し番号も、文革当時の毛沢東切手から廃止されていた。従い、カタログもなく、通し番号も分からぬ中で、自分が手に入れる切手は、全部揃っているのか、抜けているものが大分あるのか、チェックするすべも無いというのが実情だった。切手商なるものは皆無だった。当時の中国では切手の輸出は禁止され、収集も禁止されていたと聞いている。

後日大ブームとなった紀94-94m 梅蘭芳舞台芸術や、紀106m 中国成立15





周年等は、既に無かったが、1973年発行の特57黄山風景、特61m牡丹2元の小形シートが、残っており額面で自由にお買えたのだから驚きである。その内、文1毛主席の長寿を祝う11種完を入手した。内1種が毛沢東の肖像、残り10種が、毛語録の一節づつを赤の下地に金枠と金文字で刷り込んだものだが、最近、アルバムを広げてみたら、残念ながら金色がすっかりくすんでしまっていた。

私の任期が満了し、後任へバトンタッチすることになったが、その直前、大きな事件が起こった。D通商の3名と、S実業の1名が、スパイ容疑で拘束され、D通商の事務所は封鎖された。彼ら3名は、絶対にスパイ活動などしていないと頑張り、それ

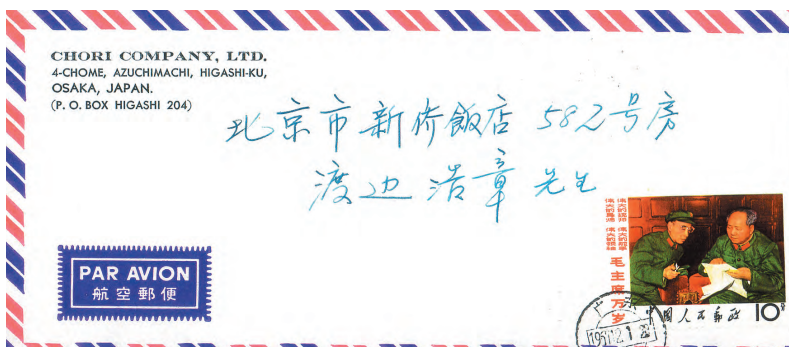
があだとなって、ホテルに軟禁状態とされた。彼らは、することがなく、ホテルにある僅か1台のビリヤードの台を独占し、朝から晩までプレーに興じていた。我々の楽しみの一つが彼らに奪われてしまったのである。後で聞くと数年後、彼らは釈放されたとの事である。S実業の某氏は、拘束されると、直ぐに“毛主席の教えを胸に反省すると、大変申し訳ないことをした”と陳謝して、国外追放処分で、帰国できたそうだ。その後の記者会見で、私は、何もしていませんと言い切った

とのこと。これが、中国流のやり方なのか？

私が帰国後、次々と、日本人駐在員が十数人拘束され、皆大変な思いをしたようである。私と親密だった連中は、一人も居なかったのも、まあやれやれであった。それにしても、スパイ容疑とは、一体何だったのか不思議でならない。

帰国してからつくづく残念に思うことが一つある。駐在中に料理の注文だけでも充分に出来るように中国語の勉強をしておくべきだったと言うことだ。昼食などは、大勢で取ると、うまい料理が安く食べられるとあって、10人ぐらいでグループを作り、一卓を囲ったものである。流石に各社とも中国駐在員は中国語の上手な人が多い。そ

して、我々は何時も注文をそういう人達に任せてしまっていた。お陰で日本に帰って中華料理屋での注文が、未だに儘ならぬことである。



マダガスカル郵趣家協会

小林 彰

(1) アンタナナリヴ中央郵便局郵趣窓口

1994年5月マダガスカル首都、アンタナナリヴ(フランス語ではタナナリヴ)に降り立った。当初から街の中心にある中央郵便局の郵趣窓口で新切手の発行のたびに顔をだし、暇を見つけては窓口の職員と世間話に花を咲かせていた。局員と親しく



(プルーフ)

なるにつれ普通では売ってくれない無目打シートや贈呈用デラックスプルーフを裏から出してきて譲ってくれたりした。また、新切手の発行案内を送付してもらい登録もした。1995年には同国で

最大のホテル、マダガスカル・ヒルトンで郵政省主催の切手展が開かれた。展示品は万国郵便連合(UPU)参加国からの贈呈切手で、多数の会計帳簿のようなノートにヒンジやマウントも使わず無造作に貼ってあった。その中には日本の切手もあった。中央局の郵趣窓口とこのような付き合いが続いていた。

(2) マダガスカル郵趣家協会

出会い 1996年3月初め、5人のマダガスカル人の来訪を受けた。マダガスカル郵趣家協会の幹部だった。中央局の郵趣窓口で熱心な外国人収集家がいると聞き足を運んで来たという。日本の収集家を紹介して欲しいということだった。彼らと切手の交換を通じ交流したい。さらに、毎月最終土曜日に中央局の会議室で例会を開いているので参加して欲しいと強く要請された。

世界最貧国の一つ、マダガスカルに切手収集家がいて郵趣家協会が存在していることが驚きだった。そして、3月末の例会に出席して彼らの実力を知ることができた。



(マダガスカル・ヒルトン)

20数名が参加していたが、全員がトピカル収集家(テーマティックではない)だった6切手は独立後のマダガスカルの切手が主体で外国切手はほとんど見られなかった。それも一人当たりの国内総生産高が240ドル、年間平均所得が5-6

万円(月平均ではない)と知れば納得できる。アルバムやリーフ、保護ラップなど郵趣付属品や文献などは皆無で、手作りのストックブックを利用しているのには感心した。マダガスカル人の源流はマレーポリネシア系アジア人。米を主食とする農耕民族で手先は器用なのだろう。

会員の紹介と切手展

切手研究会の運営委員で郵便文化振興協会理事の西村壽一郎さん(本会会員)にマダガスカル郵趣家協会の紹介と同会員の文通希望を「切手」紙に掲載いただくようお願いした。そして間もなく記事になった。



(アリアンス・フランセーズ 外観と展示)

1996年9月には当地のアリアンス・フランセーズ(フランス文化会館)で



月刊（日本・マダガスカル郵趣）

切手展を開くという。展示用リーフ、マウント、ヒンジ、マウントカッターなど贈呈した。切手展は盛大で優秀作品には協賛の「とづくに会」（根岸昭二本会会長が会長）名で表彰状と賞品が授与された。その後、本会発足直前の総会でマダガスカル郵趣家協会の話をしたところ、玉村公一さん、高橋仁さんから日本切手を恵贈いただいた。これら切手は現在も会員のアルバムに収まっているに違いない。

月刊「日本・マダガスカル郵趣」

会員の郵便や郵趣知識も開発途上だった。彼らのレベル向上のため、郵便・郵趣豆知識の小冊子を作り月例会で配布し始めた。「日本郵趣」、その後「日本マダガスカル郵趣」と改称し1998年まで毎月発行を続けた。会員諸氏の玉稿を掲載させていただいた。根岸昭二さんを始め、石井道久さん、渡辺勝正さん、甲斐正三さん、西村壽一郎さん、正田幸弘さん（誌友）。1997年9月に帰国したが、その後も日本で発行を続け、毎月現地に発送していた。1998年5月再就職し、マダガスカルの土を再び踏んだが、月刊誌の発行は断念せざるを得なかった。1999年パリ国際切手展の郵便史部門に「フランス横浜郵便局」を出品した。同展を見学したこともあり、特集を組んだ。

また、2001年にはフィラ日本の記念号を発行した。橘喬一さん（本会会員）の管理番号抜Pスタンプシートも紹介させていただいた。不定期刊行は続いている。

マダガスカル郵趣家協会と20周年記念

2004年、マダガスカル郵趣家協会は創立20周年を迎えた。この記念展が同年10月に開催された。企画・運営されたのは新会長ラパラオエリーナ＝エディットさんだ。エ

ディットさんとは旧知の間柄。新会長の要請に応じて、会場で販売用の外国新切手を多数寄贈した。小西邦彦さん（現本会会長）のご協力を得た。

2005年2月、またマダガスカルに戻って来た。それほど魅力ある国なのだ。三度目の駐在になる。首都アンタナナリヴでは交通渋滞が大幅に緩和されていた。新しい道路が開通し、従来の道路は補修されている。



（マダガスカル郵趣家協会ロゴマーク）

マダガスカル風景



首都アンタナナリヴ女王宮を望む
18世紀末に建造された女王宮は、1995年に焼失
し、まだ再建されていない

首都アンタナナリヴ独立通り 1997年、日本の無償
援助で補修された。両側の建物は高さや色彩が統一
されている



首都アンタナナリヴ高級住宅地露天商



マジュンガ県アンツウイ
集落とこぶ牛



住いののすぐ
そばに実るバナナ

(小林 撮影)



会長の談話



(エディット会)

当協会は昨年 20 周年を迎えることができました。これは一重に創立時から今日までの諸会員の努力の結晶であり、また協会を側面から支えていただいている皆さまのご支援の賜物にほかなりません。現在の登録会員は 100 名を数えますが、熱心な収集家は 20 名程度です。昨年 10 月には記念展を開催いたしました。郵政大臣も参観され、後日、記念切手発行の要請をしたところ、本年になって前向きに検討するとの回答を得ることができました。現在協会の幹部と郵政省で図案など具体的な打ち合わせを行っています。本年 10 月ごろには発行される予定です。

稲フィラの皆さまには従来からたいへんお世話になっており、この機会に御礼申し上げます。会員一同初級であり、いっそうのご指導とご協力を改めてお願いいたします。

電気通信・テレフィラテリーの世界 <その2>

小熊 忠三郎

3. ペリー提督と電信機

神奈川新聞に連載中の「^{アメリカセンとらい}亜墨理駕船渡來日記にっき～横浜貿易新聞から～」2月12日付では、1854年2月24日にペリー提督が贈呈用として持参した電信機の実験が行われた際の日本人による記録が紹介されている。日記によれば、「実験場には柱が何本も立てられ、柱と柱の間には長さ1kmに及ぶ電線が張られた。電線の一方の先には実験のための小屋が建てられ、もう一方の先には応接所に結ばれ両地点をつないで電信の送受されるさま(テレカラフ・天連閣理府)が詳しく冷静に観察された。」とある。また、電信機が図説つきで写實的に描かれているのも驚きだ。

「ペリー提督日本遠征日記」(M.C. ペリー著。木原悦子訳。1996年小学館刊)には「この湾(横浜)に来てからわずかな期間(約5週間)で当局と人民から大きな信頼を勝ち得ることができた…。最初の数日間ドレイパーとウイリアムズ(注ペリー艦隊の中国語通訳)の両名は電信柱を立てる磁気線を張る準備に追われていた。日本当局はあらゆる便宜を図ってくれた。両氏の指示に従って電柱の運搬と設置が行われ、間もなく直線距離で1マイル近くの電信線が合衆国内でもこれ以上は望めないほど完璧に張り渡された、電線の一端は条約館に、もう一端はこのために割り当てられた建物につながれて、すぐに交信が開始された。英・蘭・日本語の通信文が二人の電信主の間でやりと



りされると見物人はすっかり目を丸くした。」

日米双方の記述を見るかぎり多くの日本人は「文明の利器」に驚きながら素直にこれを受け入れた様子が見える。その実用化は明治政府の手によって早々に計画され、明治3年(1870年)10月20日の横浜・東京間で電信サービスが始まっている。

1970年の同じ日、「電信創業100年」を記念する15円の切手が発行された。その図柄は、三代目安藤広重画「東海名所改正道中記六」の「保土が谷」を基に切手原図作者として著名な日置勝駿郵政省技芸官(当時)の作品の一つである。ここでは、通信総合博物館所蔵の原画を複製50円郵便はがき(売価70円)とともに1970年に発行された電信創業100年記念切手をご覧いただく。「境木の立場」松の生木



を電柱替わりにした三本の裸線が克明に見える。ペリーの来航 150 年、日本の近代化は「電信」のように素早かった。

4. 過ちは神の常

切手収集家に広く愛用されている世界切手カタログの一つに米国の「スコット切手カタログ」(Scott Standard Postage Stamp Catalogue)がある。毎年出版される全 6 巻のカタログを補完するため、以降世界の各国各地で発行される新切手にカタログ番号を付して収録するとともに郵趣に関する情報や論文などを掲載する月刊誌「スコット・マンズリー」(Scott Stamp Monthly)の愛読者も多い。

その中にある "To Err Is Devine"(過ちは神の常)なる不敬度な? タイトルのコラムが面白い。米国の高名な切手収集家 David Lodge 氏が担当しているが、詩人 Pope の有名な言葉 "To err is human, to forgive devine"(過ちは人の常、許すは神の業)をもじったユニークな名称で、郵便切手の印面に描かれた図柄の誤り、通称「エラー切手」をあげつらう愉快的なコラムだ。

筆者は、バハマが 1996 年に発行したマルコニー無線通信 100 年記念の小型シート上で、タイタニック号が発信した SOS 以前の緊急遭難時のモールス符号の "CQD" を "CDQ" と印字したミス指摘し、1998 年 10 月号のこのコラムに採択されたことがある。

日韓両国で領土権争いが続く竹島(韓国名・独島 Dokdo)の韓国による 2004 年 1 月 16 日発行 4 種連刷切手のうちの 1 枚、大水雑鳥を描く切手の学名が *Calonectris laucomelas* とあるのは *leu*…のミスとして "To Err" コラムに投稿したところ、2005 年 2 月号に担当の Lodge 氏が次のようにうまくまとめてくれたので原文のままご紹介したい。

A se-tenant issue, South Korea Scott 2137a-d, introduces us to the flora and fauna of Dokod Islands, two ancient volcanic

islets covering 56 steep acres in the Sea of Japan, and plunges us into a territorial dispute between the South Korean and Japanese gover mm ents. Also known as Tok, Tok-do, Takeshima and Take Island, the issue of owner ship, although territorial, seem evolve around lucrative fishing rights. In addition to the towering Dokdoduo, more than 30 surrounding tiny ocean protrusion are in contention; the disputed crater tips are too small to appear on our Rand McNally Asiamap. Currently occupied by South Korea as a wild life refuge the cluster of rocks lies 56 miles southeast of the Korean is land of Ullung-do and 91 miles northwest of Japan's oki Islands, somewhat equidistant from the claimants, mainlands. Scott 2137c features the streaked shearwater (*Calonectris leucomelas*) and errs with a misspelled species name that reads "laucomelas." Thanks to Chuzaburo Oguma of Yokohama, Japan.

「過ちは人の常」とはいえ、国や地域の威信をかけて発行する郵便切手には、たった一文字のミスがあっても許されることではない。また、竹島のようなプロパガンダ切手の発行を許さないのも「神の業」と筆者は考える。



South Korea Scott 2137c 韓国 (2004 年)

(社)電気通信協会の月刊機関紙「電気通信」掲載の「テレフィラテリー」最新号から再録

分科会活動報告(切手教室)

- ◎「第32回切手教室」(6月4日)
五十野和男氏「ボーイズワールド切手」
切手交換会(第1回)
- ◎「第33回切手教室」(7月2日)
角田格朗氏「国立公園と国立公園切手」
小熊忠三郎氏「電気通信と切手」
- ◎「第34回切手教室」(8月6日)
甲斐正三氏「旅と郵趣」
奥山初代氏「貼り絵教室(第1回)」

杉原千畝氏がオペラに

6000人のユダヤ人にビザを発給、その命を救った杉原千畝氏の「愛の白夜」としてオペラ化され、来年2月24,26日に神奈川県民ホール創立30周年の記念作品として上演される運びとなりました。渡辺勝正氏の書かれた会報11号、見学旅行記の13号がお役にたつことでしょう。

池澤氏が小型印をデザイン

8月6,7日にていば一くで開かれた「サマーボックス」には池澤克就氏がデザインされた3種の小型印が使用されました。



編集後記

林様の藍綬褒章受賞、おめでとうございます。身近な人のおめでたい話を聞くのは本当に嬉しいものです。

郵政の民営化が発端となって国会は解散、ついに総選挙になりました。海外でも民営化が進んでいますが、ニュージーランドへ行った友人から受取った手紙には、民間団体からの切手が貼られていて驚いたものです。郵趣家にとっては面白くなるのか、手が回らなくなるのか分かりませんが、活力ある事業が効率よく展開されることをぜひ期待したいものです。

稲門フィラテリーが身近に

このたび稲門フィラテリーでは、地方会員、多忙な現役社会人会員に会をもっと身近に感じてもらえるようホームページを試行することになりました。当面、切手教室で配布されました資料を掲載していきます。アドレスは

<http://www.bekkoame.ne.jp/~ogawa/touhilar.html> です。

皆様からのご意見をお待ちしています。

稲門フィラテリー試行ホームページ

距離的、時間的に切手教室に参加いただけない会員のために、このホームページを試行します。
ご意見は最後のADDRESSにmailをお願いします。

切手教室での配布資料
切手教室で講師の方々が配布されました資料を閲覧できるように準備しました。
OCRでHTMLファイルにできるものはHTMLファイルにして、それ以外のものは画像としてPDFファイルにてあります。

26回	モンパルと切手	西村 寿一郎氏
	奈良の国宝切手	藤田 志郎氏
27回	世界の切手印刷事情	小西 邦彦氏
	郵便切手の流通と切手	宮崎 益治氏
28回	写真切手	五十野和正氏
	新・切手を整理する道具	甲斐 正三氏(都合で資料掲載できません)
29回	芝罘で切手を集めた	小川 義博氏
	切手で楽しむ切手収集	池澤 克就氏
30回	外国向け郵便料金の変更	宮崎 益治氏

稲門フィラテリー1号から最新号までの目次を見られます。
早大切手研50周年記念切手展 展示リーフ

上記はすべて画像のためO&Mの大きなPDFファイルです。いったん保存して開かれることをおすすめします。開くまで長時間を要するかと恐ろしいです。目次があり希望箇所をクリックすることで閲覧できます。

ご意見等は 下記 ADDRESSまで
y-ogawa@bekkoame.ne.jp

新住所のお知らせ

小林彰氏 (マダガスカル)
佐藤隆之氏 〒271-0064 松戸市

「切手研究用語集」

(財)郵便文化振興協会から「切手研究用語集」(野中勲著)が発行され、稲フィラにも届いております。10月23日の総会の席上でお配りしたらどうかと考えています。

発行日 2005年9月1日
発行 稲門フィラテリー
発行人 小西 邦彦
〒150-0002
渋谷区渋谷 1-11-3 正栄ビル 4 F
英国海外郵趣代理部内
稲門フィラテリー事務局
郵便撥替口座 00110-560458
「稲門フィラテリー」
編集担当 湯川宗昭・池澤克就
木元淳一郎・甲斐正三

第 6 回稲門フィラテリー総会報告

早大切手研究会ついに消滅

今年もホームカミングデーに合わせて、当会の第 6 回総会が開催された。総会概略は以下の通り。

○日時：平成 17 年 10 月 23 日 13 時

○会場：大学 7 号館 205 教室

○出席者：33 名

○司会：磯野昭彦

○会長挨拶（小西邦彦）

○元会長の花本金吾教授からの伝言が司会から報告された。その中で、昭和 24 年に誕生した早大切手研究会が平成 17 年 3 月をもってついに消滅、部室もなくなったことが報じられた。

○議事

- ・平成 17 年度活動報告（小西邦彦）
- ・平成 18 年度活動計画（小西邦彦）
- ・平成 17 年度会計報告（石井忠克）
- ・平成 18 年度予算（石井忠克）
- ・平成 17 年度会計監査報告（諸田志郎）

以上、満場一致で承認

○その他（質疑、特記事項）

- ・会場で配付された「切手研究用語集」の出所について（宮鍋益治）
- ・機関誌「稲門フィラテリー」に原稿執筆の要請（甲斐正三）
- ・切手教室講師引受の要請（宮鍋益治）
- ・早稲田大学 125 年記念について大学としての詳細事業企画はまだ固まっていないが、稲門フィラテリーが何を企画し大

学とどう関わるかをこれから検討する。会員各位から多くの企画提案をして欲しい。（磯野昭彦）

総会閉会后、恒例の講演会に移った。会員渡辺勝正氏による「切手研究と杉原研究」。杉原千畝研究に没頭するに至った話や NTV ドラマ「六千人の命のビザ」放映の裏話、ハリウッド映画化計画など熱烈な語りで一同を圧倒した。（関連の写真を 3 ページへ）

総会、講演会終了後、学内を散策したり、大学史資料センターで展示中の「野人政治家風見章」展を見学したりした後、高田牧舎の懇親会へ。31 名が出席。軽妙な司会（青柳次男）で始まり、稲門フィラテリー設立発起人代表青木常男氏、初参加や遠来や最若手などの話があった。来年も高田牧舎予約ができたことの報告で散会。



稲フィラ研修旅行「切手文化博物館」

杉山 光雄

「トンネルを抜けると雪だった」小説雪国の有名な一節である。我々の有馬研修旅行は「トンネルを抜けると外はドシャブリの雨だった」で始まった。

9月11日午前12時、新神戸駅に集合した一行が地下鉄、北神急行、神戸電鉄と乗り継いで有馬温泉へと向かったのだが、有馬口から温泉行きの乗り換えホームでは突然の激しい夕立に見舞われ、しかもホームには屋根が無く一同ビショ濡れになる始末。念のため持参した折りたたみの傘が幸いし頭からの濡れ鼠にはならず済んだもののズボンの裾はビショビショだった。一駅先の有馬温泉駅に着いた時は雨も上がり、涼しい風が吹き抜けた。薄日が差しとてもむし暑かった神戸の町からひと山越えただけでこうも違うものかと思わぬ感動を受けた。



さて駅前の太閤橋（木造）を渡り道を左にとり古泉閣源泉の櫓を右目に林間の坂道をしばらく登ると古泉閣の堂々たる建物の前が出る。博物館は案内板に従って、そこから更に細い篠竹の林の中をくねくねと続く緑の苔の生えた滑り易い赤土の山道を登り、額に汗がにじみでた頃、真白に化粧塗りされた土蔵造りの有馬切手文化博物館が正面に、真赤なポストを従えて目にもあざやかに姿を現した。一同揃って記念の写真をパチリ。

館の入口では先輩の橘さん等が出迎えてくれ案内されて館内に入る。館内はしぶい濃茶に仕上げられた木造で、入るとすぐに2階まで吹き抜けの第一展示室となり、左の正面には前島密の肖像画がかけられ、ショーケースの中にはペニーブラックの発行初日の実郵便や、オーストラリアで実際に使用された真珠貝の書留カード便等本当に貴重な品々が展示されている。ここで当館の創立者・金井大先輩のお出迎えを得て、一同で記念撮影後、開館までの説明等を受けた後、折から開催中の大西二郎氏による「捕虜から見た日露戦争」と題した貴重なコレクションが展示された特別展示室へ進む。ここでは大西氏本人から解説を受ける。続く第二展示室は郵便創業時に発行された手彫切手から現在に至る130年間に発行された日本切手が順序よくオープン展示されゆっくり鑑賞することが出来た。その後今夜の宿、古泉閣への坂道を下った。

古泉閣の部屋からは数十万坪と云う敷地を前景に有馬の町とその奥に連なる山並が一望でき、何とも素晴らしい眺めだ。有馬温泉特有の金茶色の湯につかり疲れを癒し宴会の席へ。会は小西会長の挨拶に始まり金井先輩による乾杯の音頭となったが、ここで先輩から切手博設立時のこぼれ話や、古泉閣源泉発掘と橘先輩にかかわるエピソード等初めて耳にする面白い逸話等聞かせていただき大いに会が盛り上がった。途中、途中博物館開館記念に作られ配られたという大桜20銭



をあしらった和紙に大先輩のサインを皆が求める一幕もあった。

翌朝解散後、有志の面々は地元出身の五十野氏の案内で神戸北野異人館めぐりと市役所の24F展望レストランでの神戸牛の昼食を楽しみ、その後、酒処灘七郷の魚崎にある桜正宗酒蔵の蔵元見学等を堪能し充実した研修会は無事終了した。



講演会「切手研究と杉原研究」風景



熱弁をふるう渡辺勝正氏

学習まんが人物館（小学館）に採りあげられた『杉原千畝』オビにテレビ放映の案内



「六千人の命のビザ」テレビ放映のポスター

老眼をパソコンでたのしむ

小川 義博

20 数年前、年に数回になってしまったストックブックを開いたとき、それまでは苦もなく読めていたオーストリア切手の下に印字されている彫刻者の氏名の文字がかすんで読みにくいの気づき思わず目をこすり、愕然とした。初めて、自分の老いの始まりを実感したのである。以来、それまでも増して切手を整理することが億劫になって定年を迎えた。

多少、時間ができ、箱にしまいこんであった切手を整理しようとルーペ、ネガ用高倍率ルーペなどで眺めて、改めて凹版切手の美しさと奥深さを感じた。しかし、切手全体を拡大するには無理があり、しかもアルバムにその凹版の彫りの説明と図も載せたくなくなった。自ずと文書作成に使用していたパソコンの活用へと繋がって切手をパソコンで楽しむことになった。

切手を扱うにはデジカメでなくスキャナーが当然便利である。種々の切手サイズにあったA4版までの黒い切手フォルダーを使用すれば手間がかからずに倍率を変えて一度に多くの切手の画像が得られる。簡単に画像が得られるのを幸いに多くの切手のスキャンし画面を楽しんでみて痛切に感じるのは凹版切手の味わいの深さであり、その芸術性の高さである。特に、オーストリア、スウェーデン。チェコの凹版切手はパソコン画面でその味わいをさらに楽しませてくれるが、年々、その凹版が多色になってくるのが気がかりである。これは長年、オーストリア切手を集めていて感じてきていることだが、オーストリア切手がかっての品格を徐々になくしてきていることが残念でならない。しかし、これとて日本切手と比べればはるかにうらやましいと感じている。この差はデザイナーと彫刻家をどのように遇しているかによると感じる。凹版の美しいこれらの国は切手印面の外に彫刻家とデザイナーの名を小さく印刷している。オーストリア切手では印面下左側にデザイナー、右側に彫刻者の名が記されている。「大蔵省印刷局」

でなく、切手を芸術作品として作り上げた個人の名がそれぞれの切手に記されている。切手制作への思いが自然と異なってくるのは当然であろう。このような切手制作環境のもとであれば、芸術性の高い切手が多く発行されてくるのも理解できる。オーストリアでは1960年代のA.PlichのデザインとR.Tothの彫刻による数多くの美しい切手(図1)、スウェーデンではポーランドから移り10数ヶ国1000種類を越える切手を彫ったC.Slaniaのような著名な彫刻家を輩出している。(図2) これら製作者の切手はテーマ別収集の対象にもなっている。このような切手をアルバムアレンジするとき通常アルバムの作成ではなく切手の印面を拡大して表示したいという思いが生じる。



図1 1967年発行A.PlichのデザインとR.Tothの彫刻による森林学術調査100年記念切手。山並みとイタリアカラカサマツを濃緑色1色の凹版で描く。



図2 1979年スウェーデン発行 Slaniaが彫った自国で約224番目にあたるイエーター運河観光切手 観光船 JONO号とブレンスフルト水門を各々、青、緑1色の凹版で描く。

全画面を使用して切手の注釈に使用する以外に、部分的に画像を目的に合わせて倍率を変化させて取込んでみると、アルバム作成に幅がでて魅力あるページが期待できる。特に、印刷技術面への説明には不可欠な図面作成に効果を発揮する。図3は図2と同一観光切手の木製水門と波紋を拡大して説明するための図である。また、変種、エラー、隠し文字などもこの方法で倍率を大きくして取込むと意外と鮮明に画像が得られて、ページ作成に奥行きを持たせることができる。幾つか試みたのが図4、5のような画像である。

このような老眼を生かした作業の機器環境に関しては入力のスキャナーよりも出力のPRINTERの方を重視する必要がある。スキャナーは4倍程度まで拡大機能と解像

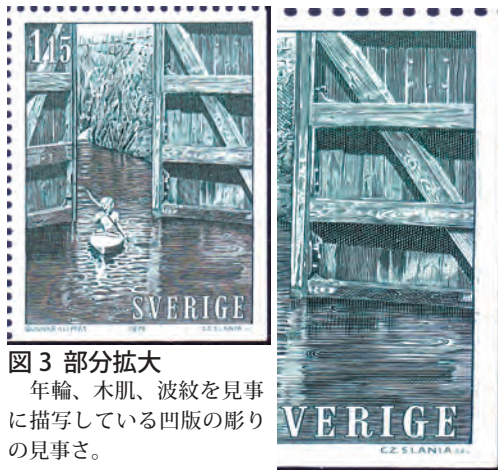


図3 部分拡大
年輪、木肌、波紋を見事に描写している凹版の彫り見事さ。

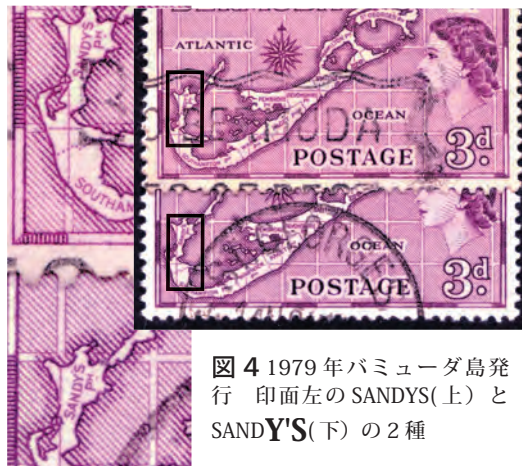


図4 1979年バミューダ島発行 印面左のSANDYS(上)と SANDYS(下)の2種

度は600dpi程度あれば十分と考える。経験上、切手のように細かいものを拡大する場合は機器の性能もさることながら切手をしっかりスキャナーのガラス面に押し付けることの方が大切だと感じる。通常、機器の耐えうる2kgの鉄アレーをのせている。出力の方はやはり解像度が高いプリンターが望まれるが紙質でかなり差が生じてしまうことを経験してアルバム用紙の選択が難しい。

このように切手の印刷という面に視点を置いてアルバムを作成していると、印面のサイズ、彫りの間隔のサイズを測定するという老眼にとってはさらに贅沢な希望が生じてくることとなった。



1966年スウェーデン発行国立博物館100年記念切手の白線四角内に女性スカート裾に妹LODZIAの文字を彫った。下 1973年スウェーデン発行ダレカリア地方観光切手バサ・スキーレースに自画像を彫った。ゼッケンにはこの切手を彫り終わった1972年クリスマスイブを表す”J.AFTON 1972”と彫られている。この他にも知



人2人の姿が彫られている。SLANIAのこのような隠し彫りはSLANIAの彫った全ての切手とともに下記のアドレスのHOME PAGEに詳しく載っている。
<http://www.xs4all.nl/~pkv/slania/index2NoJava.htm>

図5 前述 彫刻家SLANIAの切手に隠したもの

ここでも、有効なのがスキャナーと画像処理ソフトの活用である。事前に2倍、4倍等で必要な尺度範囲を定規画像として取込んで縦、横に整えそれぞれレイヤーとして黒色

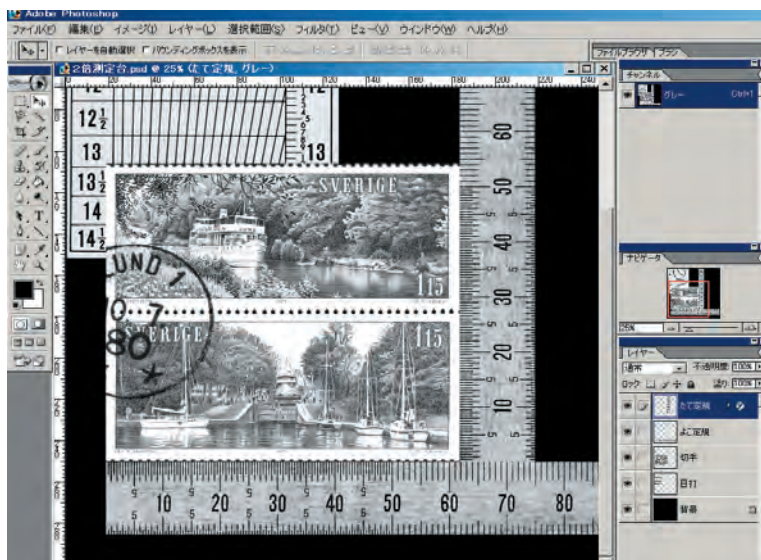


図6 2倍測定 FILE の画面



図7 隠し文字部分の拡大

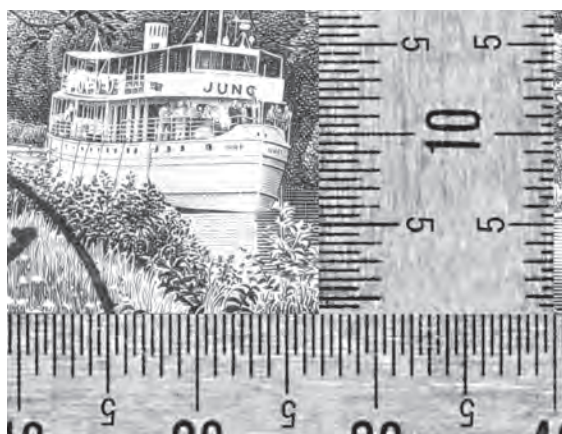


図8 イェータ運河切手の凹版拡大図

背景の画像 FILE に貼り付け、2倍測定、4倍測定 FILE として準備しておく。(レイヤーとは動画を作るとき透明素材に画像を描きそれを動かして映像を作成するセルのようなもの)

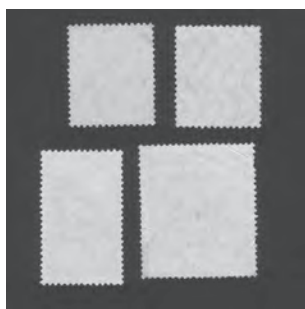
PC画面にマウスの動きで縦横に動くT定規が用意され、そこに同じ倍率で取込んだ対象とする切手をレイヤーとして貼り付ける。後はサイバーT定規を縦横に動かし目的の箇所を測る。これで所期の事柄の半分ははかなえられたが、角度をおいた測定に少し手間がかかり、課題である。

更に、残念であるが、凹版をルーペで覗いたとき

に見ることができるインクの盛り上がり、インクの光かがやきをスキャナーで再現することは不可能である。これはデジカメでの挑戦という新たな楽しみを残してくれている。

次に、思いついたのが目打ちゲージのレイヤーへの組み込みである。レイヤーの重ねる順番を変化させることでこの目的も達成できるようになり、切手を楽しむ幅が広がり、あまり行ったことのない目打ちをはかることも目打ちゲージをレイヤーとして前述した測定 FILE に取込んでおくことで容易になり国による目打ちの相違など今まで気に留めなかったことにも面白さを見出ししている。

実際の PC 画面を示すと図6のようになる。この画面上に目的の切手を貼りこみ作業目的にあったレイヤーをクリックし目的の場所にドラッグして測定する。切手全体でなく部分的に作業したい場合には対象部分だけを取込みそれを同じくこの FILE 画面に張り込めばかなり細かいものまで測定できる。前述したSlaniaの妹の名前の大きさを測定すると図7のような画面から幅2mm、高さ1mmの中に彫



上2枚日本切手W1、
下2枚インド星型すかし切手

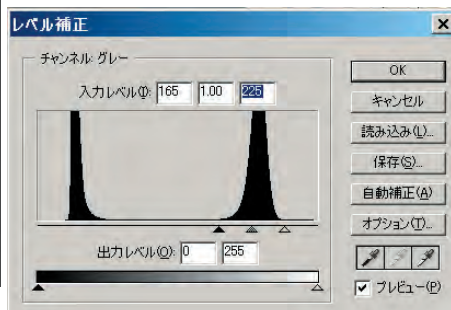


図9 補正前の切手裏面とヒストグラム

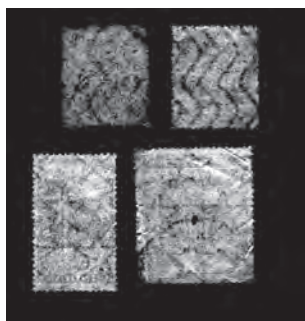


図10 補正後の切手裏面とヒス

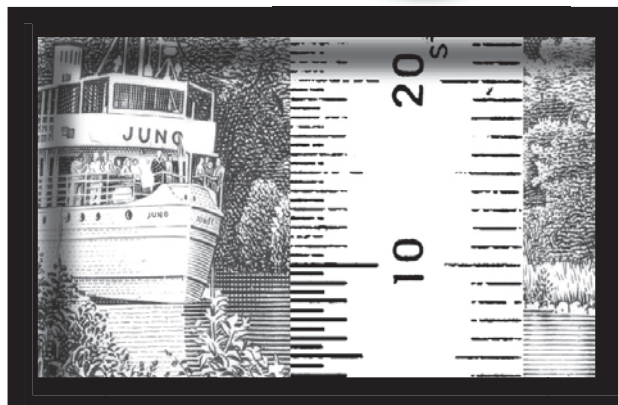
トグラム
られていることが老眼でも明らかにできる。また、凹版の彫りの細かさを見たいとき図1の目的場所を拡大表示で見れば図8のように一目瞭然、老眼でも1mmに4本の彫がなされていることが容易にわかる。

印刷、目打ちに老眼でも楽に取り組めるようになって最後に残ったのがすかしである。液体に浸したり、光にすかすこと以外にこのPC使用の延長線ですかしの楽に判断できなかないかということである。これはかなり切手により差がありうまい方法は見つからなかったが、一番汎用性があると判断できた方法は画像編集ソフトの2種類の露出調整機能を使用することであった。まずレベル補正機能である。切手の裏面を普通に取込むと通常は図9にしめす画像

図11 拡大図を効果的に表現

図形との組合せて

ルーペ使用を再現



のように2つの山を持つヒストグラムが示される。この左の山は黒い背景のものなので無視して黒のスライダーを切手を表す右の山の端まで動かすと図10のようにすかしが浮かび上がる、黒、白のスライダーを動かして最もはっきりしたところで決定する。これは1つの山のヒストグラムを示す画像である。あと必要があればトーンカーブを調整する。すかしについてはいろいろ試みたが難しいことが多いようである。ぬらしてスキャンしてもまったく期待はずれ、切手の色を考慮し地紙を当てて

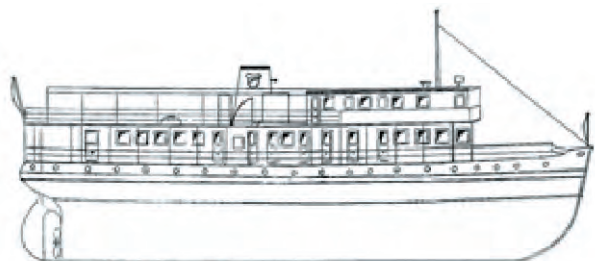
もうまく行かず、フィルムスキャンでやって見ると未使用もしくは消印の薄いものであれば時に判別できる画像が得られる程度であった。

次に問題はどのように切手を細かく画像処理して得られたものをただ並べるだけでなく、どのように美しくアルバムに取込むかが最後の課題となる。拡大図、すかし、目打ちでもアルバムに添付した切手自体から取込んだものであることを一目で印象付けられるように、使用済み切手の消印の利用価値が増してくるよう考える。最近のプレゼンテーションソフト、DTPソフトを活用するといういろいろ自己満足的に浸れる表現でアルバムを構成できる。図 11 は前述してきた内容をアルバムに表現する場合、このような遊び心でアルバム作りを楽しめるという愚例である。

最後に 切手の説明内容の充実にもパソコンでインターネットが当然活用できる。特に、

Facts about the Gota Canal boats

	Juno	Wilhelm Tham	Diana
Built	1874	1912	1931
Registration no.	1840	5359	7740
Signal letters	SFCD	SHIG	SDRU
Shipyard	Motala	Motala	Finnboda
Speed, knots	10	10	10
Engine, hp	440	460	460
Gross tonnage	254	268	269
Length, m	31.45	31.53	31.66
Beam, m	6.68	6.73	6.79
Draught, m	2.72	2.72	2.72
No. of berths	55	55	55
No. of cabins	28	26	28



外国切手の場合には非常に有用である。言語的情報だけでなく視覚的な情報を加味できることがアルバム作成に力となってくれると感じている。前述したスウェーデン観光切手を調べてみると運河のこと以外に、図 12 のように切手に描かれた観光船 JUNO 号の詳しい内容文と映像までもが手に入れられる。目的によってはこれらもアルバム作成に利用できることになる。反面、情報を取捨選択し振り回されないようにしないと切手がすかしのようになってしまう。(図 13) アルバムは何にポイントをおいて編集するか、個人の好みであると考え。そのポイントをどのようにわかりやすく美しく表現できるかが重要なのであろう。老眼も工夫次第でかえって今までに見えていなかったものを私に気づかせてくれた。

今後も、ゆっくり時をかけ、老眼が老いた切手の美しさをたのしませてくれればうれしい限りである。



図 12 インターネットで得られた JUNO 号に関する情報の一部

インターネットで
取得した情報を編集

スキャンした切
手画像をシャド
ウ効果で編集

インターネット
で取得した画像

地図に運河の
ルートを描く

切手実物

インターネットで取得
した画像を地図サイズ
に調整し文字を追加

地図帳より目的地域
画像をスキャン

GOTA CANAL(GOTA KANAL) 観光切手 1



1979年5月7日発行 FACT No.1082-1086 SCOT 1820-1825
6種の連刷パーン 目打ち 12 3/4 各単色凹版印刷

上より川面に映える観光船 JUNO 号
水門連なるブレンスフルト水門
中左 ハイストロップの回転橋
中右 リックスベルグの手动水門
下左 ゴッドホーゲンを通る船
下右 フォサピーク水門を出るコーナー

ストックホルムとイエーテ
ボリを結ぶ GOTA CANAL
(ヨータ運河) 周辺の観光的
な魅力を広報するための観光
切手と位置付けられる。運河
を主体としたデザインの切手
6種からなる。

GOTA CANAL の位置と高低差



GOTA CANAL

日本ではヨータ運河航路と観光案内書に記されて
いる。この運河はストックホルムとイエテボリ間の
航路を短縮するため 1832 年に竣工した水門式の水
運用運河である。川、湖を運河でつなぎ全長 386km
あり、途中に開門 (LOCK) を 58 設け、91m の高低
差を船の運行を可能
にしている。1916 年
に改装してより船の
運航を円滑にした。

写真で示すように
LOCK が 7,8 も 連なる
場所があり、船の
ひな壇をほうふつさ
せる景観があり、途
中には運河の下の高
速道路を車が走ると
いう場所もある。運
河を中心に自然を親
しむ環境が整備され、
夏を中心に JUNO 号
に代表される 3 隻の観光船が 2 泊から 6 泊のクルージングのコース
を巡航している。JUNO 号は 1874 年 MOTALA で建造 1904
年に改装、1956 年に 2 機のディーゼルエンジンが備えられた。
JUNO は宿泊キャビンを持つ世界で最も古い船である。総トン
数 254、巡航速度 10 ノット、客室 28、定員 55 人である。姉妹
船 Wilhelm Tham,Diana と共に運河のクルージングに使用されて
いる。



連続する水門を下る 3 隻の観光船



道路上に建設されている運河

Slania の凹版の美しさ

この 6 種の切手は 6 人のデザイナーが描き、原画を著名な凹
版彫刻家 Cz.Slania が彫ったものである。Slania はスウェ
ーデン王室彫刻家の称号を持ち他国の切手も含め 1000 種
以上の切手を彫っている。素晴らしい彼の彫刻を見る
ため 右に 4 倍に拡大コピーしたものを示す。1mm に
4 本の彫りを入れる技能によって木の茂み、水に映える
船影などが美しく表現されている。乗客が 11,2 名描かれ、
男女もそれとなく判断できる。SLANIA が彫った凹版の素晴らしい。

図 13 老眼が導いた切手アルバム の 1 ページ作成内容

渡辺勝正氏が総会後に講演された「切手研究と杉原研究」、テレビドラマとなった「六千人の命のビザ」が「スタンプマガジン」12月号に1ページ全面で紹介されています。

ドラマは語りかけます。

「杉原千敏 なぜか、日本人だけが知らない」とい
 けれど、切手収集の世界では、すでに杉原千敏は
 「正義の日本人外交官」として知られていたのです。

NHKテレビ・日テレテレビにて10月に放送された
戦後60年ドラマスペシャル

切手を見事に活かした感動ドラマ！

「六千人の命のビザ」

特別レポート

杉原千敏と切手と

1938年にイスラエル、そして194
 6年にリトアニアから、切手発行に
 よって表彰された外交官、杉原千敏
 (1903-86)。切手収集の世界では、千
 原の名に知られた人柄です。

しかしながら、10月、戦後60年
 ドラマスペシャルとしてテレビ放映さ
 れた「六千人の命のビザ」杉原千敏を
 題材とした、なぜか、日本人だけが知ら
 なかった—というコトで紹介されま
 した。驚かす、一般の日本人の口には、
 杉原千敏という人物の名前はほと
 んど知られていないから好都合よ。



●杉原千敏の発給に
 関しては重大止む
 こと、杉原千敏さん
 正史研究の書本
 は切手収集家の方
 が多い。

しかし、第二次大戦後の東欧リト
 アニア、政府の命に準わり、そのからビ
 ザを発給、六千人のユダヤ人を救った
 コレが外交官としての、もっと知
 られてほしいの切手ではないでしょうか。

出版者、杉原千敏の著者は、国際
 切手展で数々の賞状を持つ収集家だ
 けで、杉原千敏の発給にも長い間熱心
 してきた。その切手は、戦後、録音
 テープに書き記す発給の理由に、千原は外
 務省から解雇されたままです。

「彼の妻、千原さん、また彼が
 人の著作によって、千原の復讐がな
 らないことを祈る。今回のドラマは
 彼の切手と関係、関東で16%、関西で
 18%という高視聴率は、関係者にと
 の拍手喝采ほどのこと。

さて、ドラマでは、百題の映画でイ
 スラエルとリトアニアの切手が紹介さ
 れました。しかし、その他にも、杉原が
 手折る切手に登場しては、杉原は
 貯まることなく物語を—ドラマ時
 代が経過する、水原君に切手を使
 ったお話をと執筆をしたそうです。



↑切手博物館の切手（リトアニア）
 杉原千敏……150円（2007年）
 ↓切手博物館の切手（リトアニア）
 杉原千敏……150円（2007年）

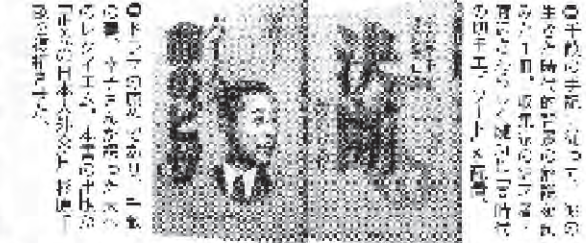
たが元は文芸にもよじて、切手収
 集を愛する現地のユダヤ人少くを懸念
 され、千原が切手発給する場面があ
 るので、千原が切手の発給の伏線
 になっていて、収集家であれば、千
 原の切手の方に注目しては、見
 逃した方も、再放送などの機会があれば、
 切手に関心を持ってください。

切手博物館の切手には、杉原千敏
 切手が発見されました。「一般社団法人の
 リトアニアの一枚切手があることを知
 ったスタンプたち、近頃の切手展で
 注目を浴びた切手を買ったそうです。お
 かげで、切手博物館は「切手博物館」
 として知られるようになって、

★ブックラム・カイト/杉原千敏の切手、もっと知りたい



↑主文番号55-2428 イスラエル 諸国間の正義の人
 タブ付き…680円（2007年）1534
 切手博物館の切手（リトアニア）杉原千敏……150円（2007年）

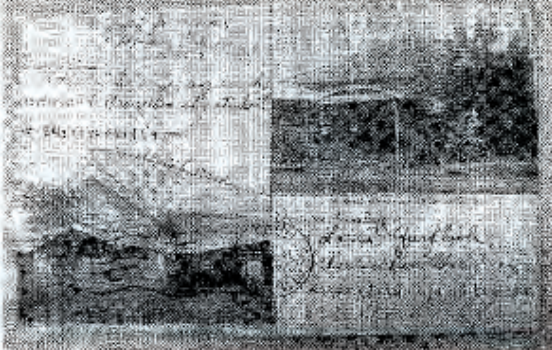


↑主文「正義の日本人外交官の六千人の命のビザ」…1,575円（2007年）
 ↑主文「正義の日本人外交官の六千人の命のビザ」…1,575円（2007年）

井上武志氏が古い絵葉書を宮城学院に寄贈されたことが7月24日の「河北新報」(宮城県)に紹介されました。

幻の学びやに歓喜の再会

約100年前の宮城女子学校の校舎が写された



「宮城学院」創立100周年の記念、古くから「校の歴史がたどった明治時代の校舎が写された」。東北大学の収集家である井上武志氏が、去年から同学院に寄贈された「絵葉書」に添えての紙入れの札状に書かれた、校舎の写す主人が、約100年前に校舎を建てたため、創立100周年を来年に校舎を建てた「宮城学院」の歴史を伝える。

宮城学院に収集家が絵はがき寄贈

100年前の姿鮮明 学校側「大切にしたい」

「この絵葉書は、約100年前の宮城女子学校の校舎が写された。当時の校舎は、木造の2階建てで、窓が小さく、壁は白く塗られていた。校舎の前には、広い芝生が広がっていた。この絵葉書は、当時の校舎の様子を鮮明に写し取っている。学校側は、この絵葉書を大切に保管し、後世に伝えることにしている。」



絵はがきを宮城学院に寄贈した井上武志さん(右)

三井記念美術館展 「美の伝統三井家伝世の名宝」に手彫切手等が展示
三井記念美術館開館を記念する展示会が10月8日～12月25日まで開催されています。日本で焼かれた国宝の茶碗二点のうちの一つや、円山応挙の「雪松図屏風」、藤原定家の「熊野御幸記」などの国宝の展示に加えて、こじんまりした展示室に切手が展示されています。竜48文1版、2版のフルシートなど手彫切手21リーフ、江戸末期の飛脚状、1867年に在日米国局からポストン宛の書状、美しき国オーストリア24リーフなど。「竜切手」は前半の11月13日で終わり、後半の17日からは替わって「手彫切手の王冠・大桜20銭」20リーフが展示されます。

郵趣会の動き
郵便文化振興協会が来年3月をもって解散、その幕を閉じることになりました。これに先立つ今年12月にはFDC、新切手解説書の発行が終了します。毎年4月に開催されている全日展の今後についてはこれからの課題のようです。遍刊の「切手」誌も来年3月で終了します。創刊号の発行は昭和28年頃と思われませんが、早大切手研究会同様、50余年の歴史を終える「切手」誌は、かつて橋浦愛武氏、大谷博氏、横山嘉久一氏、長谷川正純氏らが編集部を担当されていた時代がありました。長い年月が過ぎ、知る人もだんだん少なくなっています。

分科会活動報告(切手教室)

- ◎「第35回切手教室」(9月3日)
渡辺浩章氏「文化大革命と中国切手」
 郵趣会・交流会(第2回)
- ◎「第36回切手教室」(10月1日)
渡辺洋氏「アフリカの自然と切手」
甲斐正三氏「外国の郵便料金の推移」
- ◎「第37回切手教室」(11月5日)
坂下泰一氏「手彫切手の楽しみ」
小川義博氏「世界の切手発行をふりかえる」

会員諸氏の活動

第40回全国切手展<JAPEX'05>に下記三氏が出品されておりましたので紹介します。
(10月28～30日)
 於:池袋サンシャインシティ文化会館)
稲葉良一氏(当切手展の審査委員長)
 「昭和20年関東州(+満州)と郵便」
和田文明氏
 「米国書留業務郵便史」
甲斐正三氏
 「ガンドンのマリアンヌ」

池澤氏の「文化人の形見」が完結

池澤克就氏が「スタンプマガジン」に1年間連載された「文化人切手ゆかりの地を往く」が完結、12月号に総集編として4ページにまとめられています。是非ご一読されることをお勧めします。

編集後記

今回の総会で、早大切手研究会が消滅、56年の幕を閉じたことを知らされました。全盛期に席を置いた者としては残念の一語につきまします。一方、当初100人弱でスタートした稲門フィラテリーは115名の会員を擁して元気なのは嬉しい話です。

編集の最後の追込みに入った11月12日は木枯らし第一号が吹き寒い一日となりました。この号が届く頃は、クリスマスを迎えるイルミネーションが輝いていることでしょう。

新入会員の紹介

- 山島一夫氏(38・理)
〒213-0033 神奈川県川崎市高津区
 下作延911-1
- 横尾勝彦氏(40・商)
〒520-2101 滋賀県大津市青山5-5-8
- 三宅正之氏(44・商)
〒175-0092 東京都板橋区赤塚2-25-1

※会員総数は115名になります。

「切手研究用語集」の配布

関東郵趣連盟の理事長・野中勲氏により「切手」誌に長年掲載された「新編郵趣用語集」が完結し、(財)郵便文化振興協会より「切手研究用語集」として出版されました。関東郵趣連盟に加盟の各団体に切手教室教材用として配布されましたので、稲門フィラテリー会員全員にお配りいたします。ご利用下さい。

次回の見学旅行は新潟へ

次回は来年3月11(土)、12(日)に新潟県の会津八一記念館、北方文化博物館などを予定しています。

詳細につきましては別途案内を差し上げますのでご参加をお待ちしています。

発行日	2005年12月1日
発行	稲門フィラテリー
発行人	小西 邦彦
	150-0002
	渋谷区渋谷 1-11-3 正栄ビル4F
	(株)英国海外郵趣代理部内
	稲門フィラテリー事務局
	郵便擾替口座 00110-560458
	「稲門フィラテリー」
編集担当	湯川宗昭・池澤克就
	木元淳一郎・甲斐正三

稲門フィラテリー

第 19 号

平成 18 年 3 月 1 日

水杉物語

橋浦 愛武

1992 年 3 月 10 日、中国で 4 種類の杉の切手が発行された。これは、その内の一枚 20 分切手「水杉」にまつわる物語である。

「水杉」は「メタセコイア」

「水杉」は中国語で「スイサ」と読む。「水杉」あまり聞きなれない言葉である。この 20 分切手の図案には、水杉の大木をバックに水杉の球果が描かれている。水杉は日本の植物学者三木茂によってメタセコイアと命名された。1941 年のことである。メタセコイアに関する三木茂の英文の論文は日本植物学輯報第 11 巻に掲載された。この三木論文は世界各地

の研究機関に送られたが、戦時中のことであり、地理的に近い中国を除いてその殆どが先方に届かなかった。欧米の研究者がメタセコイアについて知ったのは戦後にメタセコイアの現生種が発見されてからのことである。

中国で発見された生きたメタセコイア

「水杉」がなぜ中国切手の図案に登場したのだろうか。実はそれまで生きた化石でしか発見されず絶滅したと思われていたメタセコイアが四川省の奥地で生きて発見されたのだ。場所は四川省と湖北省の省境万県磨刀溪。高さ 30 メートル、幹の直径が 3 メートルという大木だった。1946 年のことだった。鑑定を依頼されたのは北京の静生生物研究所所長の胡博士だった。胡博士のところには三木論文が届いており、当然その内容を知っていてこの木がメタセコイアの現生種だと判断し、直ちに世界に発表した。三木の研究は日本で出土した化石をもとに研究されたので、すでにメタセコイアは絶滅したものと思われていた。この発見は世界を驚かせた。アメリカ・カリフォルニア大学のチェイニー教授は、この木に「DawnRedwood」と名前をつけた。メタセコイアの方がそれまでのセコイアより古い特性が見られるとして、Dawn（夜明け、あけぼの）とした。日本では「メタセコイア」という名のほか、植物学者木村陽二郎が和名として「アケボノスギ」と名付けた。現生種が発見された中国ではこの木が水気を好み、



湿地や谷間に生育していることから「水杉」と呼んだ。

日本に贈られた 100 本の苗木

アメリカのチェイニー教授は 1948 年中国に飛び、四川省万県に入った。そこで 10 日間現地調査を行い、1000 本ものメタセコイアを見つけた。こうして発見されたメタセコイアの種子はチェイニー教授から日本に送られてきた。東京の小石川植物園正門前のメタセコイアの大木がこの種子から芽生えた日本で最初の木であると言われている。また小石川植物園にはメタセコイアの林もある。これは温室で育てた苗木から挿木で増やし 1957 年に移植したもので、24 本がそろった高さに伸び、見事な林になっている。

また、チェイニー教授から 1950 年メタセコイア苗木 100 本が日本に送られ、各大学などに分けられた。東北大学には 3 本の苗木が送られ、理学部生物学教室の前に植えられた。いま仙台にあるメタセコイアはここから増やしたものである。

昭和天皇も好んだメタセコイア

メタセコイアの苗木はチェイニー教授から昭和天皇に献上され、吹上御苑に植えられた。昭和天皇は和名「アケボノスギ」を大変好まれ、昭和 62 年の歌会始めに「わが国のたち



なおり来し年々にあけぼのすぎの木はのびにけり」と御製を詠まれたことは有名である。拝察するに、戦後の日本の復興を、真っ直ぐにすくすく伸びるメタセコイアに重ね合わせて、更なる発展を祈る気持を歌に託されたのではなかろうか。

「杜の都」のメタセコイア

話は変わるが、私が今住んでいる仙台市は別名「杜の都」と呼ばれている。伊達政宗が 1604 年に仙台に入り町割りをしたときに、屋敷内に木を植えさせ「屋敷林」を作らせて以来、仙台には木が多い。空襲で街の中心部が焼かれ、木が少なくなりましたが、戦後区画整理で道路を広げた際にいろいろな街路樹を植え、特に定禅寺通のけやき並木が見事で仙台のシンボルロードとなり、なっている「日本の道路 100 選」にも選ばれた。現在けやきは仙台市の「市の木」に指定されている。けやきの陰に隠れた形になっているが、仙台にはメタセコイアも数が多い。もちろん戦後植えられた木である。市内のあちこちで



目にすることが出来るが、中には5階建てのビルの高さまで成長したものもある。これらのメタセコイアは東北大学理学部に贈られた3本から増やされたものである。

日中友好のシンボル

私が以前勤めていた東日本放送は、中国・四川省成都市の四川電視台と友好協定を結んでいる。そのきっかけは、私がある企画番組を立て、その制作交渉に四川電視台を訪問したことによる。その後、たびたび相互に訪問しあい、実績を積み上げて友好協定締結までに至った。その四川省からメタセコイアの現

生種が発見されたのだ。これを番組にしない手はない。そう思った私は、早速機会を得て、現地にディレクターと構成作家に行ってもらった。その報告によると、長江流域の四川省重慶市から東へ車で1日10時間走らせて3日間、万県石柱でメタセコイアの母樹にたどり着いたという。高さ約30メートル、幹の直径約3メートル、樹齢約450年と推定される。(写真)結局番組にはならなかったが、その後東日本放送が仙台市青葉区に新社屋を建設した際、玄関の前にメタセコイアの苗木7本を植えた。そしてお祝いに駆けつけた四

川電視台の訪問団に披露した。それから15年、いまでは高さが10メートルに成長し、四川電視台と東日本放送を結ぶ友好のシンボルとなっている。

メタセコイアとセコイア

ここまでメタセコイアについて書いて来たが、アメリカでもメタセコイアに良く似た木を描いた切手が発行されている。生涯自然保護運動に力を注いだジョン・ミューアを取り上げた5セント切手。ミューアの肖像のバックにある木の幹が描かれている。ジョン・ミューアは国立公園の父と呼ばれ、サンフランシスコの近くにセコイア



の森として知られる「ミューアの森」がある。5セント切手に描かれた木の幹は、実はメタセコイアではなく、セコイアの木だった。

セコイアには、セコイアとセコイアデンドロンの2種があり、セコイアはカリフォルニアからオレゴンにかけての海岸山脈に自生している。大きいものでは、高さ100メートル、幹の直径が6～9メートル、樹齢は400年から1300年に達するという。セコイアデンドロンの高さは100メートルでセコイアと変わらないが、幹の太さが30メートル、樹齢は2000年～2300年で地球上で最も巨大といわれ、よく幹の根元をくり抜いて車が通っている写真を見かける。

前述の三木茂は、セコイアの化石の中から異なる特徴を持った木を発見してメタセコイアと命名した。セコイアとメタセコイアは、球果や種子、葉の形状が異なる。また、セコイアは常緑だが、メタセコイアは落葉するのにも相違点だ。ちなみにセコイアという名前は、アメリカインディアン・チェロキー族の偉人といわれたジョージ・セコイアから名付けたといわれる。また、三木茂が名付けたメタセ

コイアは、このセコイアにメタ（ギリシア語で後の意）をつけたものである。

三木はセコイアが先でメタセコイアが後と考えたが、チェイニーはメタセコイアの方に古い特性が見られると考えた。見解が別れるところだ。

切手蒐集の楽しみ

中国の水杉（メタセコイア）は1992年3月10日に発行された。「杉シリーズ」4種セットで20分「水杉」、30分「銀杉」、50分「秃杉」、80分「百山祖冷杉」がそれぞれ図案となっている。いずれも成木をバックに球果を描いている。中国切手も最近は美しい魅力ある図案が多くなってファンも多いと聞く。花シリーズ、鳥シリーズ、動物シリーズなども発行されている。この杉シリーズもその一つだろう。この「水杉切手」、一般のコレクターは単に植物切手の一枚として受け取るだろう。しかし、「メタセコイア」にこだわってきた私は、この切手を非常に感慨深く見た。それはこの木にまつわる物語を知っていたからである。アメリカの「セコイア」切手にしても、いわれを知ったらその切手に対してまた別の思いが出てくるに違いない。一枚の切手の中にはいろいろな情報が込められている。その切手が発行されるに至った時代背景や図案の意味など。切手は発行された国の歴史を辿る一級の資料ともなる。記念切手はもとより、普通切手に至るまでそれぞれに意味を持つ。ただかたか方寸ではあるが、その中に秘められた物語を考えると、切手の魅力はさらに大きく広がっていくに違いない。

参考文献

斎藤 清明 「メタセコイア」

中公新書 1995年発行

小石川植物園写真提供：池澤 克就氏

「水杉」切手写真提供：日本郵趣出版



中島健蔵先生と大谷博君の受賞

渡辺 勝正

今年正月に発表された2005年度の「中島健蔵・水原明窗記念賞」受賞者は、大谷博君であった。この賞は日本郵趣協会が与える賞の中で、最も栄誉あるものと言われている。1980年に「中島健蔵記念賞」がスタートし、1994年以降「中島健蔵・水原明窗記念賞」になり、毎年、選考委員会によって、切手界功労者が表彰されているが、該当者無しの年も何回かあり、受賞者数は今回で20人目である。本来、故人は対象外であるが、大谷君の切手ジャーナリストとしての生前の活躍が惜しまれ、特別に決定したのであった。

受賞すれば1年以内に、講演か作品展示を行うことになっている。しかし大谷君の講演は不可能である。当初は大谷コレクションを偲ぶ予定であったが、25万種というコレクションは、膨大過ぎて展示作品としてはまとまらず、展示も実施することができない。そこで大谷君の受賞を機会に、日本郵趣協会会長であった中島健蔵先生について、懐古させていただくことにした。

中島先生ほどスケールの大きい文化人は、今では見あたらないが、1967年の秋、早大切

手研究会は早稲田祭の行事として、中島先生に切手の講演をお願いした。早稲田祭の案内役はOBの私が務めた。中島先生は構内に貼られたポスターを見て、「この中に私の専門が10ばかりあるが、切手は趣味だから気楽でいい」と言われたことを思い出す。

早稲田祭のもう一人の講師として、全日本郵趣連盟の市田左右一理事長をお願いした、日本を代表する切手団体両巨頭の、初めての顔合わせとなった。

その頃は、国際切手展への日本からの出品が始まったばかりであった。市田理事長は国際切手展への参加について現状を説明し、将来についての対応を述べられた。中島会長は切手が趣味として世間に広がっていくことを喜ばれ、切手団体にはそれぞれの役割があり、その領分を大事にしなければいけないと言われたことが印象的であった。

講演が終わって3人で喫茶店に入った。しかしこの時の話題の中心は、切手ではなくサッカーであった。ご両人とも松本高校のサッカー部に在籍されていた間柄であり、中島会長が先輩であったが、市田理事長はかつて世界サッカー連盟の理事であった。

ところで中島先生は、日中文化交流協会会長として著名だが、各種文化団体の会長でもあった。『昭和の時代』を出版された時のパーティには、誰でも知っている有名文化人が30名ばかり列席した。作曲家の團伊久磨俳優の小沢昭一、デザイナーの杉浦康平、画家の岡本太郎、紅一点のピアニスト中村紘子などと雑談を交わすことができた。会場には引き受けの出版関係者が10名の他に、顔見知りの切手収集家が10名いた。我々切手収集家が場違いともいえるこの文化人パーティに、なぜ出席したのか



中島健蔵・水原明窗記念賞メダル

ティに、なぜ出席したのか今でも謎である。

私は中島先生の勧めで出版を始めた。1977年には『新聞集録大正史』の編集打ち合わせのため、先生のご自宅を月に一度、編集者3名でお邪魔した。打ち合わせ1時間の内、20分間は切手の話になり、中島先生は「座間」の消印が未収であることを残念がっておられた。完成した『大正史』を持参したのは、1978年7月10日であった。

日本と中国は千年以上の交流があるのに、日本政府はアメリカの顔色ばかり伺って日中交流を閉ざしているのはよくない、と主張される中島健蔵会長のもとに「日中文化交流協会」が立ち上げられ、副会長は元外務大臣の藤山愛一郎であった。そして時は動いた。日中関係が進展し始めた1978年8月に、中国から郵小平が来日した。しかし中島先生は病で面会できず、日中文化交流協会の中国側会長が、中島先生宅に病気見舞いに行ったという記事が新聞に出て、私は初めて先生の病気を知った。

翌年の1979年3月、先生は医師から癌の宣告を受け、飲酒を禁じられたが、毎晩ウィスキーを欠かさず、生涯、何事にもマイペースであった。無宗教を宣言する先生は、死を覚悟されると「葬儀はやるな」と言って京子夫人を悩ました。しかし同年6月11日に76歳で逝去されると、読経が流れ、線香が漂った。周囲が収まらなかったからである。

その翌日、日本郵趣協会職員のM氏から、「中島賞」の設営をしたらどうだろう、という相談を受けた。もちろん私は即座に賛成し、水原理事長に提案することを勧めた。ところが理事長は基金や準備が必要になるとして、一旦保留されたものの、中島先生のコレクション売却費を基金に、翌1980年から実施されることになったのである。

大谷博君が日本郵趣協会の新年会に初めて現れたのは、中島先生が亡くなった翌年であった。中島先生はNHKラジオの音楽評論を長年続けておられ、大谷君はNHKラジオの音



日本郵趣協会提供 (デザイン・渡辺勝正)

楽担当者であったが、意見が対立したことがあったらしく、中島先生には顔が合わせられないので、これまで新年会には出席しなかったのだ、と私に告白した。

その席で水原理事長に、大谷君は郵趣協会にとって役立つ人物であると紹介したところ、大真面目な大谷君は、以後、「スタンプマガジン」を中心にして、切手ジャーナリストぶりを発揮していった。執筆自体が彼の趣味と捉えることができたとはいえ、少し無理をしているようだった。

2003年2月16日、何の前ぶれもなく、大谷君は心不全で昇天した。机の上のテレビはNHK番組がかけっ放しで、右側の小机には切手アルバムが開いたままになっていたという。

編集注

渡辺勝正氏は第19回(1998年度)の中島健蔵・水原明窗記念賞を受賞されています

ギリシャ郵便局めぐり

アテネ・メテオラ：エーゲ海

池澤 克就

2005年10月、新婚旅行でギリシア各地を訪問し、遺跡めぐりの合間に郵便局にも足を運びましたので、今回はギリシアの郵便局と入手した郵趣品についてレポートしたいと思います。

(1) パルテノン神殿の黄色いポスト

アテネ市内の最大の観光地、アクロポリスの丘には、神殿に向かう上り坂のふもとに郵便局があります(図1)。ギリシアの郵便局は看板やポストが鮮やかな黄色ですので、遠くからでもよく目立ちます。窓口には、記念切手を収めたフォルダーや、料金つき絵はがきの裏面に切手を貼って金箔状の消印を押印したマキシマムカードのセットなどが並んでいます。

窓口には、2004年のアテネオリンピックのマスコットキャラクターをデザインしたピンバッチやレターセットなども並んでいました。その中から、記念切手を収めたフォルダーやマキシマムカードを何点か購入しました。アテネ最大の観光地ということもあり、旅先から絵はがきを出す際に切手を求める観光客が多く訪れるようです。



図1 パルテノン神殿の郵便局にて



図2 ケースに並んだ郵趣品



図3 パルテノン局の収穫

図3は、パルテノンの郵便局で購入した郵趣品です。左上の青い袋は、郵趣品を入れてくれた紙袋です。

(2) メテオラの郵便局

ギリシア本土のほぼ中央に位置し、世界遺産にも登録された奇岩地帯メテオラの観光拠点は、カランバカという小さな村です。この村で入ったレストランの向かいに、ちょうど郵便局が見えたので入ってみました。記念切手があるかどうか聞いてみると、縦ストリップ状態に切り離しクリップに挟んだ切手を出してきました。日本へ差し出す封書やはがきの料金は0.65ユーロですので、0.3ユーロや0.35ユーロの記念切手を適当に見繕って購入しました。メテオラはギリシアの切手の図案にもなっています。(図4)

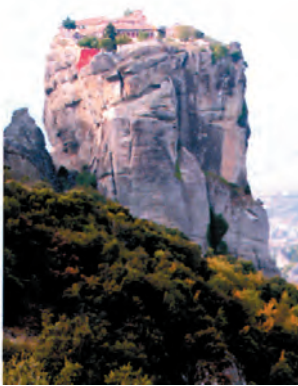


図4 奇岩の上に立つメテオラの修道院

(3) デルフィ博物館

アテネから北西に約170キロ離れた、古代ギリシアの宗教の中心地デルフィ。かつて、この地ではアポロンの神託が行われており、国家の指導者もこの神託をもとに国の大事を決定していたといえます。パルナッソス連山の懷に抱かれたこの遺跡には、かつての栄華を忍ばせる巨大な石造建築の痕跡が数多く残っています。眼下に見渡す限りのオリーブ畑を見下ろしながら、山道をひたすらバスで登っていくと、山肌にへばりつくように遺跡が見えてきます。遺跡のそばにデルフィ博物館があり、その建物に隣接して郵便局がありました。この遺跡周辺には人が住んでいませんので、観光客をターゲットとした郵便局でしょう。窓口は宝くじ売場のようにコンパクトでした。この局では、デルフィの遺跡がデザインされたカバーを発見し購入したので

すが(図5)、よく見ると、デルフィの写真がデザインされているのは切手ではなく、切手の横についたタブの部分でした。どうやら、日本でいうPスタンプのようです。

また、窓口の上には1995年に発行された



図5 デルフィーのPスタンプカバー



図6 デルフィ局の窓口



図7 窓口の上に飾られていたパネル

デルフィの遺跡の切手を拡大したパネルが飾られており(図7)、この切手の在庫を確認したら、ない、とのこと。図8は、先日のJAPEX会場で入手した切手の実物です。ギリシア切手を集めだして感じたのですが、日本では、ギリシア切手を扱っている切手商があ

まりありません。集めている人が少ないのと、そもそも日本に入ってくるギリシア切手の数量が少ないのが現実のようです。

(4) ミケーネの移動郵便局



紀元前16世紀から紀元前12世紀にかけて、バルカン半島を南下して住みついたギリシア人は、クレタ文明を引き継いで独自の文明を作り上げました。これがミケーネ文明です。王は堅固な城壁に囲まれた宮殿に住み、街は農業や牧畜、果樹栽培や貿易活動で栄えましたが、トロイア文明を滅ぼすなど、武力国家でもあったようです。1876年、ミケーネ遺跡はドイツの考古学者で貿易商でもあったハイน์リヒ・シュリーマンによって発掘されました。この発掘により、それまでホメロスの詩によって伝えられていた伝説の世界が、歴史的事実であることが明らかとなり、歴史学は大きく塗り替えられました。図8は、シュリーマンの肖像とともにミケーネの遺跡が描かれているドイツ切手です(図8)。

ミケーネの城塞跡は丘の上に建てられており、バスを降りてから山道を登っていく途中にあるのが、切手の図案にもなっている獅子門です(図9)。

ミケーネ遺跡の駐車場に、黄色いキャンピングカーのようなものが停まっていた。黄色と青という色調が郵便局を思わせます。近づいてみると、ちゃんと郵便局のマークがありました(図10)。黄色いポストも脇にくっついてあります。残念ながら営業はしていませんでしたが、時間帯によっては窓口が開いて、臨時の郵便局として機能するようです。片側にトレーラーで牽引するためのバーがついていましたので、移動式の局舎なのかもしれません。

図8,9 デルフィ遺跡の切手

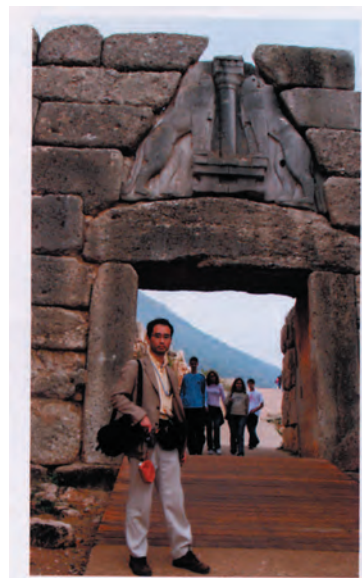


図10 ミケーネの獅子門

(5) エーゲ海エギナ島にて

今回の旅行では、エーゲ海一日クルーズに参加し、エーゲ海に浮かぶ三つの島をまわりました。そのうちの一つエギナ島で郵便局を発見しました。郵便局の前にはポストが三つ並んでいました(図11)。島の建物の多くは、壁が白、ドアや窓枠が青で統一されており、郵便局も同様の配色でした。ところが、まだ4時だというのに、すでに窓口は閉まっているのです。ギリシアでは、郵便局の開局時間は朝7時半から午後2時までというのが普通ようです(図12)。朝はちょっと早すぎる気もしますが、午後二時で閉めてしまうのは、旅行者はもちろん、地元の人にとってもちょっと不便なのではないかと思います。ギリシアで手紙用の切手を購入する際には、窓



図11 ミケーネの移動式郵便局
(背後に見えるのがミケーネ遺跡)



図12 エギナ島郵便局

口が開いている時間帯をねらって郵便局を探し、運良く郵便局が見つければ、買いだめしておくべきでしょう。

(6) みやげもの屋のパケット

今回の旅行では、みやげもの屋で何種類かのギリシア切手のパケットを見つけ、購入しました(図14)。上の200種は15.5ユーロ(約2000円)、下の二つは15種で、各3.5ユーロ(約500円)。決して安いわけではありませんが、ギリシア切手を手始めに揃えてみるには手ごろな値段かと思います。

(7) 持参したカメラ

今回の旅行に持参したカメラは二台、新規に購入した820万画素のデジカメ Canon EOS 20D(図15)と、通常使っている Canon Power ShotS60 です。海外旅行は荷物が身軽な方が楽ですので、機動性を重視し、持参するレンズは一本のみ(SIGMAのズームレンズ18mm-



図13 郵便局の営業時間



図14 エギナ局の街角のポスト

200 mm) に絞りました。広角から望遠まで、通常の旅行ではこの一本で十分カバーできると思います。私は銀塩の一眼レフも愛用していますが、旅行の写真は撮りなおしがききませんので、旅に持参するカメラは、枚数を気にせず、アングルを変えながらたくさんシャッターを切れるデジカメが適していると思います。

(8) おわりに

はるか古代から人類が行き交ったギリシアには、16件もの世界遺産があります。今回はそのすべてをまわることはできませんでしたが、オリンピックが契機となったこともあるのか、遺跡や博物館などの観光設備はどこも整備が進んでいる印象を受けました。遺跡の入場チケットのデザインは全国で統一されており、国全体で文化遺産を大切にしていることが伺えます。切手の図案にも、こうした遺跡や古代の壁画をデザインしたものが多く、じっくり集めてみたくなりました。高校時代からエジプト切手を集めはじめ、大学の卒業旅行では迷わずエジプトを選び、現在も機会あるごとに古代エジプトに関する図案の切手を集めています。いずれギリシアも含めて古代文明をテーマにした作品に取り組み、切手展にも出品したいと思っています。



図 16 EOS20D



図 15 おみやげ用ポケット



図 17 エーゲ海のエドラ島 (EOS20D で撮影)

故・大谷博氏が第20回

中島健蔵・水原明窗記念賞を受賞

本号に渡辺勝正氏が書かれているように、故・大谷博氏が第26回(2005年度)中島健蔵・水原明窗記念賞を受賞されました。

1月7日夕刻、日本郵趣協会恒例の大名刺交換会が新宿エステックビル内で開催され、その席上で表彰式がとり行なわれ、ご子息の大谷真人氏が賞を受け取られました。

分科会活動報告(切手教室)

◎「第38回切手教室」(12月3日)

日比 茂春 氏 「年賀切手」

第3回郵趣会・交換会

◎「第39回切手教室」(2月4日)

飯野 明 氏 「飛ぶもの郵趣」

藤田 弘道 氏 「初心者のおストリア切手」

50年記念切手展リーフFILEの削除

昨年7月より試行の稲門フィラテリーホームページの容量がきつい状態になりましたので掲載中の50周年記念切手展のFILEを削除いたします。20Mと大きいのでMAILでの添付は困難です。興味のある方はダウンロードして下さい。ホームページのアドレスは下記の通りです。

<http://www.bekkoame.ne.jp/~y-ogawa/touhilal.html>

編集後記

昨年後半から、人の心を暗くさせるような不祥事が次から次へと発生し、一体日本はどうなるのかと不安を感じるこの頃です。「高潔」という言葉など死語になっていくのでしょうか。トリノ五輪は残念な結果に終りそうですが、「史上最強の早稲田」ラグビー部は大学リーグで圧勝、トヨタとたたかい、大学のチームとしては社会人上位チームを相手に18年ぶりの勝利をおさめました。準決勝は敗れこそしましたが、その健闘は私たちを興奮させてくれました。

会津八一記念館のPスタンプ

3月11(土)、12(日)に訪問する新潟県会津八一記念館では、会津八一のPスタンプを2月早々から発売します。旅行に参加されない方は通信販売を行いますので下記へお問い合わせ下さい。

新潟市会津八一記念館(Tel:025-222-7612)
〒951-8101 新潟市西船見町5932

3月には、早稲田大学内の会津八一記念館および生協でも販売が行なわれます。

木辺円慈氏が朝日新聞に紹介

1月12日滋賀県版に浄土真宗・錦織寺(野洲市木部)の現門主木辺円慈氏が紹介されました。氏の父君は門主を務めるかたわら、天体望遠鏡に使うガラス反射鏡の優れた製作者であり、今回、野洲市教委が「郷土の偉人」として副読本にとりあげた記事が載り、その中に登場しました。

住所変更のお知らせ

和波久基氏(31・政) Tel:03-3758-0211

〒146-0092 大田区下丸子2-24-10

多摩川ハイム3-1103

古賀幸治氏(35・商) Tel:090-6516-5028

〒221-0801 横浜市神奈川区神大寺

2-9-6-811

竹中信勝氏(60・法政) Tel:045-823-8429

〒244-0801 横浜市戸塚区品濃町

537-20-2502

発行日：2006年3月1日

発行：稲門フィラテリー

発行人：小西邦彦

〒150-0002 渋谷区渋谷1-1-3

正栄ビル4F

(株)英国海外郵趣代理部内

稲門フィラテリー事務局

郵便振替口座：00110-0-560458

「稲門フィラテリー」

編集担当：湯川 宗昭・池澤 克就

木元 淳一郎・甲斐 正三

稲門フィラテリー

第 20 号

2006 年 6 月 1 日 発行

會津八一の故郷へ

稲フィラ見学旅行

記：上田 克己

稲フィラの見学旅行も、今回で 4 回目となる。第 1 回目は、前島密と相馬御風の故郷、上越市へ。“命のビザ” 杉原千畝記念館を訪れたのが第二回目。そして昨年は、稲フィラの大先輩、金井氏が設立された“郵便切手博物館”の見学に、第 3 回目として神戸・六甲を旅した。

今年の旅は第 1 回目と同じ新潟県だが、今回は春まだ浅い 3 月 11 日(土)、12 日(日)の 2 日間で新潟市とその周辺を巡る旅である。歌人、書家であり東洋美術史学者でもあった會津八一の記念館や、越後の豪農であり早稲田四尊の一人、市島謙吉(春城)を生んだ市島家などを訪ねる。

参加者は小西会長以下 14 名。最長老の前会長小熊氏を先頭に全員還暦を優に越えているが、揃って皆さんお元気そのもの。例によって、名幹事の評価を受けた野島、府川両氏に率いられ、新潟在住の高橋氏の案内で参加者一同、大満足、有意義な二日間を過ごすことが出来た。旅は先ず、新潟名物“へぎ蕎麦”を味わうことから始まった。第 1 日目、現地集合時間が新潟駅へ午後 1 時。先着した小西会長他 9 名は、何はともあれ腹ごしらえと駅ビル内にある「小嶋屋」で“へぎ蕎麦”を賞味する。“へぎ”とは剥ぎ板で作った長方形の器を言い、これに布のりをつなぎにした蕎麦を一口大に美しく盛り付けたものである。山形の“板蕎麦”とはまた違った、柔らかな喉越しと越後の風味を添えられた

山菜の天麩羅と一緒に味わった。

駅前から今夜の宿「望川閣」をお願いしたマイクロバスに乗り込み、最初の目的地である市内の「北方文化博物館分館」に向かったのは午後 1 時過ぎ。ここは會津八一終焉の地であり、越後の豪農伊藤家の六代目当主伊藤文吉が明治の末期、別邸として購入した。枯山水の庭に面して 2 階建ての洋館が建てられており、昭和 21 年 7 月から晩年の 10 年間、秋艸道人こと會津八一はそこに起居した。庭に一隅には八一の歌碑「かすみたつ はまのまさこを ふみさくみ かゆき かくゆき おもひそわかする」が建立されている。また、茶室「清行庵」もあるが、この名は良寛の書から八一が命名した。洋館には八一の書や記念品、良寛の墨蹟が展示されており、ゆっくり見学し早稲田ゆかりの歌人を偲んだ。





次いで訪れたのは豪農の館「北方文化博物館」。ここは越後随一の豪農、伊藤家の屋敷である。新潟の大河「阿賀野川」の西岸、新潟市沢海(そうみ)の地にあり、敷地面積8,800坪、建坪1,200坪の豪邸である。その部屋数は65に及び現在は国の登録有形文化財に登録されている。豪農伊藤家は初代文吉が江戸中期の宝暦6年、20歳で1町2反9畝29歩の畑を与えられ分家したことから始まる。農家を営む傍ら、藍や雑穀を商い質屋、倉庫業で財をなした。二代文吉は苗字帯刀を許され、「伊藤文吉」を名乗るようになった。明治15年から8年をかけ、その勢力を表す豪商の城を築いたのは五代文吉。とにかく桁外れの広さで往時の伊藤家の勢力が推察される。伊藤家は全盛期、所有する田畑は約1,370町歩、山林は3,000町歩を超えたと言われ、小作人は2,800余人、屋敷に暮らすのは奥女中から作男、女中など約60人に上ったそうである。戦後、七代文吉が屋敷を博物館として保存することとしたため、現在も幾棟にも分かれた屋敷は往時の姿で保存されている。床の軸も長押に掛けられた書画も、誰もが知る著名人の手によるもので、当然、會津八一の書もある。庭園は回遊式となっており、一隅には珍しい三角形に建てられた書斎を兼ねた茶室「三楽亭」もある。庭に面した大広間は100畳敷で、3月でもあり古い見事な雛人形が飾ら

れていた。本館2階が考古資料館となっている他、米蔵の一つには「集古館」として歴代当主の収集した美術品が展示されており、書画や仏像、唐三彩が並び、豪農伊藤家の優雅な生活ぶりが窺える。何年か前に、山形県酒田市で豪商本間家の屋敷を見学したことがあるが、それに劣らぬ豪邸である。

新潟は京都文化圏だと聞いた覚えがあるが、京都の寺院、仏閣を見学しているのに似たような感覚であった。ただ時代は明治から大正、昭和と、それ程古いことではないことに思い至り、改めて驚く。東京、京都、大阪などから遠く離れ、海運要衝の地にあったからこそ出来たことなのかもしれない。

豪農の館に驚いた後、宿に向ったわけだが、途中、案内役高橋氏の心遣いでスケジュールにはないサービスが待っていた。立ち寄ったのは白鳥の飛来地、阿賀野市の「瓢湖」である。湖面一杯に群れる白鳥を始め様々なカモなどの水鳥に一同大喜びだったが、最も喜んだのは、野鳥の会に所属すると言う諸田氏だったようだ。早速、諸田氏は持参の大きな一眼鏡を覗き込む。オオハクチョウ、コハクチョウ、オナガガモ、ホシハジロ、キンクロハジロなどが観光客の撒く餌に群れる。水鳥の名を諸田氏に教えられたが皆目記憶になく、これを書きながら写真とパンフレットにある説明を見比べ、“多分、これがオナガガモ、こちらはコハクチョウかな？”



と考え込む始末である。(余談。今年はこのあと福島で、花見の途中、思いもよらず再び白鳥にお目に掛かった。白鳥の当り年であったようだ。)

宿に到着したのは午後5時少し前。宿は咲花温泉の「望川閣」。一先ず温泉に入って汗を流し、宴会場に臨む。阿賀野川の上流、山間の温泉地だが、新潟県ならではの海の幸に山の幸を加えたご馳走に、地元の銘酒を供されて大満足。

宴の後は部屋に集まって、有志持寄りのコレクション拝見。坂下氏の労作である「越後国の消印」コレクションには感歎させられた。また、高橋氏は永年に亘る新潟県に関わるコレクションの一部を持参されたが、これは昨年、「ふるさと新潟」と題してスタンプショーに出品されたものである。見事な収集品に眼福を養い、参加者は互いの近況や思い出話に盛り上がり、満たされて就寝。



翌朝、温泉浴で熟睡し目覚めると、窓の外は雪景色に一変しているのに驚く。前日の暖かだった気候からは想像出来ない天候に、やはりここは北国新潟だったと思い知らされた。平均年齢が高い参加者は何れも朝は早いようで、朝湯を浴びて朝食時には全員が定刻に顔を揃え、二日目の旅へ宿の女将さんなどに見送られ9時前には出発。宿から記念に“姫ミズキ”の苗木を全員に戴いた。我が家では植木鉢で順調

に育てており、この木を見るにつけ今回の新潟旅行を思い出すことになりそうだ。

降りしきる雪の中、阿賀野川に沿ってマイクロバスは走り、月岡にある市島邸に向う。市島家は前日訪れた伊藤家に並ぶ豪農であり、市島謙吉の生家でもある。慶長3年(1598年)、丹波から溝口候が新発田に移封されたのに随従し、福島潟干拓、蒲原平野の開発に努め、酒造、薬種問屋、金融、回船業をも営み財を成し北陸有数の豪農、大地主となった。最盛期には、田畑約1,830町歩、山林約3,000町歩、小作人は2,600人に達したと言う。当初は五十公野に居を構えたが戊辰の役に際して焼失したため、現在の豊浦町天王に七代徳次郎が邸宅を構えた。明治5年のことである。八代徳次郎は第四国立銀行の創始者で、現在の月岡駅の敷地を提供するなど地元の発展に尽力している。

邸宅は約8,000坪の敷地に、建坪600余坪に及び、湖月閣、水月庵、南山亭、松籟閣など明治初期の純和風住居で、これらを囲む庭園、静月園は回遊式となっている。この内、湖月閣は残念ながら平成7年4月の新潟県北部地震で全壊し、今はその跡が残るだけである。また、市島家は江戸の文化人を招き藩の文化向上の貢献しており、これが謙吉を生んだ土壌となったようだ。部屋には土井晩翠、池大雅等の書があり、庭園には會津八一、吉井勇(下の写真:吉井勇の碑)、土井晩翠の歌碑が見られる他、資



料館にはここを訪れた大隈侯の写真もあるが、多くの美術品が並んでおり代々当主の生活ぶりが偲ばれる。

市島邸を出て城下町・新発田の市島酒造へ。創業は寛政年間(1790年代)と言われ、四代目の長松が訪欧の際、王家の紋章に感銘し名付けた“王紋”を始め30種に及ぶ酒が造られている。一同、ご機嫌で利酒を味わい、夫々好みの酒などを土産に買い求めた。

ほんのり頬を染めて、次に訪れたのは市島酒造から近い新発田藩の下屋敷「清水園」である。ここも北方文化博物館の管理下にある。庭園は遠州流の茶人宗和の手によるもので、近江八景を採り入れたものという。庭内には池を巡って桐庵、同仁斎など五つの茶室がある。書院は「清水谷御殿」と呼ばれた約80坪の寄棟造り平屋建てで、庭園と共に国指定の名勝となっており、平成3年には新潟県文化財に指定されている。降り止まぬ雪で薄く覆われた庭園は、ま



た一入美しく、味わい深く見学することが出来た。更に隣には「足軽長屋」(国指定重要文化財)が残されており、全国的にも例を見ない遺構であると言う。現在の1LDKが8軒並んでいる。成る程、これが当時の下級サラリーマンの社宅と言ったところかと、じっくりと覗き込む。

昼食は園内にある米倉を改造した食堂「米倉」で頂き、再びバスでこの旅最後の目的地、

「會津八一記念館」を目指し新潟市内へ。

記念館では、設立30周年を記念して「私の選んだ會津八一の書」展が開催されていた。八一の業績は早稲田大学の旧図書館にある記念館でも見ることができるが、これだけの書を一同に見ることが出来たのは有り難かった。今回の展示は人気投票によって選ばれたもので、因みに第1位に選ばれたのは「於ほらかに もろてのゆびを ひらかせて 於ほきほとけは あまたらしたり」の書であった。八一の書は独学で得られたものだそうだが、歌人として何れのグループにも属さなかったことを表すように、伸びやかで大らか。美しく、それでいながら厳しさを湛えている。将に、秋艸道人、渾斎、八一は孤高の芸術家であり、偉大な学者であったことを、この記念館に展示された多くの作品に触れ思い知らされた。

見学を終って、フィラテリスト達は当館と早稲田の記念館が共同で発行した「會津八一没後50年記念切手シート」(Pスタンプ)をいそいそと購入した。他にも秋艸道人のサイン入り便箋や「学規」の入ったクリアファイル、八一自詠自書の色紙などを買い求め、感激を胸に記念館を後にしたものである。

新潟への見学旅行は會津八一記念館見学で終わったが、内容が濃く体感時間はとても2日間とは感じられぬ長さであった。しかし、その反面、あっと言う間の2日間でもあった。新潟の住人、高橋氏の気遣いと名幹事、野島、府川両氏のリードで充実した旅行となった。感謝、感謝である。また、初日は暖かさで、翌日には名物の雪でもてなしてくれた新潟にも感謝。

最後にショッピングセンター・新潟ふるさと村に立ち寄り、様々な現地の特産品を土産に買い求め全員元気に帰途についた。早くも次回の見学旅行へ思いを馳せて。

切手雑感

古怒田 共子

昭和二十八年早稲田に入学。以前から大学に入ったら切手研究会へ入会と決めていました。やっと探しあてた部室は当時の学生食堂の二階（現大隈開館）。部室を見て驚きました。扉は半ば開き（きちんと締まらない）、がらんとした室内に机と椅子が雑然とあり、壁に各人の伝言らしきメモがペタペタとピンで留められていました。窓ガラスは割れ、そこから吹き込む風でメモがひらひらと寒げに舞っていました。私もそれに習い紙片に入部希望の旨を書き壁にピンで留め部屋を出ました。早速当時の代表幹事根岸さんが連絡を下さり無事入会となりました。

後日研究会へ出席。そこで二度目の驚きがありました。会員の発表する研究内容が専門的、且つ切手その他の知識が豊富なのです。改めて『これが大学の切手研究会なのだ』と実感しました。

大連（現中国東北地区）で生まれ育った私。子どもの頃より切手に興味がありました。当時の大連は自由港で世界各国との文物の交流が盛んで各国の珍しい切手が店頭を飾っていました。子供心に美しく珍しい図案に魅せられ、風景、建物などの切手を買っていました。しかし敗戦、続いて帰国。出国の際、荷物検査でそれらは全部没収されました。ソ連兵にはそれら切手の価値は全く解らないのに。今でも腹が立ちます。

帰国後また外国切手を集め始めました。二十八年頃？毎日新聞社主催の切手展に出品。題名は「ヨーロッパの文学者」だったか。どうやら入選。切手用の額を頂き感激しました。その程度の私の蒐集歴でしたので会員の知識の深さに驚くのも当然。私も負けずに研究をしなければと決心したのですが・・・。当時私は体育会に所属。夏は陸上、冬は合宿。結果切手の研究に時間を割く余裕がなく、遂に中途半端な蒐集に終り現在に至っています。

同級生に後の代表幹事辻さん（故人）がおられました。彼は真面目が洋服を着たような学生で、何事にも真剣に取り組み切手研究の仕事を捌いておられました。

切手研の親睦旅行

時の幹事が大杉先生へ旅行の報告をしに行かれました。

『先生、今年の旅行で千葉のとみつ公園（富津）へ行ってきました。』

『ウン？とみつ公園だって。君それはふつつ公園だよ、私は人文地理を教えている。その私が顧問をしている会員がとみつ公園と云うのは一寸ねー』と先生は言われたそうです。現在富津公園は有名になり発展したでしょうが当時は人気のない荒涼とした只の砂浜でした。

オランダの郵便局長

彼の地に居住している友人から聞いた話。

日本から彼女への手紙を楽しみにしている“自称日本の美しい切手のファン”の局長がいるそうです。彼は手紙を配達すると同時にその手紙に貼ってある切手を持っていくのだそうです。日本切手の水準の高さを示す例ですね。

戦後、度々切手ブームがありました。それは切手に対する興味ではなく、マネーゲームの対象としての切手でしょう。小学生ですら自分の持っている切手の金額の多寡を競い合うのを耳にしました。嘆かわしい現象ですね。そして切手がお金にならなくなるとたちまちブームは去っていくのです。今の世相を反映しているのでしょうか。

僅か数cmの切手。でもそれは一国の歴史、政治、文化、技術水準等あらゆるものを示すもの。切手を集めるのはそれらを学び理解する事。そして切手を通して世界を観るのではないのでしょうか。会員の個性的、豊かな知性、機知に富んだ会話。切手収集から学んだものと思います。

切手蒐集は『王者の趣味、趣味の王者』と言われる所以だと思います。

世界の切手発行をふりかえる

小川 義博

最近の日本切手の乱(濫)発状態を考えると

◎日本の切手の発行状態は世界各国の切手の発行状態の中でどのような位置づけにあるのか?

◎切手の発行は時代の流れでどのように変化してきたのか?

◎切手の発行に影響を及ぼしている要因があるとすればどのようなものが考えられるのか?

等を知っておく必要を感じたので下記の方法で切手の発行状況を調べた。

検討対象として

SCOTT Postage Catalogue で主要な国の郵便創業以来発行された切手のうち、航空切手、寄付金付切手、料金不足用切手等を除く切手を年毎に2002年まで集計し、整理した。具体的にはSCOTTで国別で番号の頭にアルファベット文字のついていない切手を対象とした。日本切手では前述した切手に加えて地方切手を含まない通常、記念、公園、年賀、各シリーズ切手類である。

またSCOTTで複数年にまたがり発行されていると記載されている連続番号の切手ははじめの年に発行された切手として一括扱うこととした。

表1 検討対象国

USA	UNITED NATION	AFGANISTAN	ALBANIA	ALGERIA	ANGOLA	ANTIGUA	ARGENTINA	AUSTRALIA	AUSTRIA
AZERBAIJAN	BELARUS	BELGIUM	BHUTAN	BOLIVIA	BRAZIL	BULGARIA	CANADA	CEYLON	CHILE
CHINA(Taiwan)	CHINA P.R.	COSTA RICA	CUBA	CZECHOSLOVAKIA	DENMARK	ECUADOR	EGYPT	ETHIOPIA	FINLAND
FRANCE	GERMANY	DDR	GHANA	GIBRALTAR	GREAT BRITAIN	GREECE	GUTEMALA	GRENADA	HUNGARY
ICELAND	INDIA	NETHERLAND INDIE	IRAN	IRAQ	IRELAND	ISRAEL	ITALY	IVORY COAST	JAPAN
JORDAN	KAZHSTAN	KOREA	KOPR	KUWAIT	LIBERIA	LIECHTENSTEIN	LITHUANIA	LUXEMBOURG	MACAO
MADAGASCAR	MALAYSIA	MEXICO	MONACO	MOZAMBIQUE	NEPAL	NETHERLAND	NEW ZEALAND	NICARAGUA	NORWAY
PAKISTAN	PANAMA	PAPUA NEW GUINEA	PARAGUAY	PERU	PHILIPPINES	POLAND	PORTUGAL	ROMANIA	RUSSIA
EL SALVADOR	SAN MARINO	SAUDI ARABIA	SLOVAKIA	SOUTH AFRICA	SPAIN	SWEDEN	SWITZERLAND	SYRIA	TAJIKISTAN
TANZANIA	THAILAND	TONGA	TUNISIA	TURKEY	UKRAINE	URUGUAY	VATICAN CITY	VENEZUELA	VIET NAM
YUGOSLAVIA									

対象とした国は主要国と早期郵便開始国、60年代独立した新興国、ソ連崩壊後の独立国、および切手で古くから話題を提供してきている小国など表1に示す101ヶ国を対象とした。以上のようにSCOTTというCATALOGUEの枠の中での検討に終わっていることを明記しておく。

160年間の発行数の推移

対象国全体の160年にわたる切手発行の推移は図1に示す。単年度の変動の多さとScottの数年間に発行のまたがる通常切手、シリーズ切手の連番扱いの偏りの修正を図るため9年間の移動平均値を計算し単年の平均値とあわせて図示した。また各国間での発行数のばらつきを見るため標準偏差を単年と5年間の移動平均で図示した。

160年を全体的にみると大きく3つの時期に分けられるのではないかと考える。発行数が各国ともばらつきが少なく年間10程度と少ない1890年ごろまでの第1期、ついで発行数にばらつきが大きくなり発行数が徐々に増加していく1945年ごろまでの第2期、そして発行数の増加に比してばらつきを大きくすることなく発行数をましてきている1970年ごろまでと増加の程度は同じでもばらつきが大きくなる1980年以降今日までと二分できるかとも捉えられる第3期と考えられる。第2期が他期と異なる傾向を示していることはこの時期、ヨーロッパ、南米諸国、中東の多くの国のインフレによる経済不安による郵便料金の変動が影響して他の国と異なる発行数の増加を示していることの影響であろうか。

次に図1と同じ尺度で日本の発行の推移を図示したのが図2である。地方切手発行以降は2種の

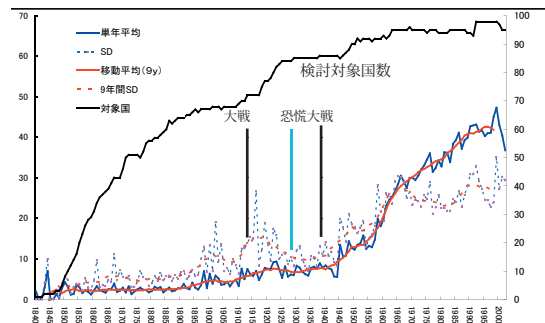


図1 対象国年間平均発行数と発行数とばらつき

の線で数を分けてある。なお、地方切手はペーン、小型シートは数に含まない。図1と比較すると1930年代までは他国の平均より低い値で発行されて来たのが40年以降は10-15以上多い値を示してきており地方切手を含むと世界で発行数非常に多い島嶼諸国並みの値を示してきている。

次に、全体としてみえる事は社会情勢が発行数に影響を及ぼしているのは図1に示すごとく第2次世界大戦まででありそれ以後の発行数はそれまでと異なる国家財政の財源という要因が急速に高まり増加の一途を見せていることが考えられる。

次に、全体の流れの中での個々の国、地域の要因などを見てみた。まず発行数と年間平均発行数の多い順位整理したのが表2,3である。共産主義体制にあった国々の発行数が多いのが際立っており国策としての切手発行が明らかである。さらにソ連崩壊後、これらの国の発行数はわずかに減じたのみで、ソ連から分離独立した国々が過去の共産国と同じ程度の発行を行っており切手発行による国家財政への寄与を図っていることが注意される。また、最近の傾向として郵政民営化の流れのもとこの傾向が経済大国にも明らかに見られる。歴史的に早くから切手発行を国家財源として位置づけてきたと考えられるMONACO、VATICAN等4国は総数、平均ともに中間に位置しており節度ある発行状況が見られる。

逆に発行の少ない国としてはヨーロッパのベネルックス、北欧等の小国と中南米の経済規模の小さい国々が位置している。日本は25-30に位置しているが地方切手をふくむと発行数でSPAIN、平均数で20-23程度になり、期間を最近10年に限定す

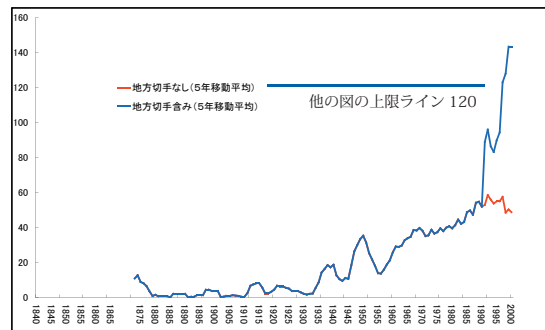


図2 日本切手切手発行数の推移

表2 切手発行数国順表 表3 年間平均発行数順表

	国名	総発行数	年数	国名	念平均発行数	年数
1	RUSSIA	6739	146	DDR	63.37	44
2	ROMANIA	4554	145	VIET NAM	59.52	52
3	CUBA	4274	148	CHINA People's republic	58.54	54
4	BULGARIA	4244	122	TANZANIA	56.92	39
5	HUNGARY	3818	132	GHANA	49.59	46
6	USA	3746	157	RUSSIA	45.71	146
7	POLAND	3665	143	AZERBAIJAN	45.44	16
8	CHINA	3467	125	CZECHOSLOVAKIA	37.21	85
9	GRENADA	3271	142	BULGARIA	34.48	122
10	CHINA People's republic	3253	54	BELARUS	34.45	11
11	SPAIN	3204	153	BHUTAN	32.90	41
12	CZECHOSLOVAKIA	3180	85	KAZAHSTAN	32.09	11
13	VIET NAM	3169	52	UKRAINE	32.07	14
14	FRANCE	2915	154	ROMANIA	31.04	145
15	DDR	2858	44	YUGOSLAVIA	31.04	82
16	BRAZIL	2850	160	ALBANIA	29.69	90
17	IRAN	2845	133	HUNGARY	28.63	132
18	TURKEY	2840	140	CUBA	28.34	148
19	PHILIPPINES	2816	149	CHINA	27.22	125
20	PARAGUAY	2706	133	ISRAEL	26.60	55
	JAPAN	2535	132	JAPAN	19.20	143

黄色は共産国家を経過国

表4 国家体制、地域、時期等でみた発行数

国分類	第1期		第2期		第3期		全体	
	国数	平均 SD	国数	平均 SD	国数	平均 SD	国数	平均 SD
アフリカ	6	2.70 2.83	10	4.65 1.74	12	26.28 12.77	12	19.46 15.63
アラブ	3	5.29 2.42	8	8.80 4.73	9	25.24 5.17	9	18.63 3.01
4 COMMON WEALTH	4	2.19 1.34	5	3.77 1.28	5	27.97 4.73	5	14.35 4.72
ヨーロッパ	18	2.88 2.46	20	5.89 2.78	20	25.12 9.35	20	13.29 4.75
共産主義	6	2.34 1.29	9	9.30 3.44	13	59.68 14.64	13	40.47 13.39
観光立国	2	1.69 0.02	4	4.83 1.23	4	24.08 7.09	4	15.51 2.70
ラテンアメリカ	15	2.13 1.36	15	7.24 2.53	15	21.27 9.96	15	11.82 4.64
連邦崩壊独立			3	11.82 7.37	6	23.17 12.56	6	22.53 11.85
その他	11	2.72 1.99	13	4.36 3.56	17	31.03 13.00	17	18.63 7.17
総計	65	2.64 2.12	87	6.41 3.81	101	30.12 16.12	101	19.37 12.43
日本		4.2		4.926		37.67		19.2

れば上位1桁に位置する多発行国に位置する。

以上を分類して時期を分けて整理したのが表4である。どの国分類においても切手発行の増加は明らか出るが特に共産主義国の他の国々に比較して2倍以上という著しい増加を示している。また、比較的歴史の古い国々の間に発行数のばらつきが少なく一定の枠の範囲で発行が行われてきていることが考えられる。

今後、各国が郵便事業民営化の過程でこの傾向が継続していくのか、他の国の民営化後の切手発行の動向を見守りたい。

視点を変えて見る切手発行

1. 分断、統合と発行

国家の分断と統合を経験した国々の発行を見ると図3-図6のようになりかなり異なる推移を見せていた。

東西ドイツは明確に異なる発行方針に基づく切手発行が行われてきているが、中国、朝鮮は数の程度に差は見られるが基本的な傾向はほぼ一致したものがあるように考える。(SCOTTはKDPR・朝鮮民主主義人民共和国の発行数は1975までの掲載で終わっている。)

2. 国家財政を切手に頼っている国々

観光と切手発行を調和させているかと考える国々と切手発行

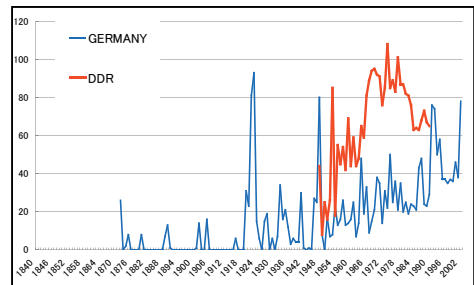


図3 東西ドイツ

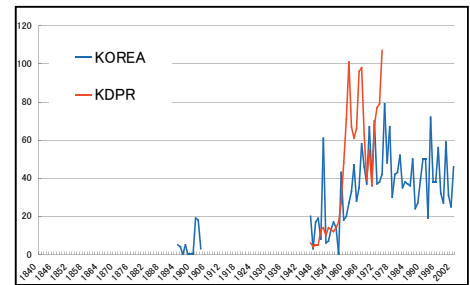


図4 南北朝鮮

だけをおこなっていると考える得ない国々に分けて図7、8に示した。

切手の乱発の先鞭をつけたのは観光立国の小国と考えられがちだが実際はこれらの国は乱発はせず堅実な発行頻度を維持してきている。

3. 切手の乱発の祖は?

ここで革命という切り口で整理してみると図9のようになり、切手発行を財政の糧にすることを小国に見た共産主義国が糧を大きく期待しての乱発という手段



図5 チェコ、スロバキア

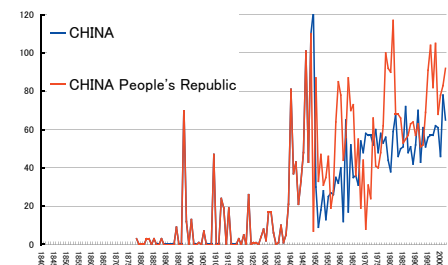


図6 中国、台湾

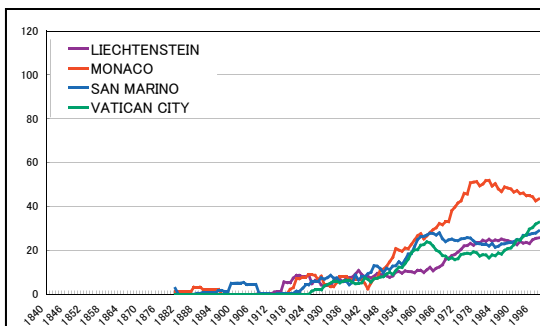


図7 観光+切手収入を意図すると考えられる国

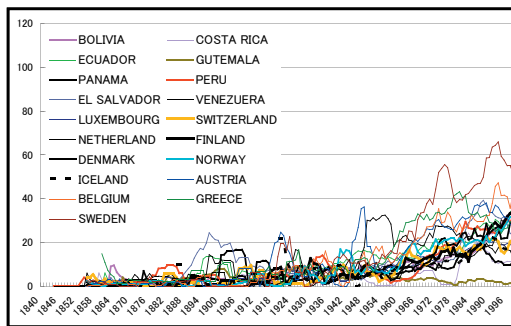


図11 Philatelist にやさしい西欧、中南米中小国

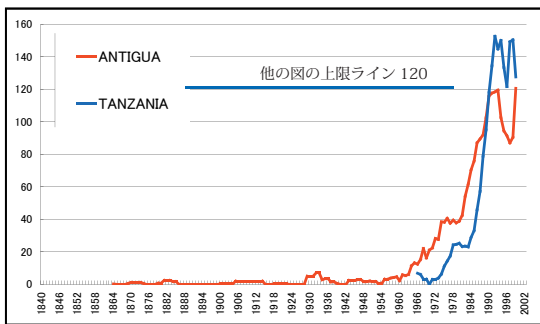


図8 切手収入を意図すると考えられる国

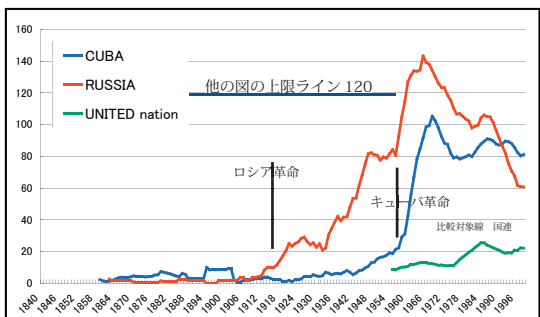


図9 革命がもたらした切手資金源

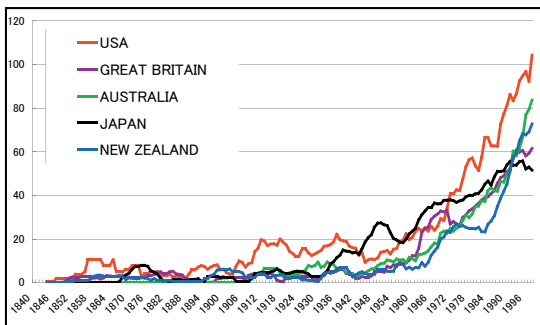


図10 切手乱発では後進国の経済先進国

を革命直後から行ってきたことが明らかであろう。

4. 背に腹は変えられなくなってきた国々

ソ連崩壊前後より東欧共産圏だけにとどまらずヨーロッパの中小国、中南米諸国を除く経済大国の乱発が目になってきた。この辺りを図示すると図10のようになり、図8の切手依存・乱発の島嶼国等と同じ発行頻度になっている。特にア

メリカの発行の増加が他の国より10年程度先を走っていることがわかる。今後、郵便の民営化をふまえてアメリカの切手発行がどのように推移していくか興味深い。

日本が発行が少なく見えるのは地方切手が含まれていない図のためであり本来はオーストラリアと同等の軌跡を示していると考えられる。

5. 節度ある発行を維持している国々

切手を集める立場のものにとって歓迎すべきな発行回数が増えず、節度ある推移を示しているのは前述したごとく、西ヨーロッパの中小国と意外な中南米の国々である。西ヨーロッパ諸国の動向は理解されるかと思うが、財政的面からキューバを範に切手乱発国に走っても理解できる中米諸国の切手発行の少なさは何を因とするか興味深い。

以上、国家体制、社会情勢に左右され切手の発行は多少の相違見せてはいるが、その幅を持ちつつ増加傾向は明らかである。

日本の世界で切手発行という枠での位置づけは

郵便制度の歴史（年数）そして切手の発行回数と増加曲線という事柄だけをとらえて世界の中での日本がどのような位置づけになるかを考えたい。（発行枚数、対人口比発行枚数などの事項がより重要であるが残念ながら調査は難しい。）

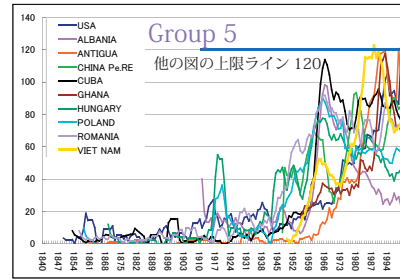
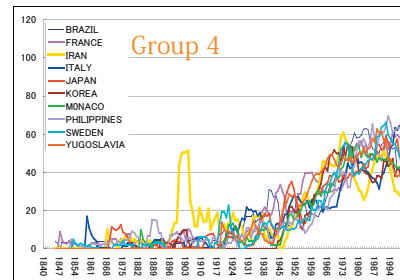
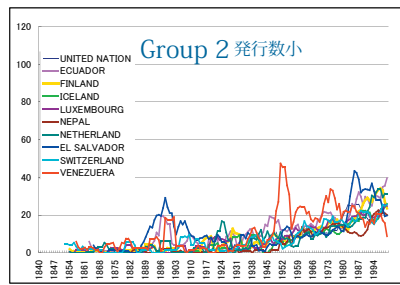
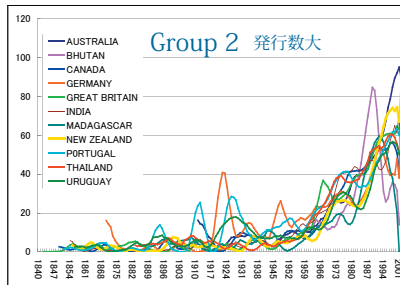
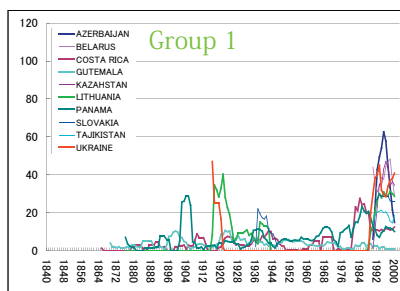
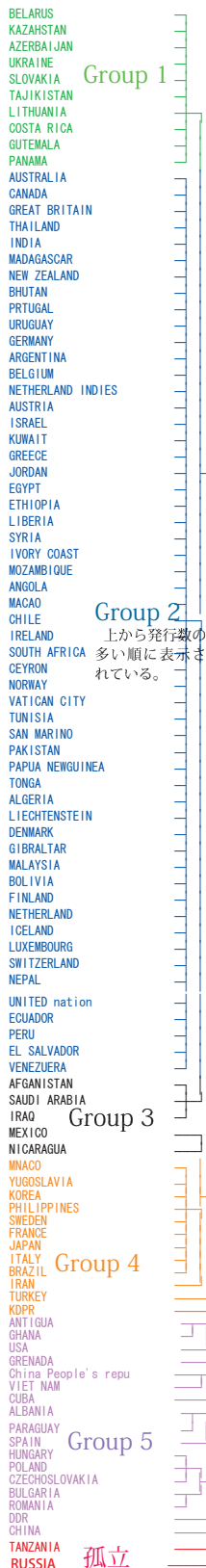
101国160年の発行数表をデータとして統計手法の手段で試してみた。

日本が他の100国の中でその歴史的な流れ、そして最近の切手乱発国としての動きを踏まえて他のどの国々と似た立場にあるのかを見るため多変量解析の手法であるクラスター分析を行った。なお標本数101にあわせるため変数を10年単位の発行数にまとめた16変数にまとめた。

分析の結果をテンドグラムに表したのが特図1であり大きく、切手乱発国グループ18ヶ国とそうでないグループ82ヶ国、そして超乱発国RUSSIAに分類できた。2つのグループはさらにいくつかのグループで構成されている。

まず、乱発グループは乱発開始の時期の相違で早期乱発開始元共産圏諸国とUSAも含む乱発後進諸国に分かれる。さらに他国よりかなり早期に超乱発を開始したRUSSIA、最近に急激な乱発をしているTANZANIAの2国が特異な存在であることをわかる。残る82ヶ国は発行増加開始時期、1940年以前の発行状況の相違によって幾つかのグループに分かれていた。

このようなクラスター分析の結果をもたらしている要因（成分、因子）を見るために同じDATAをもちいて主成分分析を行った。その結果3つの成分で60%の情報を説明できた。これらの因子の各成分の各変数（年代）の数値は図12のようになり、第1成分は主として1940-1970年代の発行数、第2成分は1900年以前の発行数、第3成分はこの中間期の発行数であると考える。第1成分と第2成分の軸で各国を配置



特図1 クラスター分析 dendrogram

基本となっているクラスターを構成する国々の切手発行推移グラフを5 Group 抜かし 上に図示

関連文献

- 大谷 博：世界各国の切手発行政策 早大切手研 50年 P232-237 1999年
- 水原 明彦：「黒い切手」はポイコットしよう 郵趣 1991.3 P10-13 1991年

すると図13の配置が得られ、テンドグラムとは異なり特異な切手発行を行ってきた国、もしくはは行っている国が中心から離れた位置にあり興味深い。

このような結果を踏まえ日本切手を考えると地方切手の発行状態が続くなら、乱発国グループ、そして布置図の外側に位置する国に成り果てるか、はたまた、すでに成り果てていると危惧するか、期待をするのか.....。

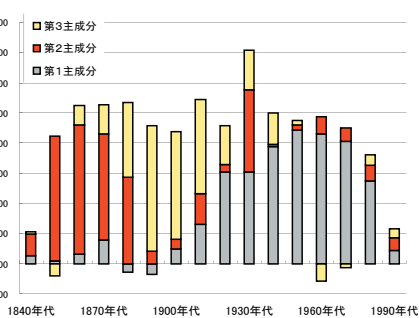


図12 各年代の持つ主成分分析の第1, 2, 3成分

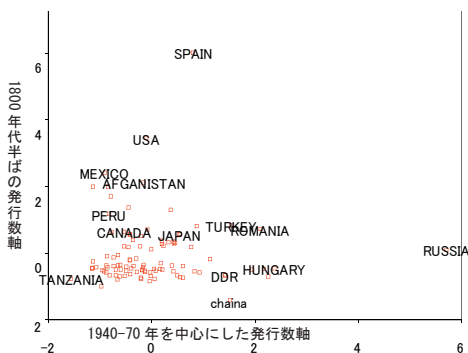


図13 主成分分析の第1, 2成分で各国の布置

切手屋アルバイト記

小林 信博

もう30年以上前の話となってしまいました。我々が切手研在籍中は切手屋でアルバイトをして、そのバイト代金で欲しいものを買うというのは、代々の先輩達から引き継いできた半ば日常的なことでした。

私が新入生として初めてバイトをしたのは、春の全日展で「金井スタンプ商会」のブースでした。昭和50(1975)年の事です。金井の橘喬一先輩は切手研や大郵連を通じて、よく学生アルバイトを集められていました。もう細かな事は忘れてしまいましたが、店先に一番最初にお客で来ていただいたのが、明大の高崎氏(現ウィングカードシステム)と東大の田原氏だった事は今でもよく覚えています。特に田原先輩は印象が強く、物静かな高崎さんとは対照的な方でした。閉場後高崎さんの横浜の家まで一緒に送ってくれるというので、田原さんの車に同乗させてもらいました。ところが、運転する田原さんの顔を見たら、もうすっかり「真赤な色」にできあがっていました。その顔色で国道246号を120キロ以上で上機嫌でブツ飛ばすのですが、時々後部座席の我々にふり返って話しかけてくるのです。もう頼むから前を見て運転してくれと、生きた心地がしませんでした。

大学も2年目に入ると、和田先輩が「東海スタンプ」という高田馬場にある切手屋さんを紹介してくれました。この店がその後のバイト生活の柱となると共に、一生忘れる事ができない思い出を作ってくれたのでした。

社長の落合さんと組んでいたのが、石川さん(現八光スタンプ)で、当時は社長が切手で、石川さんはコインを扱っていて、店頭販売と通信販売が主だったと記憶しています。

学生バイトは早稲田だけではなく、他の大学生も出入りしていました。バイト代も1日5千円もらえたので、当時としては結構いい収入で

した。しかし、普段事務所で作ったパケット類をスーパーやデパートで売るので、1人きりのワゴンセールは大変でした。(いわゆる立ち売り)

特に夏休みには、今日は〇〇屋、3日後に〇〇堂と転々と売り歩くのですが、最初は1人でワゴンの前に立つのが恥しくて、慣れるまでには少々時間がかかりました。それでもよく切手が売れました。鳥・魚・国宝シリーズなどのセット物を中心に、外国切手パケットなども売れるのです。売上の半分をレジに持っていき、残りは事務所に持って帰ってくるという日々が続きました。時には恐いお兄さんにかまれたり、また万引されたりもしましたが、とにかくよく働いたと思います。

こんなバイト生活が1年ちょっとした頃から、徐々にバイト代の支払いが遅れ始めてきました。その内社長本人とも仲々連絡がとりにくくなり、何か変だなと感じ始めていました。ある日の夕方、後輩の中畑君から衝撃的な電話がかかってきました。何と落合さんが「バラバラ殺人」事件に巻きこまれたという話でした。新聞にも記事が出ているというのです。本当に驚きました。身近なところでこんな事件が起きたのは、たぶん最初で最後です。事情はどうであれ、その後犯人は北海道の湖で入水自殺という劇的な幕切で、当然店は閉店となり私のバイト代は……。

私は卒業後10年間サラリーマン生活を送り、その後「切手屋」に変身してしまいましたが、あの当時の経験が貴重な事となっています。夢中でやっている時には仲々わからない事でも、時の経過と共に理解できる事がよくあります。それが私にとっては「切手屋アルバイト」だったのです。

最後に個人的な駄文を長々と書かせていただいた事に感謝すると共に、OB会員の皆様とまた展覧会や即売会場でお会いする事を楽しみにしております。

マダガスカル郵趣家協会創立 20 周年記念切手

小林 彰

本誌 2005 年 9 月号でマダガスカル郵趣家協会 20 周年記念切手が間もなく発行される予定と記したが、2006 年 3 月 1 日ようやく実現した。フランス国立印刷所製造で発行数は 75 万枚。初日カバーとデラックスブローフも同時に発売された。

切手展はマダガスカルの独立後 (1960 年) の切手による同国の自然と環境というテーマだった。全日展でいえば中学生クラスといえようか。それでも会員は前日には嬉々として展示作業に精をだしていた。



記念切手

切手発行の記念展がアンタナナリヴの中心街独立通りに面したドイツ文化会館で発行当日の 3 月 1 日から同 4 日まで開催された。筆者も同協会会員の一人として式典に参加した。



手作りのリーフをスコッチで貼付

切手のデザイン、すなわち協会のロゴマークは前会長の子息の制作だが、使用権は協会に属するという。切手は本年 1 月 25 日に郵政省に到着した。直後、協会に発行日をいつにするか照会があり 3 月 1 日に決定した。



文化局長によるテープカット



会長の初日印記念押印

花本金吾初代会長が名誉教授に

稲門フィラテリーの初代会長花本金吾先生は、平成18年3月に早稲田大学法学部教授を定年退任され、4月に早稲田大学名誉教授の称号が授与されました。

稲門フィラテリー第7回総会（案内）

今年の稲門フィラテリー総会および懇親会を恒例に従い、ホームカミングデー当日、大学にて下記の通り開催します。会員多数の出席をお待ちいたします。詳細は9月に改めて案内します。

記

平成18年10月22日（日）

総会 13時～15時（7号館予定）

懇親会 16時～18時 高田牧舎

なお、今回の懇親会は、花本金吾前会長の早稲田大学定年退任、名誉教授称号授与記念を兼ねるパーティにする予定です。

分科会活動報告（切手教室）

◎「第40回 切手教室」（3月4日）

西村壽一郎氏「二つ折り葉書」

第3回郵趣会・交換会

◎「第41回 切手教室」（4月1日）

坂下 泰一氏「手彫切手（消印の楽しみ）」

宮鍋 益治氏「第四種通信教育実通便」

編集後記

スタンプショウには会員4名が出品、30日には新潟から高橋氏が上京されました。展示の参観後、10人が集まって楽しい話題について時間が過ぎてゆきました。切手展は皆が集まる格好の場になっています。

マダガスカルへ赴任されている小林彰さんが近々帰国されるようです。彼の地から会報へ寄稿され、元気な様子の一端を知ることが出来、また編集担当としては大いに助けられました。7月の切手教室で顔を合わせることを楽しみにしています。

早稲田大学創立125周年記念に

大学が写真付き切手製作の動き

大学が企画する平成19年10月創立記念の詳細計画のなかで、写真付き切手製作の検討が開始されています。当会からも記念小型印の使用、ゆうペーン発行、大学構内に郵便局臨時出張所開設などを働きかけています。

なお、すでに創立125周年記念式典は10月21日（日）、ホームカミングデーは10月20日（土）の開催されることが決定されています。

春の切手展への参加者

全日本切手展 2006（ていぱーく）

○和田文明氏 「米国郵政の公用業務

航空郵便史 1920—70年」

スタンプショウ'06（浅草・都立産業貿易

センター台東館）

○池澤克就氏 「野口英世の生涯」

○高橋 仁氏 「朱鷺～再び大空へ～」

○市川鴻之祐氏 私の「愛・地球博」

—郵趣の目で追って—

○甲斐正三氏 「懐かしい欧米の映画」

切手の博物館開館10周年記念展

○稲葉良一氏 「旧小判切手の使用例」

○池澤克就氏 「文学」

発行日：2006年 6月1日

発行：稲門フィラテリー

発行人：小西 邦彦

〒150-0002

渋谷区渋谷 1-11-3 正栄ビル 4F

（株）英国海外郵趣代理部内

稲門フィラテリー事務局

郵便振替口座：00110-0-560458

「稲門フィラテリー」

編集担当：湯川 宗昭 ・池澤 克就

木元淳一郎 ・甲斐 正三